城山北公園線都市計画街路事業に伴う松江城下町遺跡発掘調査報告書2

松江城下町遺跡

第1ブロック (西側) 第3ブロック 第4ブロック

平成25(2013)年3月

島根大学附属図書館蔵書

島根県松江市教育委員会 財団法人松江市教育文化振興事業団

# 城山北公園線都市計画街路事業に伴う松江城下町遺跡発掘調査報告書2

## 松江城下町遺跡

第1ブロック (西側)第3ブロック第4ブロック

平成25(2013)年3月

島根県松江市教育委員会 財団法人松江市教育文化振興事業団



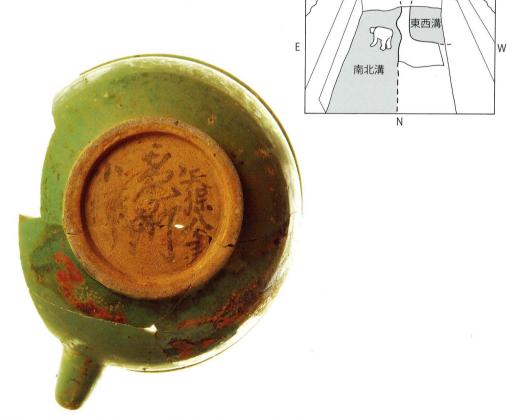
空から見た松江市街(2012年撮影 島根県) 宍道湖沿いに広がる低湿地に発展した街であることが分かります。



空から見た松江城周辺(1970年撮影 島根県) 江戸時代の街並みを良くとどめていることが分かります。



城下町造成最初期に掘削された素掘りの大溝(北から撮影) 南北溝(人物入り)の右上に東西溝の先端部(浅い)が見える。

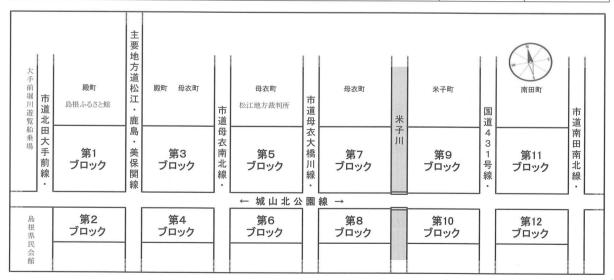


底部に天保八年(1837年)と墨書された布志名焼の片口

- 1. 本書は、平成24年度に委託を受けた、城山北公園線都市計画街路事業に伴う松江 城 下町遺跡発掘調査及び立会調査の報告書である。
- 2. 本書で報告する発掘調査及び立会調査は、平成18年度から24年度にかけて島根県松江県土木整備事務所から松江市教育委員会が依頼を受け、財団法人松江市教育文化振興事業団が実施した調査である。
- 3. 遺跡名は、松江城下町遺跡の後に町名と代表番地を()内に付した呼称にすることとした。
- 4. 立会調査は、「MJR(松江城下町遺跡立会調査の略)+番号」を付加して表記する。なお、この番号は松江市教育委員会文化財課が行う松江城下町遺跡立会調査も含めた通し番号である。
- 5. 各遺跡の詳細は以下のとおりである(ブロック分けについては第1章で説明)。

「第1ブロック」は市道北田大手前線と主要地方道松江・鹿島・美保関線に挟まれた城山北公園線北側部、「第3ブロック」は主要地方道松江・鹿島・美保関線と市道母衣南北線に挟まれた城山北公園線北側部である。「第4ブロック」は主要地方道松江・鹿島・美保関線と市道母衣南北線に挟まれた城山北公園線南側部である。

ブロック名・遺跡名	所 在 地	開発面積	調査面積
第1·松江城下町遺跡(殿町191-13外)	松江市殿町191番地13外	780m²	504m²
第1・松江城下町遺跡(殿町198-2外)	松江市殿町198番地2外	391 m <sup>2</sup>	31 m²
第3・松江城下町遺跡(殿町343-2)	松江市殿町343番地2	30m²	26m²
第3・松江城下町遺跡(殿町344外)	松江市殿町344番地外	172m <sup>2</sup>	128m²
第3・松江城下町遺跡(殿町345-1外)	松江市殿町345番地1外	90m²	68m²
第3・松江城下町遺跡(母衣町40外)	松江市母衣町40番地外	548m²	370m²
第3・松江城下町遺跡(母衣町44外)	松江市母衣町44番地外	178m²	100m²
第3・松江城下町遺跡(母衣町45-3)	松江市母衣町45番地3外	67m²	37m²
第3・松江城下町遺跡(母衣町45外)	松江市母衣町45番地外	109m²	73m²
第4・松江城下町遺跡(殿町358-1)	松江市殿町358番地1	13m²	6m²
第4·松江城下町遺跡(殿町355-1)	松江市殿町355番地1	14m²	16m²
第4・松江城下町遺跡(殿町354-1)	松江市殿町354番地1	15m²	4 m²
第4・松江城下町遺跡(殿町353-1)	松江市殿町353番地1	15m²	20.8m²
第4・松江城下町遺跡(母衣町36-1外)	松江市母衣町36番地1外	227m²	56m²
第4・松江城下町遺跡(母衣町35-4外)	松江市母衣町35番地4外	89m²	56m²



調査ブロック配置模式図

6. 本調査は遺跡ごとに細分して実施したが、本報告書においては、各ブロックの西から1区、2区、…と調査区番号を振り直し、細分された調査区にはアルファベット小文字を付した。新旧対応表は以下のとおりである。 また、第1ブロック1a区SK01は1-1a区SK01のように略して表記する。

ブロック	新調査区名	旧調査区名
	1-1a 区	松江城下町遺跡(殿町 191-13 外)1 区
第 1	1-1b区	″ 2区
	1-1c 区	″ 3 ⊠
	3-1 区	松江城下町遺跡(殿町 345-1 外)
	3-2a 区	松江城下町遺跡(殿町 343-2)・(殿町 344 外)2 区
	3-2b 区	″ 1区
第3	3-3a 区	松江城下町遺跡(母衣町 40 外)1 区
	3-3b 区	″ 2区
	3-4 区	松江城下町遺跡(母衣町 44 外)・(母衣町 45-3)
	3-5区	松江城下町遺跡(母衣町 45 外)

#### 7. 各年度の調査組織

「平成17年度」

調査主体者

松江市教育委員会

(事務局)

教育長 山本弘正(~5月20日)、福島律子(5月21日~)

参 事 岡崎雄二郎(文化財課長兼務)(6月1日~)

文化財課長 岡崎雄二郎(~5月31日)、調査係長 飯塚康行

実 施 者 財団法人松江市教育文化振興事業団

理事長 松浦正敬、専務理事 長野正夫

事務局長 松浦克司(埋蔵文化財課長兼務)、調査係長 瀬古諒子、

主任 門脇誠也(事務担当者)

[平成18年度]

調査主体者 松江市教育委員会

(事務局)

教育長 福島律子

参 事 岡崎雄二郎 (文化財課長兼務)、調査係長 飯塚康行、主任 後藤哲男 (事務担当者)

実 施 者 財団法人松江市教育文化振興事業団

理事長 松浦正敬、専務理事 長野正夫、事務局長 松浦克司

埋蔵文化財課長 廣江眞二、調査係長 瀬古諒子、主任 門脇誠也(事務担当者)

「平成19年度〕

調査主体者 松江市教育委員会

(事務局)

教育長 福島律子

文化財課長 吉岡弘行、調査係長 飯塚康行、主任 後藤哲男(事務担当者)、

副主任 川上昭一

実 施 者 財団法人松江市教育文化振興事業団

理事長 松浦正敬、専務理事 中島秀夫、事務局長 松浦克司

埋蔵文化財課長 廣江眞二、課長補佐 錦織慶樹、主任 門脇誠也(事務担当者)

[平成20年度]

調査主体者 松江市教育委員会

(事務局)

教育長 福島律子

文化財課長 吉岡弘行、調査係長 飯塚康行、主任 後藤哲男(事務担当者)

副主任 川上昭一

実 施 者 財団法人松江市教育文化振興事業団

理事長 松浦正敬、事務局長 松浦克司(専務理事職務代理者)

埋蔵文化財課長 廣江眞二、課長補佐 錦織慶樹、調査係主幹 中尾秀信

主任 門脇誠也(事務担当者)

[平成21年度]

調査主体者 松江市教育委員会

(事務局) 教育長 福島律子

文化財課長 吉岡弘行、調査係長 飯塚康行、主任 後藤哲男(事務担当者)

副主任 川上昭一

実 施 者 財団法人松江市教育文化振興事業団

理事長 松浦正敬、事務局長 松浦克司(専務理事職務代理者)

埋蔵文化財課長 廣江眞二、課長補佐 錦織慶樹、調査係主幹 中尾秀信

主任 門脇誠也(事務担当者)

「平成22年度]

調查主体者 松江市教育委員会

(事務局) 教育長 福島律子

文化財課長 錦織慶樹、調査係長 赤澤秀則、主任 後藤哲男(事務担当者)、

主任 川上昭一

実 施 者 財団法人松江市教育文化振興事業団

理事長 松浦正敬、常務理事 松浦克司、総務課長 原成美

埋蔵文化財課長 大西誠、調査係長 中尾秀信、専門企画員 門脇誠也(事務担当者)

「平成23年度〕

調查主体者 松江市教育委員会

(事務局) 教育長 福島律子

文化財課長 錦織慶樹、調査係長 赤澤秀則、主任 曽田健(事務担当者)、

主任 川上昭一

実 施 者 財団法人松江市教育文化振興事業団

理事長 松浦正敬、常務理事 松浦克司、事務局長心得 原成美

埋蔵文化財課長 藤原博、調査係長 中尾秀信、専門企画員 後藤哲男(事務担当者)

8. 各遺跡・各年度の調査は以下のとおりである。

第1ブロック

\*本調査

[平成21年度]

名 称 松江城下町遺跡(殿町191-13外)発掘調査…(報告書 第1ブロック1a・1b・1c区)

所 在 地 松江市殿町191番地13外

調 査 期 間 平成21年7月1日~平成21年12月31日

調 査 面 積 全調査面積333㎡

調查1区調查面積214㎡

調查2区調查面積77㎡

調查3区調查面積42㎡

調 查 指 導 島根県教育委員会 文化財課 企画員 池淵俊一

実 施 者 財団法人松江市教育文化振興事業団 埋蔵文化財課

調查員 柚原恒平、調查補助員 田中基次

作業員 犬山孝昭、岩上和輝、小川春江、門脇祐介、木村司、小松原茂、齋藤幸夫、船越律、

吉川毅

遺物整理員 細田順子

\*立会調査

[平成20年度]

遺跡名 松江城下町遺跡(殿町198-2外)

調查主体者 松江市教育委員会 文化財課

飯塚康行、後藤哲男、川上昭一、佐々木紀明、小山泰生、金森みのり、高橋真紀子、宮本亜希子

[平成21年度]

遺跡名 松江城下町遺跡(殿町191-13外)

調査主体者 松江市教育委員会 文化財課

飯塚康行、後藤哲男、川上昭一、徳永隆、小山泰生、高橋真紀子、宮本亜希子

遺跡名 松江城下町遺跡(殿町191-13外)

実 施 者 財団法人松江市教育文化振興事業団 埋蔵文化財課

調查員 石井悠、柚原恒平、調查補助員 北島和子、清水初美

「平成22年度〕

遺跡名 松江城下町遺跡(殿町191-13外)

実 施 者 財団法人松江市教育文化振興事業団 埋蔵文化財課

調查員 中尾秀信、調查補助員 清水初美

第3ブロック

\*本調査

「平成18年度]

名 称 松江城下町遺跡 (殿町345-1外) 発掘調査… (報告書 第3ブロック1区)

所 在 地 松江市殿町345番地1外

調 査 期 間 平成18年8月18日~平成18年10月2日

調査面積 68㎡

実 施 者 財団法人松江市教育文化振興事業団 埋蔵文化財課

調查員 江川幸子、調査補助員 大森義和

作業員 角田ミヤコ、田中和美、秦岡彬、細田勇治、細田信子、吉岡永子

遺物整理員 川上登志江 善家幸子

「平成20年度〕

名 称 松江城下町遺跡(母衣町40外)発掘調査…(報告書 第3ブロック3a区・3b区)

所 在 地 松江市母衣町40番地外

調 査 期 間 平成20年9月1日~平成21年3月18日

調 査 面 積 全調査面積300㎡

調查1区調查面積79㎡

調査2区調査面積221㎡

調 査 指 導 広島県三次市立奥田元宋・小由女美術館 館長 村上勇

島根県教育委員会 文化財課 企画員 池淵俊一

島根県古代文化センター 専門研究員 西尾克己

実 施 者 財団法人松江市教育文化振興事業団 埋蔵文化財課

調查員 石井悠、調查補助員 福光龍治、清水初美

作業員 青山克忠、伊藤俊和、岩上和輝、大国徳則、小川真由美、門脇祐介、金森まゆみ、

木村司、中村道夫、中村勇一、原英誉、船越律、山本孝明、山本守

遺物整理員 石倉紀子、高尾万里子

[平成21年度]

名 称 松江城下町遺跡(母衣町40外)発掘調査…(報告書 第3ブロック3b区)

所 在 地 松江市殿町347番地2外

調 査 期 間 平成21年6月1日~平成21年6月26日

調 査 面 積 35㎡

実 施 者 財団法人松江市教育文化振興事業団 埋蔵文化財課

調查員 石井悠、調査補助員 北島和子

作業員 石川秀人、犬山孝昭、門脇祐介、齋藤幸夫、船越律、中村道夫、吉川毅

名 称 松江城下町遺跡(母衣町344外)(調査1区)発掘調査…(報告書 第3ブロック2b区)

所 在 地 松江市南田町344番地外

調 査 期 間 平成22年2月16日~平成22年3月23日

調 査 面 積 70 m<sup>2</sup>

調 查 指 導 国立大学法人島根大学 総合理工学部 地球資源学科 准教授 酒井哲弥

島根県教育委員会 文化財課 企画員 池淵俊一

実 施 者 財団法人松江市教育文化振興事業団 埋蔵文化財課

調查員 廣濱貴子、調查補助員 渡邊真二

作業員 安達福、木村司、仁島陽子、野津喜代美、野津益男、原英誉、船越律、

遺物整理員 竹田奏絵、仁島陽子

[平成22年度]

名 称 松江城下町遺跡(殿町344外)(調査2区)発掘調査…(報告書 第3ブロック2a区)

所 在 地 松江市殿町344番地外

調 査 期 間 平成22年4月1日~平成22年7月13日

調 査 面 積 全調査面積154㎡

調查1区調查面積70㎡

調查2区調查面積84㎡

調 査 指 導 国立大学法人島根大学 総合理工学部 地球資源学科 准教授 酒井哲弥

島根県教育委員会 文化財課 企画員 池淵俊一

実 施 者 財団法人松江市教育文化振興事業団 埋蔵文化財課

調查員 柚原恒平、調查補助員 小山泰生

作業員 犬山孝昭、小川春江、小川真由美、門脇祐介、原英誉、船越律、吉川毅

[平成23年度]

名 称 松江城下町遺跡(母衣町45外)発掘調査…(報告書 第3ブロック5区)

所 在 地 松江市母衣町45番地外

調 査 期 間 平成23年7月28日~平成23年9月13日

調 査 面 積 32㎡

島根県立三瓶自然館サヒメル 学芸員 中村唯史

実 施 者 財団法人松江市教育文化振興事業団 埋蔵文化財課

調查員 廣濱貴子、調查補助員 宇津直樹

作業員 木村司、原英誉、中村道夫、中村勇一

[平成24年度]

名 称 松江城下町遺跡(母衣町44外)発掘調査…(報告書 第3ブロック4区)

所 在 地 松江市母衣町44番地外

調 査 期 間 平成24年5月14日~平成24年7月25日

調 査 面 積 132㎡

実 施 者 財団法人松江市教育文化振興事業団 埋蔵文化財課

調查員 廣濱貴子、調查補助員 原英誉

作業員 岩成博美、加藤恵治、木村司、小松原茂、齋藤幸夫、角田憲二、船越律

遺物整理員 石川香苗

\*立会調査

[平成19年度]

遺跡名 松江城下町遺跡(母衣町40外)

調查主体者 松江市教育委員会 文化財課

飯塚康行、松浦俊充、後藤哲男、川上昭一、佐々木紀明、小山泰生、高橋真紀子、宮本亜希子

[平成20年度]

遺跡名 松江城下町遺跡(殿町343-2外)

松江城下町遺跡(母衣町40外)

松江城下町遺跡(母衣町45-3外)

調査主体者 松江市教育委員会 文化財課

飯塚康行、後藤哲男、川上昭一、佐々木紀明、小山泰生、金森みのり、高橋真紀子、宮本亜希子

「平成21年度」

遺跡名 松江城下町遺跡(殿町344外)

調查主体者 松江市教育委員会 文化財課

飯塚康行、後藤哲男、川上昭一、徳永隆、小山泰生、高橋真紀子、宮本亜希子

「平成22年度」

遺跡名 松江城下町遺跡(殿町343-2外)

松江城下町遺跡(殿町344外)

松江城下町遺跡(殿町345外)

松江城下町遺跡(母衣町40外)

実 施 者 財団法人松江市教育文化振興事業団 埋蔵文化財課

調查員 中尾秀信、調査補助員 清水初美

「平成23年度」

遺跡名 松江城下町遺跡(殿町344外)

松江城下町遺跡(母衣町45外)

松江城下町遺跡(母衣町45-2外)

松江城下町遺跡(母衣町46外)

実 施 者 財団法人松江市教育文化振興事業団 埋蔵文化財課

調查員 中尾秀信、調査補助員 清水初美

第4ブロック

\*立会調査

[平成18年度]

遺跡名 松江城下町遺跡(殿町353-1外)

松江城下町遺跡(殿町35-4外)

松江城下町遺跡(殿町36-1外)

調查主体者 松江市教育委員会 文化財課

飯塚康行、後藤哲男、川上昭一、佐々木紀明、小山泰生、金森みのり、高橋真紀子、宮本亜希子

「平成20年度」

遺跡名 松江城下町遺跡(殿町35-外)

松江城下町遺跡(殿町352外)

松江城下町遺跡(殿町354-1外)

実 施 者 財団法人松江市教育文化振興事業団 埋蔵文化財課

調查員 柚原恒平、調查補助員 清水初美

[平成21年度]

遺跡名 松江城下町遺跡(殿町35-4外)

松江城下町遺跡(殿町36-1外)

松江城下町遺跡(殿町353-1外)

実 施 者 財団法人松江市教育文化振興事業団 埋蔵文化財課

調查員 中尾秀信、石井悠、柚原恒平、調查補助員 北島和子、清水初美

[平成22年度]

遺跡名 松江城下町遺跡(殿町345外~殿町353外)

松江城下町遺跡(殿町353-1外~母衣町193-2外)

実 施 者 財団法人松江市教育文化振興事業団 埋蔵文化財課

調查員 中尾秀信、調查補助員 清水初美

[平成23年度]

遺跡名 松江城下町遺跡(殿町352外)

松江城下町遺跡(殿町353-1外)

松江城下町遺跡(母衣町37-7外)

松江城下町遺跡(母衣町80-3外)

#### 実 施 者 財団法人松江市教育文化振興事業団 埋蔵文化財課 調査員 中尾秀信、調査補助員 清水初美

[平成24年度] 報告書作成業務

作成期間 平成24年4月1日~平成25年3月30日

調 査 主 体 松江市教育委員会

(事務局) 教育長 福島律子

文化財課長 錦織慶樹、調査係長 赤澤秀則 専門企画員 曽田健、

主任 川上昭一、

遺物 指導 石見銀山世界遺産センター 特任講師 西尾克己

財団法人米子市教育文化事業団 埋蔵文化財調査室 主任調査員 佐伯純也

実 施 者 財団法人松江市教育文化振興事業団

理事長 松浦正敬、常務理事 松浦克司、事務局長 原成美

埋蔵文化財課長 藤原博、調査係長 古藤博昭、専門企画員 後藤哲男(事務担当者)、

調查員 柚原恒平(~7月31日)、園山薫(8月1日~)、調査補助員 北島和子

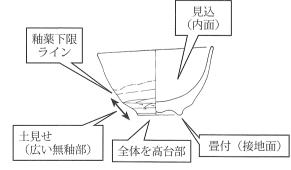
- 9. 本書に記載した現場写真は、各調査担当者、遺物写真は園山、柚原が撮影した。また、木製品における赤外線写真、金属製品におけるX線写真にあたっては、島根県立古代出雲歴史博物館の協力をいただいた。
- 10. 出土遺物のうち文字資料の判読については、内田文恵氏(松江市教育委員会 文化財課 史料編纂室 編纂官)のご教示を得た。
- 11. このほか調査及び報告書の作成にあたっては、以下の方々から多大なご指導、ご教示、ご協力をいただいた。記して感謝の意を表したい(敬称略、五十音順)。

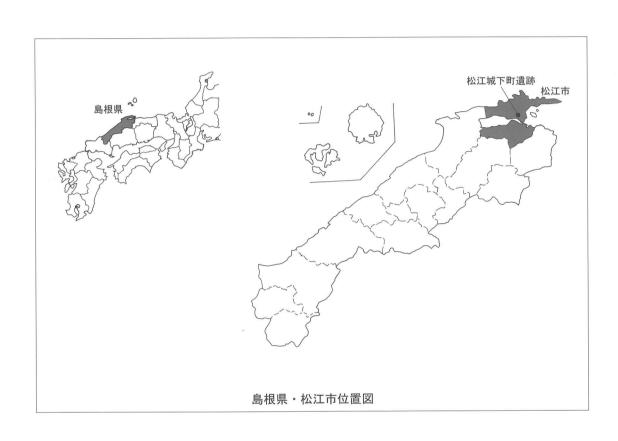
阿部賢治(島根県埋蔵文化財調査センター)、佐伯純也(財団法人米子市教育文化事業団)、澤田正明(島根県立古代出雲歴史博物館)、下村奈穂子(筑波大学人間総合科学研究科)、鈴木裕子(株式会社四門文化財事業部)、中村唯史(三瓶自然館サヒメル)、永井泰(来待ストーン館長)、西尾克己(島根県古代文化センター)、渡邊正巳(文化財コンサルタント株式会社)

- 12. 本書に記載した遺物の復元・実測・浄書・整理、遺構の浄書は、以下の者が行った。石倉紀子、金坂昇、木村由希江、高尾万里子、千代田絵美、藤原智美
- 13. 本書の執筆・編集は松江市教育委員会文化財課の協力を得て、園山が行った。
- 14. 本書における土器区分・分類・編年は以下を参照した。 陶磁器編年:『九州陶磁器の編年-九州近世陶磁学会10周年記念-』九州近世陶磁学会 2000年
- 15. 本書における方位は、平面直角座標北を示し、座標値は世界測地系に準拠した平面直角座標系第Ⅲ系の値である。 また、レベル値は海抜標高を示す。
- 16. 本書における遺構記号は以下のとおりである。

SA=塀・柵 SB=建物 SD=溝 SE=井戸 SK=土坑 SP=ピット SX=不明遺構 なお、遺構番号は、調査時に設定したものを報告書作成にあたり調査区毎に種別の番号を振り直した。

- 17. 本調査及び立会調査における「土層の色・質」は、調査時の記載をそのまま使用している。
- 18. 遺物の部位名称は、右記の図を参照。
- 19. 掲載した遺構図の縮尺については、各図に縮率とスケールを明記した。掲載した遺物の実測の縮率は、原則、陶器・金属製品・石製品・ガラス製品は1/3、木製品・瓦は1/4、銭貨は1/2とする。例外としての縮率は、遺物脇に明記した。
- 20. 遺物観察表における法量の内、「>」は最大残存部の数値を示す。
- 21. 出土遺物集計表および本文中の遺物数は破片数を1個 とカウントした。また、動物遺存体種別一覧表・出土遺物組成表・出土遺物一覧表は、非掲載遺物を含めた数量である。なお、非掲載遺構から出土した遺物については、調査時に設定した遺構名をそのまま記載した。
- 22. 出土遺物、実測図および写真等の資料は、松江市教育委員会において保管している。
- 23. 平面図関係は、島根県松江県土整備事業所の工事図面を浄書し、航空写真は同事務所から提供されたものを使用した。





## 本文目次

Irri	
AZtII	===
171	

第1章	調査に至る経緯	. 1
第1節	調査に至る経緯	
第2節	調査の手法	2
第3節	報告書作成工程	(
第2章	遺跡の位置と周辺の歴史・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	·• 4
第1節	地理的環境	/
第2節		
第3章	調査の概要と基本層序	. 11
第1節	調査の概要	. 11
第2節	基本層序	
第4章	本調査の結果	. 15
第1節		
	- 第1フロックの調査 - 1-1区 ······	
	. 1 1区 . 第1ブロック本発掘調査のまとめ	
第2節		
	3-1区 ····································	
	· 3-2×······	
	· 3-3×······	
		112
		136
	第3ブロック本発掘調査のまとめ	145
第5章	立会調査の結果	171
第1節	第1ブロックの立会調査	171
第2節	第3ブロックの調査	179
第3節	第 4 ブロックの調査	192
第4節	立会調査のまとめ	205
第6章	自然科学分析	209
第7章	総括	217
第1節		217
第2節	第3ブロック	219
第3節	第 4 ブロック	221
第4節	素掘りの大溝について	224
第5節	課題と今後の展望	226
本調香出-	土遺物集計表	149
	出土遺物一覧表	208
図版		200
報告書抄	<del>禄</del>	

## 挿図目次

島根県・	松江市位置図		第58図	3-2a⊠	石列1実測図	
第1図	調査位置図	· 1	第59図	3-2a区	石組2実測図	61
第2図	調査区配置図	· 2	第60図	3-2a⊠	SX01・石組2実測図	
第3図	第1工区報告書刊行状況模式図	· 3	第61図	3-2a区	SX01竹組実測図	· 63
第4図	松江周辺の主要河川	· 4	第62図	3-2区	第4面遺構外出土遺物	· 64
第 5 図	周辺の主な遺跡位置図	. 5	第63図	3-2区	第5面全体図	· 65
第6図	松江藩主の系図と家紋		第64図	3-2a⊠	SK04土層断面・出土遺物実測図	· 65
第7図	堀尾期松江城下町絵図		第65図	3-2区	第5面遺構外出土遺物	. 66
第8図	京極期松江城下町絵図		第66図	3-2区	その他の遺構外出土遺物	. 67
第9図	松平期松江城下町絵図		第67図	3-3区	調査区配置図	
第10図	松江市街二分間図		第68図	3-3区	人骨埋納坑·出土遺物実測図 ······	
第11図	本調查区配置図		第69図	3-3区	土層断面図	
第12図	第1ブロック調査区配置図		第70図	3-3区	第1面全体図1	
第13図	第3・4ブロック調査区配置図		第71図	3-3区	第1面全体図2	
	基本層序模式図		第72図	3-3a⊠	SK01実測図 ······	
第14図	基本層庁候式図 第1ブロック本調査区配置図		第73図	3-3a⊠	SK01出土遺物1 ·······	
第15図			第74図	3-3a区	SK01出土遺物2 ····································	
第16図	1-1区 土層断面図			3-3a区		
第17図	1-1区 第1面全体図1		第75図		to the second to	
第18図	1-1区 第1面全体図2		第76図	3-3b区		
第19図	1-1c区 SK01出土遺物 ·····		第77図	3-3区	石組水路1・出土遺物実測図	
第20図	1-1c区 SKO2出土遺物 ······		第78図	3-3b区		
第21図	1-1c区 SK03出土遺物 ······		第79図	3-3b区		
第22図	1-1区 第2面全体図1		第80図	3-3b区		
第23図	1 1 Notal 211 Mar	21	第81図	3-3b区		
第24図	1-1a区 SAO1・出土遺物実測図		第82図	3-3b区		
第25図	1-1a区 SA02·03実測図	23	第83図	3-3b区		
第26図	1-1a区 SEO1・出土遺物実測図	24	第84図	3-3区	第1面遺構外出土遺物	
第27図	1-1b区 SKO4出土遺物 ······	25	第85図	3-3b区		
第28図	1-1c区 SKO5・SKO6出土遺物	26	第86図	3-3区	第2面全体図1	. 92
第29図	1-1a区 SK07実測図 ······	28	第87図	3-3区	第2面全体図2	
第30図	1-1a区 SKO7出土遺物1		第88図	3-3b⊠	石垣1実測図	. 92
第31図	1-1a区 SK07出土遺物2		第89図	3-3区	SB01実測図	94
第32図	1-1a区 高まり1土層断面図		第90図	3-3a⊠		
第33図	1-1区 第2面遺構外出土遺物		第91図	3-3a⊠	and the second s	
第34図	第1ブロック遺構配置図		第92図	3-3b区		
第35図	第3ブロック本調査区配置図		2144-1-1		壁状遺構2~4実測図	
第36図	3-1区 トレンチ配置図		第93図	3-3a⊠	to the annual to the total and the first of the first	97
第37図	3-1区 トレンチ (A-A´) 土層断面図 ····································		第94図	3-3b区		
			第95図	3-3b区		
第38図			第96図		SX01出土遺物1 ····································	
第39図	3-1区 石垣1・石列1~4実測図				SX02実測図 ····································	
第40図	3-1区 その他の遺構外出土遺物		第97図		SX02共阀区 SX02出土遺物 ····································	
第41図	3-2区 土層断面図		第98図		- 3A02山工週初 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	
第42図	3-2区 第1面全体図		第99図	3-3区		100
第43図	3-2b区 SA01 · 出土遺物実測図		Mr. a. o. o. Eur		・トレンチ(A-A´)土層断面図	1.00
第44図	3-2a区 SK01出土遺物1		第100図			
第45図	3-2a区 SK01出土遺物2		第101図			
第46図	3-2a区 SK01出土遺物3		第102図			
第47図	3-2区 第1面遺構外出土遺物		第103図	3-3b		
第48図	3-2区 第2面全体図	51	第104図	3-3⊠		
第49図	3-2b区 SD01実測図 ······	52	第105図	3-4⊠		
第50図	3-2区 第3面全体図	53	第106図	3-4⊠		
第51図	3-2b区 SKO3実測図 ······	53	第107図	3-4⊠		
第52図	3-2b区 SKO3出土遺物1 ······		第108図	3-4⊠		
第53図	3-2b区 SKO3出土遺物2 ······		第109図	] 3-4⊠	区 SKO1出土遺物1	117
第54図	3-2b区 SKO3出土遺物3 ······		第110図			
第55図	3-2a区 石組1実測図		第111区			
第56図	3-2区 第4面全体図	59	第112図			
第57図	3-2b区 SA02実測図 ····································	60	第113図			
2170110	0 00E 011007/10E		x U F			

	4図 3-4	X	SK01出土遺物6		122	第149図	MJR83実測図 ·····	. 179
第11	5図 3-4	X	SKO1出土遺物7 ·······			第150図	MJR167実測図 ······	. 180
第116	6図 3-4	X	SKO2·出土遺物実測図 ····		127	第151図	MJR168実測図 ······	. 180
第11	7図 3-4	X	石積土坑1・2とMJR329合	ì成図	127	第152図	MJR188実測図 ······	180
第118	3-4	X	石積土坑1・出土遺物実測	図	128	第153図	MJR214実測図 ······	. 181
第119	9図 3-4	X	石積土坑2実測図		129	第154図	MJR215実測図 ······	· 182
第120	)図 3-4	X	石積土坑2出土遺物		130	第155図	MJR216実測図	· 183
第12	1図 3-4	X	第2面全体図		131	第156図	MJR217実測図	· 183
第122	2図 3-4	$\mathbf{X}$	第3面全体図			第157図	MJR220実測図	· 184
第123	3-4	$\overline{X}$	SKO3出土遺物 ······		132	第158図	MJR240実測図	· 185
第124	4図 3-4	$\overline{X}$	SK03·04実測図···········		133	第159図	MJR240出土遺物	186
第125	5図 3-4	X	SD01実測図 ······		135	第160図	MJR246実測図 ······	· 187
第126	6図 3-5	$\overline{\times}$	トレンチ内 側溝石垣実測	図	136	第161図	MJR248実測図	. 187
第127	7図 3-5	X	土層断面図		137	第162図		
第128	3-5	X	第1面全体図		138	第163図		
第129	9図 3-5	X	第1面出土遺物		138	第164図		
第130	)図 3-5	$\overline{\times}$	第2面全体図		139	第165図		
第131	図 3-5	$\overline{X}$	第3面全体図			第166図		
第132	2図 3-5	X	SKO1土層断面図			第167図		
第133	3   3-5	X.	第4面全体図			第168図		
第134			SD01·02実測図 ········			第169図		
第135			SD01出土遺物 ··············			第170図		
第136			SD02出土遺物			第171図		
第137			「ック遺構配置図1 「ック遺構配置図1			第172図		
第138			「ック遺構配置図2			第173図		
第139			「ック選情記置図2 「ック立会調査範囲図			第174図		
第140			3実測図			第175図		
第141			5大队员 6実測図			第176図		
第142			7実測図			第170回		
第143			7 実測図 ···································			第1778図		
第144			3実測図					
第145			3天测図 ····································			第179図		
第146			4美侧区 ······· 9実測図 ······			第180図		
第140			9美側図			第181図		
						第182図		
第148	5凶 弗3	ノレ	「ック立会調査範囲図	•••••	179	第183図	確認された素掘りの大溝	. 225
				- 3	長	目次		
表 1		)	松江藩主の変遷		7		K01出土土器観察表 ·····	• 49
表 1 表 2	松江とる	主と	周辺に関わる略年表		··· 7 ··· 8	表21 SF	《01出土土器観察表····································	
	松江とる	主と			··· 7 ··· 8	表21 SF 表22 SF		49
表 2	松江とる SK01出	<b></b>	周辺に関わる略年表		··· 7 ··· 8	表21 SF 表22 SF 表23 SF	〈01出土木製品観察表	49
表 2 表 3	松江とる SKO1出 SKO2出	宅と その 士士	周辺に関わる略年表 :器観察表		··· 7 ··· 8 18	表21 SF 表22 SF 表23 SF 表24 SF	K01出土木製品観察表 K01出土金属製品観察表	49 50 50
表 2 表 3 表 4	松江とる SKO1出 SKO2出 SKO3出	宅と その 士士 士士	周辺に関わる略年表 - 器観察表 - 器観察表		··· 7 ··· 8 18 19 21	表21 SF 表22 SF 表23 SF 表24 SF 表25 SF	(01出土木製品観察表 (01出土金属製品観察表 (01出土石製品観察表 (01出土瓦観察表	49 50 50 50
表 2 表 3 表 4 表 5	松江とる SKO1出 SKO2出 SKO3出 SAO1出	宅と 士士 士士 士士	周辺に関わる略年表 -器観察表 -器観察表 -器観察表		7 8 18 19 21 22	表21 SF 表22 SF 表23 SF 表24 SF 表25 SF 表26 第	(01出土木製品観察表 (01出土金属製品観察表 (01出土石製品観察表 (01出土瓦観察表 i1面遺構外出土土器観察表	49 50 50 50 50
表表表表表表表	松江とそ SKO1出 SKO2出 SKO3出 SAO1出 SEO1出	足との 士士 士士 士士 士士	周辺に関わる略年表 -器観察表 -器観察表 -器観察表 		7 8 18 19 21 22 24	表21 SF 表22 SF 表23 SF 表24 SF 表25 SF 表26 第 表27 SF	(01出土木製品観察表 (01出土金属製品観察表 (01出土石製品観察表 (01出土瓦観察表 (1面遺構外出土土器観察表 (03出土土器観察表	49 50 50 50 50 50
表表表表表表表表	松江とる SK01出 SK02出 SK03出 SA01出 SE01出 SE01出	定と 士士 士士 士士 士士 士士	周辺に関わる略年表 :器観察表 :器観察表 :器観察表 :器観察表 :器観察表 :器観察表		7 8 18 19 21 22 24 25	表21 SF 表22 SF 表23 SF 表24 SF 表25 SF 表26 第 表27 SF 表28 SF	(01出土木製品観察表 (01出土金属製品観察表 (01出土石製品観察表 (01出土瓦観察表 51面遺構外出土土器観察表 (03出土土器観察表	49 50 50 50 50 50 57 57
表表表表表表表表表表	松江とる SKO1出 SKO2出 SKO3出 SAO1出 SEO1出 SEO1出 SKO4出	定と 士士士 士士 士士 士士 士士	周辺に関わる略年表 :器観察表 :器観察表 :器観察表 :観察表 :器観察表  属製品観察表		7 8 18 19 21 22 24 25 25	表21 SF 表22 SF 表23 SF 表24 SF 表25 SF 表26 第 表27 SF 表28 SF 表29 SF	(01出土木製品観察表 (01出土金属製品観察表 (01出土石製品観察表 (01出土瓦観察表 51面遺構外出土土器観察表 (03出土土器観察表 (03出土木製品観察表	49 50 50 50 50 50 57 57
表表表表表表表表 8	松江とる SK01出 SK02出 SK03出 SA01出 SE01出 SE01出 SK04出 SK04出	をとの 土土土土土土土土土土土土土土土土土土土土土土	周辺に関わる略年表 器観察表 器観察表 器観察表 観察表 器観察表 属製品観察表 器観察表		7 8 18 19 21 22 24 25 25 26	表21 SF 表22 SF 表23 SF 表24 SF 表25 SF 表26 第 表27 SF 表28 SF 表29 SF 表30 第	(01出土木製品観察表 (01出土金属製品観察表 (01出土石製品観察表 (01出土瓦観察表 51面遺構外出土土器観察表 (03出土土器観察表	49 50 50 50 50 57 57 57 58 64
表表表表表表表表表 表 表 表 表 表 表 表 表 表 表 表 表 表 表	松江とる SK01出 SK02出 SK03出 SA01出 SE01出 SE01出 SK04出 SK04出 SK05出	宅との 土土土土土土土土土土土土土土土土土土土土土土土土土土土土土土土土土土土土	周辺に関わる略年表 :器観察表 :器観察表 :器観察表 : 観察表 : 器観察表 : 器観察表 : 器観察表 : 記観察表		7 8 18 19 21 22 24 25 25 26 27	表21 SF 表22 SF 表23 SF 表24 SF 表25 SF 表26 第 表27 SF 表28 SF 表28 SF 表29 SF 表30 第	(01出土木製品観察表 (01出土布製品観察表 (01出土石製品観察表 (01出土瓦観察表 51面遺構外出土土器観察表 (03出土土器観察表 (03出土木製品観察表 (03出土金属製品観察表 (4面遺構外出土土器観察表	49 50 50 50 50 57 57 58 64 64
表表表表表表表表表10	松江とる SK01出 SK02出 SK03出 SE01出 SE01出 SK04出 SK04出 SK05出 SK06出	をとの 土土土土土土土土土土土土土土土土土土土土土土土土土土土土土土土土土土土土	周辺に関わる略年表 :器観察表 :器観察表 :器観察表 :器観察表 :器観察表     器観察表   器観察表   に観察表   に観察表   に観察表		7 8 18 19 21 22 24 25 25 26 27	表21 SF 表22 SF 表23 SF 表24 SF 表25 SF 表26 第 表27 SF 表28 SF 表28 SF 表30 第 表31 第 表32 SF	(01出土木製品観察表 (01出土石製品観察表 (01出土石製品観察表 (01出土瓦観察表 ;1面遺構外出土土器観察表 (03出土土器観察表 (03出土木製品観察表 (03出土金属製品観察表 (4面遺構外出土土器観察表 (4面遺構外出土金属製品観察表	49 50 50 50 50 57 57 57 58 64 64 66
表表表表表表表表表表表表表表表表表表表表表表表表表表表表表表表表表表表表表表	松江とる SK01出 SK02出 SK03出 SA01出 SE01出 SK04出 SK04出 SK05出 SK06出 SK06出 SK07出	足との 土土土土土土土土土土土土土土土土土土土土土土土土土土土土土土土土土土土土	周辺に関わる略年表 器観察表 器観察表 器観察表 器観察表 器観察表 器観察表 器観察表 器観察表 器観察表 器観察表 器観察表 器観察表 器観察表 器観察表		7 8 18 19 21 22 24 25 25 26 27	表21 SF 表22 SF 表23 SF 表24 SF 表25 SF 表26 第 表27 SF 表28 SF 表29 SF 表30 第 表31 第 表32 SF 表33 第	(01出土木製品観察表 (01出土石製品観察表 (01出土石製品観察表 (01出土瓦観察表 (1面遺構外出土土器観察表 (03出土土器観察表 (03出土木製品観察表 (03出土金属製品観察表 (4面遺構外出土土器観察表 (4面遺構外出土土器観察表 (04出土木製品観察表	49 50 50 50 50 57 57 58 64 64 66 67
表表表表表表表表表表表表表表表表表表表表表表表表表表表表表表表表表表表表表表	松江とる SK01出 SK02出 SK03出 SE01出 SE01出 SK04出 SK04出 SK05出 SK06出 SK07出 SK07出	足との土土土土土土土土土土土土土土土土土土土土土土土土土土土土土土土土土土土土	周辺に関わる略年表 器観察表 器観察表 観察表 観察表 器観察表 器観察表 器観察表 器観察表 器観察表 器観察表 器観察表 器観察表 器観察表 器観察表		7 8 18 19 21 22 24 25 25 26 27 27 31	表21 SF 表22 SF 表23 SF 表24 SF 表25 SF 表26 第 表27 SF 表28 SF 表29 SF 表30 第 表31 第 表32 SF 表33 第	(01出土木製品観察表 (01出土石製品観察表 (01出土石製品観察表 (01出土瓦観察表 (1面遺構外出土土器観察表 (03出土土器観察表 (03出土木製品観察表 (03出土金属製品観察表 (4面遺構外出土土器観察表 (4面遺構外出土金属製品観察表 (4面遺構外出土金属製品観察表 (5面遺構外出土土器観察表	49 50 50 50 50 57 57 58 64 64 66 67
表表表表表表表表表表表表表表表表表表表表表表表表表表表表表表表表表表表表表表	松江と名 SK01出 SK02出 SK03出 SE01出 SE01出 SK04出 SK04出 SK05出 SK06出 SK07出 SK07出 SK07出	をとり、土土土土土土土土土土土土土土土土土土土土土土土土土土土土土土土土土土土土	周辺に関わる略年表 :器観察表		7 8 18 19 21 22 24 25 25 26 27 27 31 31 31	表21 SF 表22 SF 表23 SF 表24 SF 表25 SF 表26 第 表27 SF 表28 SF 表29 SF 表30 第 表31 第 表32 SF 表33 第 表34 そ 表35 そ	(01出土木製品観察表 (01出土石製品観察表 (01出土石製品観察表 (01出土瓦観察表 (1面遺構外出土土器観察表 (03出土土器観察表 (03出土土器観察表 (03出土金属製品観察表 (4面遺構外出土土器観察表 (4面遺構外出土金属製品観察表 (5面遺構外出土金属製品観察表 (5面遺構外出土土器観察表 (5面遺構外出土土器観察表 (60) (60) (60) (60) (60) (60) (60) (60)	49 50 50 50 50 57 57 58 64 66 67 67
表表表表表表表表表表表表表表表表表表表表表表表表表表表表表表表表表表表表表表	松江と名 SK01出 SK02出 SK03出 SE01出 SE01出 SK04出 SK04出 SK05出 SK07出 SK07出 SK07出 SK07出 SK07出 SK07出 SK07出 SK07出	をという 土土土土土土土土土土土土土土土土土土土土土土土土土土土土土土土土土土土土	周辺に関わる略年表 器観察表 器観察表 観察表 観察表 器観察表 器観察表 器観察表 器観察表 器観察表 器観察表 製品観察表 製品観察表 製品観察表 製品観察表 製品観察表		7 8 18 19 21 22 24 25 25 26 27 27 31 31 31	表21 SF 表22 SF 表23 SF 表24 SF 表25 SF 表26 第 表27 SF 表28 SF 表29 SF 表30 第 表31 第 表32 SF 表33 第 表34 そ 表35 そ 表36 3-	(01出土木製品観察表 (01出土石製品観察表 (01出土石製品観察表 (01出土瓦観察表 が1面遺構外出土土器観察表 (03出土土器観察表 (03出土木製品観察表 (03出土金属製品観察表 (4面遺構外出土土器観察表 (4面遺構外出土土器観察表 (4面遺構外出土土器観察表 (04出土木製品観察表 (04出土木製品観察表 (06) の遺構外出土土器観察表 (06) の遺構外出土土器観察表 (16) の遺構外出土土器観察表	49 50 50 50 50 57 57 58 64 64 66 67 67 67
表表表表表表表表表表表表表表表表表表表表表表表表表表表表表表表表表表表表表表	松江と名 SK01出 SK02出 SK03出 SE01出 SE01出 SK04出 SK05出 SK07出 SK07出 SK07出 第2面遺 第2面遺 第2面遺	足で土土土土土土土土土土土構構	周辺に関わる略年表		7 8 18 19 21 22 24 25 25 26 27 27 31 31 31 33	表21 SH 表22 SH 表23 SH 表24 SH 表25 SH 表26 第 表27 SH 表28 SH 表30 第 表31 第 表31 第 表32 SH 表33 第 表34 そ 表35 名 表36 3- 表37 人	(01出土木製品観察表 (01出土金属製品観察表 (01出土石製品観察表 (01出土瓦観察表 (01出土瓦観察表 (1面遺構外出土土器観察表 (03出土土器観察表 (03出土金属製品観察表 (03出土金属製品観察表 (4面遺構外出土土器観察表 (4面遺構外出土金属製品観察表 (4面遺構外出土金属製品観察表 (04出土木製品観察表 (04出土木製品観察表 の他の遺構外出土土器観察表 の他の遺構外出土土器観察表 の他の遺構外出土金属製品観察表	49 50 50 50 50 57 57 58 64 66 67 67 67 68 70
表表表表表表表表表表表表表表表表表表表表表表表表表表表表表表表表表表表表表表	松江と名 SK01出 SK02出 SK03出 SE01出 SE01出 SK04出 SK05出 SK07出 SK07出 SK07出 第2面遺 第1-1区	足を土土土土土土土土土土土構構検との土土土土工土土土土土土土土土土土土土土土土土土土土土土土土土土土土土土土土	周辺に関わる略年表		7 8 18 19 21 22 24 25 26 27 27 31 31 33 33 34	表21 SF 表22 SF 表23 SF 表24 SF 表25 SF 表26 第 表27 SF 表28 SF 表29 SF 表30 第 表31 第 そそそ 表33 第 そそそ 表34 表35 SF 表34 表35 SF 表37 人人	(01出土木製品観察表 (01出土金属製品観察表 (01出土石製品観察表 (01出土瓦観察表 (01出土瓦観察表 (1面遺構外出土土器観察表 (03出土土器観察表 (03出土金属製品観察表 (03出土金属製品観察表 (4面遺構外出土土器観察表 (4面遺構外出土金属製品観察表 (5面遺構外出土土器観察表 の他の遺構外出土土器観察表 の他の遺構外出土土器観察表 の他の遺構外出土土器観察表 の他の遺構外出土金属製品観察表	49 50 50 50 50 50 57 57 58 64 64 66 67 67 67 68 70
表表表表表表表表表表表表表表表表表表表表表表表表表表表表表表表表表表表表表表	松江とそ SK01出 SK02出 SK03出 SE01出 SE01出 SK04出 SK05出 SK06出 SK07出 SK07出 第2面遺 第1-1区 その他の	との土土土土土土土土土土土構構検し	周辺に関わる略年表		7 8 18 19 21 22 24 25 26 27 27 31 31 33 33 34 40	表21 SF 表22 SF 表23 SF 表24 SF 表25 SF 表26 第 表27 SF 表28 SF 表29 SF 表30 第第 表31 第 表32 SF 表33 第 表34 そ そ 表35 表36 3- 表37 人 表38 表37 人 表39 SF	(01出土木製品観察表 (01出土金属製品観察表 (01出土石製品観察表 (01出土瓦観察表 (01出土瓦観察表 (1面遺構外出土土器観察表 (03出土土器観察表 (03出土金属製品観察表 (03出土金属製品観察表 (4面遺構外出土土器観察表 (4面遺構外出土金属製品観察表 (4面遺構外出土金属製品観察表 (04出土木製品観察表 (04出土木製品観察表 の他の遺構外出土土器観察表 の他の遺構外出土土器観察表 の他の遺構外出土金属製品観察表	49 50 50 50 50 50 57 57 58 64 66 67 67 67 68 70 70

	のなり出し人民制日知察主	76	主02	SK03出土金属製品観察表	134
表41	SK01出土金属製品観察表 ·····			3-4区 検出遺構一覧	
表42	SK02出土土器観察表 ······		表84	第1面出土土器観察表 · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	
表43	SK03出土土器観察表 ·····			SD01出土木製品観察表	
表44	SK03出土瓦観察表 ······			SD02出土土器観察表	
表45	石組水路1出土土器観察表				
表46	石組水路1出土金属製品観察表			SD02出土木製品観察表	
表47	石列1出土土器観察表			3-5区 検出遺構一覧	
表48	石列1出土土製品観察表			第3ブロックの遺構面と時期区分	
表49	礫敷き1出土土器観察表・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・		表91	出土遺物組成表1	
表50	礫敷き1出土金属製品観察表		表92	出土遺物組成表2	
表51	礫敷き2出土土器観察表		表93	出土遺物組成表3	
表52	礫敷き2出土金属製品観察表		表94	出土遺物組成表4	
表53	礫敷き2出土石製品観察表	90	表95	出土遺物組成表5	
表54	礫敷き2出土木製品観察表	90	表96	出土遺物組成表6	
表55	第1面遺構外出土木製品観察表	90	表97	出土遺物組成表7	155
表56	SKO4出土土器観察表	91	表98	出土遺物組成表8	156
表57	土留め遺構1出土土器観察表	96	表99	出土遺物組成表9 · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	157
表58	土留め遺構1出土木製品観察表		表100		
表59	SX01出土土器観察表	101	表101		
表60	SX01出土木製品観察表	101	表102	出土遺物組成表12	160
表61	SX02出土土器観察表	105	表103		
表62	SX02出土木製品観察表		表104	出土遺物組成表14	162
表63	SX02出土金属製品観察表		表105	出土遺物組成表15	163
表64	SX02出土土製品観察表		表106	出土遺物組成表16	· 164
表65	南北トレンチ(A-A´) 出土土器観察表		表107	出土遺物組成表17	· 165
表66	その他の遺構外出土土器観察表		表108	出土遺物一覧表1	· 166
表67	その他の遺構外出土木製品観察表		表109	出土遺物一覧表2	· 167
表68	その他の遺構外出土金属製品観察表		表110	出土遺物一覧表3	168
表69	3-3区 検出遺構一覧		表111		
表70	SA01出土木製品観察表		表112		
表71	SK01出土土器観察表		表113	3 第1ブロック立会調査一覧表	178
表72	SK01出土木製品観察表1		表114		
表73	SK01出土木製品観察表2		表115		
表74	SK01出土金属製品観察表		表116	and the state of t	
表75	SK01出土瓦観察表 ·······		表117	the state of the s	
表76	SKO2出土土器観察表 ······		表118		
表77	SK02出土木製品観察表		表119	and the second s	
表78	石積土坑1出土土器観察表		表120		
表79	石積土坑2出土土鉛観察表		表121		
表19	石積土坑2出土木製品観察表		表122		
	石積上坑2出土瓦観察表		表123	the second secon	
表81	石槓工机2凸工丸観奈衣 SKO3出土木製品観察表		11140	ノーンド カローン マンノ くはま 砂パンパナイ	
表82	3NU3山工小装加既余衣	104			

## 写真図版目次

図版 1	1-1区	図版16	3-2区
	1.調査区周辺(南西から)島根ふるさと館		1. 3-2 b 区 第3面 SK03竹木舞検出状況
	2. 調査前(南東から)		2. 3-2 b 区 SKO3竹木舞(部分)
	3. 表土掘削状況(西から)		3.3-2 b 区 SK03竹木舞
図版 2	1-1区	図版17	3-2区
	1.1-1a区 建物基礎検出状況(西から)		1. 3-2 b 区 第3面 調査状況(東から)
	2. 1-1 a 区 SAO1完削状況 (北から)		2. 3-2 b 区 第3面 礫敷(西から)
	3. SA01 P1	図版18	
図版 3	1-1区		1. 3-2 b 区 第3面 石組1(東から)
	1. SE01土層断面(上層部)		2. 3-2 b 区 第3面 石組1
	2. 1-1 a 区 SEO1 竹筒検出状況		3. 3-2 b 区 第3面 石組1 (北から)
	3. 松江層砂岩検出状況	図版19	
図版 4	1-1区	23/11/213	1. 3-2 a 区 第4面 石列1(東から)
	1.1-1a区 南壁土層断面(松江層砂岩、Ⅰ層、Ⅱ層)		2. 3-2 a 区 第4面 石列1 (呆から)
	2. 1-1 a 区 SK07大鋸屑、鉋屑検出状況		3. 3-2 a 区 石組2(南から)
	3. 1-1 a 区 SK07 大 層 断 面	図版20	
図版 5	1-1区	凶成20	
	·		1. 3-2 a 区 第4面 SX01 (南西から)
	1. 1-1 a 区 SK07完掘状況(東から) 2. 1-1 a 区 SK07完掘状況(北から)	MILEO 1	2. 3-2 a 区 第4面 SX01西側(南から)
図版 6	2. 1-1 a 区 SRU7元梱仏仇(北から) 1-1区	図版21	
	,		1. 3-2 a 区 第4面 SX01竹組1・2 (東から)
	1. 1-1 b 区 第2面 SA02・03完掘状況(西から)	EMILOO	2. 3-2 a 区 第4面 SX01竹組3(北から)
1501UC 77	2. 1-1 c 区 第2面 完掘状況(南から)	図版22	-
図版 7	1-1区		1. 3-2 a 区 第4面 SX01竹組3(部分)
	1. 1-1 a 区 高まり1検出状況(北東から)		2. 3-2 a 区 第4面 SX01竹組3 (部分)
	2. 高まり1 (A-A 断面)		3. 3-2 a 区 第4面 SX01(西から)
	3. 1-1 c 区 深堀りトレンチ	図版23	
図版 8	3-1区		1. 3-2 a 区 第5面 SK04(東から)
	1. 完掘状況(東から)		2. 3-2 a 区 SD02検出状況(南から)
	2. 石積側溝と石列1	図版24	
none Hart	3. 石積側溝と石列2(北から)		1. 調査区周辺道路は城山北公園線(南西から)
図版 9	3-1区		2.3-3 b 区 東側近現代遺構面(東から)
	1. 石積側溝と石列3(東から)		3.3-3a区 西側近現代遺構面(北から)
	2. 石列4(東から)	図版25	3-3区
	3. 石積側溝輪違い文の刻印のある石(北から)		1.3-3a区 西側第1面調査状況(東から)
図版10	3-2区		2. 3-3 a 区 第1面 SK01遺物出土状況(北から)
	1.3-2 b 区 調査前状況(南から)		3.3-3 a 区 第1面 SK02調査状況(北から)
	2.3-2 b 区 表土掘削状況(南西から)	図版26	3-3区
	3.3-2 a 区 調査状況(東から)		1. 3-3 b 区 西側第1面(東から)
図版11	3-2区		2. 3-3 b 区 東側第1面(東から)
	1.3-2 b 区 土層断面(北壁)	図版27	3-3区
	2. 3-2 b 区 土層断面(A層、 I 層、 II 層)		1. 3-3 b 区 第1面 石組水路1・礫敷1(東から)
	3. 3-2 a 区 土師器皿(第66図 1 、 2 )出土状況		2. 3-3 b 区 西側第1面(北から)
図版12	3-2区	図版28	3-3⊠
	1.3-2 b 区 第1面 完掘状況(東から)		1. 3-3 b 区 建物土台2(東から)
	2.3-2a区 第1面 SK01瓦溜まり検出状況(南から)		2. 3-3 a 区 土留め遺構1(北東から)
図版13	3-2区	図版29	3-3区
	1.3-2a区 第1面 瓦撤去後の石検出状況(南から)		1. 3-3 a 区 第2面 壁状遺構1
	2. 3-2 a 区 第1面 SKO1杭検出状況(南から)		2. 3-3 a 区 第2面 建物土台1(西から)
	3. 3-2 a 区 第1面 SK01北西部盛り上がり状況(東から)	図版30	
図版14		***	1. 3-3 b 区 東側第2面(東から)
	1. 3-2 b 区 第2面 SD01・SK03調査状況(東から)		2. 3-3 b 区 第2面 石垣1 (北から)
	2. 3-2 b 区 第2面 SD01丸太材検出状況(西から)	図版31	3-3区
図版15	3-2区		1.3-3 b 区 第2面 石垣1(北から)
			2. 3-3 b 区 第2面 石垣1(西から)
	2. 3-2 b 区 第2面 SKO3完掘状況(東から)		3.3-3 b 区 石垣と杭
			o. ook Heen

図版32 3-3区

1. 3-3b区 第3面 SK05・SX01 (南から)

2. 3-3b区第3面SK05完掘状況(南から)

3. 3-3b区第3面 SX01土層断面(北壁)

図版33 3-3区

1. 3-3b区 SX02検出状況(北西から)

2. 3-3b区 SX02調査状況(南から)

3. 3-3 b 区 第3面 SX02土層断面

図版34 3-3区

1. 3-3 b 区 ウラジロ検出状況 (西から)

2. 3-3b区 ウラジロ検出状況(東から)

図版35 3-3区

1. 3-3b区 ウラジロ検出状況 (トレンチA-A´)

2. 人骨出土状況

図版36 3-4区

1. 調査前道路は城山北公園線(南から)

2. 第1面 SA01 (西から)

3. 第1面 SKO1完掘状況(東から)

図版37 3-4区

1. 第1面 SKO2完掘状況(南から)

2. 第1面 石積土坑1(南東から)

3. 第1面 石積土坑1 (東から)

図版38 3-4区

1. 第1面 石積土坑2検出状況(東から)

2. 第1面 石積土坑2 (東から)

3. 第1面 石積土坑2(北から)

図版39 3-4区

1. 第2面(西から)

2. 第2面 調査状況(南西から)

3. 第2面 植栽痕

図版40 3-4区

1. 第4面 SKO3・04調査状況(東から)

2. 第4面 SK03・04完掘状況(南西から)

図版41 3-4区

1. 第4面 SKO3土層断面

2. 第4面 SKO4完掘状況(東から)

3. I層検出状況(北から)

図版42 3-5区

1. 調査前手前通路は城山北公園線(南東から)

2. トレンチ内石積遺構(北から)

3. 第1面(南から)

図版43 3-5区

1. 第2面 植栽痕(南から)

2. 第2面 植栽痕

3. 第2面 植栽痕完掘状況(北から)

図版44 3-5区

1. 第3面 SK01完掘状況(東から)

2. SKO1土層断面(西壁)

3. 第3面 SK01土層断面(北壁)

図版45 3-5区

1. 第4面 SD01・02検出状況(北から)

2. 第4面 SD01・02調査状況(北から)

図版46 3-5区

1. 第4面 SD01土層断面

2. 第4面 SDO2土層断面(西壁)

3. 第4面 SD02遺物出土状況

図版47~49

1-1区出土遺物

図版50~53

3-2区出土遺物

図版54 3-2区、3-1区、3-3区出土遺物

図版55~62

3-3区出土遺物

図版63~66

3-4区出土遺物

図版67 3-5区出土遺物

鉄製品X線写真

3-3区近現代遺物

MJR240出土遺物

図版68 動物遺存体 哺乳類1(イヌ)

図版69 動物遺存体 哺乳類2 (イノシシ・ネコ・海獣類)

図版70 動物遺存体 鳥類

図版71 動物遺存体 魚・貝類

図版72 動物遺存体 解体痕のある骨

#### 第1章 調査に至る経緯

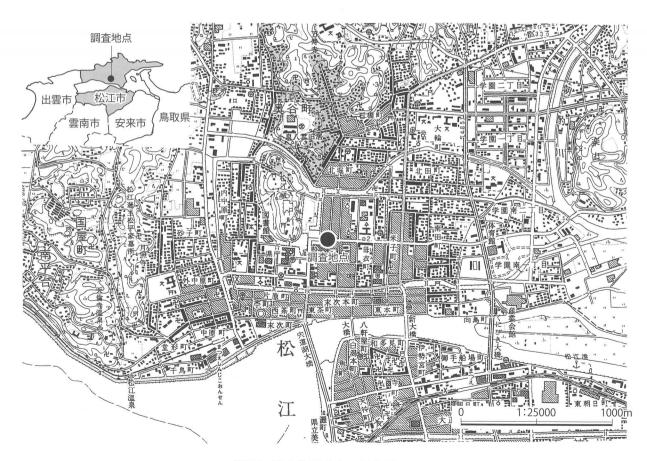
#### 第1節 調査に至る経緯

松江城の大手前から南田町に向かう大手前通り(主要地方道松江鹿島美保関線の一部及び県道本庄福富松江線の一部)は、現在すでに4車線化されている宍道湖大橋と国道485号(通称:くにびき道路)を結ぶ松江市内循環線の一部として東西を結ぶ重要な幹線となっている。島根県では、殿町から学園南の国道485号(くにびき道路交差点)までの1,040m区間を「3.3.30都市計画道路 城山北公園線」として車道4車線化と両側5mの歩道を整備することとした(第2図)。

これに伴い、松江市教育委員会は、事業に先立って、用地買収の完了した地点から試掘調査を実施し、 遺跡の確認された地点については文化財調査を行うこととした。調査対象地は、東西全長620m、城山北 公園線北側への拡張は10~13m、同線南側への拡張は4~7mである。

遺跡名は、松江城下町遺跡の後の()内に町名と代表番地を付し、松江城下町遺跡(調査地の地番)と呼称した。

本発掘調査は、平成18年度から(財松江市教育文化振興事業団埋蔵文化財課が、まとまった調査地が確保できた場所から実施した。しかし、範囲が狭小な場所や民家や商店の前については、出入り口をふさいで長期にわたる本発掘調査を行うことは不可能であり、共同管、上・下水管、ガス管の埋設など、掘削が伴う工事にあたっては立会調査で対応することとした。



第1図 調査位置図(1:25,000)

立会調査については、松江市教育委員会で実施していたが、遺構の密度が高く対応不可能となり、平成 20年度から 側松江市教育文化振興事業団埋蔵文化財課への委託で実施している。

#### 第2節 調査の手法

調査地は建物が密集する市街地中心にあることから、調査には非常に多くの制約を伴った。本発掘調査は、基本的に矢板は打設せず、官民境界部分と車道との間に緩衝帯を設け、安全勾配を確保しながら掘り下げた。但し市街地であるため狭小な調査区が多く、水道管・ガス管等の保全や進入路の確保および廃土処理の必要等から、調査区を細分して実施した。また、複数の年度にわたる調査地もあった。そのため、遺構や土層の連続しない箇所が生じる部分もあり、遺構面の整合性や遺構および土層の検証を困難にさせる要因ともなった。

表土及び撹乱層の掘削は重機を用い、その後人力で掘り下げながら遺構の検出に努めた。立会調査については、遺構が検出されれば工事を中断し、可能な限り遺構と土層の観察、記録を取るよう努めた。遺物



第2図 調査区配置図 (1:5,000)

は基本的には、重機で掘り上げられた土を選別しながら取り上げた。

測量は、トータルステーションを用い、必要に応じて遣り方測量・平板測量を併用した。断面図はレベルを用い手作業で計測を行っている。

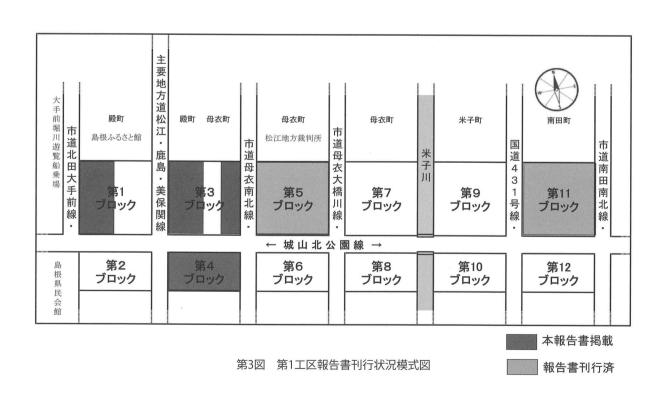
写真撮影は、35mm・120mmリバーサルフィルムとモノクロームフィルム及び一眼レフデジタルカメラを用いて行った。

#### 第3節 報告書作成工程

現地調査においては、用地買収が完了した場所から調査を実施しているが、発掘調査の報告にあたっては、江戸時代の屋敷配置を考慮して、城山北公園線および南北に縦断する道路を一つの境界として「ブロック分け」を行い、ブロック毎に調査報告書を刊行することとした。

平成23年度は、「松江城下町遺跡発掘調査報告書1」において、第1工区第5ブロックの同遺跡(母衣町68)、第11ブロックの同遺跡(南田町77-1外)、(南田町52-32外)、(南田町52-7外)、(南田町52-1外)の本調査とそれぞれのブロックの立会調査について報告した。

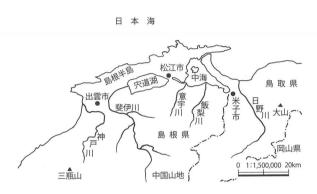
本報告書は、第 $1 \cdot 3 \cdot 4$ ブロックの報告であるが、用地買収等の都合により、第1ブロックの東半分と第3ブロックの一部に未調査地が残っている。これらの調査地については今後改めて調査を実施する予定である(例言5を参照)。なお、第1工区第 $6 \cdot 7 \cdot 8 \cdot 9 \cdot 10 \cdot 12$ ブロック、および第2工区については、平成 $25 \cdot 27$ 年度にかけて計画的に刊行する予定である(第3図)。



#### 第2章 遺跡の位置と周辺の歴史

#### 第1節 地理的環境

松江城下町は、島根県東部の松江平野中央に位置する。北に島根半島が、西に宍道湖、東に中海が広がる。本遺跡は、原始時代、外海とつながっていた宍道湾が形成した砂州および中国山地・島根半島から流れ出る河川によって作られた沖積地に立地する。宍道湖周辺部は標高が低い低湿地であった。遺跡のあり方に影響を与えるような大きな変化として、出雲平野を西流して外海に注いでいた「斐伊川」が江戸時代の寛永年間(1624~1643年)に東へ流れを変え、宍道湖に注ぎ込むようになったことが挙げられる。当然、宍道湖の水位は上昇したと考えられ、低湿地に位置する松江城下町にとってその影響は軽微ではなかったと推測される。



第4図 松江周辺の主要河川

また、城下町が形成された松江平野は、大雨や河川の氾濫等に起因する洪水に幾度もみまわれていたことが文献から窺える。近年の松江城下町遺跡発掘調査成果から、江戸時代を通して大規模な屋敷地造成を数回行っていることや、江戸時代から現在までの間に、平均約1.5mの嵩上げ造成を行っていたことが明らかとなっている。こうした造成を行い、洪水などの災害に対処していたものと思われる。



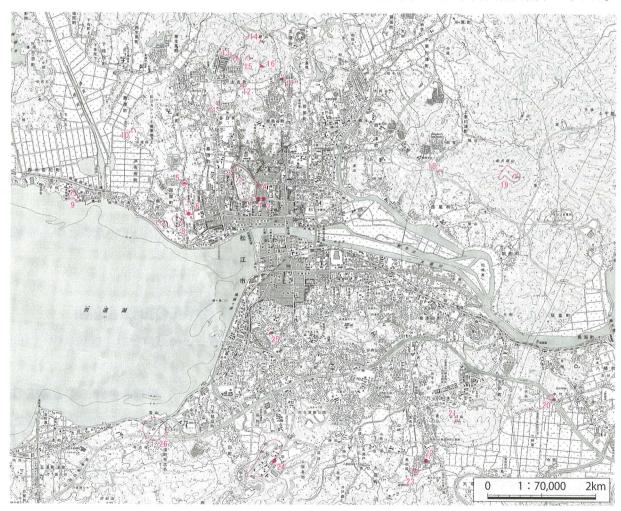
松江城周辺の航空写真(1947年11月3日撮影:国土地理院)

#### 第2節 周辺の歴史的環境

#### 1. 城下町建設以前の松江

松江城下町遺跡が位置する平野中央部には周知されている原始・古代の遺跡は少なく、沼や浅い湖が残 る湿地帯が広がっていたものと思われる。中世の遺跡は少ないが、宋銭や明銭などの渡来銭のほか、長さ 44cmの脇差が一振り出土したコゴメダカ山遺跡(16)、15~16世紀代の石敷基壇や宝篋印塔が出土したニ 反田古墓(17)、多くの柱穴が検出され、掘立柱建物跡の覆土から12世紀頃の白磁碗や褐釉四耳壺とともに 土師器の坏や皿などが出土した中竹矢遺跡(20)、また、丘陵頂部につくられた古墓や五輪塔とともに備前 系焼締陶器の壺が出土した**袋尻遺跡群(24)**などが散見される。

戦国時代になると月山富田城(安来市広瀬町)を拠点とする『尼子氏の出雲支配によって、軍事的観点か ら丘陵上に城が築かれる。雲芸攻防戦の舞台となる、荒隈城(8)・満願寺城(9)・白鹿城(14)・和久羅山城 (19)・茶臼山城(21)などが点在する。この頃の出雲国の政治・経済的中心地は、月山富田城下にあった。



- 松江城下町遺跡(第1ブロック) 松江城下町遺跡(第3・第4ブロック)
- 松江城
- 4. 松江城下町遺跡 (殿町287番地・279番地外)
- 5. 舎人遺跡 6. 松江藩主松平家墓所
- 8. 荒隈城跡 (小十太郎地区)

- 9. 満願寺城跡 10. 薦津殿山城跡
- 11. 石在経塚 12. 山槙経塚軍
- 13. 高つぼ山城跡 14. 白鹿城跡
- 15. 子白鹿城石 16. コゴメダカ山遺跡 17. 二反田古墓

- 18. 稲葉城跡 19. 和久羅山城跡 20. 中竹矢遺跡
- 21. 茶臼山城跡
- 22. 黒田畦遺跡
- 23. 出雲国造館跡 24. 袋尻遺跡群 25. 床几山 26. 布志名焼窯跡群

第5図 周辺の主な遺跡位置図

関ヶ原の戦い後、慶長5年(1600年)、出雲・隠岐両国を拝領した堀尾忠氏が遠江国浜松(現:静岡県浜松)から月山富田城に入城する。しかし、堀尾氏はわずか3年後の慶長8年(1603年)、幕府から城地移転の許可を得る。この城地移転については様々な理由が考えられるが、月山富田城が典型的な中世の山城であり、鉄砲攻撃などに対応できない軍備上の問題を抱えることや、兵農分離後の近世城下町にそぐわない狭小な城下、物資輸送機能の脆弱さや、領地の東端に位置するという統治上の問題があったことなどが挙げられる」。そして、新たな城地の候補地として、直線距離にして約17㎞北西に位置する末次・白潟を含めた松江周辺を選定し、城下建設移転が行われる。

古代から中世にかけては大橋川を挟んで北の末次地域には東西方向の砂州が、南の白潟地区には南北方向の砂州が、宍道湖の沿岸流によって形成されていた。「末次」の名は『出雲国風土記』に記載されているう衛都久社に由来する。戦国時代には末次氏が治めており、末次荘内には末次城(位置は松江城のある亀田山と推定されている)が築かれていた。また、永禄6年(1563年)に末次氏が毛利氏から末次森分や市屋敷をあてがわれていることから、末次荘内に定期市が立つ市場集落が形成されていたと思われる。「白潟」は『雲陽大数録』によると、周辺に家もなく白砂であったことから"白潟"と言うようになったとされ、中世の大橋川沿岸には港湾を示す「津」「潟」の地名が見られる。中国明代の著書『籌海図編』(明の嘉靖41年:1562年)には出雲地方の港湾の一つとして「失喇哈前(白潟)」の名があり、日本海から宍道湖内奥部に至る水運ルートの重要な港湾であったと思われる。また、毛利氏が河村又三郎なる人物を白潟・末次の磨飾・塗飾・鞘師などの司に任じていることから、末次・白潟に商人や職人の集団が存在していたものと思われる。「末次」「白潟」の周辺にも5名。(村)「奥谷・菅田・中原・末次・黒田」があったとされ、この5名は家屋が点在する村落であったと思われる。

このように開府以前に市場機能・流通機能・生産機能を兼ね備えた集落が存在していたことが、堀尾氏がこの一帯に城下町を建設することを決めた理由の一つと考えられる。

### 2. 城下町の形成と松江藩主の移り変わり(堀尾氏・京極氏・松平氏の出雲国統治)

城下町の建設は、早世した忠氏の遺志を受け継いだ父吉晴の主導のもとに進められ、慶長13年(1608年)に富田から松江への移城が行われている<sup>4</sup>。

城下町の形成にあたり、まず、城下の東側・南側に広がる湿地を埋め立て、地盤を強固にする造成の必要があった。造成土には、築城や堀を掘った際に排出した土を使い、地盤を固めて家臣の屋敷地とした。町の構造は、城郭の周囲に上級・中級の家臣団の屋敷地を配している。その外側に町人地を配置し、さらにそれらを取り囲むように寺社や下級の家臣団の屋敷地を配置している。また、城下の要所には鍵型路、袋小路、勢溜等の防御施設を配置して城の守りを固めている。

堀尾氏は33年間出雲・隠岐国を統治し、松江城下町建設の基礎を築いたが、忠晴に嗣子無く二代で断絶となった。

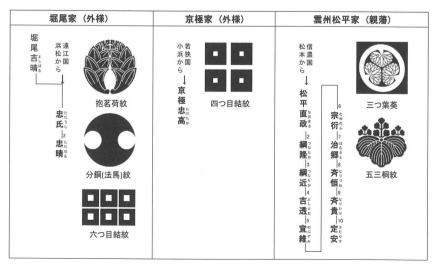
寛永11年(1634年)、若狭国小浜(現:福井県小浜)から出雲へ入国した京極忠高が松江藩主となるが、 寛永14年(1637年)に逝去、一代で断絶となる(半年後に播磨国龍野6万石で再興)。忠高は、わずか3年余 りの統治であったが、その間に治水工事や殖産興業を行うなど、その治績は大きかった。 寛永15年(1638年)、信濃国松本(現:長野県松本)から入国した松平直政が松江藩主となり、明治維新を迎えるまでの233年間、松平氏十代にわたり藩政は続いた。

本報告書で記載する時期区分については、下記の表1に示すよう設定した。ただし、堀尾期についての時期区分は、下記の表では堀尾氏が出雲・隠岐両国を拝領した1600年を統治の開始時期としたが、松江城下町遺跡発掘調査においては、堀尾氏が松江城築城・城下町建設を開始したとされる1607年から断絶する1633年までの期間を便宜的に堀尾期とした。

#### 江戸時代 時代 安土桃山時代 明治時代 初期 前期 中期 後期 幕末 世紀 16世紀 17世紀 18世紀 19世紀 20世紀 西暦 1600年 1700年 1800年 1900年 堀尾期(1600~1633年) 忠氏 忠晴 京極期(1634~1637年) 松江藩主の変遷 松平期(1638~1871年) 遺跡周辺の状況 低湿地 城下町 城下町の解体

表1 時期設定と松江藩主の変遷

※堀尾氏が広瀬から松江へ移ったのは1608年である<sup>5</sup>



第6図 松江藩主の系図と家紋(藩史大辞典をもとに一部改変し作成)

#### 3. 明治以降の城下町

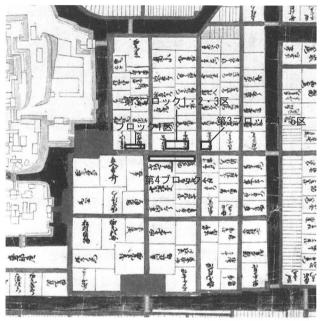
松江藩は、明治4年(1871)の廃藩置県で松江県を経て島根県となる。明治22年(1889)に松江市政が始まり、県庁所在地として発展し現在に至る。明治時代に入り、それまでの武家地は、そのまま公共施設に利用されたり、細かく短冊状に分筆されたりして屋敷地は改変していく。しかし、現在でも通りや路地、外堀、内堀、鉤型路等が残っており、江戸時代の町割りの面影を見ることができる。

表2 松江とその周辺に関わる略年表

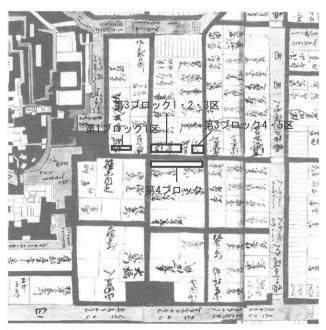
和曆	西暦	松江とその周辺に関わる出来事	主な出来事	
永禄3	1560	たまごはあいさ 尼子晴久逝去	桶狭間の戦	
永禄 9	1566	富田城開城 尼子義久・秀久・倫久らが毛利元就に降伏		
元亀2	1571	尼子氏 出雲より撤退		
慶長元	1596	宍道湖があふれ、末次は1村すべて亀田山に避難する		
慶長 5	明, 医乙类			
		堀尾忠氏、徳川家康から出雲・隠岐両国 24 万石を拝領し、 父吉晴と共に広瀬の富田城に入る	関ヶ原の戦	
慶長 9	1604	堀尾忠氏逝去、吉晴が孫忠晴を後見する		
慶長 12	1607	松江城の築城開始、城下町の造成が始まる		
慶長 13	1608	堀尾吉晴、広瀬から松江へ移る		
慶長 16		6月堀尾吉晴逝去、松江城完成、城下町が形成される		
	1611	この頃、末次・白潟の1郷をあわせて「松江」と称す		
寛永 10	1633	堀尾忠晴逝去、堀尾氏嗣子なく断絶する		
寛永 11	1634	京極忠高、徳川家光から出雲・隠岐両国 26 万 4 千 2 百石を		
		拝領し、若狭国小浜より出雲へ入国		
寛永 12	1005	斐伊川が氾濫し、宍道湖に流路を変える。この頃、斐伊川に		
	1635	「若狭土手」を築き、鉄流しを認める		
寛永 13	1636	忠高、石見銀山を幕府から預かる	天草・島原一揆	
寛永 14	1637	京極忠高逝去、京極氏嗣子なく断絶する		
寛永 15	1638	************************************		
		国は預り地)、信濃国松本より出雲へ入国		
寛文6	1666	広瀬藩 (3万石) と母里藩 (1万石) を分藩する		
延宝7	1679	倉崎権兵衛が楽山焼を始める		
正徳元	1711	石橋町より出火、石橋、奥谷、北田町延焼		
安永 9	1780	布志名焼、藩窯となる		
明治2	1869	松平定安、藩知事に任命される	版籍奉還	
明治 4	1871	松江・広瀬・母里の3県を合併し、島根県となる	廃藩置県	
明治 22	1889	松江市誕生		

#### 4. 絵図等に見る調査地点の変遷

城下町の建設は城の築城と並行して行われた。堀尾期(1607~1633年)の町割りは城の周囲に内堀を廻らせ、外堀に囲まれた地区を「内山下」(現在の殿町・母衣町にあたる)と呼び、武家地の中心地とした。東側内堀沿いと内山下の入り口となる京橋北詰には防衛のための勢溜が作られ、そこから大手前へ抜ける道筋に鉄砲衆をもつ重臣が配置されていることから、重要な道であったことが考えられる。また、松江城大手前から東西に延びる城山北公園線(通称:大手前通)は、当時も今も重要な幹線道路であったと考えられる。



第7図 堀尾期松江城下町絵図 (江戸初期) 島根大学付属図書館蔵



第8回 京極期松江城下町絵図(寛永年間)丸亀市立資料館蔵

内堀を挟んで、城の東側には家老屋敷が置かれ、殿町は1000石以上の重臣が多く居住する区域である。特に松江城下町遺跡(殿町191-13外)が位置する第1ブロックは重臣の屋敷が並んでいた。また、母衣町は殿町の東に位置し、500~1000石の比較的上級の武士が居住する区域である。外堀沿いに重臣の邸宅が数件配置されている。松江城下町遺跡(殿町344外)、(殿町343-2)、(殿町345-1)、(母衣町40外)、(母衣町44外)、(母衣町45 - 3)、(母衣町45外)が位置する第3ブロックと大手前通南沿いの第4ブロックは500~1000石級の中級家臣の屋敷が大手前通に面したところに配置され、100~500石級の家臣がその周辺に多く居住する(第7図)。

京極期(1634~1638年)の町割は、基本的に堀 尾期の町割を踏襲するが、三之丸の補修など若干 の手が加わっている(第8図)。 松平期(1638~1871年)になると町割に大きな変化はないが、堀の改修などとともに屋敷地の改変が行われるようである。特に堀は、京極期まで四十間(約72m)あったとされる四十間堀も一部を除いて狭くなり、深さを深くしている。同様に塩見縄手の堀や三之丸南側の堀、京橋川も底を浚えて深くしている(第9図)。

絵図からみる道路幅員は、第1ブロックの南側の東西道路(大手前通)が5間2尺5寸(10.5m)、西側の南北道路が4間4尺(9m)の規模となっており、第3ブロックでは南側の大手前通・西側の南北道路ともに5間半(10.7m)の規模で、側溝幅は南側・西側共に2尺(0.6m)となっている。

明治維新後、城下町の解体が進む。明治6年

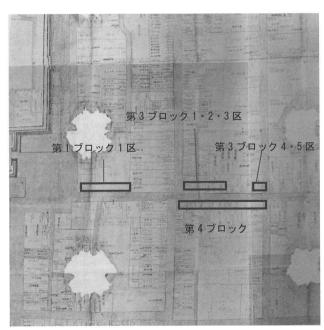


第9図 松平期松江城下町絵図(江戸後期) 島根大学付属図書館蔵

(1873年)の松江市二分間図では、屋敷地が分筆されたり、官公庁用地や町屋へと変貌していく様が窺える(第10図)。

重臣の屋敷地が並んでいた第1ブロックも分筆されていくが、松江城下町遺跡(殿町191-13外)の位置する屋敷地付近は細分されず、官公庁用地となる。昭和37年(1962)に松江市消防署が開所し、現在は「島根ふるさと館」の駐車場部分にあたる。第3ブロックのうち、松江城下町遺跡(殿町343-2)、(殿町344外)、(殿町345-1)の位置する屋敷地は、西側の道路側を間口として東西に長い、いわゆる「うなぎの寝床」状の地割となっている。また、松江城下町遺跡(母衣町40外)、(母衣町44外)、(母衣町45-

3)、(母衣町45外)の位置する屋敷地と大手前通 南沿いの第4ブロックの調査地付近は、大手前線 側を間口として南北に長い地割となっている。こ の敷地割は、城山北公園線工事着工前の現代宅地 割ともほぼ一致するものである。



第10図 松江市街二分間図(明治6年) 広島大学付属図書館蔵

<sup>&</sup>lt;sup>1</sup> 松尾寿『松江ふるさと文庫5 城下町松江の誕生と町 のしくみー近世大名堀尾氏の描いた都市デザインー』 松江市教育委員会 2008年

<sup>&</sup>lt;sup>2</sup> 山根正明『松江ふるさと文庫6 堀尾吉晴-松江城へ の道-浜松、冨田、松江、城普請の軌跡-』松江市教 育委員会 2009年

<sup>3</sup> 岡宏三「中世のプレ松江」『松江藩の時代』山陰中央 新報 2008年

<sup>4「</sup>堀尾古記」『新修島根県史』島根県1968年

<sup>5 4</sup>と同じ

#### 第3章 調査の概要と基本層序

#### 第1節 調査の概要

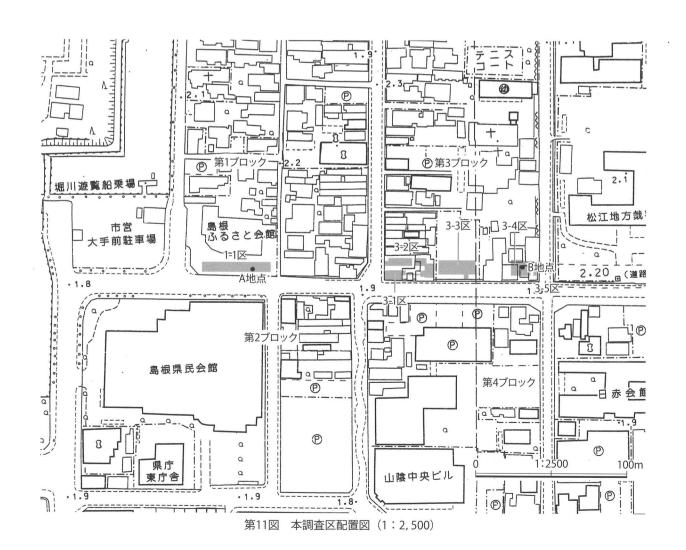
本調査の概要 (第11・12・13図)

本調査としては、第1ブロックと第3ブロックにおいて調査を行った。第4ブロックにおいては、立会調査のみ実施している。

第1ブロックは、市道北田大手前線と主要地方道松江・鹿島・美保関線にはさまれた城山北公園線沿いの北側部にあたる。東西長約120mの区画である。松江城の東に隣接し、道路を挟んで西側には松江城大手前駐車場があり、南側には島根県民会館が建っている。この区画のほぼ中央に南北に小路が走る。1-1区はこの小路の西側で、現在の島根ふるさと館前に位置する。調査にあたり、進入路の確保および上下水道管・ガス管等の保全の必要から調査区を3区画に分け、平成21年度に調査した(1-1a・1-1b・1-1c区)。

第3ブロックは、主要地方道松江・鹿島・美保関線と市道母衣南北線にはさまれた城山北公園線沿いの 北側部にあたる。東西長約100mの区画であるが、西半分は殿町、東半分は母衣町にあたる。

西側交差点の角地にあたる3-1区は、城下町遺跡の調査としては最初の調査地であり、平成18年度に調査した。その北側に位置する3-2区は、平成21~22年度に調査区を2分割して調査した(3-2a・3-2b区)。



-11-

ブロックの中央部に位置する3-3区は、平成20~21年度に調査区を4分割して調査した。また、平成23年度に東側交差点の角地にあたる3-5区とその西に隣接する3-4区を調査した(各調査区の調査面積・調査期間の詳細は例言を参照)。

本調査での遺構面数は、それぞれの調査区の試掘調査の成果に基づき、人為的な整地層や遺構の掘り込まれた層位をもとに認定した。また、本調査中の壁面やトレンチでの土層堆積状況を観察しながら遺構面の検出に努め、必要に応じて面数を追加している。この遺構面をそれぞれ上から順に「第1面」、「第2面」と呼称したが、調査区間で同一呼称面の時期が一致するものではない。なお、本遺跡では度重なる造成や掘削、遺構の重複などにより、掘り込み面が確認できない遺構が多いことから、遺構検出面として表し、時期は個別遺構の文中で示した。

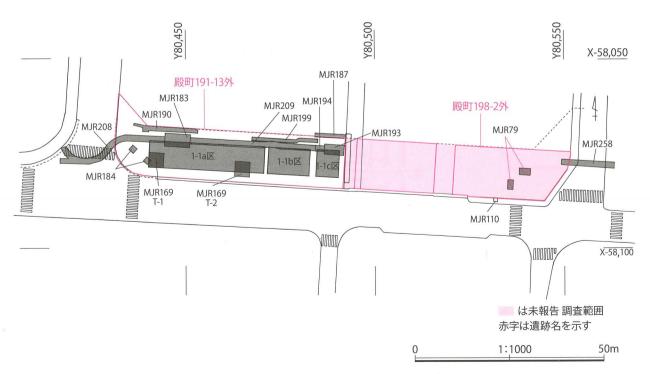
出土遺物量は、第1ブロックの1-1区がコンテナ(34×54×15cm以下同)47箱、第3ブロックの3-1区が11箱、3-2区が67箱、3-3区が102箱、3-4区が22箱、3-5区が12箱の合計261箱である。

現在の地表面直下は、一様に撹乱を受けている。これは、武家屋敷が解体されて以降、現代に至るまでの造成や掘削によるものである。撹乱および近現代層出土遺物は、表91~112に集計し、必要な遺物については個別に図示した。

なお、本文中に図示した遺物のうち、遺構面出土遺物は、その面で検出した遺物であり、混入も含まれる。

#### 立会調査の概要(第12・13図)

立会調査は、上下水道や電線共同溝工事などが対象となっている。工事の進捗状況位により重複する箇所があるが、遺跡確認の試掘調査を含め、第1ブロックで14カ所、第3ブロックで19カ所、第4ブロック



第12図 第1ブロック調査区配置図 (1:1,000)

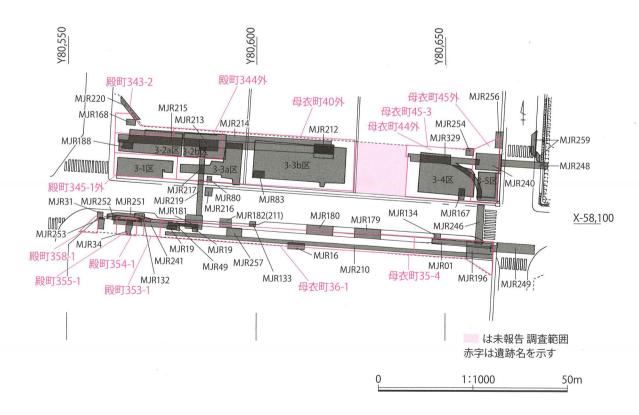
で22カ所の合計55ヶ所を平成18年度~23年度に調査した。また、平成24年度分としてはMJR329のみ掲載した(詳細は表113~115を参照)。

遺物に関しては、工事中の掘削排土中からの出土で出土位置・標高が不確定であり、遺構内および包含層遺物として扱うことができないため、重要遺物のみ掲載した。ただし、近世・近現代遺物が多数出土している(コンテナ23箱)ことから、数量は集計した(表116~118)。

#### 第2節 基本層序

松江城下町は、嵩上げ造成によって現在の生活面の高さとなっており、殿町・母衣町の県道城山北公園線沿いで標高約1.9~2.0mを測る。造成土の厚さは第1ブロックで1.2m前後、第3ブロックで1.6m前後を測る。以下、これまでの城山北公園線沿線の発掘調査で認識されている基本的な層序の概観を説明する(第11・14図)。

城下町造成以前の旧地表面には、黒褐色〜暗褐色系の粘質土が広範囲に堆積しており、検出される標高は松江城に近い殿町側(A地点)で高く(標高約0.8m)、東の母衣町側(B地点)で低い(標高約0.4m)。基本的には自然堆積の腐食土層であり、0.2~0.3mの厚さで堆積している。形成された年代は分かっていないが、低湿地の環境下で形成されたものと考えられている。城下町を調査する上での鍵層であり、以下、黒褐色〜暗褐色系の粘質土を I 層として表記するが、松江城に近い微高地では I 層の下に砂礫層が堆積することから砂質度が高く、母衣町では砂礫を含まず粘性の強い状態の場所もある。この下には自然堆積層の灰色細砂層(以下Ⅱ層)があり、さらに下の青灰色粘質土層(以下Ⅲ層)へ続く。Ⅱ層とⅢ層の間では、水生生物の生痕が観察できる場所もある。



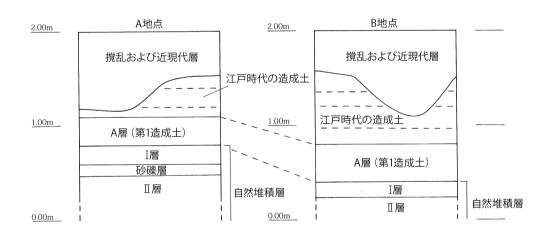
第13図 第3・4ブロック調査区配置図 (1:1,000)

#### 第3章 調査の概要と基本層序

I層上には城下町造成の初期段階の造成土が乗る。この造成土は場所によって多少の相違があるものの、先に示した I~Ⅲ層の混合土であり、殿町・母衣町の遺跡内で広く確認される土層である。その供給元としては堀や屋敷を区画する大溝の掘削土が考えられる。以下ではこの造成土をA層(第1造成土)として表記し、各調査区の土層において、これに比定される層をこの記号で示すものとする。

A層の上にも江戸時代の造成土が厚く堆積している。これらは細かく分層ができるものの、場所により厚さや土質が様々であり、大火による焼土層もないことから、共通して認識できる鍵層として示すことができない。細かい掘り直しや造成が繰り返されており、隣接する調査区であってもそのすり合わせが困難なほどである。A層から上についての土層と遺構面の関係については、それぞれの調査区で詳述することとしたい。

以上の状況は、これまで調査を行った城山北公園線沿線における現段階での基本層序であり、広い松江城下町全体について共通する層序とするには結論が出ておらず、今後の課題である。



第14図 基本層序模式図

#### 第4章 本調査の結果

#### 第1節 第1ブロックの調査

第1ブロックは、市道北田大手前線と主要地方道松江・鹿島・美保関線にはさまれた城山北公園線沿いの北側部である。東西約120mの区画にあたるが、東半分は未調査地が残るため、本報告書では平成21年度に調査した西半分(1-1区)の報告となる(第15図)。

#### 1.1-1区

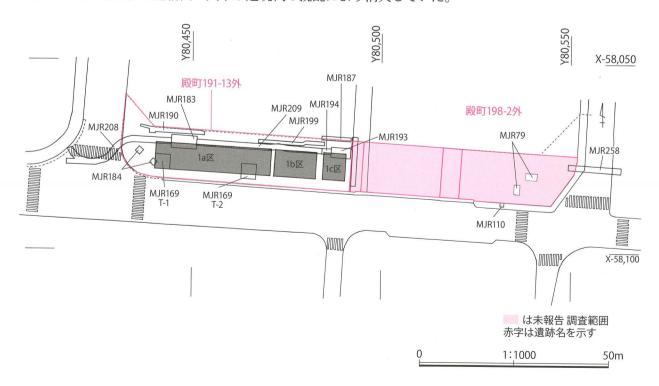
#### 1)調査の概要と土層堆積状況(第15・16図)

調査地は松江城の東側に隣接しており、現在、島根ふるさと館がある駐車場部分にあたる。江戸時代には禄高1000石以上の上級武家屋敷地であった。

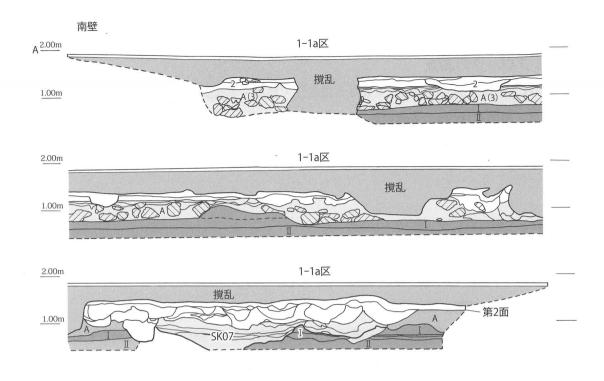
調査区はこの屋敷地の南側、城山北公園線の北側を調査する形になる。

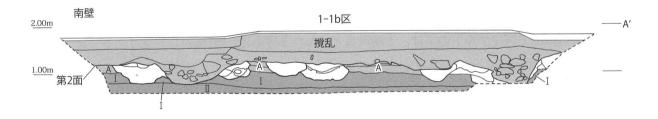
今回の調査では、既設の水道埋設管等を避けるため、調査区を3区画に分割して調査する必要が生じた。遺跡の西端に設定した東西30.5m×南北7.0mの範囲を1-1a区、中央部に設定した東西11.0m×南北7.0mの範囲を1-1b区、東端に設定した東西6.0m×南北7.0mの範囲を1-1c区とし、1-1a区から調査を進め、続いて1-1c区、1-1b区と実施した。

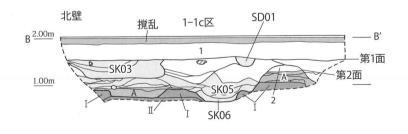
標高1.9mの路面アスファルトの下は、土壌改良と思われる厚み20cm前後のコンクリートで部分的に覆われていた。1-1c区においては調査区南端にガス管等が埋設されており、破損を防ぐためこれを避けながら掘り進めた。1-1a区・1-1b区においてはコンクリート塊を含む撹乱のため精査が困難な部分もあった。いずれの調査区も遺構面の大半が近現代の撹乱により消失していた。



第 15 図 第 1 ブロック本調査区配置図 (1:1,000)

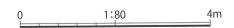






は遺構埋土

- 1 黄褐色砂質土(砂礫多く含む)2 浅黄色〜黒褐色砂質土(砂礫多く含む)3 黒褐色土(軟質砂岩を含む)



第 16 図 1-1 区 土層断面図 (1:80)

松江城下町の基本層序は、自然堆積層である I 層・II 層を基盤としている。本調査区では、II 層上に自然堆積と考えられる砂礫層が薄く堆積し、次に黒褐色砂質土が乗っており、この上に盛土(城下町造成土)を施している。この黒褐色砂質土は微細な腐食植物やII 層ブロックを混合し、撹拌された様相を示すことから、何らかの人為的な影響を受けたことが窺え、純粋に自然堆積層と定義することができない土層であった。しかし、この黒褐色砂質土は、母衣町68番地外(松江地方



松江城内堀に露頭している「松江層」

裁判所前)や殿町287番地・279番地(松江歴史館)などの発掘調査で確認された I 層(黒褐色粘質土)に砂礫を多く含んだ土質であり、標高0.8m前後でほぼ水平に堆積していることから、城下町遺跡の基盤層として認識されている I 層の範疇に入るものとして捉えた。

I層上には、城下町の初期造成土であるA層が0.2~0.4m堆積する。1-1a区において、A層の盛土内で軟質砂岩を検出した(第16図斜線部)。この軟質砂岩は、松江城下町の基盤層をなす、いわゆる「松江層」と呼ばれる地層を構成するもので、城下町を造成する際の盛土として検出されている。松江城の堀端には「松江層」が露頭している(上写真)。本調査区と位置的に近いことからも、堀の掘削土を造成時の盛土として利用した可能性が考えられる(図版3-3)。

さらに、A層の上に造成土が積み重ねられていく様相が見られ、1~2層に大別できた。

1層は砂礫を多く含む黄褐色砂質土を主体とする。層厚0.3~0.5mで、近現代の盛土層である。

2層は浅黄色〜黒褐色砂質土を主体とし、層厚0.1〜0.3mである。この上面を第1面としたが、1-1a区・1-1b区では、撹乱により遺構面が広い範囲で破壊されていた。検出標高は1.5m前後である。形成年代は、出土遺物から17世紀後半〜19世紀代と推定される。

A層上面を第2面とし、検出標高は1.0~1.2mである。形成年代は、17世紀前葉~前半代と推定される。なお、調査を実施した平成21年当時は城下町遺跡の調査数が少なく、I層は自然堆積の旧表土層と考えられていたため、I層上面まで全面掘り下げていない。1c区において、一部をトレンチ状にI層上面まで掘り下げたが、遺構・遺物とも検出されなかったため調査を終了した。

#### 2) 第1面(第17·18図)

標高1.5m前後で検出した遺構面で、2層を基盤とする。1-1a区と1-1b区では撹乱の範囲が広いため遺構は確認されず、1-1c区において土坑3基を検出した。

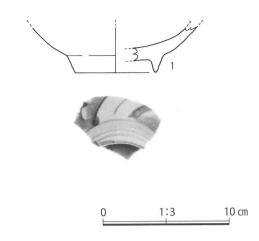
#### SK01 (第18図)、 遺物 (第19図、図版47)

1-1c区東端部に位置する土坑である。東の調査区外へ広がる。平面形は楕円形をなす。規模は、長軸1.4m以上、短軸1.3m、深さ0.3mを測る。埋土から多量の瓦破片が出土した。

#### 第4章 本調査の結果

出土遺物は、総数150点、総重量11,310gである。材質別では、陶磁器類28点(陶器9、磁器12、土師器7)、瓦84点(平80、丸4)、木質遺物10点、金属製品1点、石製品2点、動物遺存体4点、自然遺物1点、その他20点(ガラス:近現代の混入品)などである。

第19図1は肥前系磁器の碗である。九陶V-1期。 図化した遺物の年代は18世紀代を示しているが、 図化し得なかった幕末期の遺物を含むことから、幕末 期の遺構とした。多量の瓦破片が出土したことから、 廃棄土坑と考えられる。



第 19 図 1-1c 区 SK01 出土遺物(1:3)

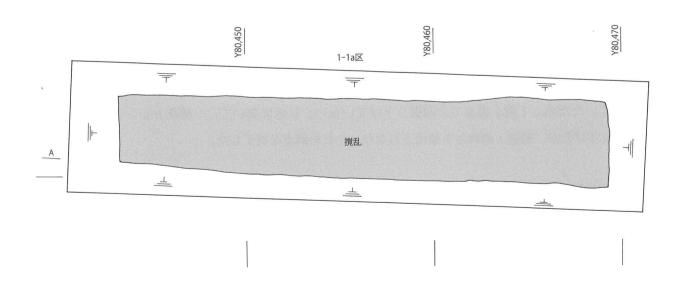
表 3 SK01 出土土器観察表

挿図	出土	材質	器種	器形		法 量	(cm)		重量	生産地		備考
番号	位置	3.5.5.5			口径	底径	器高	その他	残存率			
19-1	SK01	磁器	碗		-	6.4	>3.6		59g 20%	肥前系	V-1	内外面:染付 畳付:無釉 波佐見焼 「くらわんか手」 18世紀代

#### SK02 (第18図)、 遺物 (第20図、図版47)

1-1c区中央に位置する土坑である。平面形は不整長円形をなす。規模は、長軸2.5m、短軸1.2m、深さ0.2 m弱を測る。主軸は東西方向である。埋土は黒褐色土で、多量の瓦破片が出土した。

出土遺物は、総数315点、総重量25,648gである。材質別では、陶磁器類14点(陶器6、磁器4、土師

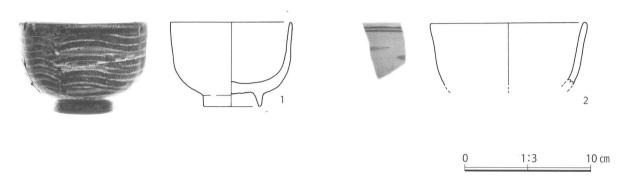


第 17 図 1-1 区 第 1 面全体図 1 (1:200)

器4)、瓦294点(平293、丸1)、木質遺物7点などである。

第20図1は刷毛目塗りの肥前系陶器の碗である。2は肥前系磁器の碗である。

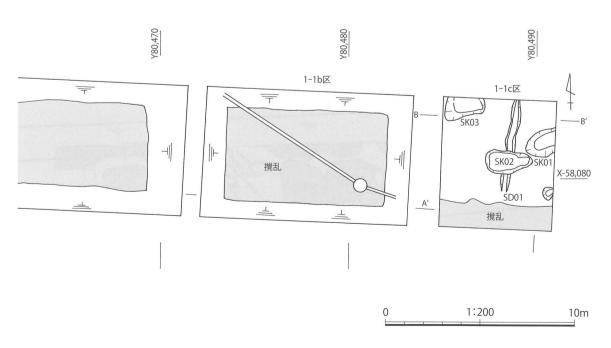
図化した遺物の年代は17世紀後半から18世紀前半を示しているが、図化し得なかった幕末期の遺物を含むことから、幕末期の遺構とした。多量の瓦破片が出土したことから、廃棄土坑と考えられる。



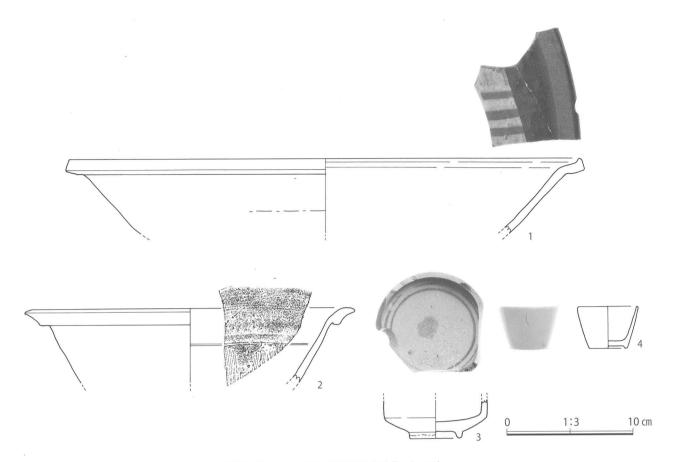
第20図 1-1c区 SK02出土遺物 (1:3)

表 4 SK02 出土土器観察表

挿図	出土	材質	器種	器形		法量	(cm)		重量	生産地	九陶	/## =#4
番号	位置	171 員	有許有主	有許リン	口径	底径	器高	その他	残存率	土産地	編年	備考
20 -1	SK02	陶器	碗		9.6	4.6	6.7		224g 95%	肥前系	Ш	畳付:無釉 ハケ目塗り 17世紀後半
20 -2	SK02	磁器	碗		12.4	-	>4.9		15g 10%	肥前系	Ш	陶胎染付 外面:染付 18世紀前半



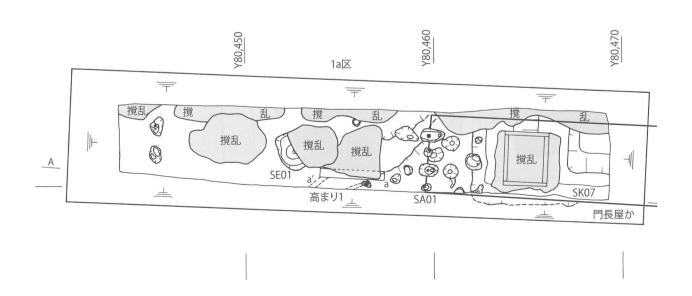
第 18 図 1-1 区 第 1 面全体図 2 (1:200)



第 21 図 1-1c 区 SK03 出土遺物(1:3)

# SK03 (第18図)、遺物 (第21図、図版47)

1-1c区北西隅に位置する土坑である。平面形は不整円形をなす。調査区の北側へ広がる。規模は、長軸2.2m以上、短軸0.9m以上、深さ0.3mを測る。埋土は黒褐色土で、多量の瓦破片が出土した。



第 22 図 1-1 区 第 2 面全体図 1 (1:200)

出土遺物は、総数283点、総重量26,070gである。材質別では、陶磁器類13点(陶器11、磁器2)、瓦264点(平262、軒丸1、不明1)、木質遺物2点(板材2)、金属製品2点、その他2点(ガラス2)などである。第21図1は肥前系陶器の大型の鉢で、二彩手である。2は須佐焼陶器の擂鉢である。3は肥前系磁器の碗で、見込みにコンニャク印判による五弁花文が押される。4は肥前系磁器の小坏である。

図化した遺物の年代は17世紀半ばから19世紀前半を示しているが、図化し得なかった幕末期の遺物を含むことから、幕末期の遺構とした。多量の瓦が出土したことから、廃棄土坑と考えられる。

挿図	出土	材質	器種	器形		法 量	(cm)		重量	生産地	九陶編年	備考
番号	位置	17.員	有許行里	有許ガン	口径	底径	器高	その他	残存率	土座地	プレP両 部冊 平	備考
21 -1	SK03	陶器	鉢	,	40.2	1	=		82g 10%	肥前系		二彩手 外面上部:鉄釉 下部:無釉 内面上部:鉄釉 17世紀中
21 -2	SK03	陶器	擂鉢		26.0		-		45g 10%	須佐		全体:無釉 擂目単位9本以上
21 -3	SK03	磁器	碗			2.1	-		72g 35%	肥前系	IV	内面:染付 高台:無釉 コンニャク印版
21 -4	SK03	磁器	小坏		4.8	3.0	3.3		19g 60%	肥前系	V	畳付:無釉 1780年~1820年代

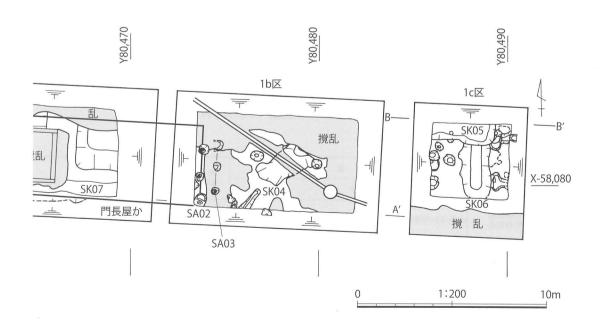
表 5 SK03 出土土器観察表

## 3) 第2面 (第22·23図)

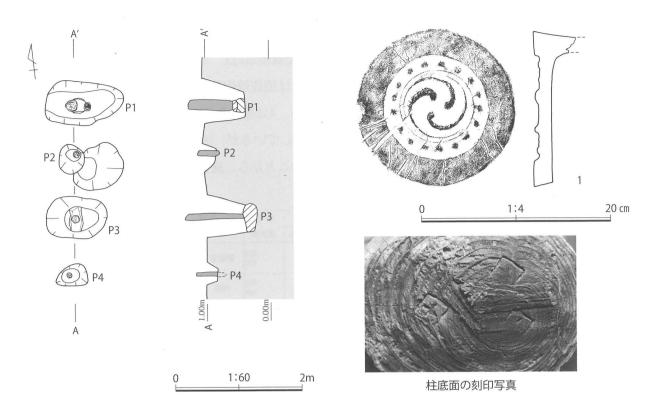
標高1.0~1.2mで検出した遺構面で、A層を基盤とする。近現代の撹乱によって破壊された部分が多いが、調査区全体で確認できた。柱穴列3基、井戸1基、土坑4基、高まり1ヶ所を検出した。

## SA01 (第22·24図、図版2-2·3)、遺物(第24図、図版47)

1-1a区に位置する柱穴列である。4穴を検出した。柱間0.8~1.0mで、3間(2.7m)の規模である。主軸方位はN-4°-Eである。P1とP3は長軸1.0~1.2m、短軸0.7m、深さ0.6~0.7mを測る掘方で、礎盤石



第23図 1-1区 第2面全体図2(1:200)



第 24 図 1-1a 区 SA01・出土遺物実測図 (1:60、遺物は1:4)

の上に直径15cmの柱が立つ。P1の柱の底面には田の刻印が3か所見られる。P3の柱は六角に加工されている。P2とP4は直径0.4m、深さ0.2m弱の掘方で、直径8~10cmの丸太材を使用している。P1の底から軒丸瓦の瓦頭部分が出土した。柱建立時の祭祀に伴って埋められたものと推察される。柱間1.8mを測るP1とP3が主柱穴をなし、P2とP4が支柱穴となる建物を想定した場合、約14.0m東で平行する、後述の1-1b区SAO2とともに、南北4.5×東西14.0mの建物となる可能性も考えられる。ただし、調査範囲の狭さと撹乱により確認できない柱穴があるため、想定の1つとして示しておく。

出土遺物は、総数1点、総重量700gである。瓦1点(軒丸1)である。

第24図-1はP1出土の軒丸瓦である。瓦頭文は連珠三巴文左巻で、珠文17個が確認できる。

時期を判定する遺物は出土していないが、検出面から17世紀前半代の遺構と考えられる。

### 表 6 SA01 出土瓦観察表

挿図 番号	出土 位置	種類	色調	法 大きさ (cm)	重 量 残存率	備考
24 -1	SA01		外)暗灰色 内)白灰色	外径16.5/内径11.0/丸瓦厚2.0/巴径6.3/弧深2.0	0.7kg 30%	連珠三巴文 左巻 残存珠文17

### SA02 (第23·25図、図版6)

1-1b区に位置する柱穴列である。3穴を検出した。柱間1.4mで、2間(2.8m)の規模である。主軸方位はN-4°-Eである。柱穴は直径0.5m、深さ0.3~0.5mの掘方で、P1とP3で大海崎石の根石を、P2で直径10cmの丸太材を検出した。南北方向の柵あるいは塀のような施設が考えられる。また、前述の1-1a区

SA01とともに南北4.5×東西14.0mの建物が想定される。

出土遺物は、総数2点、総重量3,000gである。木質遺物2点(P2出土丸太材他1)である。 時期を判定する遺物は出土していないが、検出面から17世紀前半代の遺構と考えられる。

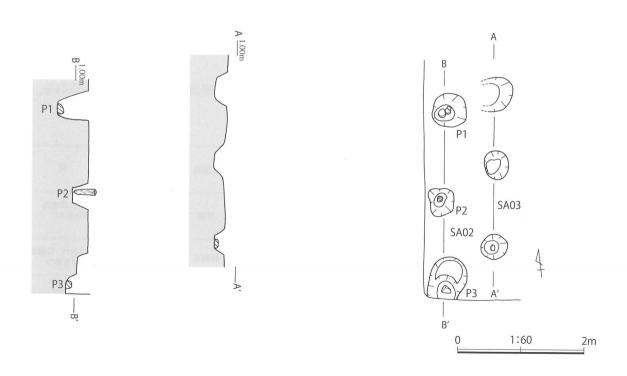
## SA03 (第23·25図、図版6)

1-1b区に位置する柱穴列である。3穴を検出した。柱間1.2mで、2間(2.4m)の規模である。主軸方位はN-4°-Eで、SA02の東0.8mに平行する配置をなす。柱穴は径 $0.4\sim0.5$ m、深さ0.2mの掘方で、P6で大海崎石の根石を検出した。対応する柱穴は撹乱のため確認できなかった。

時期を判定する遺物は出土していないが、検出面から17世紀前半代の遺構と考えられる。

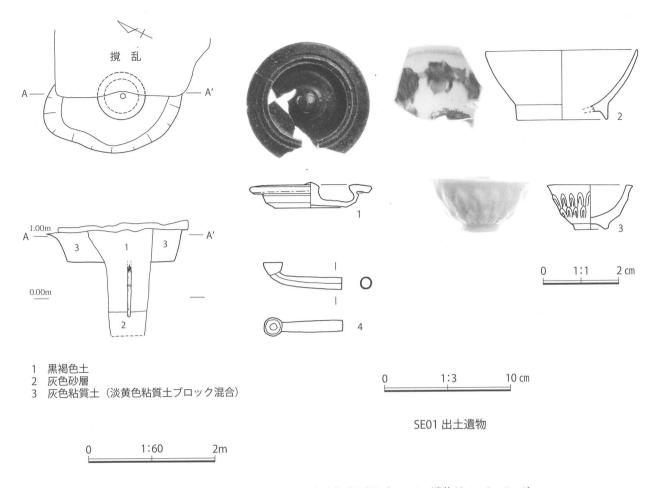
## SE01 (第22·26図、図版3)、遺物 (第26図、図版47)

1-1a区に位置する井戸である。撹乱により上部が破壊されており、明確な掘込み面が確認できなかった。出土遺物の様相から、本来は第1面に相当する遺構と考えられる。上端直径2.0mを測り、二段掘りである。上段部は下端直径1.8mで、標高0.6mの I 層面まで掘られ、下段部はそこから直径約0.8mの円筒状に掘り込まれる。標高-0.6mまで確認したが、湧水のため掘り下げを停止した。下段部の掘方形状から井筒が設置されていた可能性がある。下段部の下層には砂(2層)が40cm堆積していた。中央に直径6cm、残存長90cmの節をくりぬいた竹が立ててあり、廃棄時に井戸祭祀が行われたものと思われる。1層上部は埋土と瓦破片が混在して堆積しており、瓦は廃棄時に投棄されたものと考えられる。



第 25 図 1-1a 区 SA02・03 実測図 (1:60)

### 第4章 本調査の結果



第 26 図 1-1a 区 SE01・出土遺物実測図(1:60、遺物は1:3、1:1)

出土遺物は、総数1,928点、総重量175,575gである。材質別では、陶磁器類30点(陶器13、磁器5、 土師器1、土製品11)、瓦1,896点(軒丸1、丸18、平1,877)、木質遺物1点、金属製品1点などである。 第26図1は陶器の土瓶の蓋である。18世紀~幕末に相当する。2は肥前の広東碗である。九陶V期。3 は磁器のミニチュア碗である。4は煙管の雁首である。

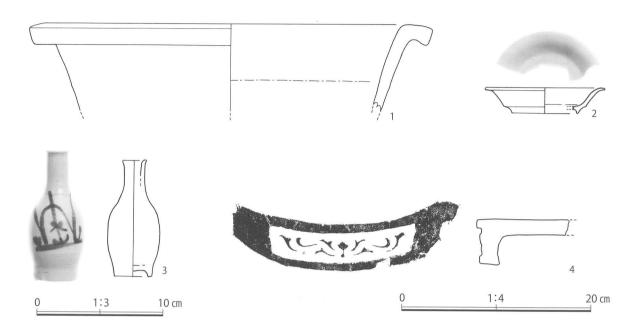
出土遺物の年代は18世紀~幕末期を示していることから、幕末期に廃棄されたものと考えられる。

表 7 SE01 出土土器観察表

挿図	出土	TT 1818	PP 1€	器形		法 量	(cm)		重量	生産地	九陶	備考
番号	位置	材質	器種	おかり	口径	底径	器高	その他	残存率	工庄地	編年	um .J
26-1	SE01	陶器	蓋		9.6	5.6	2.0		90g 90%	不明		土瓶の蓋か 上面のみ黒色釉 重ね部:S字状に落ち込む 18世紀~幕末
26-2	SE01	磁器	碗	広東形	12.0	7.2	5.5		37g 30%	肥前系	V	内外面:草花文様の染付 口縁端部内 及び高台内に2重圏線を持つ
26-3	SE01	磁器	ままごと道具	碗形	2.3	0.9	1.2		3g 100%	不明		型造り 畳付:無釉 18世紀~19世紀

表 8 SE01 出土金属製品観察表

挿図 番号	出土位置	種類	材質	法 量 大きさ (cm)	重量 残存率	備考
26 -4	SE01	煙管(雁首)	真鍮	長6.1/火皿系 φ 1.4/小口 φ 0.9	13g 100%	真鍮製煙管の雁首で側面に接合ラインがある



第 27 図 1-1b 区 SK04 出土遺物 (1:3、1:4)

# SK04 (第23図)、遺物 (第27図、図版47·48)

1-1b区に位置する土坑である。撹乱により上部が破壊されており、明確な掘り込み面が確認できなかった。出土遺物の様相から、本来は第1面に相当する遺構と考えられる。平面形は不整形である。規模は、長軸2.5m以上、短軸1.5m、深さ0.2m弱を測る。埋土から多量の瓦破片が出土した。

出土遺物は、総数719点、総重量74,336gである。材質別では、陶磁器類3点(陶器1、磁器2)、瓦713点(丸5、軒平4、平704)、木質遺物3点(板材3)である。

第27図1は瀬戸・美濃系陶器の植木鉢である。2は磁器の皿で、19世紀代に相当する。3は肥前系磁器の鶴首瓶である。4は軒平瓦である。

本遺構は第2面で検出したが、出土した遺物は図化し得なかったものも含め幕末期から明治初めにかけての様相を示している。多量の瓦破片が出土したことから、廃棄土坑と考えられる。

表 9 SK04 出土土器観察表

挿図	出土	材質	器種	器形		法 量	(cm)		重量	生産地	九陶	備考
番号	位置	17 (5)	加加工	有計リン	口径	底径	器高	その他	残存率	土厓地	編年	備考
27-1	SK04	陶器	植木鉢		31.7	-	>6.9		352g 10%	瀬戸・ 美濃		大型の植木鉢 内外面:施釉
27-2	SK04	磁器	ш		9.5	5.2	2.1		18g 40%	不明		畳付:無釉 19世紀
27-3	SK04	磁器	鶴首瓶		1.8	3.0	9.3		61g 100%	肥前系	V	外面:染付

表 10 SK04 出土瓦観察表

挿図 番号	出土位置	種類	色調	法 量 大きさ (cm)	重 量 残存率	備考
27-4	SK04	軒平瓦	外)暗灰色 内)明灰色	上弦幅23.6 /下弦幅21.5 /瓦当高4.7 /平瓦厚1.6/文様区高2.7/弧深2.8	0.7kg 30%	左桟瓦(b-3類) 唐草文 明治か

## SK05 (第23図、図版6)、遺物 (第28図、図版48)

1-1c区北端に位置する土坑である。第2面で検出したが、上面が撹乱を受けている可能性がある。北と 西の調査区外に続く。正確な形状や規模は不明であるが、規模は、東西3.5m以上×南北1.0m以上、最大 深さ0.5mを測る。平面形は隅丸方形状をなし、後述のSK06の北側を壊している。

出土遺物は、総数108点、総重量1,339gである。材質別では、陶磁器類22点(陶器5、磁器2、土師器13、土製品2)、瓦1点(平1)、木質遺物85点(板材73、その他12)などである。

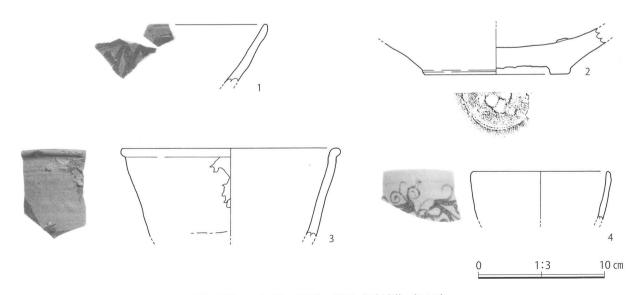
第28図1は肥前系陶器の碗で、絵唐津である。九陶 I-2期。

出土遺物は17世紀前葉を示しているが、後述のSKO6より新しいことから、17世紀半ば~後半代の遺構と考えられる。

## SK06 (第23図、図版6)、遺物 (第28図、図版48)

1-1c区の中央に位置する土坑である。北側を前述のSK05に壊され、新旧関係はSK06(古)-SK05(新)である。規模は、東西1.5m、南北3.7m以上、最大深さ0.6mを測る。南北方向に主軸をもつ。最下層付近で小さな板状木片等を多く含む有機物堆積層が確認された。廃棄土坑と考えられる。

出土遺物は、総数146点、総重量13,756gである。材質別では、陶磁器類28点(陶器3、磁器1、土師器20、土製品4)、瓦107点(軒丸2、丸3、平101、不明1)、木質遺物11点(板材9、その他2)などがある。



第 28 図 1-1c 区 SK05・SK06 出土遺物(1:3)

第28図2は肥前系陶器の大皿の底部である。二次焼成と考えられるが、焼成不良の可能性もある。3は肥前系陶器の片口である。九陶 I-2期。4は肥前系磁器の碗で、初期伊万里である。九陶 II-2期。

出土遺物の様相から、17世紀半ば~後半代の遺構と考えられる。

表 11 SK05 出十十器観察表

挿図	出土	材質	器種	器形		法 量	(cm)		重量	生産地	九陶	備考
番号	位置	171 其	有件生	有許リン	口径	底径	器高	その他	残存率	工座地	編年	備考
28-1	SK05	陶器	碗		-	-	>3.5		19g 10%	肥前系	I -2	絵唐津 内面:鉄絵 1594~1610年代

### 表 12 SK06 出土土器観察表

挿図	出土	材質	器種	器形		法 量	(cm)		重量	生産地	九陶	備考
番号	位置	初貝	有許有主	有許リン	口径	底径	器高	その他	残存率	土生地	編年	1佣 考
28-2	SK06	陶器	大皿		-	11.2	>3.6		223g 10%		I -2	外面:無釉 内面:施釉 見込部:胎土目積痕2ヶ所 高台内:中心部に指圧痕あり 二次焼成または焼成不良 1594~1610年代
28-3	SK06	陶器	片口		17.3	-	>7.0		46g 10%	肥前系		絵唐津 外面下部:無釉 口縁端部:無釉 口縁部:わずかに片口接合粘土が残る 17世紀初め
28-4	SK06	磁器	碗		10.8	-	>3.8		15g 10%	肥前系	<b>I</b> I −2	初期伊万里 外面:染付 1630~1650年代

### **SK07** (第22·29図、図版4·5)、遺物(第30·31図、図版48·49)

1-1a区の東端に位置する大形の土坑である。北側と中央部が撹乱に壊される。南壁で肩部が確認されたことから、方形の平面形をなすものと考えられる。調査区の北と東側に広がる。規模は東西7.5m以上、南北4.5m以上と推測される。床面に凹凸が見られることから、複数の落ち込みが掘られていたものと考えられる。しかし、平面上では落ち込みの切り合いや新旧関係等は確認されなかった。

埋土の上層部は、1~6層の粘質土が堆積する。下層部は、7・8層の有機物堆積層が東側及び北側に広がりを示している。最深部は検出面から約0.8mの深さを測り、暗黄色の有機物層が堆積する。その上部に木切れや大鋸屑、 20 屑等の混入層が見られる(図版4-2)。この層は、厚いところで20cm以上を測り、南西側に比較的多く堆積している。このことから、木切れや大鋸屑等は南側から廃棄されたものと推察される。

埋土からは、陶磁器・木製品・金属製品・自然遺物などが出土している。

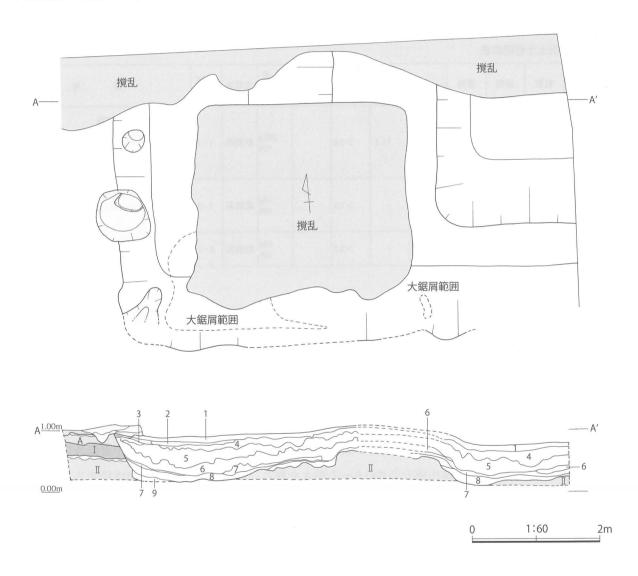
出土遺物は、総数2,418点、総重量25,679gである。材質別では、陶磁器類27点(陶器11、磁器1、土師器15)、瓦1点(平1)、木質遺物2,380点(椀1、箸112、下駄2、柱材118、板材452、木片1,260、その他435)、金属製品6点(釘6)、動物遺存体4点(鳥2、魚2)などである。

第30図1は肥前系陶器の碗である。九陶 II か。2・3は肥前系陶器の皿である。胎土目積みである。九陶 II -2期。4は肥前系陶器の鉢である。内面はマット状釉である。5の底部と同一個体になる可能性がある。6は備前陶器の擂鉢である。16世紀末に相当する。7は京都系土師器の皿である。

#### 第4章 本調査の結果

第31図1は角型の連歯下駄である。前方の鼻緒部分には指の痕跡が残る。2は角型の連歯下駄である。 表面に刃物と思われる傷が残る。3は東柱である。両端部にホゾがあり、片側は丸木の可能性がある。4 は櫛状の不明品である。5は不明品である。三方に長方形の低い台が付く。鍋敷きと考えられる。6は不 明品である。片側側面を刃部様に削っており転用品と考えられる。7は長方体の木製品である。正六面体 ではないが、それぞれの面に墨書によるサイコロの目が印されている。8・9は鉄釘である。断面は方形 で、端部を欠損する。

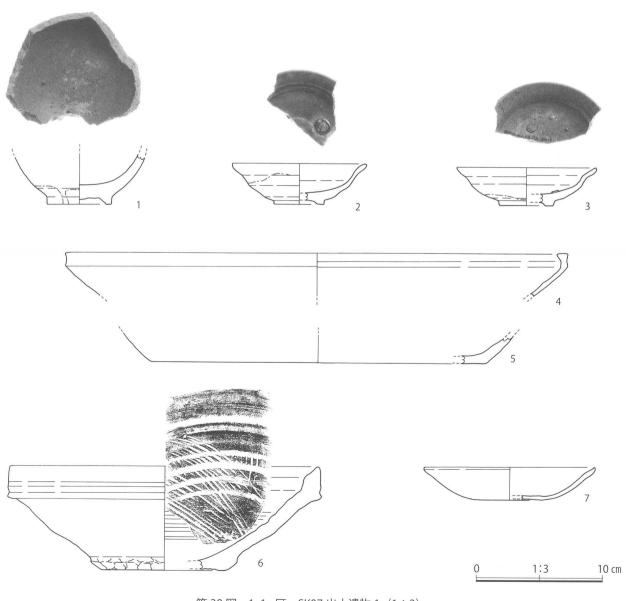
出土遺物の様相から、17世紀前半代の遺構と考えられる。



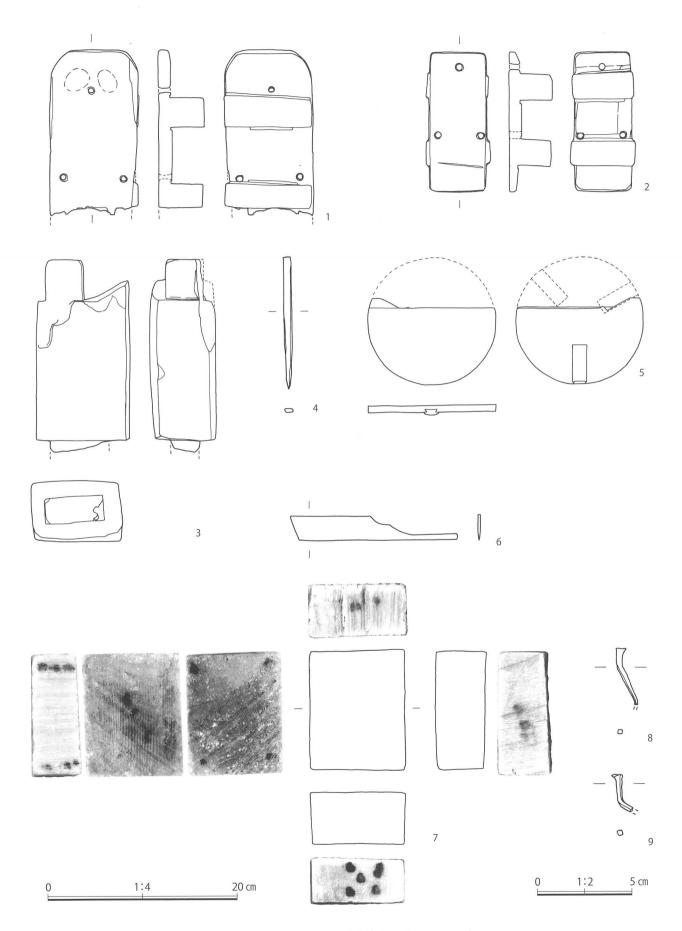
- 1 にぶい橙色粘質土
- 2 明緑灰色土
- 3 黄褐色土
- 4 暗灰黄色粘質土 (黒褐色土ブロック混合)
- 5 灰色砂質土 (暗灰黄色粘質土ブロック混合)
- 6 黒褐色粘質土
- 7 黒褐色土 (有機物多く含む)
- 8 オリーブ褐色土 (有機物多く含む)
- 9 灰色土(Ⅱ層混合)

第29図 1-1a区 SK07 実測図(1:60)

部分的な調査に止まり、全容が把握できないため、遺構の性格については確定しがたい。多量の木切れや大鋸屑・鉋屑等が堆積していることや生活雑器とともに食物残滓など出土していることから、廃棄土坑として機能していたものと考えられる。



第 30 図 1-1a 区 SK07 出土遺物 1(1:3)



第 31 図 1-1a 区 SK07 出土遺物 2(1:4、1:2)

表 13 SK07 出土土器観察表

挿図	出土	材質	器種	器形		法 量	t (cm)		重 量	# # 116	九陶	
番号	位置	171 兵	拍計作里	右合バシ	口径	底径	器高	その他	残存率	生産地	編年	備考
30-1	SK07	陶器	碗		-	5.0	>4.0		107g 40%		IIか	内外面:施釉 底部:土見せ
30-2	SK07	陶器	ш		10.6	3.9	3.2		27g 30%	肥前系	I -2	見込部:胎土目積痕 内外面:施釉 底部:土見せ
30-3	SK07	陶器	ш		11.0	4.2	_ 3.0		33g 40%	肥前系	I -2	見込部:胎土目積痕 内外面:施釉 底部:土見せ
30-4	SK07	陶器	鉢		39.6	-	>3.4		20g 5%	肥前系		全面:施釉あり 外面:照りを持つ釉 内面:マット状釉 29-5と同一個体 平鉢か
30-5	SK07	陶器	鉢		-	26.2	>2.3		40g 5%	肥前系		全面:施釉あり 外面:照りを持つ釉 内面:マット状釉 29-4と同一個体 平鉢か
30-6	SK07	陶器	擂鉢		24.4	9.6	8.2		481g 40%	備前		16世紀末
30-7	SK07	土師器	Ш		13.5	5.0	2.6		28g 40%	京都系		手づくね 指頭圧痕あり

表 14 SK07 出土木製品観察表

挿図	出土				法 量	(cm)			<b> = =</b>	
番号	位置	種類	名称·部位	長さ (口径)	幅	高さ (器高)	その他	木取	重量 残存率	備考
31-1	SK07	下駄	角型連歯下駄	>17.5	9.3	4.8		板目	355g 90%	指の痕跡あり 後部欠落
31-2	SK07	下駄	角型連歯下駄	14.8	6.8	4.5		板目	223g 100%	表面に刃物と思われる傷あり
31-3	SK07	東柱		>20.4	9.6	6.5			970g 90%	両端部ホゾがあり 片側は丸木の可能性あり 丸太材に合わせるか
31-4	SK07	不明品		13.9	-	-	厚0.4		4g 100%	板材を転用か
31-5	SK07	不明品		φ 13.5			厚0.7 ~1.05		69g 60%	鍋敷きか 三方に長方形の台ありか
31-6	SK07	不明品		17.6	2.6	-	厚0.3	柾目	11g 100%	片側側面:刃部様に削っている 転用品か
31-7	SK07	不明品		3.2	2.5	1.4		不明		長方体 墨書によるサイコロの目あり 正六 面体ではない

表 15 SK07 出土金属製品観察表

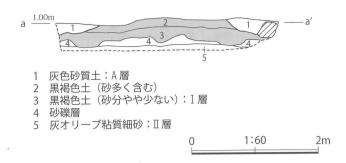
挿図 番号	出土位置	種類	材質	法 量 大きさ (cm)	重量 残存率	備考
31-8	SK07	釘	鉄	長>2.1/ φ 0.4	0.4g 80%	断面:方形 端部:欠損 この他に5点、計6点出土
31-9	SK07	釒	鉄	長>3.0/ φ 0.3	0.5g 90%	断面:方形 端部:欠損 この他に5点、計6点出土

# 高まり1 (第22・32図、図版7)

1-1a区の中央に位置する。A層を精査中、標高1.0mで調査区に対して斜め方向に走る帯状の黒褐色砂質土を検出した。撹乱によって壊された部分があるが、規模は幅 $0.6\sim1.5$ m、長さ約7.0mで、調査区の北と南側に続く。主軸方位は $N-57^\circ$ -Eである。

#### 第4章 本調査の結果

南壁に沿ってトレンチ(a-a')を設定した。掲載した図は遺構を斜め方向に切った断面である。3層(I層)上に2層(黒褐色砂質土)が台形状に15cmほど乗り、3層(I層)上面との高低差は最大で20cmを測る。高まりの上面はほぼフラットな面をなしている。これは、1層(A層)あるいはその後の造成時に上部が削られた可能性が考えられるため、本来の高さは不明で



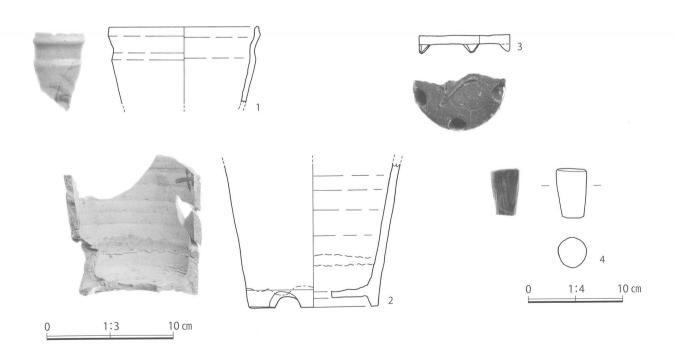
第32図 1-1a区 高まり1土層断面図 (1:60)

ある。高まりと3層(I層)は撹拌された様相をなし、3層(I層)下面では凹凸がみられた。このことから、耕作等、何らかの人為的な影響を受けたことが窺える。

この帯状の高まりは、造成時の掘削によって形成された可能性も否定できない。しかし、高まりの外側にこれを掘り込んでできた遺構がみられないことや、軸方位が城下町の地割や他の遺構(建物・溝等)と 異なることなどから、城下町造成以前の旧地形とみるのが妥当であると考える。 I 層上面まで掘り下げた 調査をしていないため、断定はできないが、畦畔あるいは畑畝等の可能性が考えられる。

# 第2面遺構外出土遺物 (第33図、図版49)

出土遺物は、総数36点、総重量2,059gである。材質別では、陶磁器類30点(陶器12、磁器4、土師器14)、瓦3点(軒丸1、平2)、木質遺物1点(栓1)、金属製品1点(釘1)、動物遺存体1点(貝1)などである。



第 33 図 1-1 区 第 2 面遺構外出土遺物 (1:3、1:4)

第33図1は志野焼の向付である。2は瀬戸・美濃系陶器の植木鉢である。墨書があるが判読不明。3は 窯道具の焼成台である。円錐状の脚5ヶ所持つ。上面に高台痕あり。4は栓である。

表 16 第 2 面遺構外出土土器観察表

挿図	出土	材質	器種	器形		法 量	t (cm)		重量	生産地	九陶	/##
番号	位置	77 英	和武任王	カボバン	口径	底径	器高	その他	残存率	土厓地	編年	備考
33-1	遺構外	陶器	向付	筒形	11.8	-	>6.0		17g 10%			外面:鉄絵
33-2	遺構外	陶器	植木鉢		-	10.2	>11.3		204g 30%	瀬戸・ 美濃		内面:シッタ痕あり、墨書(判読不明) 高台部:半円形のえぐりあり 底面中央:排水穴がある
33-3	遺構外	土製品	窯道具	焼成台	-	-	1.4	φ 7.2	30g 50%			表裏面:回転糸切痕 上面:高台痕の残りあり 円錐状の脚5ヶ所

### 表 17 第 2 面遺構外出土木製品観察表

挿図	出土				法	量 (cm)			重量				
番号	位置	種類	名称·部位	長さ (口径)	幅	高さ (器高)	その他	木取	残存率		備	考	
33-4	遺構外	栓		5.3	-	-	φ 2.3~3.2	柾目	35g 100%	円錐形			

### 4) 小結

1-1区において検出した遺構は、表18のとおりである。遺構面は2面を確認した(第34図)。

第1面は、標高1.5m前後に位置する。2層を基盤とする19世紀~明治初めの生活面と考えられる。1-1a・b区では遺構面のほとんどが近現代の撹乱によって破壊されていたが、本来は撹乱部分に遺構が存在していたものと思われる。第2面で検出した1-1a区SE01と1-1b区SK04は、出土遺物の様相から、本来はこの時期の遺構と考えられる。1-1c区でSK01~03を検出した。SK01~04は、廃棄土坑と考えられ、生活雑器とともに多量の瓦破片が埋められていた。SE01では、竹筒による廃棄時の祭祀が行われていた。

第2面は、標高1.0~1.2mに位置する。A層を基盤とする17世紀前葉~後半代の生活面と考えられる。この遺構面も近現代の撹乱を受けていた。SA01~03、SK05~07を検出した。1-1c区SK05・06は検出標高が1.2mとやや高く、出土遺物の様相から、17世紀半ば~後半代の遺構と考えられる。本来はこの時期の遺構面が存在し、遺構が他にもあったものと思われるが、撹乱によって破壊されたものと思われる。1-1a区SA01、1-1b区SA02・03は、城山北公園線に直交したN-4°-Eの主軸方位をもつ。南北方向の柵あるいは塀のような施設が考えられるが、検出範囲の狭さから確定はできない。SA01とSA02を梁行きとする南北約4.5m×東西約14.0mの建物が考えられる。調査地が道路に面した屋敷の出入り口にあたることから、門長屋も想定できる。1-1a区SK07は東西7.5m以上、南北4.5m以上、深さ0.8mを測る大形土坑である。大鋸屑・鉋屑等の多量廃棄が行われている。

旧地表の I 層は、撹拌されたその状況から、耕作が行われた可能性がある。その一部は1-1a区で検出した標高1.0mまでの帯状の高まり1となっている。この高まりは、城下町の区画方位と異なる斜め方向の方位をもち、水田畦畔の可能性が考えられる<sup>1</sup>。A層が覆土となっていることから、17世紀前葉の城下町造成直後またはそれ以前と考えられる。また、城下町造成の初期造成土であるA層内に、松江城の堀端で検出される軟質砂岩(松江層)が混在していた。堀の東側に位置する第1ブロック内の屋敷地造成に、

堀掘削の残土が使われた可能性が考えられる。

表 18 1-1 区検出遺構一覧

遺構面	検出標高(m)	時 期			検	出	遺	構	
第1面	1.5 前後	19 世紀~明治初め	SK01	SK02	SK03	SK04	SE01		
第2面	1.0 ~ 1.2	17 世紀前葉~後半	SA01	SA02	SA03	SK05	SK06	SK07	高まり1

## 2. 第1ブロック本発掘調査のまとめ

第1ブロックの本発掘調査は西側半分の1-1区のみである。県道城山北公園線(大手前通)に沿う、東西幅約60mの屋敷地の南側にあたる。

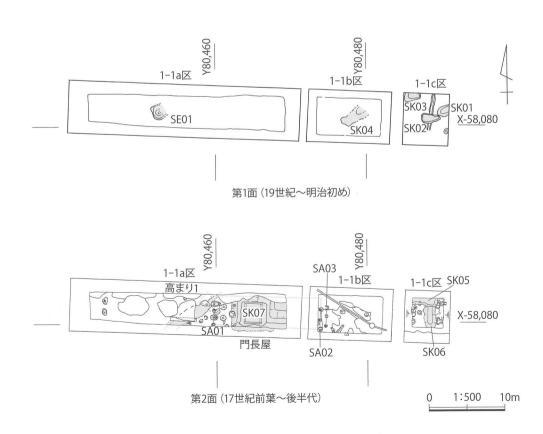
17世紀前葉あるいは城下町造成以前: 畦畔の可能性がある高まり1が見られる。また、旧地表の I 層は 耕作土の可能性があり、城下町造成以前の様相を示している。

17世紀前半:堀尾期に相当する、大鋸屑・鉋屑等が多量廃棄される大形土坑(SK07)が確認された。 近辺で製材および建築工事がおこなわれたことが窺え、大工関係の作業場の存在も推察される。

また、南北方向の柱穴列(SA01~03)が確認され、SA01・02からなる建物は門長屋に想定される。

17世紀半ば~後半代:土坑2基(SK05・06)が確認された。廃棄土坑と考えられる。

19世紀~明治初め: 井戸(SE01)が廃絶し、多量の瓦破片が出土する廃棄土坑4基(SK01~04)が確認された。



第34図 第1ブロック 遺構配置図 (1:500)

# 第2節 第3ブロックの調査

第3ブロックは、市道母衣南北線と主要地方道松江・鹿島・美保関線に挟まれた城山北公園線沿いの北側部である。東西約100mの区画にあたる。一部未調査地が残るため、本報告書では調査の終了した3-1~5区の報告となる。

調査は平成18年から平成24年まで、調査可能となった区域から順次実施した(第35図)。

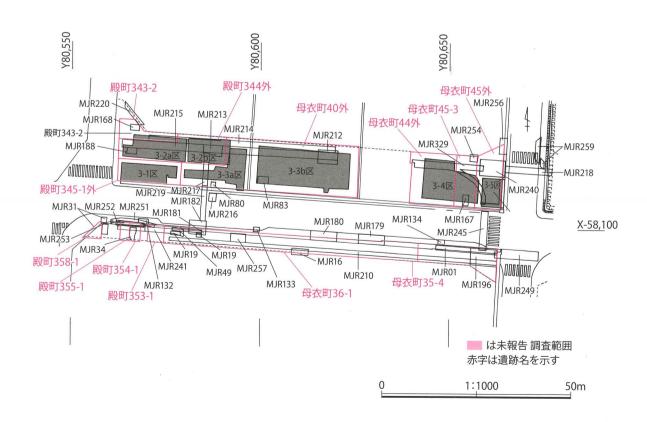
## 1.3-1区

### 1)調査の概要と土層堆積状況(第35・36・37図)

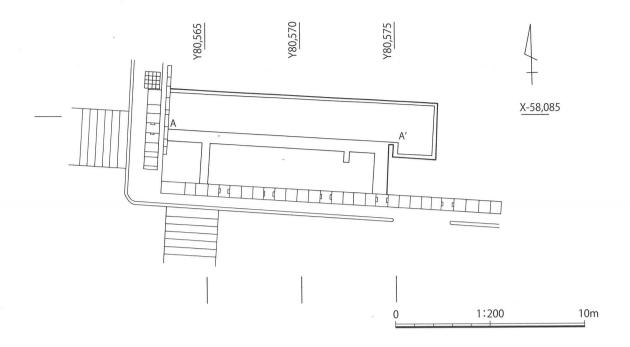
調査地は、第3ブロックの南西部角地に位置する。南側は城山北公園線に接し、西側は南北道路に接している。北側には3-2a区が位置する。江戸時代には上級武士の屋敷地であった。屋敷の出入り口は絵図等から江戸時代を通じて南向きであったと考えられる。調査区はこの屋敷地の南西隅を調査する形になる。調査範囲は東西14.5m×南北5mの方形の調査区である。

調査はまず、調査区を縦断する東西方向のトレンチ(A-A')を設定し、土層観察を行なった後に面的な掘り下げを行なった(第36図)。

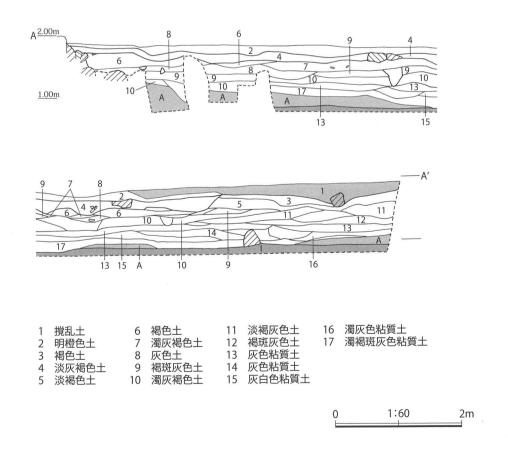
現地表面標高は2.0mである。地表面下1.1mの標高0.9mで I 層に至る。 I 層上に黒灰色あるいは灰色 系の混合土からなる城下町造成土が積み重ねられていく様相が見られた。しかし、明確な遺構面は確認されなかった(第37図)。



第35図 第3ブロック本調査区配置図(1:1,000)



第36図 3-1区 トレンチ配置図 (1:200)



第37図 3-1区 トレンチ (A-A') 土層断面図 (1:60)

標高1.8mで、明治時代以降の建物跡等を検出した。明治初期に屋敷地が細分割されて以降、様々な建物が建てられ現在に至っている。そのため、深いレベルまで撹乱が及んでいた部分もあった。

調査区の南辺と西辺には来待石(凝灰質砂岩)製の側溝が廻る。この側溝は江戸時代に作られ、現在の道路側溝に継承されているもので、来待石の石積は明治期になってからの造作である。江戸時代中期の絵図をみると、南側・西側とも幅2尺(0.6m)の溝が廻っている。

トレンチの掘り下げ途中、現代の来待石側溝の下に古い段階の石積遺構があることが判明した。また、トレンチ内下層部で石列を検出した。石積遺構の構造を観察するために標高1.5mまで全体を掘り下げ、部分的にトレンチを設定しながら調査を進めた。

調査当時、I層は自然堆積層と考えられ、遺構面として捉える認識が確立していなかったことから、I層上面まで全面掘り下げとせず、トレンチ確認で調査を終了している。I層上面での遺構及び遺物は検出されなかった。

なお、本調査が松江城下町遺跡では最初の調査であったため、遺構面および城下町造成についての十分な認識が得られない状況での調査であった $^2$ 。

### 2) 遺構と遺物

本調査区では、石垣とトレンチ内で石列が確認された(第39図、図版8・9)。

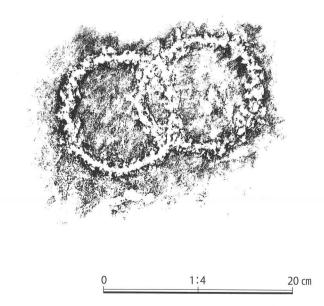
#### 石垣1 (第39図、図版8・9)

調査区の南辺と西辺で検出した石垣で、道路側溝として見られる石組水路の屋敷側石垣にあたる。

現道路側溝に沿うように南辺の石垣は東西方向、西辺の石垣は南北方向に延びる。検出幅は0.5~0.8mで、東西方向に12.0m、南北方向に4.7m分を確認した。主軸方位は南北方向がN-4°-E、東西方向がN-86°-Wである。石垣の下端は標高0.9mの I 層面に至り、標高1.9mまで3~4段の石が積まれ、全体で

高さ1.0m前後の規模になる。石材は大海崎石 (角関石粗面安山岩)を主体としている。この 上部に後世の来待石製の側溝が道路側に作ら れている。

石垣は現道路の側溝に接して40~60cm大の石を積み上げ並べている。そのなかには80~90cm大の石も含まれていた。そのうちの1つには、屋敷内である北側の面に「輪違い紋」の刻印がみられた(第38図、図版9 - 3)。「輪違い紋」は堀尾家の家紋のひとつであるが、転用されたものと考えられる。石は外側(道路側)に面をもって据えられているようである。10~30cm大の多数の石を裏込め石として



第38図 3-1区 刻印石拓本 (1:4)

積み上げ、盛土を施し、石垣の道路側を側溝としたものと考えられる。土層の堆積状況から、屋敷地の嵩上げ造成に伴って、石垣の積み直しあるいは積み上げが行われたものと考えられる。

なお、同様の石垣が立会調査においても検出されている。

#### 石列 (第39図、図版8-2~9-2)

トレンチ内で石列を4カ所検出した。B-B 間で検出したものを石列1、C-C 間で検出したものを石列2とした。また、A-A 間で2ヶ所検出し、西側のものを石列3、東側のものを石列4とした。これらの石列は、トレンチ内という狭い範囲での検出であり、面的な調査をしていないため、詳細が不明な部分が多い。

石列1~3は石垣1の裏込め石の端から0.3mほど離れて検出された。10~40cm大の大海崎石を主体として使用している。石列の下端はいずれも標高0.9mのI層面に至る。

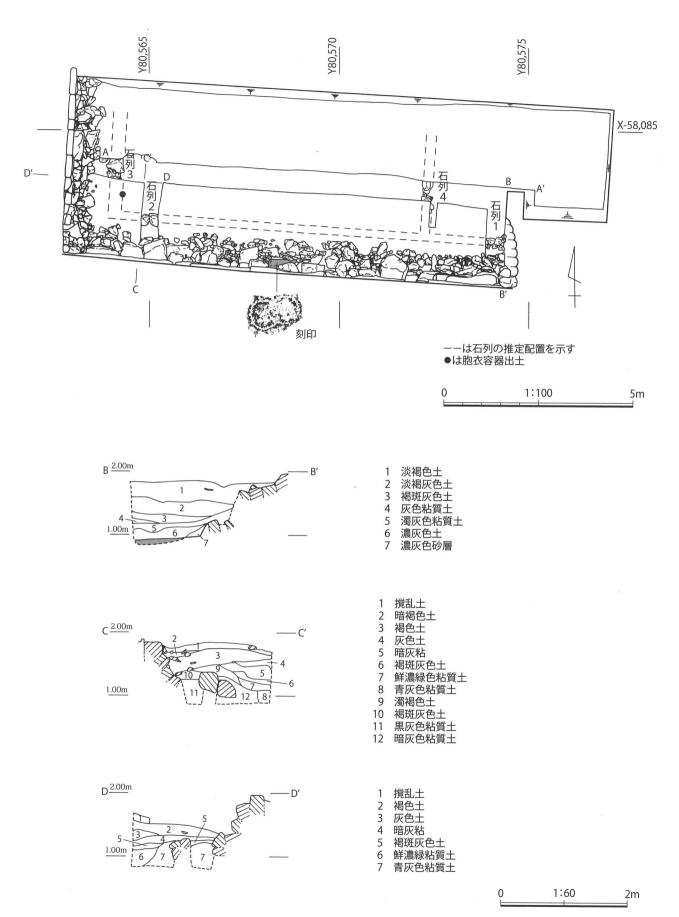
石列1は、幅約0.3mで、標高1.2mまで2段ほど組み上げられ、東西方向に0.5m分確認した。石列2は、幅約0.3mで、標高1.4mまで石を重ねるように組み上げている。石列3は、幅約0.3mで、標高1.3mまで2段に組み上げられ、南北方向に0.5m分確認した。これらの石列はいずれも屋敷内に向かって面をもって組まれている。

石列4は、10~30cm大の石を標高1.2mまで2段ほど積み上げており、南北方向に0.6m分確認した。面は判然としない状態であった。

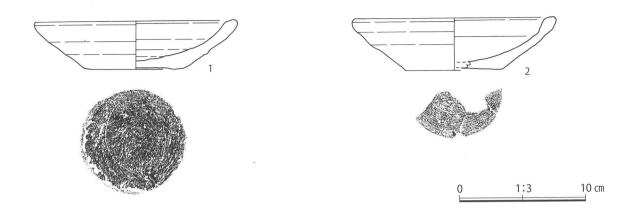
トレンチ内での調査で不明な部分が多いが、石列1・2は東西方向に方向性をもたせて作られているようで、同軸上  $(N-86^{\circ}-W)$  に位置していることから、一連の遺構と考えられる。石列3・4は南北方向  $(N-4^{\circ}-E)$  に方向性をもたせて作られているようである。石列4については、石列3から約8.3m西にあり、平行して南北方向に延びることが予想され、何らかの区画をなす石組遺構の一部の可能性が考えられる。

石垣1と石列の構築時期は判然としないが、ともに I 層上から積まれていることから、17世紀前半代が推定される。石垣1と石列1~3の間は造成土である粘質土で埋められている。トレンチC-C´の土層断面をみると、石列の上で石垣1に向かって堀込みが確認できた。石垣1の1段目と2段目の間に至ることから、この時点で作り直しあるいは構築の時間差があったものと推察される。調査当時、石垣1と石列は別遺構として解釈されていた。しかし、下段部においては石垣1と石列の時期差は判断し難く、同時期に存在していた可能性がある。石垣1の西端部から石列3の東端部までと、南端部から石列1・2の北端部まではいずれも約1.3mを測る。

想定ではあるが、石垣1と石列1~3からなる幅約1.3mを測る石垣が、屋敷地の西と南側に築かれていた可能性が考えられる。



第39図 3-1区 石垣1・石列1~4実測図 (平面1:100、断面1:60)



第40図 3-1区 その他の遺構外出土遺物 (1:3)

## 3) その他の遺構外出土遺物 (第40図、図版54)

近現代の盛土層および撹乱層から出土した遺物のうち、重要と思われるものを掲載した。

掘り下げ途中、調査区南西部の標高1.8mで、土師器の皿2点を検出した。2点の土師器は、割れた状態で出土しているが、完形で合わせ口であることから、胞衣容器の可能性が考えられる。埋納坑は確認されなかったが、検出標高から、明治以降のものと考えられる。

第40図1は、器高が低く体部は逆「ハ」の字状に立ち上がり、口縁が被圧する。2は、口縁端部に面をもつ。

表19	その他の遺構外出土土器観察表
1417	

10.0												
挿図	出土	材質	器種	器形		法 量	(cm)		重 量	生産地	九陶	備考
番号	位置	171 貝	有合个里	有許リン	口径	底径	器高	その他	残存率		編年	210
40-1	遺構外	土師器	坏		15.4	7.6	4.1		260g 40%	在地系		底部:回転糸切痕
40-2	遺構外	土師器	坏		15.6	7.8	3.8		352g 90%	在地系		底部:回転糸切痕

# 4) 小結

本調査区が城下町遺跡の初調査であったことから、調査手法も確立されておらず、結果的に十分な調査に至らず終了している。そのため、不明な部分も多い。

確認された石垣1は、屋敷地を廻る側溝石垣の屋敷側石垣である。城下町を区画する道路に沿って配置されていたことが窺える。トレンチ内で確認された石列のうち石列1~3は、屋敷地の外縁に作られた石列の一部と考えられる。

構築当初から現在の石垣の姿をなしていたとは思えないが、石垣1の下段部と石列1~3は、検出面等から17世紀前半代に作られていた可能性が考えられる。また、石垣1と石列1~3間は約1.3mを測り、これらを土台とした塀または壁が存在していた可能性が考えられる。

石垣の外側は石組水路の道路側溝として利用され、度重なる嵩上げ造成によって石列は埋没し、石垣は明治になって、上部に来待石製の道路側溝が作られ、標高約1.9mの現代の生活面まで上げられてきたものと思われる。

# 2.3-2区

### 1)調査の概要と土層堆積状況(第35・41図)

調査地は第3ブロックの西側に位置する。江戸時代には上級武士の屋敷地であった。調査区は屋敷地の 南西部にあたり、西側は南北道路に接している。南側は前述の3-1区に接する。調査区のうち、北側が松 江城下町遺跡(殿町343 - 2)に、南側が同遺跡(殿町344外)にあたる。屋敷地の出入り口は、絵図等 から江戸時代を通して南向きであったと考えられる。

調査範囲は172㎡であるが、調査が急がれる東側については1区(報告書3-2b区)として、平成21年度に調査を実施し、残りの西側を2区(報告書3-2a区)として平成22年度に調査した。3-2b区は、東西11 m×南北6~7m、3-2a区は東西14m×南北6mの方形に調査区を設定した。なお、調査途中、立会調査で確認された遺構を調査するため、3-2a区の南西部を西側へ東西1.2m×南北1.5mの範囲で拡張している。本調査区の現地表面標高は1.9~2.1mである。標高0.5~0.6mで I 層にいたる。この I 層を基盤として、初期造成土のA層が0.3m前後堆積する。さらに、その上に造成土が積み重ねられていく様相が見られ、1~4層に大別できた。

1層は砂礫を多く含む褐灰色土を主体とする。層厚0.3~0.5mで、2~7層に細分できる。近現代の盛土である。

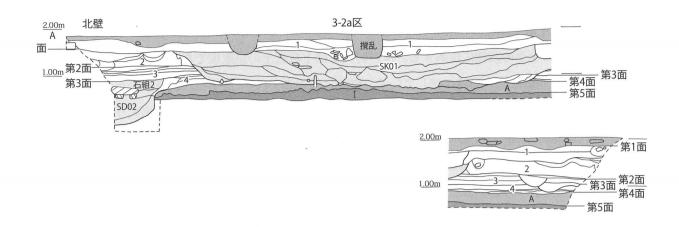
2~4層の上層部には砂層が数cmから10cm前後堆積していた。整地を兼ねて意図的に敷かれているようであり、その上面を遺構面と捉えた。

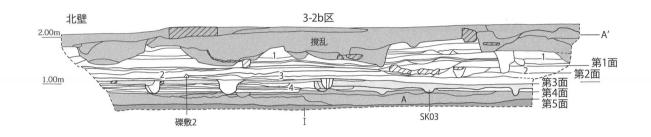
2層は明褐色〜黄褐色土あるいは黄灰色粘質土を主体とする。層厚0.1〜0.3mで、2層に細分できる。 この上面を第1面とし、検出標高は1.4〜1.5mである。形成年代は、出土遺物と検出遺構から18世紀後半 〜19世紀前半と推定される。

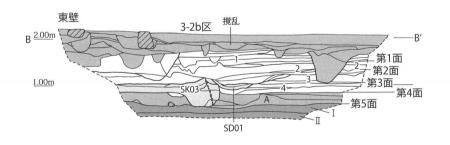
3層は明黄褐色~青灰色粘質土を主体とする。層厚0.3m前後で、2~3層に細分できる。この上面を第2面とし、検出標高は1.1~1.3mである。形成年代は、18世紀後半~19世紀前半と推定される。

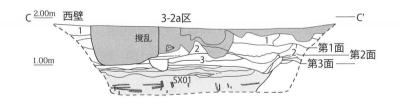
4層は灰褐色砂質土あるいは青灰色土を主体とする。層厚0.2~0.3mで、2~3層に細分できる。この上面を第3面とし、検出標高は1.0~1.1mである。形成年代は、17世紀後半~18世紀前半と推定される。

A層上面を第4面とし、検出標高は0.8~0.9mである。形成年代は、17世紀前葉~前半代と推定される。 I 層上面を第5面とし、検出標高は0.5~0.6mである(第41図、図版11-2)。



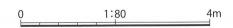






は遺構埋土

- 褐灰色土 (砂礫多く含む)
- 2 明褐色〜黄褐色土あるいは黄灰色粘質土(上層に灰色砂層を含む) 3 明黄褐色〜青灰色粘質土(上層に灰色砂層を含む) 4 灰褐色砂質土あるいは青灰色土



第41図 3-2区 土層断面図 (1:80)

## 2) 第1面 (第42図)

標高1.4~1.5mで検出した遺構面で、2層を基盤とする。3-2b区では現代井戸により南西側のほとんどの遺構面が破壊されていた。柱穴列1基と大型土坑1基、その他中小のピットを検出した。

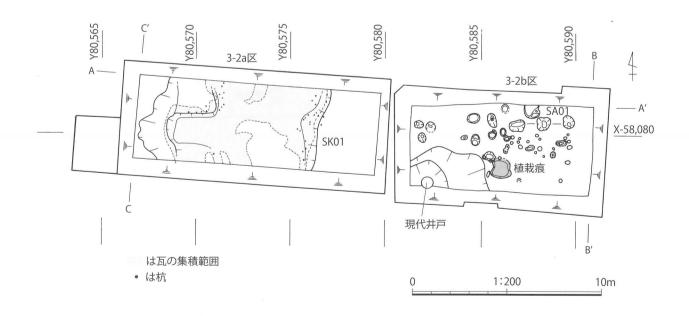
## SA01 (第42·43図)、遺物 (第43図、図版50)

3-2b区の北東部に位置する柱穴列である。3穴を検出した。柱間1.2~1.4mで2間(約2.7m)の規模である。主軸方位はN-90°-Wである。柱穴は直径0.5~0.8m、深さ0.7mの掘方で、直径10~20cm、長さ70~80cmほどの丸太材を検出した。掘方内には中小の礫が埋まっていた。丸太材には樹皮が付いていたことから母屋に伴う柱とは考え難い。P2・3の埋土から陶磁器片が出土している。3穴のみの検出で、遺構の性格を特定するには到らなかった。想定ではあるが、小屋などの簡易的な建物が考えられる。また、柱穴列の南側には小ピットが多く検出され、細い杭が残存しているものもあった。これらの小ピットは塀や柵のような柱穴と考えられる。

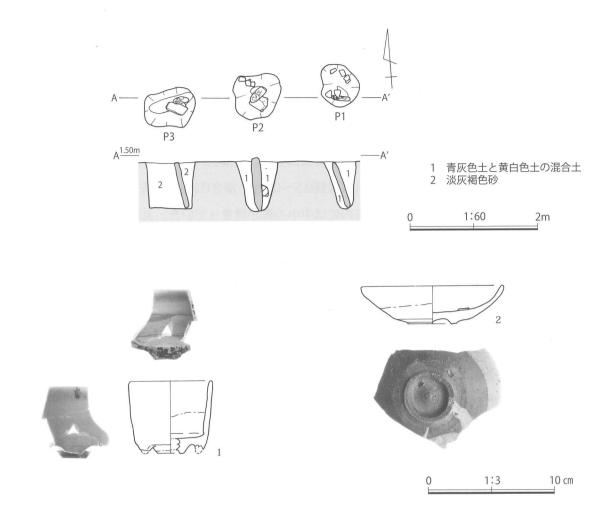
出土遺物は、総数35点、総重量744gである。材質別では、陶磁器類3点(陶器1、磁器1、土師器1)、 木質遺物32点などである。

第43図1はP2出土の肥前系磁器の青磁香炉である。2はP3出土の肥前陶器の皿である。

図化した遺物は17世紀代を示しているが、細片のため図化し得なかった19世紀代から幕末期の遺物を含むことから、19世紀代から幕末期に廃絶したものと考えられる。



第42図 3-2区 第1面全体図 (1:200)



第43図 3-2b区 SA01·出土遺物実測図 (遺構1:60、遺物1:3)

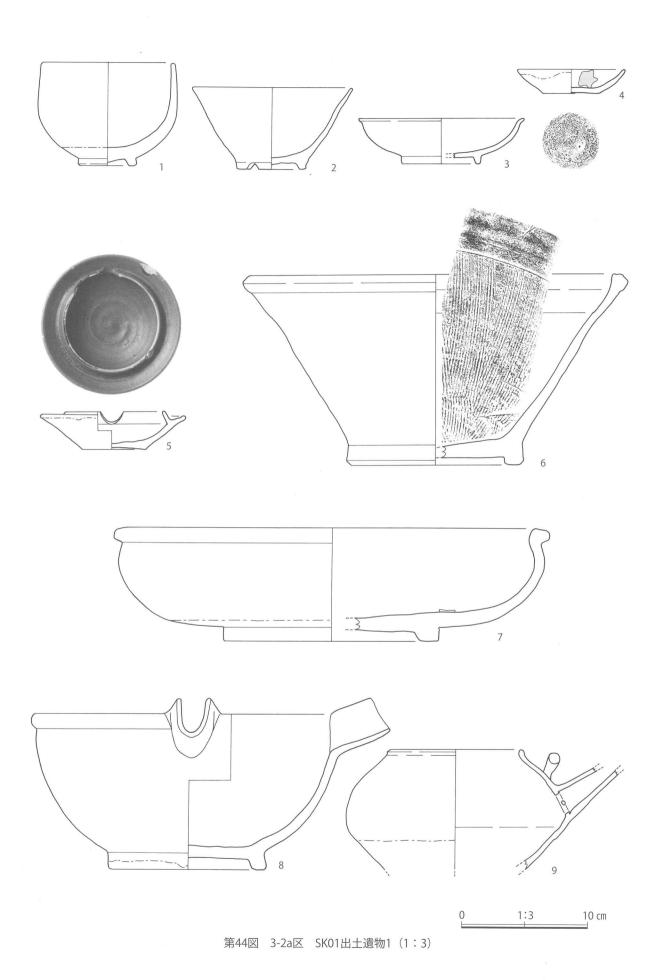
表20 SA01出土土器観察表

挿図	出土	材質	器種	器形		法 量	(cm)		重量	生産地	九陶	備考
番号	位置	州貝	<b>谷</b>	石計リン	口径	底径	器高	その他	残存率	工庄地	編年	בי. האנו
43-1	SA01 (P1)	磁器	香炉		6.4	2.0	5.7		30g 30%	肥前系		青磁 内面中程〜底部:無釉だが赤く 着色してある 断面:漆継痕あり 17世紀代
43-2	SA01 (P2)	陶器	ш		11.2	3.9	3.0		70g 70%	肥前系	I -2	内外面:施釉 見込部:胎土目積痕 4ヶ所 底部:土見せ 1594~1610年代

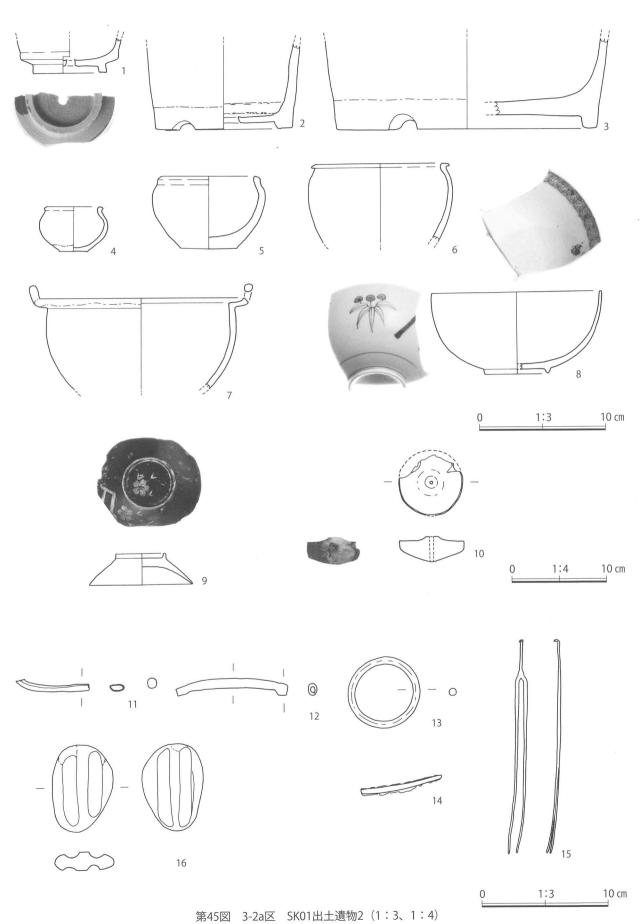
# SK01 (第42図、図版12-2~13-3)、遺物 (第44~46図、図版50~52)

3-2a区の中央に位置する。検出した規模は、東西約9.0m、南北4.3m、深さ約0.7mで、調査区のほとんどを占める。南と北側へ広がる。掘方は、北側へ続く様相を示すものの、南側へは南壁へ向けて上がり勾配を示すことから、掘方の縁が、南壁間近くにあることが推定される。調査範囲の制約もあるが、上記の理由から土坑とした。

掘方の底面は、ほぼフラットだが、土坑の北西隅に東西2.0m×南北1.3mの範囲で方形の平坦部が見られた。この平坦部は、暗灰色の粘質土を厚さ10cmほど盛り上げて作られている。周縁には杭列が巡り、杭列の外側に瓦や石の堆積が顕著に見受けられた。上層部には、多量の瓦が埋められていた。



-45-



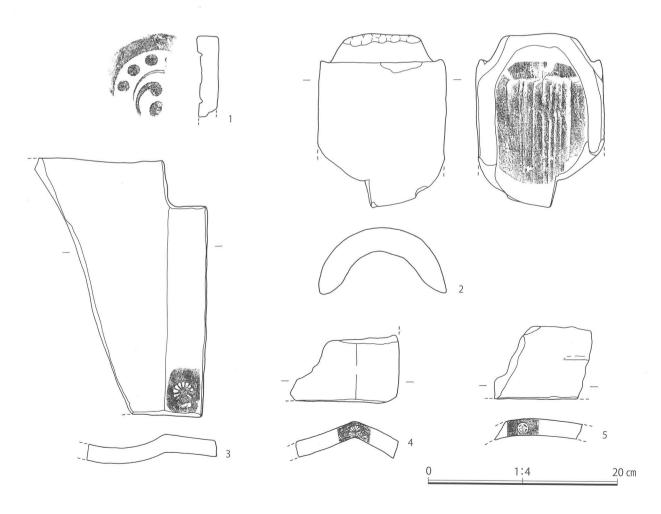
瓦の重なりは、粗密があり、もっとも密な北東部で、約20cmの厚みを測る。出土した瓦の総重量は約1,500kgを量る。また、比較的短期間に廃棄されたものと考えられ、廃棄後は暗青灰色の粘質土で埋められていた。瓦を取り除くと、10~50cm 大の石が散乱した状況がみられた。10~20cm大の石は掘方周辺部に多く認められ、さらに50cm大の石が分散して検出された。

遺構東端の壁側で、やや不規則ではあるものの南北方向への杭の並びを検出した。杭列は北西部では逆「L」字状に打ち込まれていた。杭は径6cm前後で、その大半が先端部を鋭く加工されていた。また、杭列に沿って細竹2~3本が水平方向に重ねられた状態で検出された。さらに杭列北側の斜面にはシダ類が敷かれていた。形状から、「池」のような施設が想定されるが、全容が把握できず確定できない。上層部で瓦が多量に出土したことから、最終的に廃棄土坑として利用されたものと考えられる。

出土遺物は、総数963点、総重量106,524gである。材質別では、陶磁器類693点(陶器347、磁器256、土師器59、土製品31点)、瓦185点(軒平20、軒丸3、平115、丸47)、木質遺物54点、金属製品7点、石器1点、動物遺存体2点(魚2)、自然遺物13点、その他8点などである。

陶磁器は在地産を主とし、「天保八年(西暦1837年)」の墨書がある布志名焼片口が含まれていた(第44図8・巻頭図版2)。

第44図1~9は在地系陶器である。1は布志名焼陶器の碗である。2は茶碗である。3は布志名焼陶器の



第46図 3-2a区SK01出土遺物3 (1:3)

皿である。明治以降と思われる。4は小皿である。内面に油煙付着。5は灯明皿である。6は擂鉢である。19世紀代に相当する。7は器の鉢である。8は布志名焼陶器の片口である。高台内に「天保八年(西暦1837年) 台所 小柳」と墨書がある。9は布志名焼の土瓶である。

第45図1は在地系陶器の植木鉢である。2は瀬戸・美濃系陶器の植木鉢である。33図2(1-1区)と類似。3は瀬戸・美濃系陶器の火鉢または植木鉢である。4~6は壺である。7は土鍋である。8は肥前系磁器の碗である。19世紀後半に相当するものと思われる。9は漆椀の蓋である。外面つまみ内に金で桜花と御所車の文様を施す。10はコマ。11は真鍮製の煙管の雁首である。火皿部を欠く。12は鉄製の取手である。鉄棒の両端部を伸ばし、リング状に加工し、わずかに湾曲させる。13は銅製のリング状の製品である。14は板状鉄製品で、鉄鍋の破片の可能性がある。15は頭部が耳かきとなっている真鍮製の簪である。16は不明石製品である。摩耗した円礫の両面に2本の半円形の溝がある。砥石の可能性がある。

第46図は瓦である。1は軒丸瓦で、連珠三巴文である。2は丸瓦で、内面にコビキBの痕が残る。3~5 は桟瓦である。3・4は左桟瓦で菊花文が、5には「合」の字のスタンプが押されている。

出土した「天保八年」の墨書がある片口から、1837年以降明治初めにかけて廃絶したものと考えられる。

# 表21 SK01出土土器観察表

挿図	出土	材質	聖華	ᄪᄱ		法	量 (cm)		重量	gtde- 1.1	九陶	ш.
番号	位置	171 貝	器種	器形	口径	底径	器高	その他	残存率	生産地	編年	備考
44-1	SK01	陶器	碗		10.1	4.2	8.2		307g 80%			青地釉 底部:無釉
44-2	SK01	陶器	茶碗		12.6	5.4	6.5		118g 60%	在地系		内面から外面腰部:ハケ目塗り 全面:施釉 高台:1ヶ所切り込みを持つ
44-3	SK01	陶器	m		13.0	6.0	3.6		33g 40%			黄地釉 内面:染付 明治以降
44-4	SK01	陶器	小皿		7.5	4.5	1.9		52g 100%	在地系		内面から口縁端部外面まで施釉 内面:油煙付着 底部:無釉、回転糸切痕
44-5	SK01	陶器	灯明皿		-	5.5	3.0	外径 11.4 内径 7.8	132g 95%	在地系		内側立ち上がりぶに一か所「U」字形に切り込みがある。 外面:無釉 内面:施釉 底部:回転糸切痕
44-6	SK01	陶器	擂鉢		29.0	13.8	15.1		586g 30%	在地系		内面:擂目単位20本 全面:鉄釉 19世紀代
44-7	SK01	陶器	鉢		31.8	16.8	9.0		900g 40%	在地系 布志名か		内外面:白濁釉 見込部:胎土目積痕 底部外面:無釉 高台基部:焼成時の亀裂が巡る
44-8	SK01	陶器	片口		23.2	12.2	13.6		1440g 70%	布志名		青地釉 高台部:無釉 高台内:墨書「天 保八年 台所 小柳」か
44-9	SK01	陶器	土瓶		10.2	÷	>9.5		128g 40%	布志名		青地釉 釉かけ分け 外面:青地釉 内面:透明釉 底部外面:無釉
45-1	SK01	陶器	植木鉢		-	5.8	>2.7		36g 20%	在地系		外面:施釉、来待釉か 底面中央: Φ6mmの排水穴あり
45-2	SK01	陶器	植木鉢		-	10.4	>6.7		209g 40%	瀬戸・美濃		外面:施釉 内面:無釉、シッタ痕あり 底部:排水穴(φ2cm) 高台:半円形のえぐり3ヶ所 1-1区遺構外出土33-2図の遺物と類似
45-3	SK01	陶器	火鉢 or植木鉢		-	20.4	>7.1		395g 30%	瀬戸・美濃		高台部:半円形のえぐりを持つ
45-4	SK01	陶器	小壺		4.6	2.2	3.5		36g 100%	在地系		底部:無釉、回転糸切痕
45-5	SK01	陶器	壺		8.0	4.4	5.8		86g 50%	在地系		内外面: 鉄釉 底部: 回転糸切痕、マット釉か
45-6	SK01	陶器	壶		10.0	-	>6.2		44g 30%	在地系		内外面:茶色のマット釉
45-7	SK01	陶器	土鍋		16.8	-	. >7.2		83g 20%	在地系		外面:無釉 内面:施釉
45-8	SK01	磁器	碗		13.4	4.9	6.5		70g 40%	肥前系		内外面:染付 畳付:無釉 19世紀後半か

# 表22 SK01出土木製品観察表

挿図	出土				法	₫ (cm)			<b></b> = =	
番号	位置	種類	名称•部位	長さ (口径)	幅	高さ (器高)	その他	木取	重量残存率	備考
45-9	SK01	漆椀	蓋	9.9	-	(3.3)	つまみ径5.3			外面:黒漆 内面:赤漆 外面・つまみ内: 金で桜花と御所車の文様
45-10	SK01	玩具	コマ	$\phi$ 6.8			厚2.6			上面中央部が盛り上がっており、¢0.4cm の孔を持つ

### 第4章 本調査の結果

表23 SK01出土金属製品観察表

挿図 番号	出土 位置	種類	材質	法 量 大きさ (cm)	重 量残存率	備考
45-11	SK01	煙管(雁首)	真鍮	長5.8/最大幅1.1/厚1.0	3g 100%	火皿部欠落
45-12	SK01	取手	鉄	長8.8/径0.9	26g 100%	全体錆付着 鉄棒の両端部を伸ばし、リング状に加工し、わずかに湾曲させてある
45-13	SK01	不明品	銅	最大径5.6/厚0.6	28g 100%	リング状の製品である
45-14	SK01	鉄鍋か	鉄	長6.4	32g -	全体錆付着激 板状鉄製品でわずかに湾曲している
45-15	SK01	簪	真鍮	長16.8	6g 100%	頭部は「耳かき」となっている

### 表24 SK01出土石製品観察表

挿図 番号	出土 位置	種類	材質	法 量 大きさ (cm)	重 量 残存率	備考
45-16	SK01	不明品	石	長軸6.9/短軸4.8/厚1.5	56g 100%	摩耗した円礫の両面に2本の半円形の溝がある 溝内面には細かいスジ状痕がある 砥石か

#### 表25 SK01出土瓦観察表

挿図 番号	出土 位置	種類	色調	法 量 大きさ (cm)	重 量残存率	備考
46-1	SK01	軒丸瓦	外)灰色 内)灰色	外径15.6/内径9.3/丸瓦厚2.2/巴径6.2/弧深2.2	132g 10%	連珠三巴文 左巻 残存珠文3
46-2	SK01	丸瓦	外)灰色 内)灰色	長さ18.5/幅13.4/厚2.5	820g 40%	コビキB
46-3	SK01	桟瓦(左)	外)灰色 内)灰色	長さ26.7/幅15.3/厚1.7	1070g 40%	菊花文の下に横線のスタンプあり
46-4	SK01	桟瓦(左)	外)灰色 内)灰色	長さ6.6/幅11.2/厚1.7	170g 20%	菊花文のスタンプあり
46-5	SK01	桟瓦	外)灰色 内)灰色	長さ7.6/幅9.2/厚1.7	153g 5%	合文のスタンプあり

# 植栽痕(第42図)

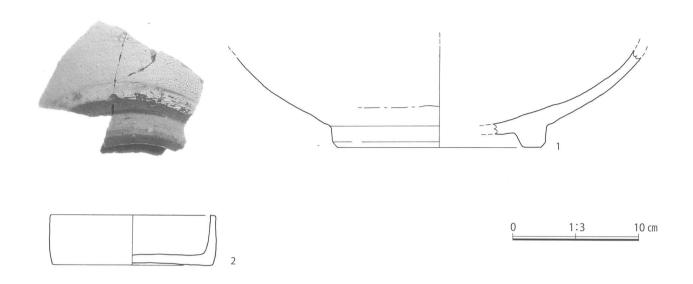
3-2b区に位置する。浅い土坑内に根が残る植栽痕である。樹種は不明であるが、第1面の時期に植えられていたと考えられる。また、周辺には中・小のピットがみられる。調査地は屋敷の南側にあたることから、南から南西側にかけて庭であった可能性が推察される。

# 第1面遺構外出土遺物 (第47図、図版52)

第47図1は肥前系陶器の大皿である。二次焼成あるいは焼成不良の可能性がある。17世紀前半に相当する。2は瓶盥である。19世紀代から幕末に相当するものと思われる。

表26 第1面遺構外出土土器観察表

挿図	出土	++ 55	器種	器形		法 量	(cm)		重量	生産地	九陶	備考
番号	位置	材質	<b></b>	右 形	口径	底径	器高	その他	残存率	工座地	編年	un . J
47-1	遺構外	陶器	大皿		-	16.0	>7.7		379g 20%	肥前系		内外面:施釉 底部:化粧土あり 高台部:無釉 二次焼成(焼成不良の可能性あり) 17世紀前
47-2	遺構外	陶器	瓶タライ	楕円形	13 × 7.2	12.6	3.9		112g 60%	在地系		内外面:施釉 19世紀代~幕末



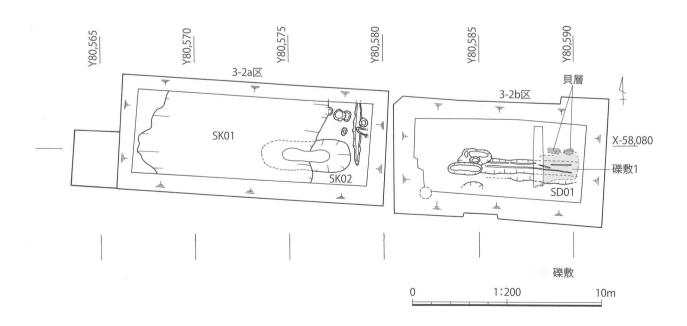
第47図 3-2区 第1面遺構外出土遺物 (1:3)

## 2) 第2面 (第48図)

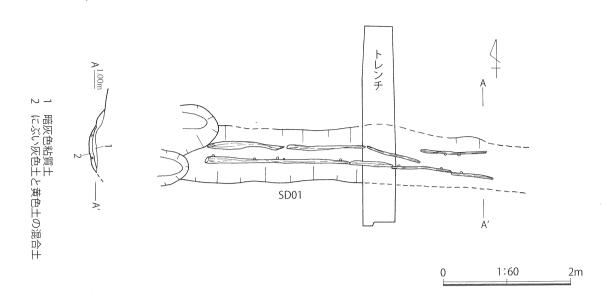
標高1.1~1.3mで検出した遺構面で、3層を基盤とする。3-2a区では遺構面の大半が第1面の大型土坑 SK01によって壊されていた。3-2b区では西側が現代井戸や撹乱に壊される部分が多く、本来は全面に遺 構が分布していたものと思われる。土坑1基、溝1条を検出した

## SK02 (第48図)

3-2a区の東側に位置する土坑である。遺構の西側は土坑SK01によって壊されている。規模は東西2.0m



第48図 3-2区 第2面全体図 (1:200)



第49図 3-2b区 SD01実測図 (1:60)

以上、南北1.9m、深さ0.5mを測る。遺構の下端の検出長が東西2.5mを測ることから、上端の東西長4.7mの長楕円形の土坑が推測される。下層部で有機物層の堆積が確認される。

埋土から陶磁器類が出土しているが、砕片のみで図化していない。

### SD01 (第48・49図、図版14)

3-2b区に位置する東西方向の溝である。主軸方位は $N-88^\circ-W$ である。西側は後世の土坑に壊され消滅している。調査区の東側に続くと考えられる。規模は長さ4.5m以上、幅 $0.8\sim1.0$ m、深さ0.2mを測る。断面は浅い皿状をなし、北側の肩が後述の土坑SKO3の南肩を壊している。

溝の底面で、丸太材が2列に平行するように並べられていた。丸太材は直径約10cmで、1mほどの長さで並べられ、内側には丸太を固定したと考えられる直径3cm前後の杭が打ち込まれていた。底面が東側に向かってやや傾斜していることから、流水に関係する性格をもつ遺構と考えられる。

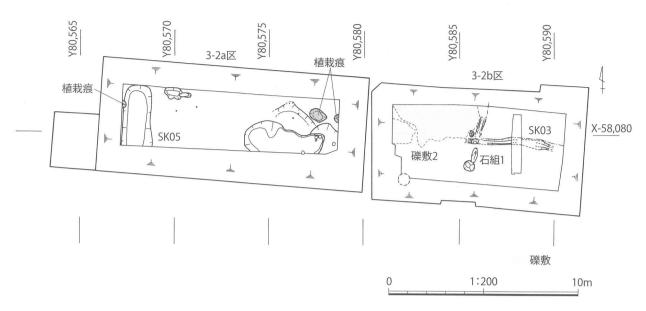
出土遺物は、総数17点、総重量2,485gである。材質別では、木質遺物17点である。 時期を判定する遺物は出土していないが、検出面から、概ね18~19世紀代と考えられる。

## 3)第3面(第50図)

標高1.0~1.1mで検出した遺構面で、4層を基盤とする。調査3-2b区では南西部が現代井戸で破壊された部分があり、調査3-2a区では第1面の大型土坑SK01により遺構面の7割近くが消失していた。土坑1基、石組1基、礫敷き、植栽痕を検出した。

SK03 (第50·51図、図版13·14)、遺物 (第52~54図、図版52·53)

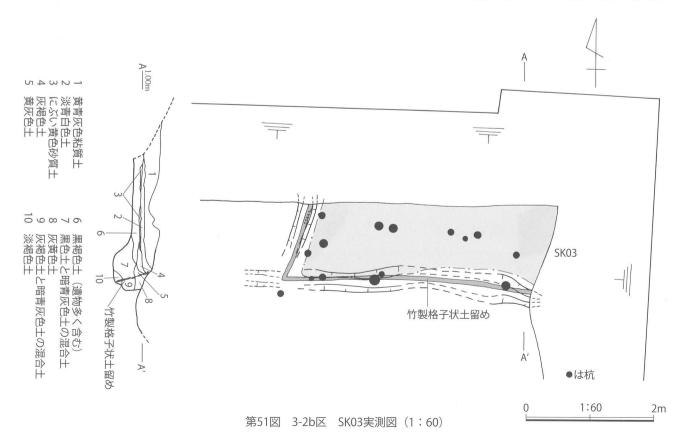
3-2b区の北東部に位置する土坑である。平面形は方形をなし、調査区の東と北へ広がる。南側の肩は

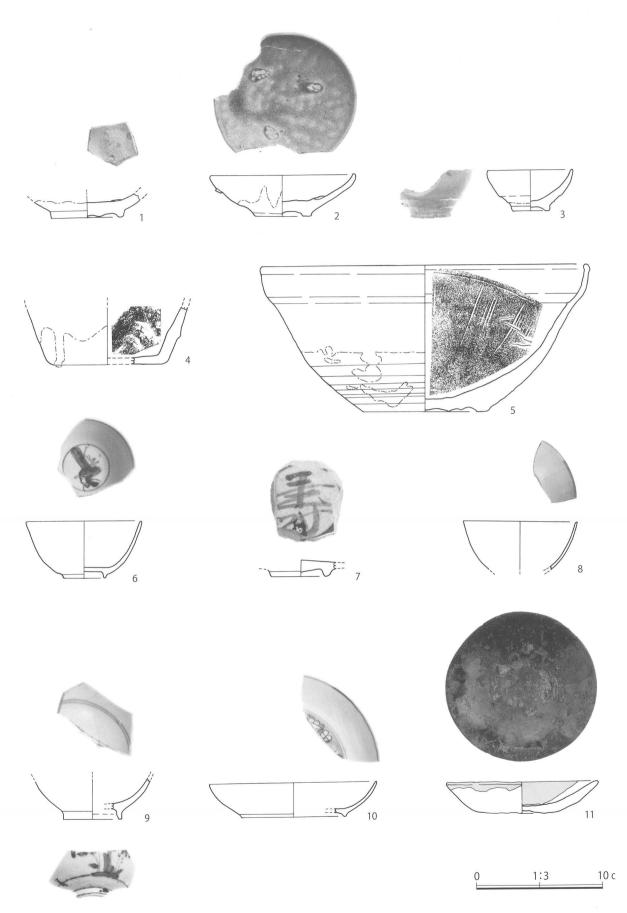


第50図 3-2区 第3面全体図 (1:200)

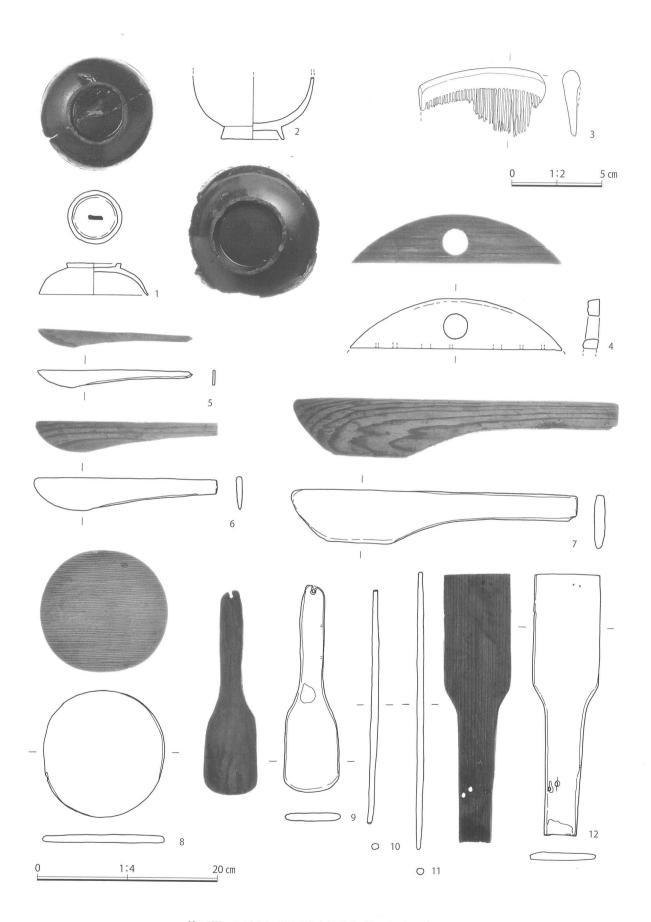
前述のSD01に壊される。規模は東西4.8m以上×南北1.8m以上、深さ約0.2~0.3mを測る。

埋土は、遺物や有機物を多く含む黒褐色土(4層)で、底面を精査すると、木杭及び杭跡が約20カ所検出された。遺構の縁辺部を巡ると考えられるものも見られたが、はっきりとした規則性は見出せなかった。当初は廃棄土坑と考え調査を進めていたが、南辺と西辺に沿って竹製格子状土留めが検出された。遺





第52図 3-2b区 SK03出土遺物1(1:3)



第53図 3-2b区 SK03出土遺物2(1:4、1:2)

構の壁側に幅30~40cm、深さ60cm前後の溝を掘り、その掘方内に直径約1cmの竹を突き刺し、その竹を支えにして横に竹を積み重ねるようにして置き、黒色土、暗青灰色土、灰褐色土の混合土で埋められていた。竹は結束されず、60cmほどの長さに揃えられていた。この土留めの竹は遺構の内側へやや傾いている。全容が把握できないため、性格は不明であるが、貯水施設の可能性が考えられる。SKO3は、廃絶した後に廃棄土坑として利用された遺構と考えられる。

埋土からは陶磁器・木製品などが多数出土している。

出土遺物は、総数458点、総重量28,602gである。材質別では、陶磁器類58点(陶器9、磁器9、土師器39、土器1)、木質遺物397点、金属製品2点、動物遺存体1点(貝1)などである。

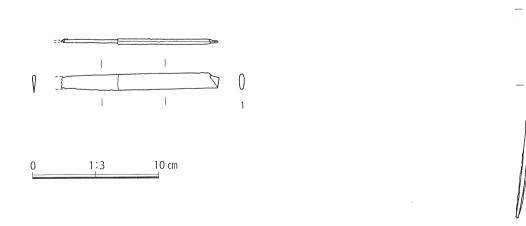
第52図1~5は肥前系陶器である。 1 は碗である。焼成不良の可能性がある。 2は皿である。九陶 I - 2 期。 3は小坏である。九陶 I - 2 期。 4は瓶である。外面は腰部まで施釉し、内面には同心円タタキ痕が残る。九陶 I - 1 期。 5は擂鉢である。九陶 I 期。 6~10は中国磁器で、 6~9は碗である。

7の見込みには「寿」の染付が施される。10は皿である。高台内面にトビカンナがみられる。11は京都系土師器の皿である。口縁内外面に油煙が付着しており、灯明皿として使用された可能性がある。

第53図1は漆碗の蓋である。つまみ内に赤で「一」の文字がある。2は漆碗である。内外面とも黒漆塗。 3は櫛である。4は桶の蓋である。直径2.7㎝の栓の穴がある。5~7は箆である。8は曲物の底板である。 9は箆である。持手部に直径3㎜の小孔がある。10・11は箸である。12は羽子板である。板材の転用と 思われる。

第54図1は小柄である。鉄製の刃部に銅板で包まれたグリップ部を持つ。グリップ上部に銅板合わせ部がある。2は鉄・銅製の針である。全長17cmの大きな針で頭部に糸を通す小孔を持つ。畳針か。図化した遺物は17世紀前半代を示しているが、混入品も含むものと思われる。

前述のSD01に壊されていることや検出面から、概ね17世紀後半~18世紀代の遺構と考えられる。



第54図 3-2b区 SK03出土遺物3(1:3)

表27 SK03出土土器観察表

挿図 番号	出土位置	材質	器種	器形		法 量	(cm)		重量	生産地	九陶	備考
留写	加重				口径	底径	器高	その他	残存率		編年	, and a second
52-1	SK03	陶器	碗		-	5.6	>1.8		65g 30%	肥前系	I -1	見込部:胎土目積痕3ヶ所 底部:土見せ 二次焼成(焼成不良の可能性あり)
52-2	SK03	陶器	ш		11.5	4.4	3.2		122g 80%	肥前	I -2	内外面:施釉 見込部:胎土目積痕3ヶ所 底部:土見せ
52-3	SK03	陶器	小坏		6.8	2.9	3.2		18g 40%	肥前	I -2	内外面:施釉 底部:土見せ
52-4	SK03	陶器	瓶か		12.6	9.3	4.5		58g 20%	肥前	<b>I</b> I −1	外面:腰部まで施釉 内面:無釉 同じ円紋が残る
52-5	SK03	陶器	擂鉢		26.0	9.8	11.6		850g 50%	肥前		口縁外面:施釉 内面:よく使いこまれ、擂目単位7本がわずかに残る ロクロ成形 底部:焦げ跡が残る 高台内:炭化物付着(擂鉢の後、鍋として使われたか) 17世紀前半
52-6	SK03	磁器	碗		8.9	2.8	4.5		44g 50%	中国		口線端部、内外面、高台外面に圏線 内面底部:染付 畳付:無釉、砂粒付着
52-7	SK03	磁器	碗		-	4.7	>1.3		31g 10%	中国		見込み:「寿」の染付 高台:無釉
52-8	SK03	磁器	碗		9.0	-	>4.0		15g 40%	中国		外面:焼成時の亀裂あり 口縁端部・内外面:圏線が巡る
52-9	SK03	磁器	碗		-	4.6	>3.2		28g 20%	中国		内面: 圏線2本が巡る 畳付: 無釉
52-10	SK03	磁器	ш		13.1	8.2	2.7		17g 40%	中国		口縁内外面: 圏線が巡る 内面底部: 染付 高台内面:トビカンナが巡る畳付: 無釉、砂粒付着
52-11	SK03	土師器	ш		12.0	4.2	2.5		122g 100%	京都系		手づくね 口縁内外面:油煙付着 内面底部:付着物あり

## 表28 SK03出土木製品観察表

1020	ЭКОЭЩ_	T-/1/42/11	山山木北							
挿図	出土				法	量 (cm)			<b>素</b> 阜	
番号	位置	種類	名称·部位	長さ (口径)	幅	高さ (器高)	その他	木取	重量 残存率	備考
53-1	SK03	漆椀	蓋	12.0	-	(3.5)	つまみ径6.0			: 内外面: 黒漆 つまみ内: 赤で文字あり「一」
53-2	SK03	漆椀		-	-	(7.1)	底径7.0		137g 70%	内外面:黒漆
53-3	SK03	櫛		>4.5	>6.9	-	厚1.0		10g 70%	歯の間隔が密である梳櫛
53-4	SK03	桶	蓋	23.4	5.6	-	厚1.2~1.6	板目	127g 30%	
53-5	SK03	箆		17.2	0.7~1.9	-	厚0.25	柾目	6g 100%	刃部長3.9cm 片刃
53-6	SK03	箆		20.2	1.6~3.6	-	厚0.6	板目	28g 100%	刃部長5.8cm 両刃
53-7	SK03	箆		31.8	2.8~5.9	-	厚1.1	板目	139g 100%	
53-8	SK03	曲物	底板	φ 14.0	-	-	厚0.8	柾目		周囲を平均3cm間隔で目釘穴及び目釘が12ヶ所残る
53-9	SK03	箆		23.0	2.7~6.2	-	厚0.8	板目		持手部: φ3mmの小孔 持手側面:目釘穴2ヶ所 面:焦げ痕
53-10	SK03	箸		25.8	-	-	径0.7~0.8	柾目	10g 100%	白木
53-11	SK03	箸		30.8	-	-	径0.6~0.7	柾目	10g 100%	白木
53-12	SK03	玩具	羽子板か	29.0	3.5~7.3	-	厚0.8	柾目		上端部焦跡あり 釘穴2ヶ所 目釘穴2ヶ 所 目釘2ヶ所 板材転用か

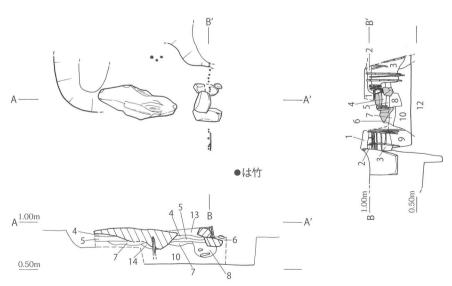
表29 SK03出土金属製品観察表

挿図 番号	出土 位置	種類	材質	法 量 大きさ (cm)	重 量 残存率	備考
54-1	SK03	小柄	鉄•銅	全長>12.4/刃部長4.4/握部長8.0/幅1.3/厚0.4		鉄製の刃部に銅板で包まれたグリップ部を持つ グリップ上部に銅板合わせ部がある
54-2	SK03	針	鉄•銅	長17.0/胴径0.4		全長17cmの大きな針で頭部に糸を通す小孔を持つ 畳針か

### 石組1 (第50·55図、図版18)

3-2b区に位置する。前述の土坑SKO3の南西隅部外側に配置された石組である。幅15cm、長さ25~30 cmほどの長方体の石3個を用いて作られた石組と、やや離れて長さ80cm×幅40cmの細長い石1個を検出 した。石材はいずれも大海崎石である。

石組は、基盤層の青灰色土を幅50cm、深さ10cmに掘り込み、そこへ長方体の石2個を内幅15cmで縦に 平行に並べ、その上に横位に1個を乗せている。暗渠のような形を成すことから、水の出入り口として設 置された可能性が考えられる。石組の0.2mほど南側にある細長い石は、石組に向かって長軸を示すよう に据えてあった。土坑SKO3を貯水施設と仮定するならば、その隅部に設置され、暗渠状に組まれた石組 の開口部が土坑SKO3に向かっていることを勘案すれば、石組1はSKO3に付随する遺構の可能性が高いと 考えられる。



- 淡黄灰色土 (ブロック混り)
- 第1層と第3層の混合土
- オリーブ灰色粘質土 (砂質をやや含むが粘性が強い) オリーブ灰色砂質土
- 淡灰色砂質粘土(砂粒大きめ)
- 灰色砂質土
- 明灰白色砂質土(黒色ブロック含む)
- 灰色+褐色ブロックの粘質混合土 (礫含む)
- 9 灰色+淡灰色+黒色ブロックの混合土

- 10 青灰色シルト
- 灰色+淡黄灰色の粘質斑層(土坑埋土) 11
- 黒褐色粘質土(自然堆積層)
- 茶灰色砂質粘土 (ブロック含む) 13
- 14 灰色+茶灰色砂質粘土

1:40 2<sub>m</sub>

第55図 3-2a区 石組1実測図 (1:40)

### 礫敷き2 (第50図、図版17-2)

3-2b区の北西部に位置する。東西4.5m×南北2.0mの範囲で検出した礫敷きである。調査区の北と西への広がりを示す。東側は前述のSK03に接する。ほとんどが円礫で、礫の敷き詰め状況は粗密や凹凸がある。周辺の軟弱な地盤の地固めとして敷かれたものと考えられる。また、SK03に接して敷かれていることから、SK03に付帯する施設の可能性も考えられる。

摩耗の激しい須恵器片が数点見つかっているが、礫の採集時に混入したものと思われる。

### 植栽痕 (第50図)

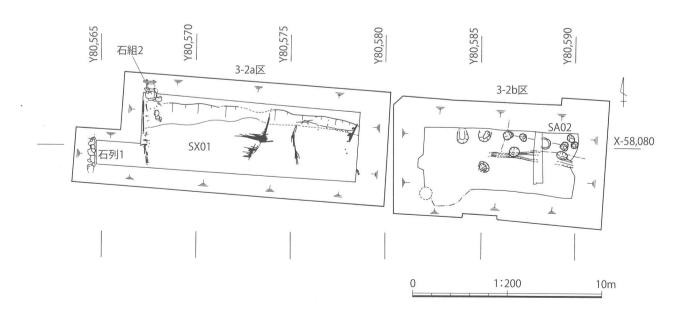
3-2a区で、数カ所の植栽痕を検出した。造成土を掘り込み、植栽した後、盛土を乗せている。周辺には不整形な浅い落ち込みが検出された。庭木の可能性が高い。

### 5)第4面(第56図)

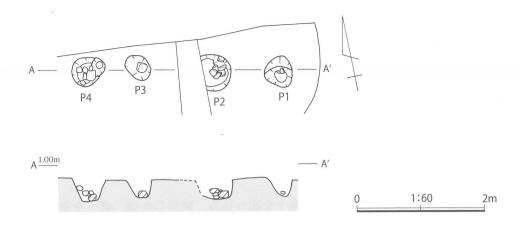
標高0.8~0.9mで検出した遺構面で、A層を基盤とする。柱穴列1基、石列1基、石組1基、不明遺構1 基を検出した。このうち、不明遺構は3-2a区の全域を占めるもので、第3面とは様相が一変する。3-2b区では、南西部の一部が現代井戸で破壊されていた。

### SA02 (第56・57図)

3-2b区の北東部に位置する柱穴列である。4穴を検出した。柱間 $0.9\sim1.1$ mで3間 (3.0m)の規模である。調査区の東と北へ広がる可能性がある。主軸方位は $N-80^\circ-W$ である。柱穴は直径 $0.4\sim0.6$ mの不整円形で、深さ $0.25\sim0.3$ cmを測る。各々の柱穴の底面上からは拳大の礫が検出された。根石と考えらえる。



第56図 3-2区 第4面全体図 (1:200)



第57図 3-2b区 SA02実測図 (1:60)

出土遺物は、総数5点、総重量181gである。材質別では、瓦1点、木質遺物4点などがある。 時期を判定する遺物は出土していない。

### 石列1 (第56・58図、図版19-1・2)

3-2a区の南西部に位置する。試掘調査(MJR188)で確認された石列で、調査区を拡張して調査した。 南北方向に約2.0m分検出した。主軸方位はN-4°-Eである。石材は長さ30 $\sim$ 40cm、厚さ20 $\sim$ 30cmの 大海崎石を使用し、標高1.1mまで2 $\sim$ 3段積み上げている。調査範囲内での裏込め石は見受けられなかっ た。石はすべて屋敷内である東側に面をもって作られている。

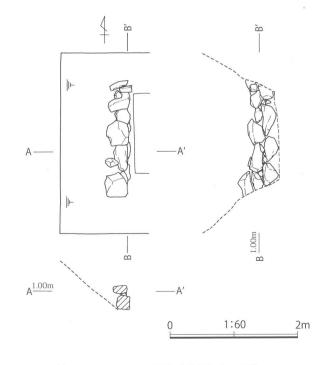
調査区の北で実施された立会調査 (MJR215) で、この石列1の延長部分と考えられる石列が確認されている。また、前述の3-1区で検出された石列3と

同方向の延長上にあることから、石列は現道路に沿って南北方向に延び、南は城山北公園線の角地まで至っているものと思われる。

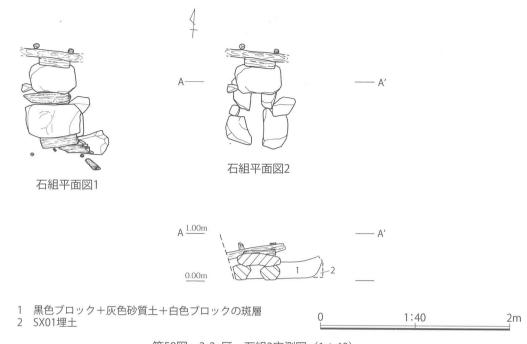
構築時期は、検出面から17世紀前半代と推定されるが、確定できる資料に乏しい。

### 石組2 (第56・59・60図、図版19-3)

3-2a区の北西隅部に位置する石組である。石はすべて大海崎石である。長さ50~60cm、幅20~30 cm、厚さ15cm前後の石が15~20cmの間をもって平行に並べられ、上面には長さ50~60cm、幅20~30 cm、厚さ10cm前後の平たい石2個が蓋石として据えてある。



第58図 3-2a区 石列1実測図 (1:60)



第59図 3-2a区 石組2実測図 (1:40)

正面から見ると、暗渠状に組まれている。蓋石の間には横木が埋め込まれていた。そのうちの1つは上部が削られ、平らな面を作っている。石と石の間には支えと考えられる杭が打たれていた。石組は北方向に緩やかに上がる階段状を示している。調査区外に続くものと考えられるが、詳細は不明な部分が多い。暗渠状に組まれた形と緩い傾斜をもって造られていることなどから、導水施設の可能性が考えられる。

### SX01 (第56·60図、図版20~22)

3-2a区に位置する。調査区のほぼ全域を範囲とする遺構で、北壁に沿うような形で平面プランが検出された。調査区の東西側と南側へ続いている様相を示し、東西12.0m以上×南北3.5m以上の規模になる。東側は調査2b区に続くようであるが、3-2b区の西側に作られた現代井戸によって、東端部は不明である。深さは0.3~0.8mを測り、底面は北から南に向かって落ち込む。

10~20cm掘り下げたところで、竹組を4カ所検出し、東から竹組1・2・3・4とした。

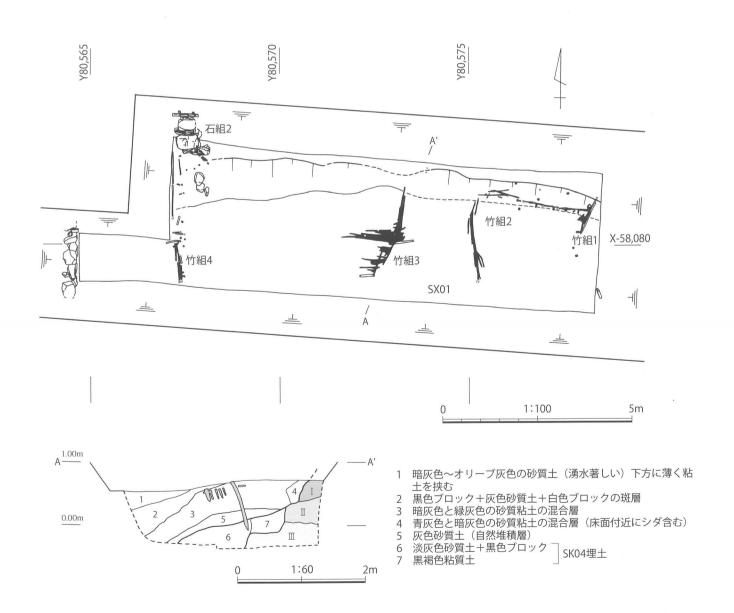
竹組1は、東端部に位置する。掘方の壁からやや西側に張り出し気味に、2~3段の竹の重なりが南北に1.0mほど続いている。竹に沿って約0.4m間隔で支えの杭が打ち込まれている。竹組2は、東寄りに位置する。2~3段の竹の重なりで、支えの杭が打ち込まれている。北側の掘方壁に沿って東西方向に約3.0m延び、その西端からほぼ直角に南に向かって2.2mほど進み、さらに調査区外に続くようである。竹組3は、ほぼ中央に位置する。南北方向の軸をもつ。直径2cm前後の竹を約5cm間隔で突き立て、上部に長さ1.0~2.0mの横竹を1~2段沿わせている。その間を直径5cm前後、長さ1.0mほどの木杭でまばらに補強しているようである。この竹組は4ヶ所中最も密に竹を立ててある。竹は底面上に堆積する5層から突き立てられたものと思われ、底面にあわせて遺構の北側ほど竹の長さが短くなっている。一部が西側になぎ倒されていたが、復元長は約2.5mを測り、さらに調査区の南側へ続くと思われる(図版22-1・2)。竹

組4は、西側に位置する。南北方向に延び、北側の一部は西壁内に入る。上述の竹組等と類似した形態である。調査区の北・南側に続くものと思われる。

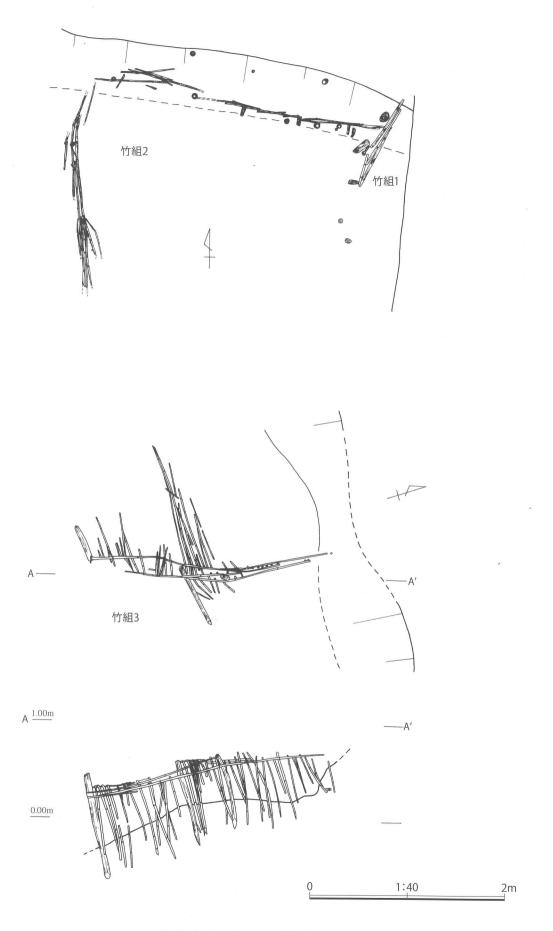
竹組間の埋土は、竹組1以東は緑灰色シルト質土、竹組1~2の間は山土と考えられる黄橙色土で、南側は非常に粘性の強い泥に近い埋土である。竹組2~3の間は下層に緑灰色シルト質土が入り込む黄橙色土、竹組3~4の間は灰色細砂(Ⅱ層)と暗青灰色粘質土(Ⅲ層)の混合土である。

竹組はSX01を区画するような配置をもって作られている。それはまた、遺構の性格に関係するものと 考えられるが、全様が把握できないため、現状では不明遺構とした。

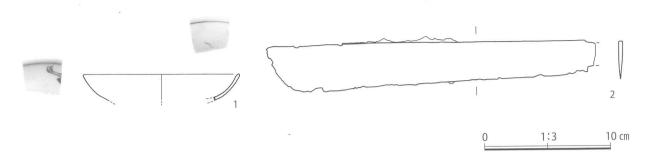
時期を判定する遺物は出土していないが、検出面から概ね17世紀前半代の遺構と考えられる。



第60図 3-2a区 SX01・石組2実測図(平面1:100 断面1:60)



第61図 3-2a区 SX01竹組実測図 (1:40)



第62図 3-2区 第4面遺構外出土遺物 (1:3)

## 第4面遺構外出土遺物 (第62図、図版53)

第62図1は中国磁器の皿である。口縁端部・内外面に圏線が巡る。内面に鳥の染付。2は鉄製の短刀である。刀身は薄く、両刃で茎部は破断している。包丁の可能性もある。

表30 第4面遺構外出土土器観察表

挿図	挿図 出土 材質 番号 位置 材質		器種	器形		法 量	t (cm)		重量	生産地	九陶	備考
番号	位置	彻县	1001年	TH 712	口径	底径	器高	その他	残存率		編年	
62-1	遺構外	磁器	ш		12.3	w.	>2.1		5g 10%	中国		口縁端部・内外面: 圏線が巡る 内面: 鳥の染付

### 表31 第4面遺構外出土金属製品観察表

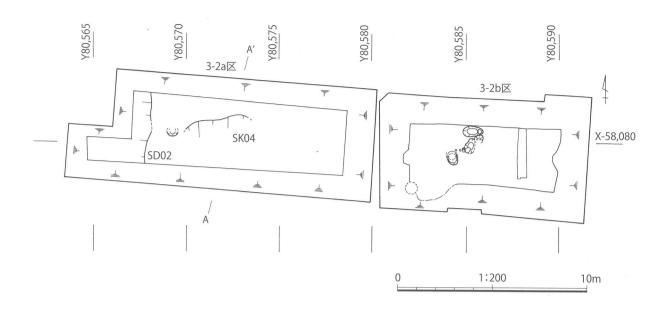
挿図 番号	出土 位置	種類	材質	法 量 大きさ (cm)	重 量 残存率	備考
62-2	遺構外	短刀	鉄	全長>25.8/刃部長25.0/最大幅3.6/厚0.3	99g 90%	薄形両刃で、包丁の可能性もある

### 6)第5面(第63図)

標高0.5~0.6mの I 層上面で検出した遺構面で、第4面の遺構に壊された部分があるため、遺構密度は低い。3-2a区で土坑1基、溝1条を検出した。

## SK04 (第63·64図)、遺物 (第64図、図版53)

3-2a区の中央に位置する。第4遺構面の不明遺構SX01の底面で検出した遺構である。SX01が広範囲にわたっていたため、遺構の大部分が破壊を受けて不明であるが、上端の東と西で内側に入る形状がみられたため、土坑と判断した。検出標高は0.4mでII 層にあたるが、前述のように上部がSX01に破壊されたものと考えられることから、本来はI 層あるいはそれ以上の面から堀り込まれた可能性がある。検出長は東西3.5m、南北約2.0mを測るが、規模はそれ以上が推測される。底面は南へ向かって落ち込む様相がみられたが、湧水と南壁崩落の危険が生じたため、標高-0.3mで掘り下げを停止した。埋土は、I 層とII 層



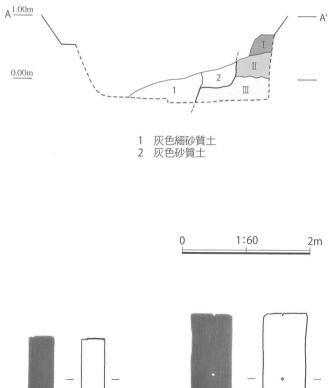
第63図 3-2区 第5面全体図 (1:200)

がブロック状に混合したものである。

出土遺物は総数2点、総重量19gである。木質遺物2点である。

第64図1・2とも不明品である。板材を転用したもので、端部を鋭く加工している。2は板面中心部に径0.2mmの小穴があり、切断部にも同様の小穴がみられる。

時期を判定する遺物が出土していない ため、検出面から17世紀前葉またはそれ 以前と推定される。



第64図 3-2a区 SK04土層断面図・出土遺物実測図(断面1:60、遺物1:4)

表32 SK04出土木製品観察表

挿図	出土	rac.	2 th 如 小		法 量	(cm)			重量			
番号	位置	種類	名称•部位	長さ (口径)	幅	高さ (器高)	その他	木取	残存率	備考		
64-1	SK04	不明品		13.0	2.4		厚0.2	不明	5g 100%	端部:鋭く加工 板材転用		
64-2	SK04	不明品		15.5	4.6		厚0.2	不明		板面中心部にφ0.2mmの小穴あり 切断部:小穴あり		

### SD02 (第63図、図版23-2)

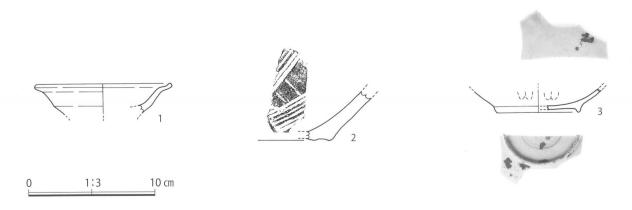
3-2a区の西端部に位置する溝である。標高0.7mの I 層上面で検出した。拡張部の石列1の調査時に、掘方底面と西肩部の確認を試みたが、湧水に阻まれ、壁崩落の危険も生じたため調査を停止した。現時点で底面と西肩部は確認していない。規模は南北に4.0m、拡張部西壁面まで約3.0mを測る。

南と北の調査区外へ続くことから、それ以上の規模が推測される。東肩のラインは西側を走る道路(南北)と平行する。北壁の西端部を深掘りして落ち込み状況を確認したところ、西側へ向かって落ち込み、標高0.0m付近で平坦面をなすが、さらに西へ落ち込む様相がみられた。標高-0.1mまでの落ち込みを確認した。また、東の肩部から底部に向かって、壁面にウラジロ(シダ類)が検出された。埋土は I 層と II 層をブロック状に含む混合土で、埋土から遺物は出土していない。

全容は把握できなかったが、SD02はその規模と位置関係から、城下町遺跡の調査で確認されている素掘りの大溝と考えられる。素掘りの大溝は、城下町造成の初期段階に屋敷地を区画しながら掘削される溝で、現道路に沿う形の位置にあると考えられている。SD02の東肩は調査区の西側を走る南北道路の東端から約5mにあたることから、溝幅は3.0m以上と推定される。なお、北に隣接して実施された立会調査(MIR168)において、SD02の東肩の延長部分を検出している(第151図)。

### 第5面遺構外出土遺物 (第65図、図版53・54)

第64図1は瀬戸焼陶器の皿である。2は産地不明の陶器の擂鉢である。擂目の単位は6本。3は中国磁器の青花皿である。高台内に染付。畳付は無釉で砂粒が付着する。



第65図 3-2区 第5面遺構外出土遺物(1:3)

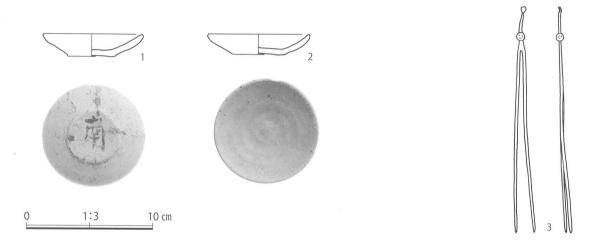
表33 第5面遺構外出土土器観察表

挿図	出土	材質	器種	器形		法 量	(cm)		重量	生産地	九陶	/# #
番号	位置	77 具	有許行里	有許月ン	口径	底径	器高	その他	残存率	土厓地	編年	備考
65-1	遺構外	陶器	ш	折縁形	5.8		>2.4		15g 30%	瀬戸		内外面:施釉 17世紀初め
65-2	遺構外	陶器	擂鉢		-	-	>3.9		44g 10%			内面:擂目単位6本
65-3	遺構外	磁器	ш	菊形	-	6.3	>1.8		18g 30%	中国		高台内:染付 畳付:無釉、砂粒付着

## 7) その他の遺構外出土遺物 (第66図、図版54)

近現代の盛土層および撹乱層から出土した遺物のうち、重要と思われるものを掲載した。

第66図1~3は3-2b区の近現代層から出土したものである。1は土師器の皿である。2枚が拝み合わせで埋められていた土師器の上側の皿である。底面に「南」の墨書がある。2は土師器の皿である。上述の土師器の下側の皿である。1・2は地鎮のために埋められたものと思われる。3は真鍮製の簪である。頭部は耳かきとなっており、分岐部に球を飾りとしている。



第66図 3-2区 その他の遺構外出土遺物 (1:3)

表34 その他の遺構外出土土器観察表

挿図	出土	材質	器種			生産地	九陶	備考					
番号	位置	初貝	有計工生	五百月ン	口径	底径	器高	その他	残存率	土厓地	編年	備考	
66-1	遺構外	土師器	ш		7.9	3.7	1.8		44g 100%			土師器皿2枚が拝み合わせで埋められていた 上側の皿 底面に「南」の墨書あり 底部:回転糸切痕 66-2とセット	
66-2	遺構外	土師器	ш		8.0	4.1	1.6		40g 100%	在地系		土師器皿2枚が拝み合わせで埋められていた 下側の皿 底部:回転糸切痕 66-1とセット	

表35 その他の遺構外出土金属製品観察表

挿図 番号	出土 位置	種類	材質	法 量 大きさ (cm)	重 量残存率	備考
66-3	遺構外	簪	真鍮	長17.9	10g 100%	頭部は「耳かき」となっており、分岐部に球を飾りとしている

### 8) 小結

本調査区で確認された遺構は、表36のとおりである。

第1面は、標高1.4~1.5mに位置する。2層を基盤とする19世紀~明治初めにかけての生活面と考えられる。SAO1が確認された。小屋などの簡易的な建物が想定される遺構である。また、3-2a区でSKO1が確認された。性格不明ながら、最終的に廃棄土坑となった大型の土坑で、生活雑器とともに多量の瓦が埋められる。

第2面は、標高1.1~1.3mに位置する。3層を基盤とする18~19世紀初めの生活面と考えられる。SK02 やSD01が確認された。第2面は、遺構面のほとんどが後世の遺構による破壊を受けている。

第3面は、標高 $1.0\sim1.1$ mに位置する。4層を基盤とする17世紀後半 $\sim18$ 世紀代の生活面と考えられる。3-2a区で浅い土坑と植栽痕が点在している。3-2b区でSKO3と石組1が確認された。SKO3は、貯水施設の可能性が考えられ、石組1と西に広がる礫敷2はSKO3に付随するものと思われる。

第4面は、標高0.8~0.9mに位置する。A層を基盤とする17世紀前半代の生活面と考えられる。SA02、SX01、石組2が確認された。3-2a区のSX01は、調査区の広範囲を占める規模で、竹組で作られた区画をなし、貯水施設等の性格が考えられる遺構である。また、3-2a区の西端部で、南北方向の石列1が確認された。3-1区の調査と立会調査から、南と北に延びるものと考えられる。3-2b区のSA02は、北側に広がる建物の一部と考えられる。

第5面は、I層上面にあたり、17世紀前葉または城下町造成最初期に相当するものと考えられる。3-2a 区でSK04とSD02が確認された。SD02は中3.0m以上、深さ0.8m以上の規模をもつ溝で、道路に沿った その位置から、堀尾氏による城下町造成の初期段階で掘削される素掘りの大溝と考えられる。

遺構面	検出標高(m)	時期	検 出 遺 構
第1面	1.4~1.5	19 世紀~明治初め	SA01 SK01 植栽痕
第2面	1.1~1.3	18~19 世紀初め	SK02 SD01
第3面	1.0~1.1	17世紀後半~18世紀代	SK03 石組 1 礫敷き 2 植栽痕
第 4 面	0.8~0.9	17 世紀前半代	SA02 石列 1 石組 2 SX01
第5面	0.5~0.6	17 世紀前葉	SK04 SD02

表36 3-2区検出遺構一覧

### 3.3-3区

#### 1)調査の概要と土層堆積状況(第35・67・69図)

調査地は第3ブロックの中央南側に位置する。南側は城山北公園線に接している。最近まで島根行政評価事務所が所在していた区画にあたる。江戸時代には上級武士の屋敷地であった。出入り口は絵図から、江戸時代を通じて南向きであったと考えられる。

調査区はこの屋敷地の出入り口である南側にあたる。調査区を分断するように南北に側溝が走っていた。この側溝を境に調査区を西側と東側に分け、東側はさらに調査の都合上、東側調査区・中央調査区・中央北調査区と3分割し、平成20年度に西側→東側→中央と調査し、平成21年度に中央北の調査を実施

した。報告書作成にあたり、側溝より西側を3-3a区、東側を3-3b区としてまとめた。なお、3-3a区は行政区画上は殿町であるが、母衣町の遺跡名を付して扱っている(第67図)。

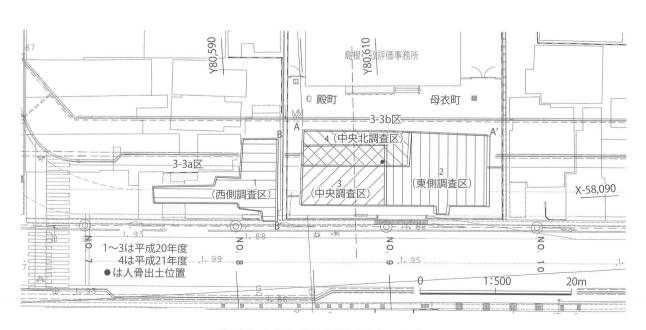
調査区は、調査前、民家や公的機関の建物が存在していたところであり、明治期には松江憲兵分隊が、後には島根行政監察局(島根行政評価事務所)が置かれたところである。調査区はこうした近代以降の撹乱を大きく受けていた。撹乱は、標高2.0~2.1mの地表面から深さ1.4mまで及ぶ場所もあった。標高1.5m前後で、建物跡・来待石製水路・土坑・埋設桶等を検出したが、これらはほとんどが近代以降に相当するものであった。幕末期の遺構も含まれると考えられたが、撹乱と近現代遺構と混在する状況で判別し難く、遺構面として掲載していない(図版24-2・3)。

平成20年度の調査(旧中央調査区)で、東壁付近を重機で掘り下げていたところ、人骨が検出された。 壁面を精査したところ、土坑を検出した。壁を拡張して土坑及び人骨の出土状況を調査した。土坑は標高1.2mに位置し、前述の憲兵隊建物基礎の下にあたる。南側が重機で掘削されたため正確な規模は不明であるが、東西1.9m、南北0.7m、深さ0.2mを測る。人骨は土坑の検出範囲のほぼ中央で出土しているが、頭蓋骨のみであった。頸部以下は掘削時に破壊されたものと思われ、頭蓋骨の位置から、遺骸は北位に置かれていたものと推察される。土坑はこの遺骸の埋納坑と考えられる

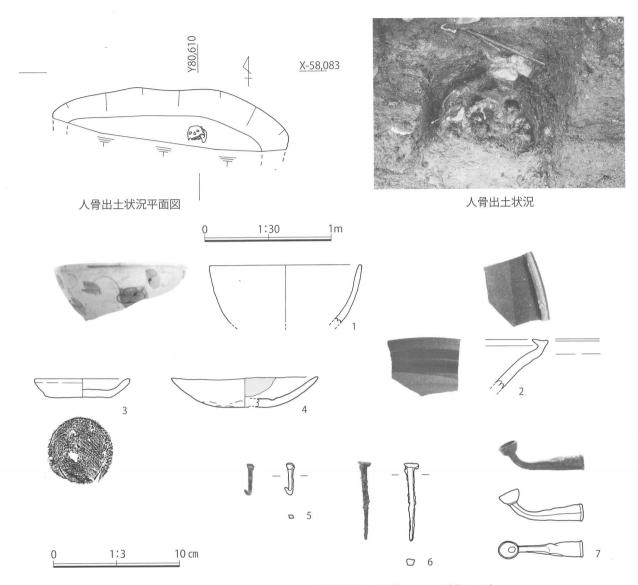
埋土からは、土器破片や釘などが若干出土している(第68図、図版35-2)。

第68図1は肥前系磁器の碗である。九陶Ⅲ期。2は肥前系陶器の擂鉢である。九陶Ⅲ期。3は在地系 土師器の皿である。4は京都系土師器の皿である。手づくね成形で、見込みに強い回転ナデの痕が見られ る。内面に油煙痕が見られることから、灯明皿として使用されたものと思われる。5・6は鉄釘で、5は折 れ曲がっている。7は煙管の雁首である。17世紀後半から18世紀前半代に相当する。

出土遺物の様相は17世紀後半から18世紀前半代を示しているが、上述のように重機掘削中の検出であり、遺構面として捉えることができなかったため、時期は確定できない。



第67図 3-3区 調査区配置図 (1:400)



第68図 3-3区 人骨埋納坑・出土遺物実測図(遺構1:30、遺物1:3)

## 表37 人骨埋納坑出土土器観察表

L(J)	27 Y (B. Till) 10 Ind T T HI ROST 24											
挿図	出土	材質	器種	器形		法 量	(cm)		重量	生産地	九陶	備考
番号	位置	州貝	位工生	右合 バシ	口径	底径	器高	その他	残存率	エ/エ/こ	編年	Jin - 3
68-1	人骨 埋納坑	磁器	碗		12.0	-	>4.6		34g 20%	肥前系	Ш	外面:草j花染付 17世紀後半~18世紀
68-2	人骨 埋納坑	陶器	擂鉢		-	-	>4.0		39g 10%	肥前系	Ш	口縁のみ鉄釉 1650年~1680年
68-3	人骨 埋納坑	土師器	ш		7.5	5.2	1.5		34g 80%	在地系		底部:回転糸切
68-4	人骨 埋納坑	土師器	ш		11.6	4.0	2.3		48g 50%	京都系		手づくね 指頭圧痕あり

## 第38表 人骨埋納坑出土金属製品観察表

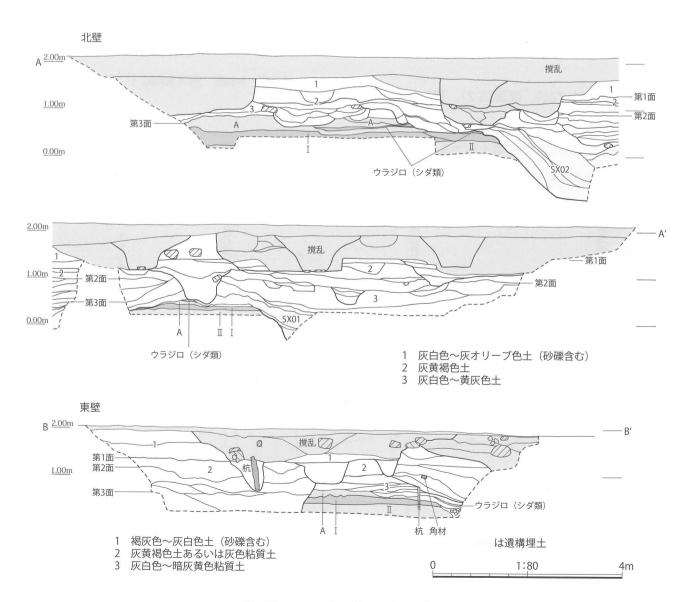
挿図 番号	出土 位置	種類	材質	法 量 大きさ (cm)	重 量 残存率	備考
				7100 (5)		
68-5	人骨 埋納坑	釘	鉄	長2.5/頭幅0.7/厚0.3		断面:方形 頭部:叩き伸ばし折り曲げ 先端:しの字状に曲がる
68-6	人骨 埋納坑	釘	鉄	長6.1/頭幅1.2/厚0.5	3g 100%	断面:方形 錆付着
68-7	人骨 埋納坑	煙管 (雁首)	真鍮	長6.7/火皿 φ 1.4~1.7/小口 φ 1.3	8g 100%	真鍮製煙管の雁首で側面に継ぎ目がある

標高約2.0mの地表面から約1.5m掘り下げると、標高 $0.4\sim0.5$ mで I 層に至る。この I 層を基盤として、初期造成土のA層が $0.1\sim0.3$ m堆積する。 I 層上およびA層内でウラジロ(シダ類)の堆積を検出した。ウラジロは $3\sim10$ cmの厚みで敷き詰められたような堆積を示し、主に3-3b区の広範囲で確認された。A層の上にさらに造成土が積み重ねられていく様相が見られ、 $1\sim3$ 層に大別できた。

1層は砂礫を多く含む灰白色~灰オリーブ色土を主体とし、層厚0.2~0.4mである。近現代の盛土層である。

2層は灰黄褐色土を主体とする。層厚0.1~0.4mで、2~3層に細分できる。この上面を第1面とし、検 出標高は1.3m前後である。形成年代は、出土遺物と検出遺構から17世紀半ば~後半代と推察される。

3層は灰白色~黄灰色土を主体とする。層厚0.2~0.4mで、2~3層に細分できる。この層はA層に掘り込まれた遺構の上層埋土に相当することから、基盤層としては捉えなかった。



第69図 3-3区 土層断面図 (1:80)

#### 第4章 本調査の結果

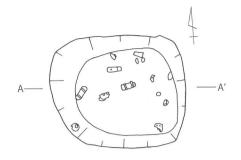
A層上面を第2面とし、検出標高は0.8mであ る。形成年代は、17世紀前葉~前半代と推定さ れる。

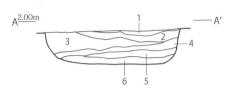
I 層上に敷き詰められたウラジロ(シダ類) 堆積面を第3面とし、検出標高は0.5~0.6mであ る。城下町造成直後に相当するものと考えられ る。(第69図)。

### 2) 第1面 (第70図)

標高1.3m前後で検出した遺構面で、2層を基 盤とする。3-3b区では、近現代の建物基礎や撹 乱によって遺構面が破壊された部分が多い。土 坑3基、石組水路1基、石列1基、礫敷き2ヶ所を 検出した。

SK01 (第70·72図、図版25-2)、遺物 (第73· 74図、図版54·55)





- 黒褐色土(微砂混り)灰白色粘土ブロック 暗褐色(微砂・小礫混り)灰白色粘土ブロック
- 黒褐色粘質土 植物繊維混り
- 4 暗褐色土 灰色ブロック混り 5 暗赤褐色土 (微砂小礫混り)
- 6 黒褐色粘質土

1:60 2m

第72図 3-3a区 SK01実測図 (1:60)

780,600 /80,580 780,590 X-58,080 SK02 3-3a⊠ SK01 X-58,085 礫敷 石組水路1 3 0 % 石組水路1 X-58,090 B' 1:200 10m

3-3a区の東側に位置する土坑である。平面形は隅丸方形をなす。規模は一辺2.0m前後、深さ約0.5mを

測る。底面はほぼフラットで、埋土は、黒褐色粘質土と暗褐色土が堆積する。

第70図 3-3区 第1面全体図1(1:200)

埋土から陶磁器・木製品・木片・食物残滓などが出土していることから、廃棄土坑と考えられる。

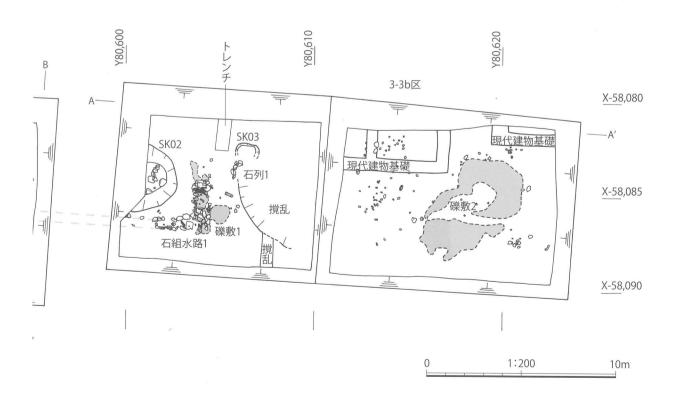
出土遺物は、総数188点、総重量9,288gである。材質別では、陶磁器類72点(陶器30、磁器7、土師器35)、瓦1点(丸1)、木質遺物105点、金属製品1点、動物遺存体6点(哺乳類1、鳥1、貝4)、自然遺物3点などがある。

第73図1は肥前系陶器の小杯である。九陶 I-2期。2は肥前系陶器の皿である。九陶 II 期。3は肥前系磁器の碗である。外面染付で焼成時の癒着痕が残る。九陶 II-2期(1650年前後)に相当すると思われる。4 は肥前系磁器の皿である。内面に線彫り文様がある。九陶Ⅲ期の初め頃と思われる。

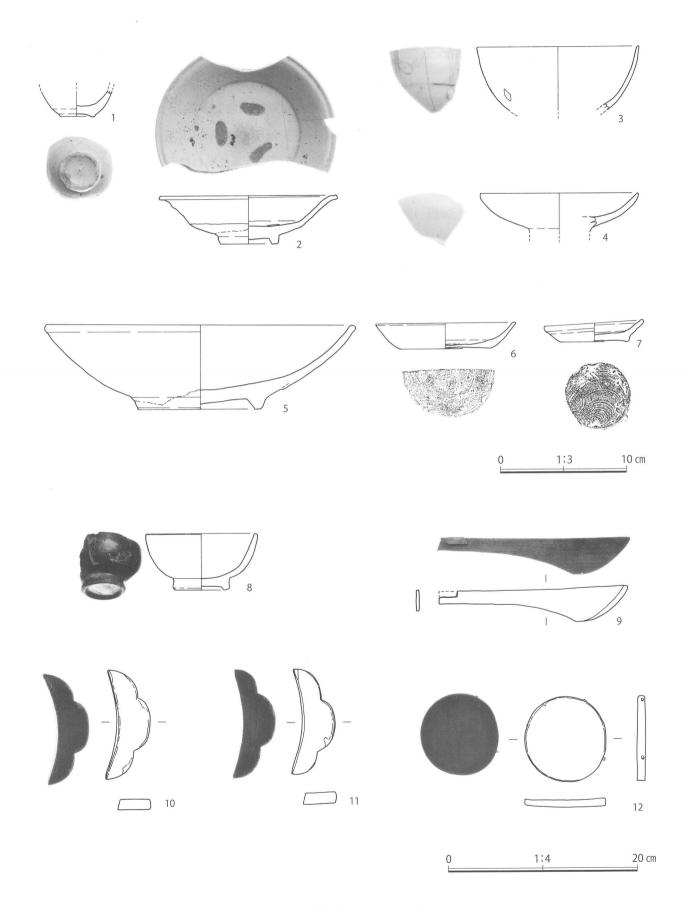
5は産地不明陶器の大皿である。全体に貫入が見られ釉がくすんでいる。17世紀半ば~後半に相当するものと思われる。6・7は在地系土師器の皿である。ロクロ成形で、底部には回転糸切痕が残る。8は漆椀である。外面は黒、内面は赤の漆塗りが施される。9は箆である。刃部は使用による摩耗痕が見られる。10・11は不明品である。椀もしくは蓋の取手の可能性も考えられる。12は柄杓の底板と思われる。

第74図1は丸型の差歯下駄である。前方鼻緒部分には指の跡が残っている。2・3は角型の連歯下駄である。3の表面には一部漆が付着している。4は木簡である。墨書は確認できない。5は板である。両面に墨書が確認できるが判読不明である。6は真鍮製の煙管の雁首である。火皿部分が欠落している。

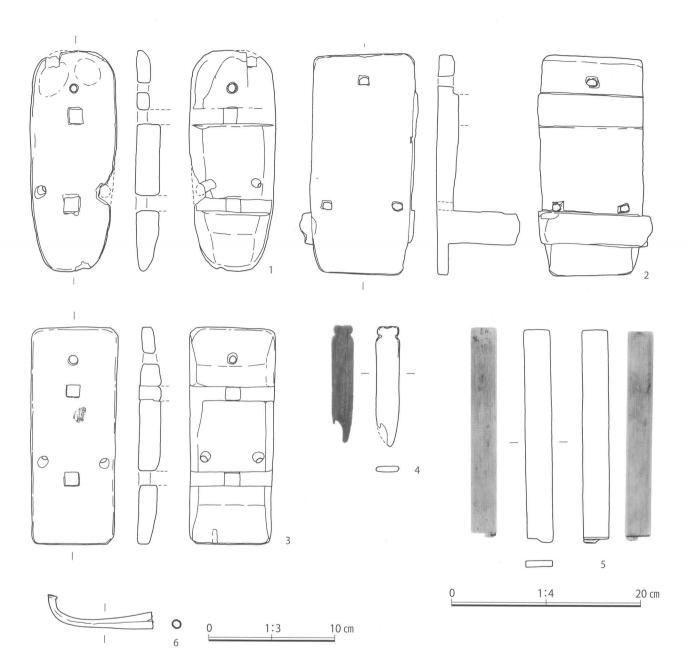
出土遺物は、17世紀前半代のものも含むが、概ね17世紀半ば~後半代を示していることから、この時期の遺構と考えられる。



第71図 3-3区 第1面全体図2 (1:200)



第73図 3-3a区 SK01出土遺物1(1:3、1:4)



第74図 3-3a区 SK01出土遺物2(1:3、1:4)

## 第4章 本調査の結果

## 表39 SK01出土土器観察表

挿図	出土	++ 66	DD 12	器形		法 量	(cm)		重 量	生産地	九陶	備考
番号	位置	材質	器種	おか	口径	底径	器高	その他	残存率	工庄地	編年	E. HIA
73-1	SK01	陶器	小杯		-	2.7	>2.0		30g 40%		I -2	全面:施釉
73-2	SK01	陶器	ш	溝縁形	14.1	4.6	4.8		112g 50%		П	見込部:砂目積痕3ヶ所 底部:土見せ
73-3	SKO1	磁器	碗		12.8	-	>5.0		20g 30%		Ⅱ −2か	外面:染付 焼成時に他の器と癒着痕あり 1650年前後
73-4	SKO1	磁器	ш		124.0	-	>3.1		26g 30%	肥前系		古伊万里 内面:線彫り文あり 17世紀(皿の初め頃か)
73-5	SK01	陶器	大皿		24.3	10.0	6.8		930g 80%		皿か	全体:貫入が入り釉がくすんでいる 底部:土見せ 畳付:回転糸切痕 17世紀中〜後半
73-6	SK01	土師器	ш		11.0	7.2	2.0		36g 50%			底部:回転糸切痕
73-7	SK01	土師器	ш		7.9	5.3	1.7		41g 100%			底部:回転糸切痕

## 表40 SK01出土木製品観察表

1270 3		_/\^4×⊔⊔								
挿図	出土				法 量	(cm)		1 75-	重量	/++ <del>-+</del> /
番号	位置	種類	名称•部位	長さ (口径)	幅	高さ (器高)	その他	木取	残存率	備考
73-8	SK01	漆椀		11.6	-	5.9	底径6.0		116g 50%	外面:黒漆 内面:赤漆
73-9	SK01	箆		20.1	3.6		厚0.5		12g 90%	刃部長5.5 両刃 刃部:使用による摩耗あり
73-10	SK01	不明品		11.6	4.7		厚1.1			表裏面:黒漆 1部側面漆なし 碗もしくは蓋の取手の可能性も考えられる
73-11	SK01	不明品		11.1	4.6		厚1.2			表裏面;黒漆 1部側面漆なし 碗もしくは蓋の取手の可能性も考えられる
73–12	SK01	柄杓	底板か	φ 8.9	-	-	厚0.8		49g 100%	側面:目釘穴1ヶ所、目釘3ヶ所が残る
74-1	SK01	下駄	丸型差歯下駄	23.4	9.3	2.5			352g 50%	ホゾ穴前後1ずつ 指の痕跡あり
74-2	SK01	下駄	角型連歯下駄	23.5	10.8	8.7		板目	690g 80%	
74-3	SK01	下駄	角型差歯下駄	22.8	9.1	2.3		板目	293g 50%	表面:一部漆あり
74-4	SK01	木簡		12.7	2.5		厚0.6	柾目	14g 90%	墨書あり 判読不明
74-5	SK01	板		22.6	2.8	-	厚0.7	柾目	46g 100%	

## 表41 SK01出土金属製品観察表

挿図 番号	出土 位置	種類	材質	法 量 大きさ (cm)	重 量 残存率	備考
74-6	SK01	煙管 (雁首)	真鍮	長8.3/小口 $\phi$ 1.2 × 0.5	6g 100%	真鍮製の煙管雁首 火皿部欠落

## SK02 (第71 · 75図、図版25-3)、遺物 (第75図、図版55)

3-3b区の西端部に位置する土坑である。西の調査区外に広がる。平面形は円形と推測される。全容が 把握できないが、規模は上端で最大幅3.7mを測る。調査時、壁面崩落の危険が生じたため、深さ1.4mで 掘り下げを停止した。埋土は、下層部に粘質土が堆積し、上層部は粘質土と砂質土が混合するように堆積 する。何回かの掘り直しがあったものと思われる。

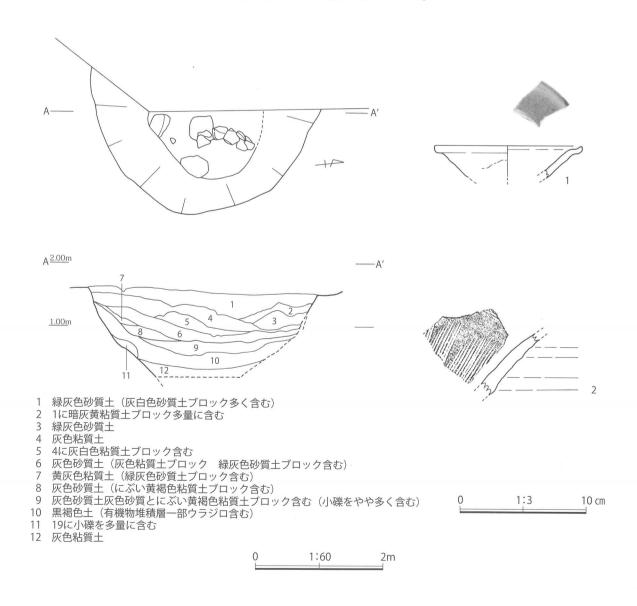
下層部で人頭大の石を検出した。また、30~40cm大の石が点在していた。人頭大の石は一部組まれたようにみられ、石組井戸の残部の可能性も考えられる。遺構の性格については判然としない。

埋土からは陶磁器片・土師器片・漆器椀などが出土している。

出土遺物は、総数16点、総重量287gである。材質別では、陶磁器類12点(陶器9、磁器2、土師器1)、瓦1点(平1)、木質遺物3点である。

第75図1は肥前系陶器の溝縁形の皿で、九陶 I-2期。2は肥前系陶器の擂鉢である。

出土遺物と検出面から、17世紀半ば~後半代の遺構と考えられる。



第75図 3-3b区 SK02・出土遺物実測図 (遺構1:60、遺物1:3)

### 第4章 本調査の結果

表42 SK02出土土器観察表

挿図 番号	出土	材質	器種	器形		法 量	(cm)		重量	生産地	九陶	備考
番号	位置	171 貝	有的任主	市計ガン	口径	底径	器高	その他	残存率		編年	,
75-1	SK02	陶器	皿か	溝縁形	11.7	-	-		11g 10%	肥前系	I -2	底部: 土見せ
75-2	SK02	陶器	擂鉢		-	-	-		46g 10%			擂目単位11本 二次焼成を受けている

### SK03 (第71図)、遺物 (第76図、図版56)

3-3b区の中央北寄りに位置する土坑である。平面形は楕円形をなす。遺構の南側が、旧中央調査区と旧中央北調査区の境界にあたるため掘削することができず未検出である。規模は長径1.2m、短径0.6m以上、深さ0.2mを測る。埋土から土器片や瓦片などが出土している。廃棄土坑と考えられる。

出土遺物は、総数24点、総重量4,775gである。材質別では、陶磁器類7点(陶器5、磁器2)、瓦5点 (軒丸2、丸1、平1、かんぶり1)、木質遺物8点、金属製品1点、動物遺存体3点(貝3)である。

第76図1は肥前系陶器の皿である。九陶 II 期。2は肥前系陶器の皿である。口縁部はやや端反で、弱い 溝縁形である。3は肥前系磁器の鉢である。九陶 II -1 期に相当すると思われる。4は肥前系陶器の擂鉢である。九陶 II 期。5・6は軒丸瓦の瓦頭部である。5は5個、6は4個の珠文が確認できる。7は雁振瓦である。

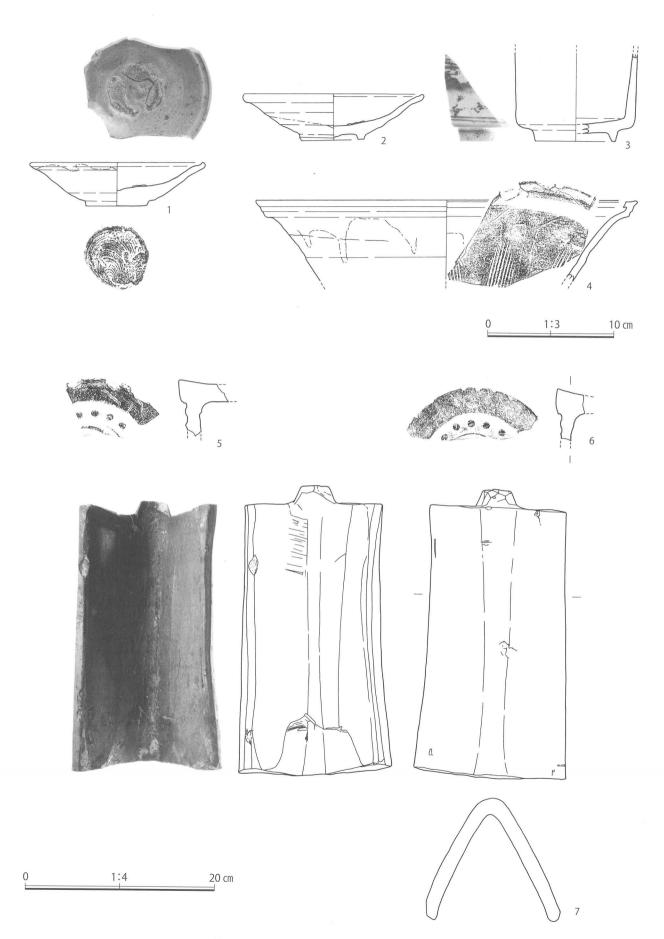
出土遺物は17世紀前半代のものを含むが、肥前系の擂鉢(第76図4)の年代から、17世紀後半代の遺構と考えられる。

表43 SK03出土土器観察表

挿図	出土	材質	器種	器形		法 量	(cm)		重量	生産地	九陶	備考
番号	位置	初县	和中有主	THE //2	口径	底径	器高	その他	残存率		編年	
76-1	SK03	陶器	ш	溝縁形	14.0	4.8	3.4		167g 80%	肥前系		見込部:砂目積痕、施釉 外面口縁部:施釉 底部:土見せ、回転糸切痕(高台内を削り込んでない) 1610~1650年代
76-2	SK03	陶器	ш		14.2	5.1	3.8		177g 60%	肥前系	I −2	見込部:砂目積痕 底部:土見せ 口縁:やや端反、弱い溝縁形
76-3	SK03	磁器	鉢		-	6.4	-		49g 30%	肥前系	Ⅱ −1か	外面:山水画の染付、2条の圏線あり 畳付:無釉 17世紀前半
76-4	SK03	陶器	擂鉢		30.0	-	-		73g 10%		П	口縁:上端に面を持ち内側に突出する 擂目単位10本(間隔が空く) 1690~1650年代

表44 SK03出土瓦観察表

挿図 番号	出土 位置	種類	色調	法 量 大きさ (cm)	重 量 残存率	備	考
76-5	SK03	軒丸瓦	内外)灰白色	外径16.0/内径1.3.4/丸瓦厚1.9/巴径:不明/弧深:不明	200g 10%	残存連珠文5	
76-6	SK03	軒丸瓦	内外)灰色	外径15.0/内径12.4/丸瓦厚1.8/巴径:不明/弧深1.7	200g 5%	残存連珠文4	
76-7	SK03	雁振瓦	内外)灰色	長さ30.2/幅14.2/高さ12.9	2260g 100%		



第76図 3-3b区 SK03出土遺物(1:3、1:4)

## 石組水路1 (第70・71・77図、図版27)、遺物 (第77図、図版56)

3-3a区東側から3-3b区西側にかけて位置する。平面形は逆「L」字状をなす。破壊を受けて石がない部分があるが、3-3a区西端から3-3b区東端まで東西12.0mを検出した。3-3b区では北へ屈曲して約2.5m進む。軸方位は東西方向がN-87°-W、南北方向がN-3°-Eである。3-3a区の西延長上に石が平行した列状に点在しているのがみられ、本遺構の一部になる可能性がある。その場合、東西約16mにおよぶものとなる。石組は、 $10\sim40$ cm大の石を内側に面をもたせ、内幅0.3mで平行に並べている。石は標高 $1.2\sim1.4$ mで検出したもので、検出面の下に埋まり込んでいる部分がある。3-3b区では、石の上面に板材と棒材による蓋が被せてあった。

石組の下、標高1.2mで、5~10cm大の礫からなる礫敷きを検出した。3-3a区では幅0.4~0.7mで、東西方向に3.7mの範囲で敷き詰められていた。3-3b区では幅0.4~0.7mで、南北方向に約4.0mの範囲で敷き詰められていた。礫は部分的に欠落している。この礫敷については、調査時には道路遺構の可能性を示していた。報告書作成にあたり、前述の石組水路1と幅・長さ等の規模や方向がほぼ合致していることが判明し、その直下に位置することから、石組水路の底部分と考えられる。

石組付近から土器片や銭貨などが出土している。

出土遺物は、総数19点、総重量735gである。材質別では、陶磁器類6点(陶器3、土師器3)、木質遺物12点、金属製品1点(銭貨1)である。

第77図1は肥前系陶器の碗である。九陶 I -2から II 期。2は肥前系陶器の皿である。見込部に砂目積の跡が残る。3は在地系土師器の皿である。内外面一部に油煙と思われる痕跡がある。4は銭貨「寛永通寳」で、古寛永(1636~1659年)である。

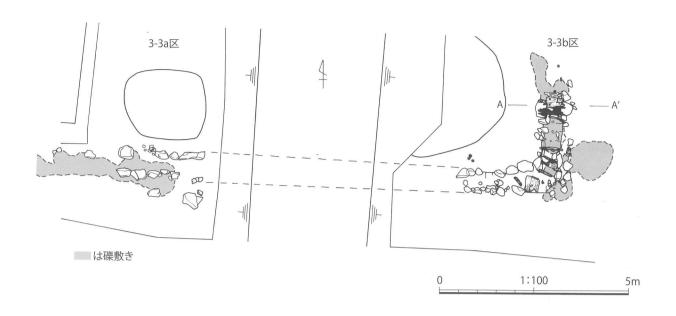
出土遺物から、17世紀後半以降の遺構と考えられる。

表45 石組水路1出土土器観察表

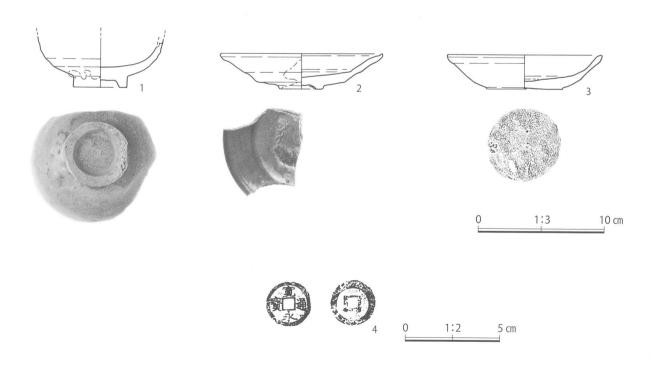
挿図	出土	材質	器種	器形		法 量	(cm)		重 量	生産地	九陶	備考
番号	位置	何貝	石計作里	右行 バン	口径	底径	器高	その他	残存率		編年	
77-1	石組水路	陶器	碗		-	4.2	-		110g 50%	肥前系	I −2~ II	底部:土見せ、一部に胎土付着
77-2	石組水路	陶器	ш		12.6	3.5	2.8		63g 30%	肥前系	I -2	見込部:砂目積痕 底部:土見せ
77-3	石組水路	土師器	ш		12.2	6.0	2.7		92g 60%			底部:回転糸切痕 内外面:一部に油煙と思われる 痕跡あり

### 表46 石組水路1出土金属製品観察表

挿図 番号	出土 位置	種類	材質	法 量 大きさ (cm)	重 量 残存率	備考
77-4	石組水路	銭貨	銅	厚1.0mm	3g 100%	寛永通寳 1期=古寛永(1636~1659年)







第77図 3-3区 石組水路1・出土遺物実測図(平面1:100、断面1:40、遺物1:3、1:2)

# 石列1 (第71図、図版27-2)、遺物 (第78図、図版56・57)

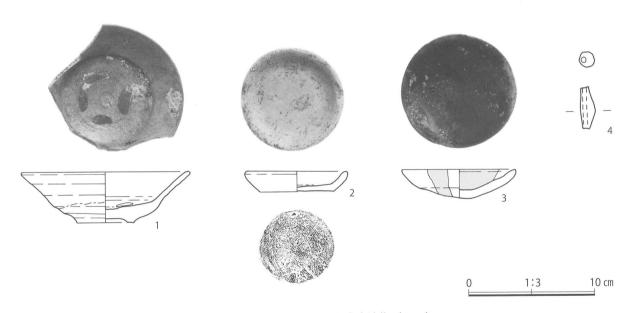
3-3b区の中央西寄りに位置する。標高1.0~1.3mで検出した。幅10~20cm、長さ30cm大の石を使用し、南北方向から東西方向へ屈曲して並べられている。1m強ほど確認できたが、東側は撹乱により破壊されている。石組水路の一部または建物基礎の可能性が考えられたが、判然としない。

石列付近から土器などが出土している。

出土遺物は、総数18点、総重量640gである。材質別では、陶磁器類15点(陶器6、磁器1、土師器7、 土製品1)、木質遺物3点である。

第78図1は肥前系陶器の皿である。九陶II期。2は在地系土師器の皿である。3は京都系土師器の皿である。手づくね成形で、外面一部と内面全体に油煙が付着していることから、灯明皿として使用されていたものと思われる。4は土垂である。

出土遺物は、17世紀前半代のものを含むが、検出面から17世紀半ば~後半代の遺構と考えられる。



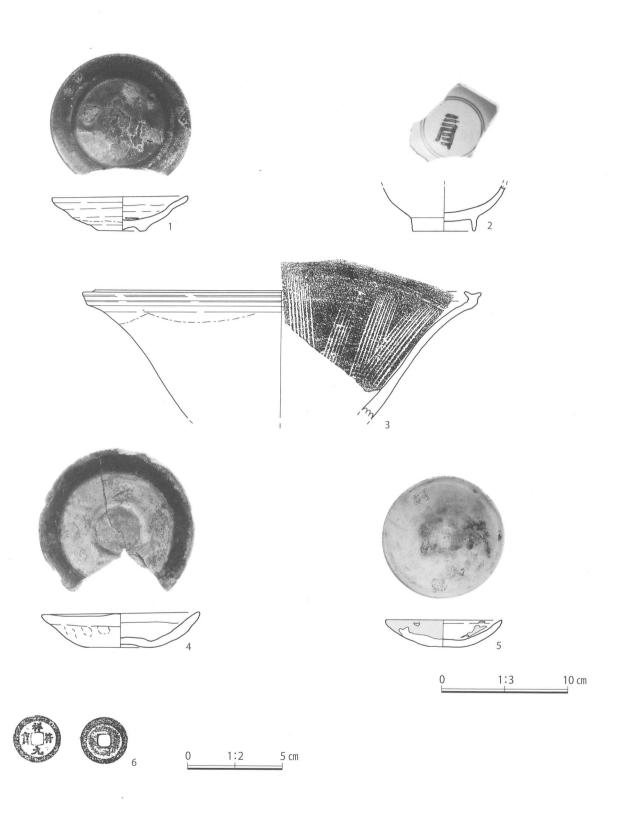
第78図 3-3b区 石列1出土遺物 (1:3)

表47 石列1出土土器観察表

挿図	出土	材質	器種	器形		法 量	(cm)		重量	生産地	九陶	備考
番号	位置	州貝	吞俚	る カン	口径	底径	器高	その他	残存率	工注记	編年	um
78-1	石列1	陶器	ш		13.2	4.4	4.0		134g 60%	肥前系	П	見込部:砂目積痕4ヶ所、付着物あり 底部:土見せ
78-2	石列1	土師器	ш		8.1	5.8	1.7		55g 100%	在地系		底部:回転糸切痕
78-3	石列1	土師器	ш		8.9	-	>2.3		73g 100%	京都系		手づくね 外面一部、内面全体:油煙付着

表48 石列1出土土製品観察表

挿図 番号	出土 位置	種類	材質	法 量 大きさ (cm)	重 量 残存率	備考
78-4	石列1	土製品	土垂	長3.3 最大 $\phi$ 10.5	3g 100%	



第79図 3-3b区 礫敷き1出土遺物1 (1:3、1:2)

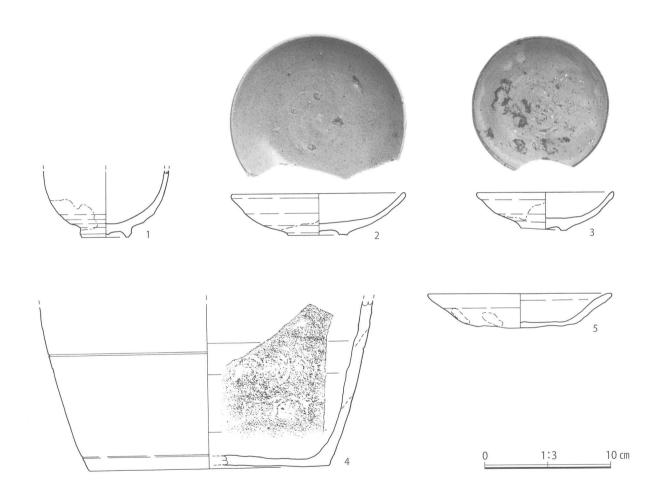
**礫敷き1** (第71図、図版27)、遺物(第79・80図、図版57)

3-3b区の西側に位置する。石組水路1の東に接して検出した。 $5\sim10$ cm大の礫が、1.2m $\times1.0$ mの範囲で敷かれていた。石組水路1に伴うものかどうかは不明である。

礫敷き内及びその直下から遺物が出土している。

出土遺物は、総数163点、総重量15,353gである。材質別では、陶磁器類103点(陶器54、磁器3、土師器45、土器1)、瓦29点(軒丸1、丸7、平21)などである。

第79図は礫敷き内の出土遺物である。1は肥前系陶器の皿である。九陶 I -2期。2は中国磁器の碗である。3は肥前系陶器の擂鉢である。口縁部が内側に延び上面に凹線状に面を持ち外反する形状である。九陶 II 期。4・5は京都系土師器の皿である。手づくね成形で、内面に凹状の強いナデ痕が見られる。5は内外面に油煙が付着していることから、灯明皿として使用されていたものと思われる。6は北栄銭「祥符元寳」である。



第80図 3-3b区 礫敷き1出土遺物2(1:3)

第80図は礫敷き直下の出土遺物である。第2面の包含層遺物になる可能性があるが、礫の取り上げ時に取り上げたため、図示した。1は肥前系陶器の天目碗である。九陶 I -2期。2は肥前系陶器の皿である。九陶 I -2期。3は肥前系陶器の皿である。口縁部は口錆で見込部に胎土目痕が残る。九陶 I -2期。4は肥前系陶器の甕である。内面は同心円紋状叩き目後ナデており、底部外面に貝目積の痕が見られる。5は京都系土師器の皿である。指頭圧痕や内面に強いナデ痕が残る。

出土遺物は17世紀前半代のものを含むが、検出面から17世紀半ば~後半代の遺構と考えられる。

表49 礫敷き1出土土器観察表

挿図	出土	材質	器種	器形		法 量	(cm)		重 量	生産地	九陶	備考
番号	位置	17.3-2	THETE	לוז ממ	口径	底径	器高	その他	残存率	工生地	編年	1)冊 - 左
79-1	礫敷1	陶器	ш		10.6	3.7	2.8		101g 90%	肥前系	I -2	見込部:胎土目4ヶ所 底部:土見せ
79-2	礫敷1	磁器	碗		-	5.1	>3.5		66g 40%	中国		青花 内外面:染付 見込部:変形文字 畳付: 無釉 見込部・高台:圏線あり
79-3	礫敷1	陶器	擂鉢		31.4		>10.0		227g 40%	肥前系	п	内面:擂目単位7本(間隔が空く) 口縁:内側に延び上面に凹線状に面を持つ 外反する
79-4	礫敷1	土師器	Ш		12.4	5.0	2.8		120g 80%	京都系		手づくね 内面:口縁端部に煤が帯状に巡る 手づくね後内面ナデ、底面に凹状の強いナデ
79-5	礫敷1	土師器	ш		9.2	2.6	2.1		75g 100%	京都系		手づくね 内外面:油煙付着 手づくね後内面ナデ
80-1	礫敷1	陶器	碗	天目碗形	-	3.6	>5.2		115g 50%	肥前系	I -2	外面:胎土目 底部:土見せ
80-2	礫敷1	陶器	Ш		13.7	4.7	3.4		157g 80%	肥前系	I -2	見込部:胎土目4ヶ所 底部:土見せ
80-3	礫敷1	陶器	ш		10.8	3.7	3.0		104g 90%	肥前系	I -2	口縁:口錆 底部:土見せ 胎土目(最上段積 み)
80-4	礫敷1	陶器	甕		-	19.0	>12.9		1450g 30%	肥前系		内面:同心円状タタキ痕後ナデ 貝目積みか
80-5	礫敷1	土師器	Ш		14.5	7.0	2.7		91g 60%	京都系		手づくね 指頭圧痕あり 内面:強いナデ痕あり 手づくね後ナデ

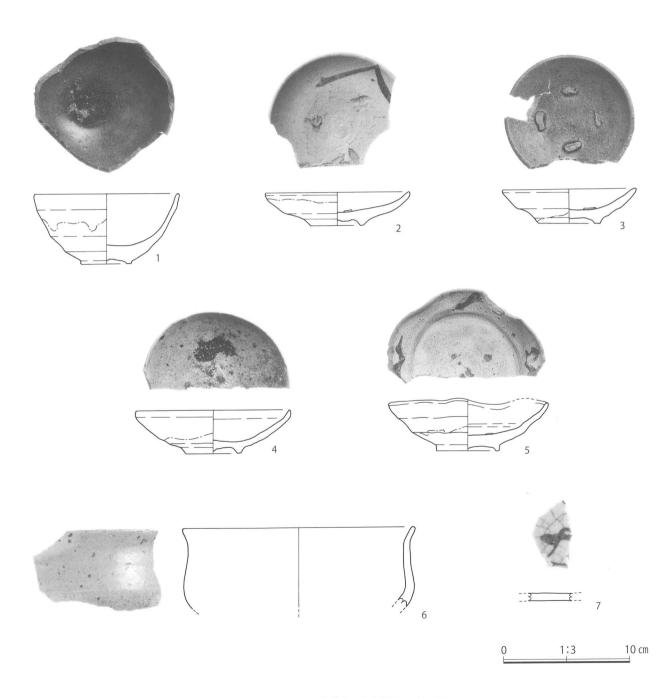
表50 礫敷き1出土金属製品観察表

挿図 番号	出土 位置	種類	材質	法 量 大きさ (cm)	重量 残存率	備考
79-6	礫敷1	銭貨	銅	厚1.25mm	4g 100%	祥符元寶 北栄 初鋳年(1009年)

### 礫敷き2 (第71図、図版26-2)、遺物 (第81~83図、図版57~59)

3-3b区の東側に位置する。標高1.2mで検出した。5.0×5.0mの不定形な範囲で、礫の集積がみられたが、大きく北側と南側の2つに分かれる。5~10cm大の礫がほとんどであるが、20~40cmの石が点在して検出された。殿町279外(松江歴史館)の調査では、建物の範囲内また外縁で同様の礫敷きが検出されている。建物に付随する遺構と考えられたが、周辺で建物は検出されず、本遺構の性格については不明である。

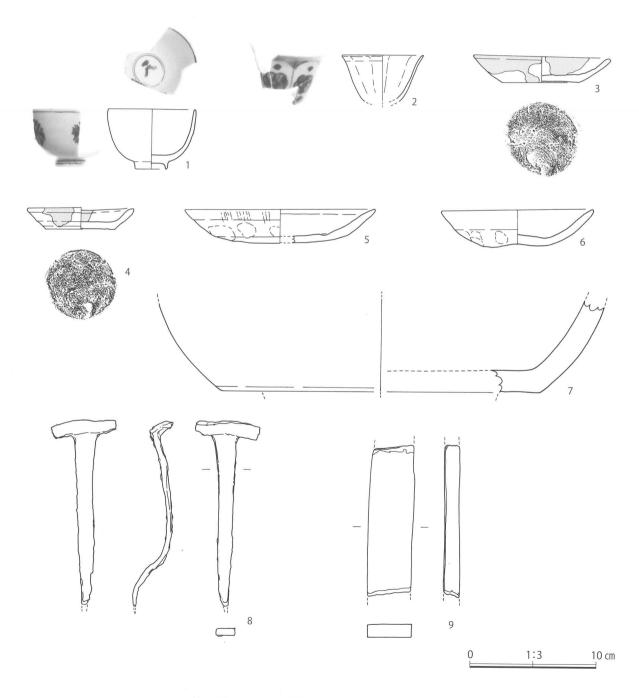
出土遺物は、総数251点、総重量14,924gである。材質別では、陶磁器類161点(陶器76、磁器9、土師器72、土器3、土製品2)、瓦27点(丸8、平19)、木質遺物48点、金属製品1点、石器1点、動物遺存体



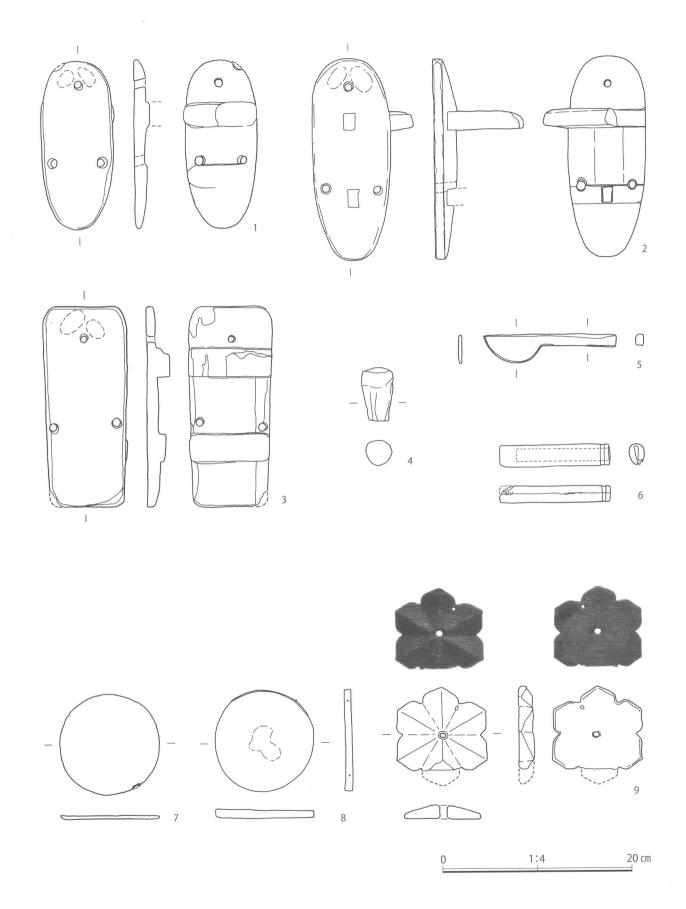
第81図 3-3b区 礫敷き2出土遺物1(1:3)

6点(哺乳類5、鳥1)、自然遺物1点などである。

第81図1は肥前系陶器の碗である。見込部に茶筅痕が残る。九陶 I -2期。2は肥前系陶器の皿である。 絵唐津である。九陶 I -2期。3は肥前系陶器の皿である。九陶 I -2期。4は肥前系陶器の皿である。見込部 は焼成時の灰降りのため、ザラザラと荒れており、窯詰め時に最上段に置かれ焼かれたためと思われる。 九陶 I -2期。5は肥前系陶器の皿である。内面に鉄絵が描かれ、口縁はなぶり口と思われる。九陶 I -2期。 6は肥前系陶器の鉢である。内面に付着物が残る。九陶 I -2期。7は志野陶器の不明品である。片面に絵 もしくは文字が描かれる。



第82図 3-3b区 礫敷き2出土遺物2(1:3、1:4)



第83図 3-3b区 礫敷き2出土遺物3(1:4)

第82図1は中国磁器の碗である。見込部に「天」の銘が入る。17世紀初めに相当する。2は中国磁器の 六角形の碗である。外面に草花文様が描かれる。3・4は在地系土師器の皿である。内外面に油煙痕が認 められることから、灯明皿として使用されていたものと思われる。5・6は京都系土師器の皿である。外 面はしぼり痕と思われる指頭圧痕が残る。内面は回転ナデ調整で、5には強いナデによる凹みが溝状に見 られる。7は瓦質土器の火鉢である。3または4足の脚が付くものと思われる。8は鉄釘である。変形して いるが、薄手で長く、船釘の可能性がある。9は砥石である。4面に使用痕が見られる。

第83図1は丸型の連歯下駄である。前方鼻緒部分には指の痕が残っている。2は丸型の差歯下駄である。前方鼻緒部分に指の痕が残っており、黒漆が側面に残る。3は角型の連歯下駄である。前方鼻緒部分に指の痕が残る。4は円錐形の木栓である。5は箆である。6は鞘と思われる。端部を「U」字状金具5本で留めてある。修繕の痕と思われる。また、基に近い部分に幅2mmの浅い凹みが廻る。締め金具の痕であろうか。7は曲物の部品と思われる。8は灯火具の部品と思われる。側面には目釘が4カ所あり、片面の中心部がやや凹み焦げている。9は装飾品で、六弁花の形成である。

出土遺物は17世紀前葉のものも含むが、検出面から17世紀半ば~後半代の遺構と考えられる。

表51 礫敷き2出土土器観察表

挿図	出土	++ 66	00.726	DD 774	法量 (cm)				重量	<b>井</b> 幸 払	九陶		
番号	位置	材質	器種	器形	口径	底径	器高	その他	残存率	生産地	編年	備考	
81-1	礫敷き2	陶器	碗		11.4	3.8	5.5		141g 60%	肥前系	I -2	見込部:茶筅痕あり 底部:土見せ	
81-2	礫敷き2	陶器	ш		11.4	4.2	2.6		107g 60%	肥前系	I -2	絵唐津 見込部:胎土目3ヶ所、鉄絵 底部:土見せ	
81-3	礫敷き2	陶器	ш		10.5	4.9	2.7		123g 70%	肥前系	I -2	見込部:胎土目4ヶ所 底部:土見せ	
81-4	礫敷き2	陶器	ш		12.2	4.4	3.4		81g 50%	肥前系	I -2	底部:土見せ、胎土目痕あり 見込部:焼成時の灰降りのためザラザラと荒れている、窯詰め 時、最上段に置かれ焼かれたためか	
81-5	礫敷き2	陶器	ш		12.6	5.0	4.1		100g 50%	肥前系	I -2	絵唐津 見込部:胎土目 底部:土見せ 口縁:なぶり口か	
81-6	礫敷き2	陶器	鉢		18.0	-	>6.3		61g 30%	肥前系	I -2	内面:付着物あり 口縁:口錆	
81-7	礫敷き2	陶器	不明		-	-	-		7g 5%	志野		片面に絵(文字か)	
82-1	礫敷き2	磁器	小碗		6.9	2.6	4.7		31g 40%	中国		青花 内外面:染付 見込部:「天」の染付 高台外面:圏線2本 口縁内外面:圏線1本 畳付:無釉 17世紀初め	
82-2	礫敷き2	磁器	碗	六角形	6.4	-	>3.5		18g 40%	中国		青花 草花文様の染付	
82-3	礫敷き2	土師器	ш		10.8	6.0	2.2		69g 70%	在地系		底部:回転糸切痕 内外面:油煙付着 内面:付着物多い 灯明皿として使用か	
82-4	礫敷き2	土師器	ш		8.5	5.5	1.7		55g 100%	在地系		底部:回転糸切痕 内外面:一部油煙付着	
82-5	礫敷き2	土師器	Ш		15.0	-	>2.6		72g 40%	京都系		手づくね 外面:指頭圧痕あり、しぼり痕か 内面:回転ナデの強い痕(溝状になる)凹みが巡る	
82-6	礫敷き2	土師器	Ш		12.0	4.0	2.9		130g 90%	京都系		手づくね 指頭圧痕あり 底部内面:強いナデ痕あり 手づくね 後ナデ	
82-7	礫敷き2	瓦質土器	火鉢							在地系			

### 表52 礫敷き2出土金属製品観察表

挿図 番号	出土 位置	種類	材質	法 量 大きさ (cm)	重 量 残存率	備考
82-8	礫敷き2	釘	鉄	長14.5/頭幅5.1/厚0.6	46g 100%	

### 表53 礫敷き2出土石製品観察表

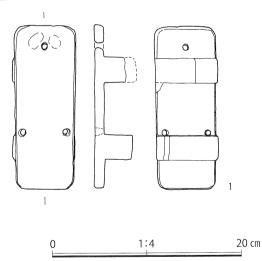
挿図 番号	出土 位置	種類	材質	法 量 大きさ (cm)	重 量 残存率		備	考
82-9	礫敷き2	砂岩	砥石	長11.9/幅3.6/厚1.3	108g -	4面共に使用		

## 表54 礫敷き2出土木製品観察表

挿図	出土		名称·部位		法 量	量 (cm)		木取	重 量 残存率	
番号	位置	種類		長さ (口径)	幅	ち高 (高器)	その他			備考
83-1	礫敷き2	下駄	丸型連歯下駄	17.8	7.6	1.6			126g	指の痕跡あり 歯はかなり摩耗している
83-2	礫敷き2	下駄	丸型差歯下駄	21.3	8.2	1.9		板目	347g	ホゾ穴前後1ヶ所ずつ 指の痕跡あり 黒 漆が側面に残る
83-3	礫敷き2	下駄	角型連歯下駄	21.2	8.5	2.3		板目	244g	指の痕跡あり
83-4	礫敷き2	木栓		5.8			厚2.7	心持材	37g 100%	円錐形
83-5	礫敷き2	箆		14.0	3.0		厚0.4	柾目	14g 100%	
83-6	礫敷き2	鞘か		11.6	2.3		厚1.6	不明		二枚板のはぎ合わせ、一部漆あるいは膠などで接着している 一部「U」字状金具5本 端部に幅2mmの凹み
83-7	礫敷き2	曲物	部品か	φ 10.5			厚0.35		33g	
83-8	礫敷き2	燈(火) 灯具	部品か	φ 10.3 × 10.6			厚0.9~0.7	柾目	79g	面中心部に焦げ跡あり、焦げて凹みがある 側面:目釘1ヶ所、目釘穴3ヶ所
83-9	礫敷き2	装飾品		10.8 × 9.7			厚1.7		85g 100%	六弁花

## 第1面遺構外出土遺物(第84図、図版59)

1は角型の連歯下駄である。前方鼻緒部分に指の痕が残る。



第84図 3-3区 第1面遺構外出土遺物(1:4)

## 表55 第1面遺構外出土木製品観察表

挿図 番号	出土	種類		法量(cm)					重量		
	位置		名称•部位	長さ (口径)	幅	高さ (器高)	その他	木取	残存率	備考	
84-1	第1面 遺構外	下駄	角型連歯下駄	17.3	6.3		厚4.0		90g	指の痕跡あり	

# 3) 第2面 (第86·87図)

標高0.8mで検出した遺構面で、A層を基盤とする。土坑2基、溝2条、石垣1基、建物土台・土留め遺構・壁状遺構を伴う建物1基、不明遺構2基を検出した。



## SK04 (第87図)、遺物 (第85図、図版59)

3-3b区の北西部に位置する土坑である。平面形は楕円形をなす。旧中央調査区と旧中央北調査区

0 1:3 10 cm

第85図 3-3b区 SK04出土遺物 (1:3)

の境界であったため、一部が未検出である。規模は東西1.6m、南北0.7m以上、深さ0.5mを測る。断面は皿状をなし、黒褐色粘質土が堆積する。

全容が不明なため、遺構の性格については判然としない。

出土遺物は、総数6点、総重量330gである。材質別では、陶磁器類1点(陶器1)、木質遺物5点である。 第85図1は肥前系陶器の皿である。九陶 I -2期。

出土遺物は17世紀前葉を示すことから、当該期の遺構と考えられる。

表56 SK04出土土器観察表

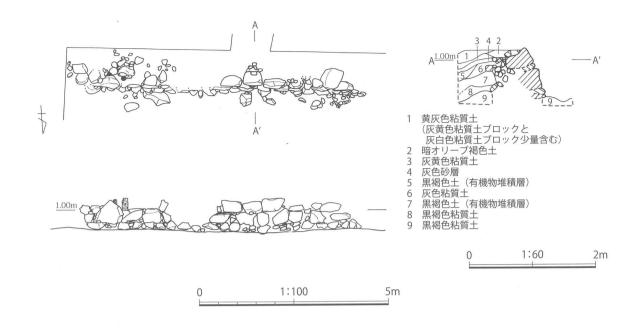
挿図 番号	出土位置	材質	器種	器形		法 量	(cm)		重量	生産地	九陶		備	考
番号	位置	1132	HI 12	יות חוד	口径	底径	器高	その他	残存率	工座地	編年		1月	75
85-1	SK04	陶器	ш		i=	-	>2.6		15g 10%	肥前系	I -2	口縁:口錆		

### 石垣1 (第87・88図、図版30・31)

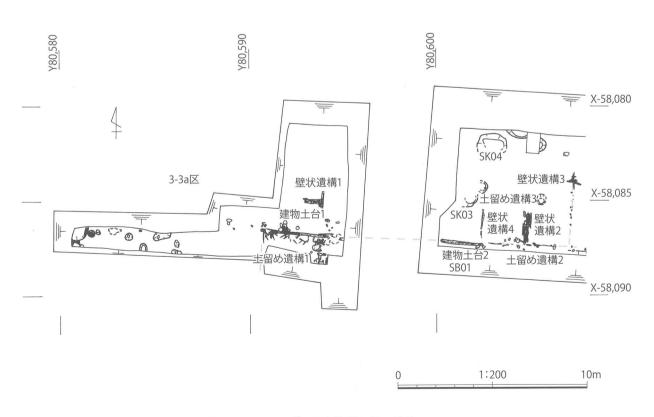
3-3b区の南東側に位置する石垣である。東側が調査区外へ続く。規模は東西8m、南北 $0.5\sim1.4$ mを測る。主軸方位は $N-87^\circ$ -Wである。一部は撹乱に壊されている。石垣は、幅 $20\sim30$ cm、長さ $40\sim60$ cm の石を $2\sim3$ 段積み上げ、高さ $0.6\sim0.9$ mを測る。屋敷内にあたる北側に面をもち、南側に裏込め石を入れ、盛土を施している。石垣の下端は標高0.5mで、I層上に敷かれたシダ類堆積面に接している。1段目は20cm大の面をもたない石が主に使われている。黒褐色粘質土(I層)を掘り込んだところへ据えられており、根石と考えられ、1段目までは盛土されていたものと思われる。 $2\cdot3$ 段目には面をもつ大きな石が使われている。天端石の標高は $0.9\sim1.1$ mである。北側に崩れ落ちたとみられる石があり、第1面の検出標高が1.2mであることから、3段以上積み上げられていた可能性がある。

石垣の構築状況を確認するため、石垣の南側に南北方向のトレンチを設定したところ、石垣から約3.5m南で石組を検出した。調査区外に続くため詳細は不明であるが、20~30cm大の石を使って1~2段に組まれていた。位置的に道路側溝石垣の一部と考えられる。側溝石垣の幅は約1.0mと考えられ、石垣1と側溝石垣を合わせた幅は約4.5mを測る。側溝石垣が石垣1と同時期に存在していたものと仮定するならば、約4.5m幅の建物の土台として機能していた可能性が考えられる。

構築時期は確定できないが、検出面から17世紀前半代と推定される。



第88図 3-3b区 石垣1実測図 (平面·立面1:100、断面1:60)



第86図 3-3区 第2面全体図1(1:200)

# SB01 (第86·87·89図、図版28·29)

3-3a区の東から3-3b区の西側にかけて位置する。建物土台1・2、土留め遺構1~3、壁状遺構1~4で構成される。規模は東西方向に、建物土台1の西端から建物土台2の東端まで約18.0m、南北方向に、建物土台2から壁状遺構3の北端まで約4.5mを測る。以下、構成する各遺構については、詳細図を掲載して述べる。

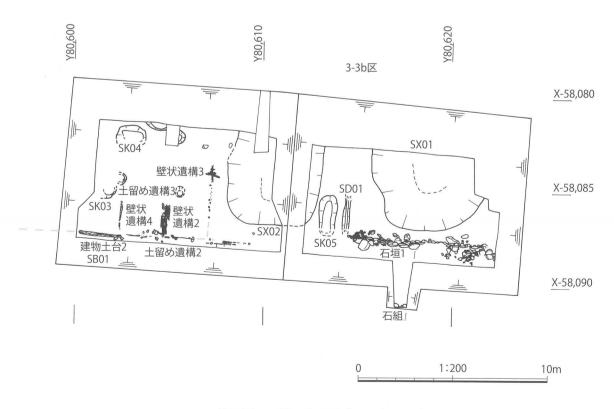
# 建物土台1・2 (第86・87・89・90図、図版29-2)

3-3a区の東側から3-3b区の西側にかけて位置する。後述する土留め遺構1・2の直上、標高1.1~1.2mで、東西方向に置かれた角材である。主軸方位はN $-86^\circ$ -Wである。3-3a区のものを建物土台1、3-3b区のものを建物土台2とした。間の未調査地においても、壁面で角材が確認されている。掲載した詳細図は建物土台1である。角材はいずれも幅12cm、長さ3.0mで、ほぞ穴が穿たれている。やや南に傾いた状態で検出した。

断面図に見られる建物土台1のある層は建物の廃絶後の埋土(造成土)である。

# **土留め遺構1** (第86・89・90図、図版28-2)、遺物(第93図、図版59・60)

3-3a区の南西部に位置する。前述の建物土台1の下で検出した。A層から直径10cm前後の杭を打ち、ほぼ等間隔に竹を打ち並べ、横位に竹を沿わせている。竹の上端は標高0.7mである。東西方向に約3.6 m、南北方向に約0.8m確認されたが、東と南の調査区外に続く。主軸方位(東西)はN-86°-Wである。地盤が軟弱なため、土留めとして構築されたものと思われる。この上に建物土台1が置かれている。



第87図 3-3区 第2面全体図2 (1:200)

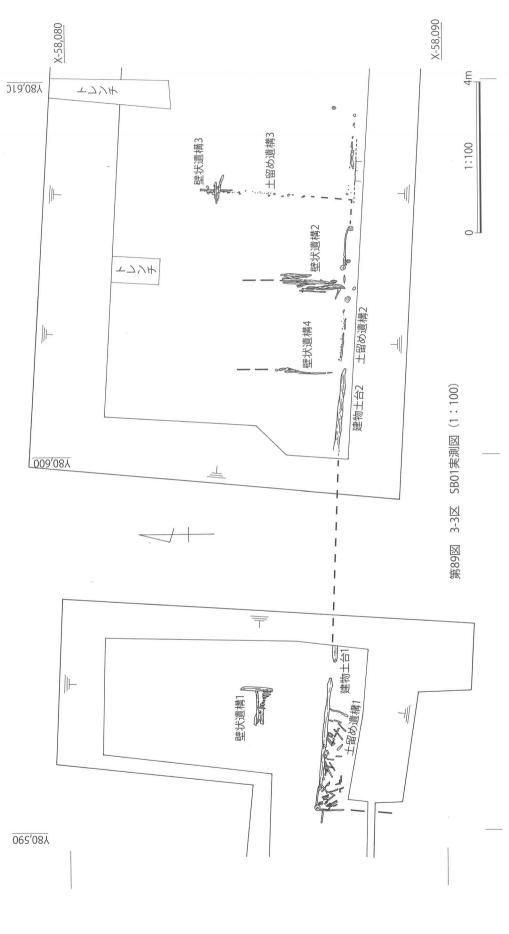
# **土留め遺構2**(第87・89・ 92図)

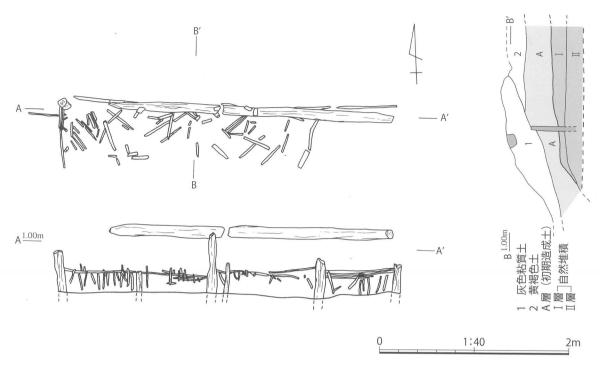
3-3b区の南西部に位置する。建物土台2の東端から東に向かって約6.5m検出した。A層に直径10cm前後の杭を0.8~1.0m間隔に打ち込み、間に竹を打ち並べ、横位に竹を置いている。主軸方位はN-86°-Wである。

東側は打たれた竹がまば らになり、横位の竹も少な い。造成土が流れ出ないた めに構築されたものと考え られる。土留め遺構1と同 軸上にあり、同形体をなす ことから、一連の遺構と捉 えた。土留め遺構1と合わ せ東西約18mの規模にな る。この遺構を境にして南 に向かって傾斜した土層堆 積がみられた。調査区の壁 際であったため、一部の調 査に止まり、詳細は不明で ある。

# **土留め遺構3**(第87・89・ 92図)

3-3b区の西側に位置する。南北方向のものを2.8 m分検出した。土留め遺構2と同様に杭と竹が打ち込まれているが、横位の竹は消失したためかほとんど見





第90図 3-3a区 建物土台1、土留め遺構1実測図 (1:40)

られない。主軸方位はN-3°-Eで、土留め遺構2と直交する位置関係にある。北側で壁状遺構3が検出された。

### **壁状遺構1~4**(第86·87·89·91·92図、図版29-1)

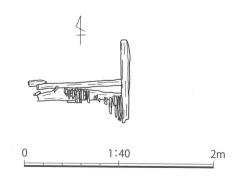
壁状遺構1は3-3a区に、壁状遺構2~4は3-3b区に位置する。壁状遺構1は、柱とともに横位に貫を組まれたまま転倒していた。貫の部分に竹が並べられた状態で検出され、竹木舞の痕跡と思われる。東西方向の壁が倒れたものと考えられる(第91図、図版29-1)。

壁状遺構2~4は、南北方向の壁が倒れた状態で検出されたものである。土留め遺構2から東の壁状遺構3の北端部まで約4.5mを測り、この中間に壁状遺構2が北に約1.8m検出された。、土留め遺構3から壁状遺構4まで約4.8mを測る(第92図)。

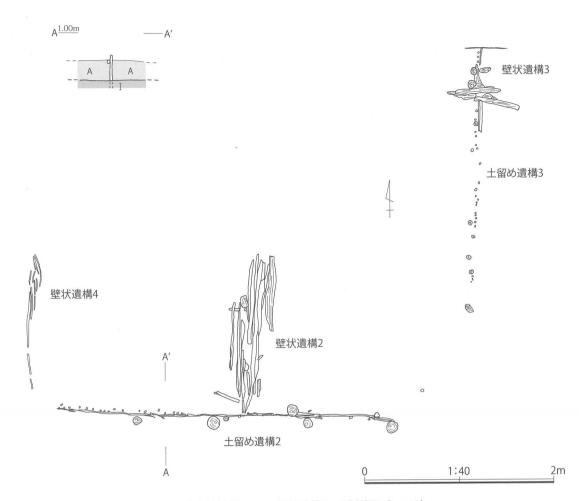
土留め遺構1の近くから陶磁器片などが出土しており、遺構に伴う遺物として図示した。

出土遺物は、総数25点、総重量1,323gである。 材質別では、陶磁器類23点(陶器8、土師器15)、 木質遺物2点である。

第93図1は肥前系陶器の皿である。口縁部は「く」の字状に屈曲する。九陶 I-2期。2は肥前系陶器の把手付水差又は油差である。底部外面に貝目積跡が見られ、取手と注ぎ口が付くと思われる。九陶 I~II期。3は肥前系陶器の瓶である。



第91図 3-3a区 壁状遺構 1 実測図 (1:40)



第92図 3-3b区 土留め遺構2・3、壁状遺構2~4実測図(1:40)

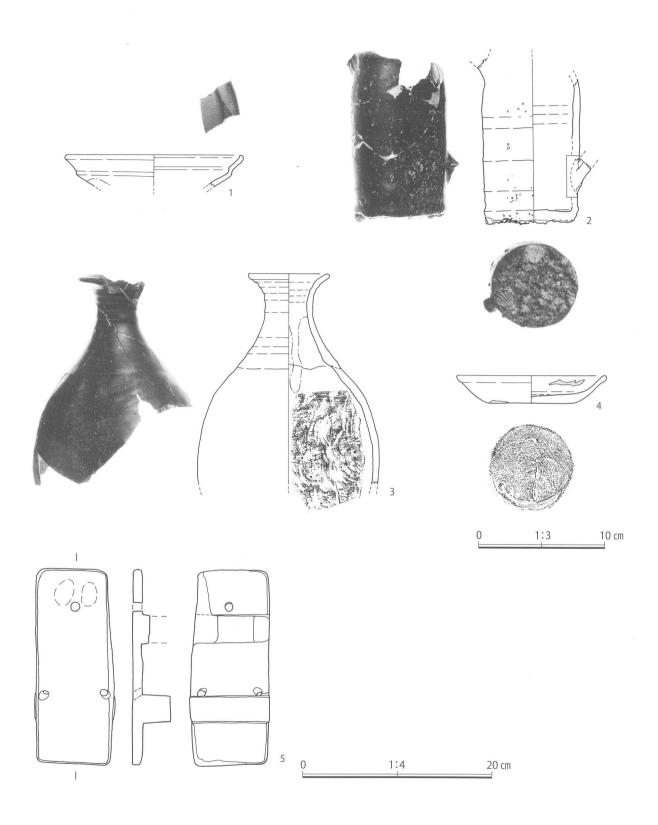
九陶 II -1期に相当するものと思われる。4は在地系土師器の皿である。内外面と破断面に煤が付着しており、二次焼成を受けたと思われる。5は角型の連歯下駄である。前方鼻緒部分に指の痕が残る。

表57 土留め遺構1出土土器観察表

L	- ш о	~ 113 . F		m,0/3 ( 12 (								
挿図	出土	材質	器種	器形		法	量 (cm)		重 量	生産地	九陶	備考
番号	位置	何貝	拉广生	カホバン	口径	底径	器高	その他	残存率		編年	
93-1	土留め 遺構1	陶器	ш		13.6	ř	>2.5		7g 10%		I -2	絵唐津 底部:土見せ 口縁部で「く」の字状に屈曲
93-2	土留め 遺構1	陶器	把手付瓶		-	7.2	>13.0	胴部 φ 7.7	330g 50%	肥前系	I ~ II	底部:貝目 取手と注ぎ口が付く
93-3	土留め 遺構1	陶器	瓶		6.2	-	>16.5	胴部φ14.2	264g 30%	肥前系	Ⅱ−1か	内面胴部: 同心円状タタキ痕 1600~1630年
93-4	土留め 遺構1	土師器	ш		10.6	6.6	2.2		76g 60%			内外面: 煤付着 破断面にも煤が見られるので二次焼成を受けたためか 底部: 回転糸切痕

表58 土留め遺構1出土木製品観察表

挿図	出土				法 量	(cm)			重量	, m
番号	位置	種類	名称•部位	長さ (口径)	幅	高さ (器高)	その他	木取	残存率	備考
93-5	土留め 遺構1	下駄	角型連歯下駄	20.6	18.4	4.0		板目	278g 100%	指の痕跡あり



第93図 3-3a区 土留め遺構1(竹木舞)出土遺物(1:3、1:4)

### SK05 (第87·94図、図版32-1·2)

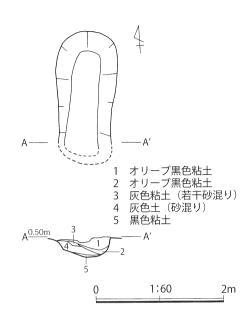
3-3b区の中央部に位置する土坑である。平面形は長楕円形をなす。南側は掘り下げ時のトレンチにより消失している。規模は南北2.1m以上、東西0.9m、深さ0.5mを測る。掘方の断面は皿状をなし、黒色~灰色の粘土が堆積する。埋土から犬の骨が数点出土している(第6章参照)。

出土遺物は、総数4点、総重量136gである。材質別では、陶磁器類2点(土師器2)、動物遺存体2点(哺乳類2)である。

# SD01 (第87図、図版32-2)

3-3b区の中央、SK05の東に位置する浅い溝である。標高0.5mで検出した。主軸方位はN-4°-Eである。北と南側が消滅する。規模は長さ1.6m以上、幅0.3m、深さ0.05mを測る。

埋土は黒褐色粘質土で、遺物は出土していない。



第94図 3-3b区 SK05実測図(1:60)

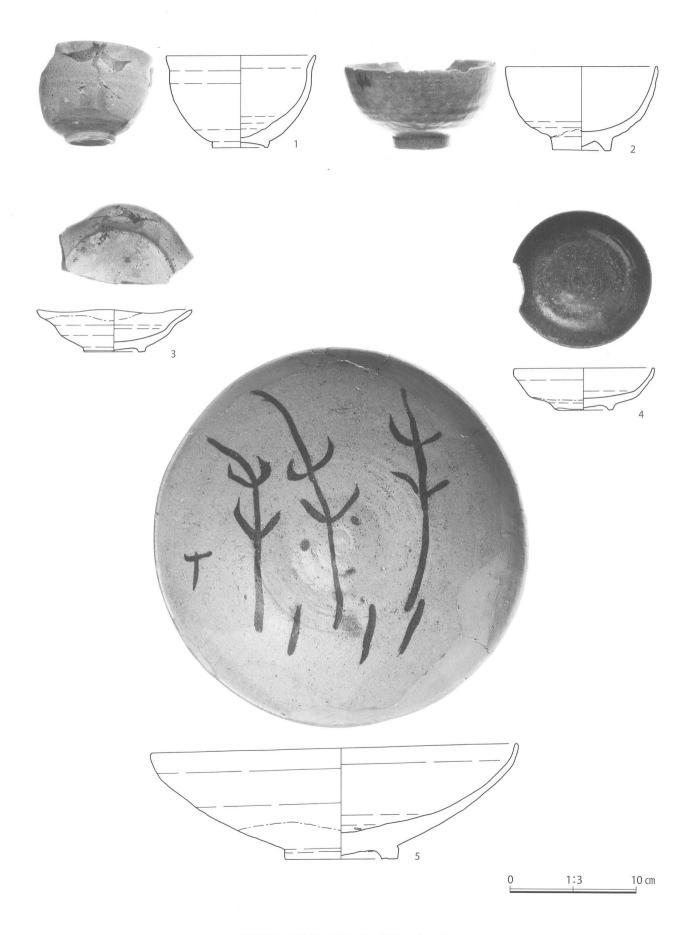
# SX01 (第87図、図版32-1・3)、遺物(第95・96図、図版60・61)

3-3b区の東側に位置する大形の遺構である。北と北東側が調査区外に広がる。規模は東西約5.8m以上、南北約4.8m以上を測る。標高0.5mのウラジロ(シダ類)堆積面で検出したが、壁断面でA層面から堀込まれることが確認された。平面形は方形をなすようであるが、南東隅は丸みをもち、南西側は大きく湾曲する。調査途中、北・東側の壁崩落の危険が生じたため、標高-0.4mで掘り下げを停止した。掘方は約45°の角度をもって掘られ、深さは現状で0.9mを測る。

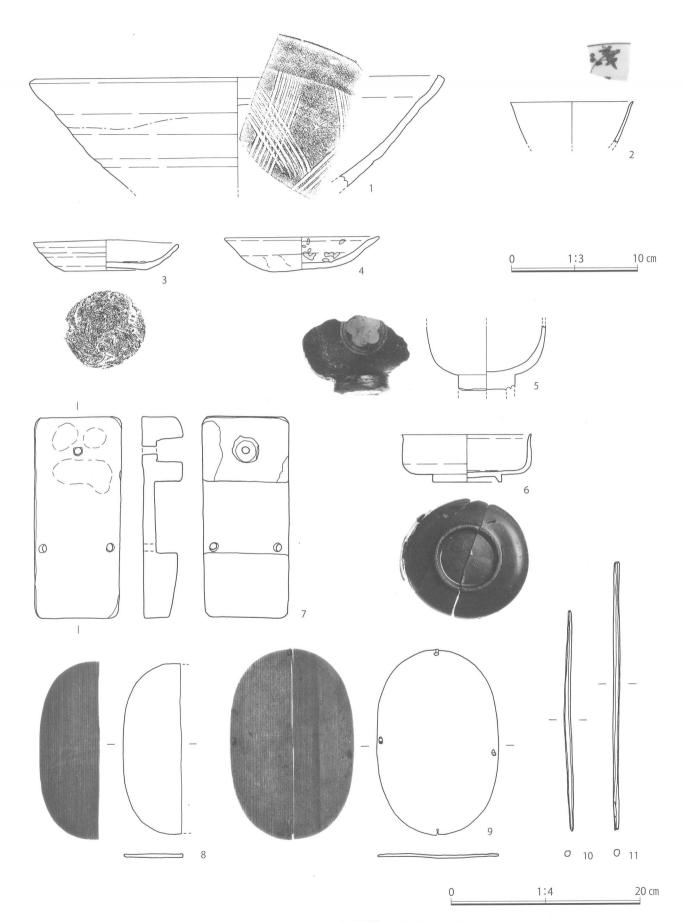
埋土は、確認できた上層部では灰白色や黒褐色の粘質土が混合した堆積を示し、有機物をやや含む。全容が把握できないため、不明遺構とした。形状から土坑の可能性も考えられるが、松江城下町遺跡で多くみられる廃棄を目的とした土坑とは性質を異にするようである。規模が大型であることを除けば、松江城下町遺跡(母衣町68)中央区で検出されたSK20・西区SK41~45などと同質の土坑と思われる<sup>3</sup>。

埋土から生活雑器とともに貝類をはじめ動物遺存体が検出される(第6章参照)ことから、埋没段階で 廃棄土坑として利用された可能性が考えられる。

出土遺物は、総数351点、総重量17,910gである。材質別では、陶磁器類67点(陶器28、磁器2、土師器37)、瓦13点(軒丸2、丸3、平8)、木質遺物115点、動物遺存体156点(哺乳類9、鳥1、魚1、貝145)である。



第95図 3-3b区 SX01出土遺物1 (1:3)



第96図 3-3b区 SX01出土遺物2(1:3、1:4)

第95図1は肥前系陶器の碗である。絵唐津である。底部は土見せである。破断面に煤が見られ、二次焼成を受けたものと思われる。九陶 I -2期。2は肥前系陶器の碗である。九陶 I -2期。3は肥前系陶器の皿である。絵唐津である。九陶 I -2期。4は肥前系陶器の皿である。底部外面の一部に煤が付着しており、二次焼成を受けたものと思われる。九陶 I -2期。5は肥前系陶器の大皿である。絵唐津で、内外面に草木文が描かれるものである。九陶 I -2期。

第96図1は肥前系陶器の擂鉢である。2は中国磁器の碗である。3は在地系土師器の皿である。4は京都系土師器の皿である。内面に油煙痕が点在する。灯明皿として使用された可能性がある。

5は漆椀である。二重丸の中に赤で五弁花文様が描かれている。6は鉢である。7は角型の連歯下駄である。前方鼻緒部分に指の跡が残る。8は曲物の底板と思われる。9は曲物の蓋板である。外面に刃物傷があり、まな板代わりに使用したと思われる。10・11は箸である。

出土遺物は17世紀前葉を示すことから、当該期の遺構と考えられる。

表59 SX01出土土器観察表

挿図	出土	++ 55	PD 14	00 T/		法量	t (cm)		重 量		九陶	
番号	位置	材質	器種	器形	口径	底径	器高	その他	残存率	生産地	編年	備考
95-1	SX01	陶器	碗		11.8	4.4	7.3		185g 60%	肥前系	I -2	絵唐津 外面:鉄絵 底部:土見せ 破断面:煤付着、二次焼成 17世紀前半
95-2	SX01	陶器	碗		12.0	4.6	6.6		247g 90%	肥前系	I -2	見込部:胎土目積痕1ヶ所 底部:土見せ
95-3	SX01	陶器	Ш		12.2	5.0	3.3		69g 50%	肥前系	I -2	絵唐津 見込部:胎土目積痕 底部:土見せ 口縁:なぶり口
95-4	SX01	陶器	Ш		11.1	4.6	3.3		144g 90%	肥前系	I -2	底部:土見せ 底部外面:一部煤付着、二次焼 成
95-5	SX01	陶器	大皿		29.1	9.0	9.1		1056g 80%	肥前系		絵唐津 見込部:胎土目積痕3ヶ所 内外面:草木文様(鉄絵) 底部:土見せ
96-1	SX01	陶器	擂鉢		33.0	-	>8.7		145g 20%	肥前系		口縁内外面:鉄釉 擂目単位6本で交差する
96-2	SX01	磁器	碗		9.6	-	>3.3		9g 20%	中国		青花 内外面:染付 口縁端部内外面・胴部内面:圏線あり
96-3	SX01	土師器	Ħ		11.4	6.4	2.4		78g 90%	在地系		底部:回転糸切痕
96-4	SX01	土師器	ш		12.2	5.0	2.7		99g 100%	京都系		手づくね 内面:油痕が点在 底部内面:強いナデにより凹みあり

表60 SX01出土木製品観察表

挿図	出土				法量	₫ (cm)			重量	
番号	位置	種類	名称·部位	長さ (口径)	幅	高さ (器高)	その他	木取	美	備考
96-5	SX01	漆椀				>(6.8)	底径6.0		134g 50%	外面:黒漆、二重丸の中に朱で五弁花文 様 内面:赤漆
96-6	SX01	鉢		13.6		5.0	底径7.3		149g 100%	内外面:黒漆
96-7	SX01	下駄	角型連歯下駄	21.3	9.1	4.3	厚4.2	柾目	558g 100%	指の痕跡あり 歯の部分に砂粒付着
96-8	SX01	曲物	底板か	>19.9			厚0.4	柾目	40g 50%	
96-9	SX01	曲物	蓋板	19.6	12.8		厚0.3		78g 100%	外面:刃物傷、まな板代わりに使用か 樹皮皮紐状4ヶ所
96-10	SX01	箸		23.3	0.7		厚0.6		6g 100%	白木
96-11	SX01	箸		28.4	0.7		厚0.7		8g 100%	白木

SX02 (第87·97図、図版33-1~3)、遺物 (第98図、図版61·62)

3-3b区の中央に位置する。平面形は方形をなすようであるが、南側の角は丸みをもち、北の調査区外へ広がる。旧調査区の境界部分に未調査地がある。標高0.6mのウラジロ(シダ類)堆積面で検出したが、壁断面でA層面から堀込まれることが確認された。規模は東西約5.0m、南北約5.0m以上を測る。調査途中、北・東側の壁崩落の危険が生じたため、深さ1.5mで掘り下げを停止した。

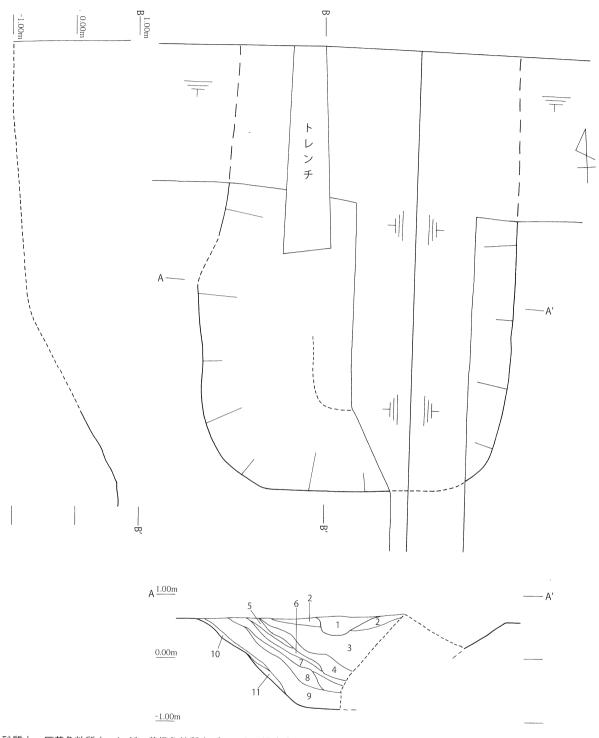
埋土は、下層部に黒色粘質土と灰色粘質土がブロック状に堆積する。上層部には暗灰色系の混合土が堆積する。4層の下面で掘り直しがあったことが窺え、ラミナが観察された。平面では確認できなかったが、SX02は埋没した後、一時期溝として機能していたものと思われる。埋土からは生活雑器とともに動物遺存体も多数出土しており(第6章参照)、埋まる段階で廃棄されていたものと考えられる。

底面まで調査できなかったため、調査終了後の埋め戻しに先立ち、遺構の北側延長部分を確認するため、重機で掘り下げた。その結果、遺構の肩部は検出しなかったが、標高 $-0.93\sim-1.07$ mで  $\Pi$  層を確認し、これをSX02の底面と捉えた。深さ約1.6mを測り、さらに北側へ続く様相を示す。規模は南北7.0m以上が推測される。溝の可能性が高いが、全容が把握できないため、現時点では不明遺構とした。

出土遺物は、総数193点、総重量10,489gである。材質別では、陶磁器類116点(陶器55、磁器16、 土師器40、土器1、土製品4)、木質遺物38点、金属製品4点、動物遺存体30点(鳥1、貝29)、自然遺物5 点である。

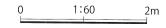
第98図1は肥前系陶器の輪花形の皿である。絵唐津で、九陶 I-2期。2は肥前系陶器の瓶である。外面は施釉され、ボタン状の摘みがある。同心円紋状叩き目がある。17世紀代に相当する。3は備前陶器の鉢である。4は中国磁器の碗である。16世紀末から17世紀初めに相当する。5は在地系土師器の皿である。内面に油煙が付着し、破断面に煤が見られるため、二次焼成を受けたものと思われる。6は角型の連歯下駄である。面に釘跡3ヶ所が残る。7は土師質のおもりである。外面に割れ目が見られ、穴は擦れており人工的に穿けたと思われる。8は刀である。刃部が破断しているが、刃部の長さ11.5cm、幅3.0cmを測る。9は鉄釘である。長さ9.5cm、頭幅1.5cm、厚さ0.4cmを測る。10は火箸である。

出土遺物は17世紀前葉を示すことから、当該期の遺構と考えられる。

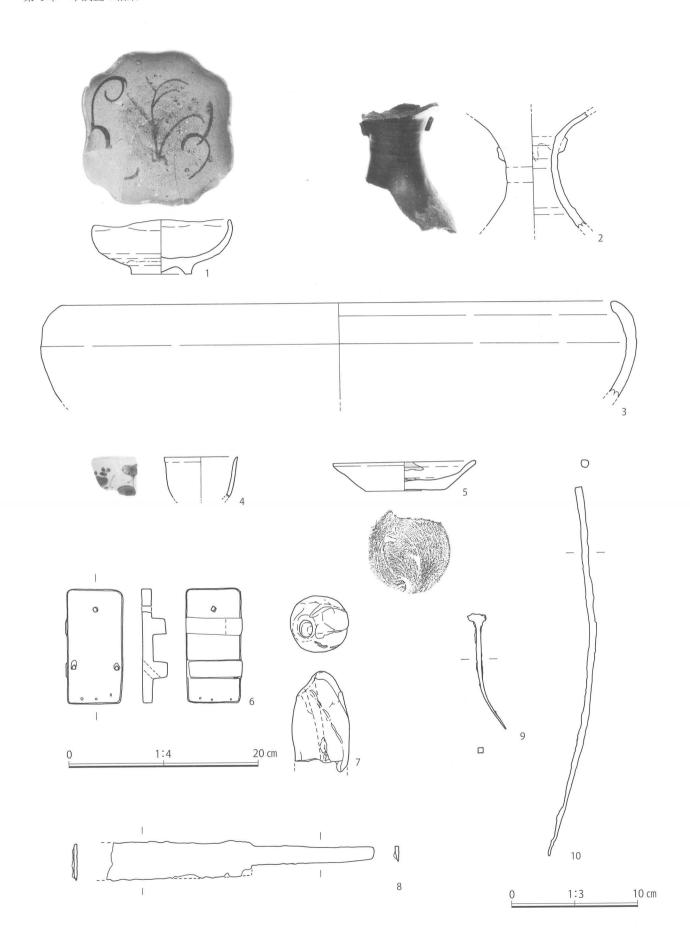


- 1 灰色砂質土、灰黄色粘質土、にぶい黄橙色粘質土ブロックの混合土 暗灰色粘質土 (緑灰色粘質土ブロック混じり (炭化物多く含む) 灰色粘質土 (砂まじり)

- 灰黄色粘質土
- 黒褐色粘質土 (灰オリーブ色粘質土ブロック、にぶい黄色ブロック含む) 黄灰色土 (灰オリーブ色粘質土を含み、にぶい黄色土を多く含む)
- 8 灰白色粘土 (黄灰色粘質土ブロック混じり)
- 9 オリーブ黒色粘質土 (灰色砂質土層含む) 10 明オリーブ灰色砂質土
- 11 黒褐色粘質土



第97図 3-3b区 SX02実測図 (1:60)



第98図 3-3b区 SX02出土遺物(1:3)

# 表61 SX02出土土器観察表

挿図	出土	材質	器種	器形		法 量	(cm)		重量	生産地	九陶	備 考
番号	位置	刊具	700713	市はカン	口径	底径	器高	その他	残存率	工生地	編年	7用 右 
98-1	SX02	陶器		輪花形	11.0	4.8	4.3		211g 90%	肥前系	I -2	絵唐津 底部:土見せ
98-2	SX02	陶器	瓶		-	-	>8.9		86g 20%	肥前系		外面:施釉 ボタン状の摘みあり 内面:一部施釉 同心円紋状叩き目 17世紀 代
98-3	SX02	陶器	鉢		43.8	-	>7.5		163g 20%	備前		外面:施釉
98-4	SX02	磁器	小碗		5.8	-	>3.2		6g 30%	中国		青花 外面:染付 口縁内面:圏線1本 16世紀末〜17世紀初め
98-5	SX02	土師器	Ш		11.2	6.4	2.3		60g 50%	在地系		見込部:油煙痕付着 底部:回転糸切痕 破断面:煤付着、二次焼成

# 表62 SX02出土木製品観察表

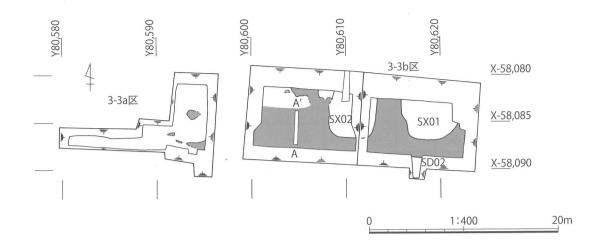
挿図	出土	of the second			法量	(cm)			重量		
番号	位置	種類	名称·部位	長さ (口径)	幅	高さ (器高)	その他	木取	残存率	備	考
98-6	SX02	下駄	角型連歯下駄	12.1	5.9	2.6			106g 90%	面に釘跡3ヶ所ある	

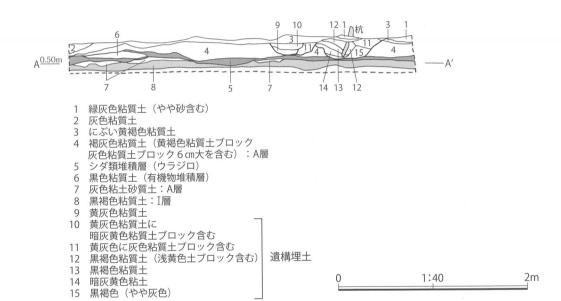
# 表63 SX02出土金属製品観察表

挿図 番号	出土 位置	種類	材質	法 量 大きさ (cm)	重 量 残存率	備考
98-8	SX02	刀	鉄	長21.0/刃部長11.5/刃部幅3.0/茎部幅0.9~1.4/厚0.1~0.4	56g 100%	l .
98-9	SX02	釘	鉄	長9.5/頭幅1.5/厚0.4	6g 100%	
98-10	SX02	火箸	鉄	長29.0/幅0.2~0.6/厚0.2~0.6	30g 100%	

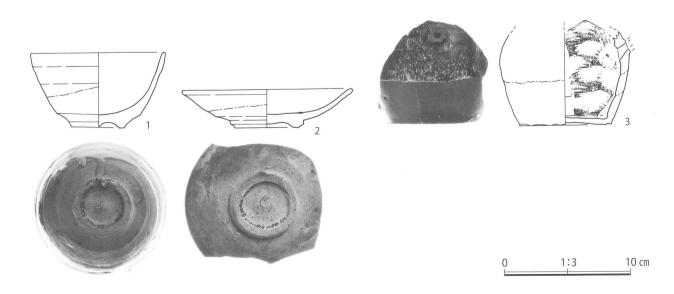
# 表64 SX02出土土製品観察表

挿図 番号	出土 位置	種類	材質	法量	重 量 残存率	備考
H 7	一一一			大きさ (cm)	751于华	
98-7	SX02	土製品	おもりか	長>7.9幅4.5	176g	外面:自然の割れ目 穴は擦れており人工的に穿たと思われる





第99図 3-3区 ウラジロ (シダ類) 検出範囲 (1:400)・トレンチ (A-A') 土層断面図 (1:40)



第100図 3-3b区 南北トレンチ (A-A') 出土遺物 (1:3)

第2面の基盤層であるA層内で検出されたウラジロ(シダ類)の堆積は、3-3b区のほとんどと、3-3a区の東側の一部で確認された。南北トレンチ(A-A')の土層堆積状況をみると、標高0.5mの I 層上にウラジロ(シダ類)が $3\sim10$ cm程のり、部分的に I 層またはウラジロの上に灰色系の粘質土が盛られ、さらに、その上にウラジロ(シダ類)が堆積する様相がみられた。このことから、 I 層上の盛土(A層)とウラジロ(シダ類)の堆積は、城下町造成の最初期段階における地業と考えられる。

第11ブロックの調査(「松江城下町遺跡発掘調査報告書1」)で、 I 層上の広範囲でウラジロが検出されている。軟弱な地盤の地盤沈下を防ぐために敷き詰められたことが推察された。本調査区の I 層もやや軟質な土質であることを考慮すると、ウラジロ(シダ類)は造成時の地固めとして敷かれたものと考えられる $^4$ (第99図、図版34・35-1)。

出土遺物(第100図、図版62)はトレンチ掘削時に検出した遺物である。A層およびA層に掘り込まれた遺構の遺物を含む。

第100図1は肥前系陶器の碗である。九陶 I -2期。2は肥前系陶器の皿である。九陶 I -2期。3は肥前系陶器の水注である。内面は同心円紋状叩き目があり、17世紀前半に相当する。

表65 南北トレンチ (A-A') 出土土器観察表

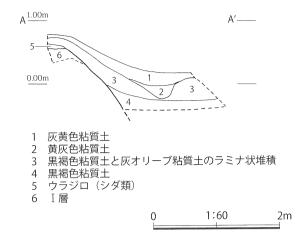
挿図	出土	材質	器種	器形		法 量	(cm)		重量	生産地	九陶	備考
番号	位置	10.54	田田刊主	7007/2	口径	底径	器高	その他	残存率	工座地	編年	)佣 <i>行</i>
100-1	南北トレンチ	陶器	碗		10.6	4.2	5.9		187g 100%		I -2	底部:土見せ
100-2	南北トレンチ	陶器	ш		13.4	5.0	3.0		120g 60%		I -2	見込部:胎土目積痕3ヶ所 底部:土見せ
100-3	南北トレンチ	陶器	水注		-	7.2	>7.2		145g 30%	肥前		内面:同心円紋状叩き目 内面底部:自然釉 17世紀前半

### 4)第3面(第101·102図)

標高0.5~0.6mで検出した遺構面で、I層上に敷き詰められたウラジロ(シダ類)堆積層を基盤とする。3-3b区で溝1条を検出した。

### SD02 (第102·103図)

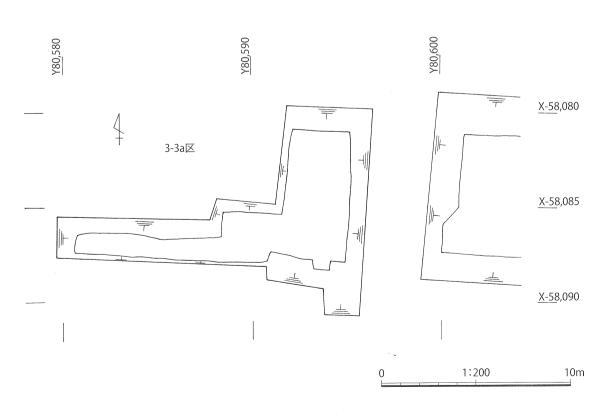
3-3b区の南東部に位置する溝である。石垣1のトレンチ調査時に確認された。東西方向に延びる溝の北側の肩部を約1.0m検出した。標高0.6mのウラジロ(シダ類)堆積面から掘込まれ、南に向かって落ち込む。南の城山北公園線に向かって、幅2.3m、深さ1.0m(標高-0.4m)まで確認した。



第103図 3-3b区 SD02土層断面図 (1:60)

土層断面の3層にラミナが観察される。

城山北公園線に沿う位置にあることから、城下町造成の初期段階に掘削される素掘りの大溝の一部と考えられる。

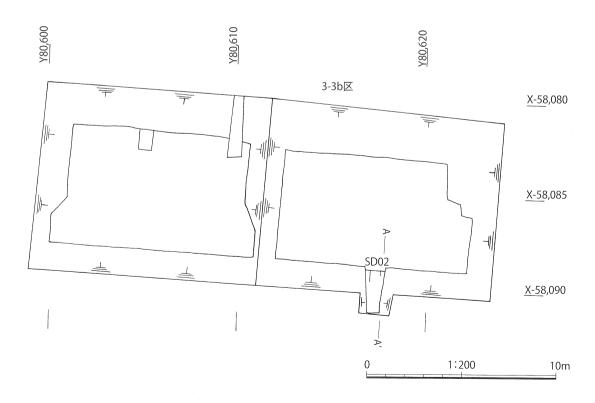


第101図 3-3区 第3面全体図1 (1:200)

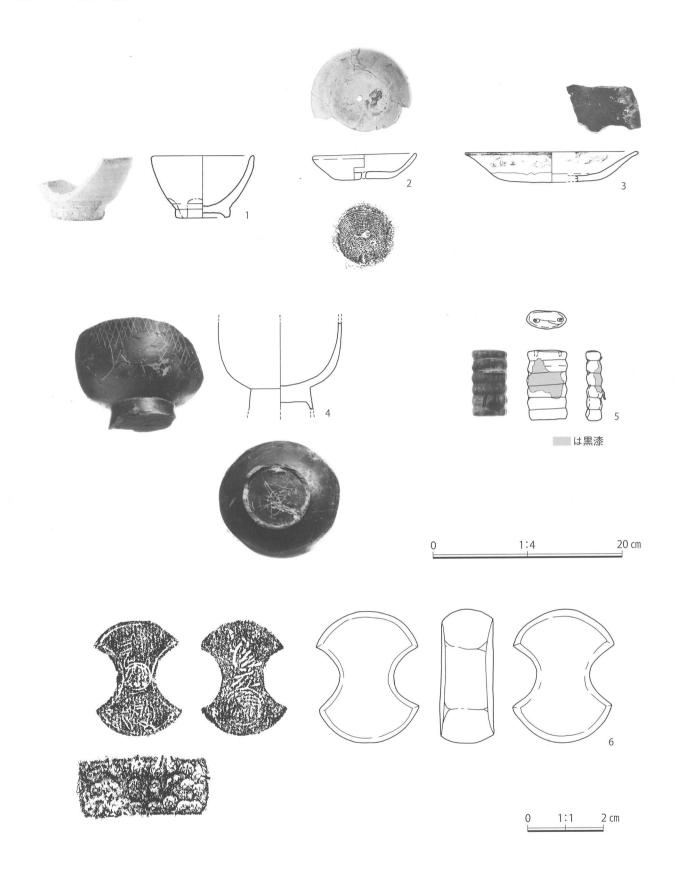
# 5) その他の出土遺物 (第104図、図版62)

近現代の盛土層および攪乱層から出土した遺物のうち、重要と思われるものを掲載した。

第104図1は肥前系陶器の小碗である。九陶 I - 2 期。2は在地系土師器の皿である。3-3a区の南東、標高1.66mの1層から出土している。内面に油煙が付着することから、灯明皿の可能性がある。また、底部に直径4mm大の焼成前穿孔があり、燭台として使用された可能性もある。3は京都系の土師器皿である。内面と外面胴部に漆が塗布される。4は漆椀である。外面に金彩で五弁花文が3ヶ所、赤線による格子が描かれている。高台内に線刻が認められるが文様は不明である。5は不明品である。黒漆が一部残ることから、全体に黒漆が施されていたものと思われる。6は分銅である。重さは73gである。弐両分銅で周囲に直径3mmの刻印がある。表面に「弐」「両」、裏面中央に「後藤」の崩し字が彫られる。



第102図 3-3区 第3面全体図2 (1:200)



第104図 3-3区 その他の遺構外出土遺物 (1:4、1:1)

表66 その他の遺構外出土土器観察表

挿図	出土	材質	器種	器形		法 量	(cm)		重量	生産地	九陶	備考
番号	位置	17.5-2	DI TE	ни ли	口径	底径	器高	その他	残存率	工生地	編年	V用 クラ
104-1	その他 遺構外	陶器	小碗		6.1	3.2	3.7		33g 50%		I -2	底部:土見せ
104-2	その他 遺構外	土師器	ш		8.2	4.2	2.0		35g 70%			内面:油煙付着 底部:回転糸切痕 φ4mm大の 穿孔あり(祭祀時使用か) 灯明皿の可能性あり
104-3	その他 遺構外	土師器	Ш		13.6	4.0	2.3		18g 20%	京都系		外面: 胴部〜内面: 全体にかけて黒漆塗布 底部: 指の痕跡あり 口縁内外面: 付着物あり

#### 表67 その他の遺構外出土木製品観察表

挿図	出土	er den			法 量	t (cm)			重量	
番号	位置	種類	名称•部位	長さ (口径)	幅	高さ (器高)	その他	木取	残存率	備考
104-4	その他遺構外	漆椀		(12.2)		>(9.3)			70%	外面:黒漆 五弁花(金彩)3ヶ所 赤線によるコウシ 内面:赤漆 高台内線刻あり 文様不明
104-5	その他 遺構外	不明品		7.4	4.2		厚2.0		30g 100%	黒漆1部が残ることから全体黒漆か

# 表68 その他の遺構外出土金属製品観察表

挿図	出土	種類	材質	法量	重量	備考
番号	位置	111 70	177 員	大きさ (cm)	残存率	· 考
104-6	その他遺構外	分銅		長3.5/幅2.6/厚1.4	73g 100%	式両分銅 表面:(弐)、(両)と線彫り、その二文字の中間に $\phi$ 7.5mmの二重円の中に(垌紋か)のある後藤家の家紋を刻む。 裏面:中央部に「後藤」の二文字をくずし字で彫る。その下に $\phi$ 5.5mmの重圏の中に(後藤家の家紋か)を刻む

### 6) 小結

本調査区で確認された遺構は、表69のとおりである。

第1面は、標高1.3mに位置する。17世紀半ば~後半代の生活面とみられる。3-3a区で廃棄土坑SKO1が、3-3b区で用途が判然としないがSKO2・03が確認された。また、3-3a区から3-3b区にかけて石組水路1が確認された。他に礫敷きが数か所みられた。建物跡が検出されなかったことは、当時、調査区が屋敷地の空閑地にあたることを示すものと思われる。その時期は、松平入府以降と考えられる。

第2面は、標高0.8mに位置する。17世紀前半代の生活面とみられる。建物土台1・2・土留め遺構1~3・壁状遺構1~4などからなるSB01が確認された。土留め遺構によって建物の地盤を安定させ、竹木舞の壁をもつ建物が建築されたものと考えられる。東西方向に築かれた石垣1は、調査区の東に続く様相を示している。SX01の南に位置し、その南端から0.5m程しかないため、SX01と同時期に存在していたものとは考え難い。南の城山北公園線から約4.5m奥まった位置にあり、確認された側溝石垣とともにこの石垣を土台とした門長屋の存在が想定される。また、3-3b区の中央から東で確認された不明遺構SX01・02は、造成時の採土を目的とした遺構の可能性がある。埋土の様相からSX01は造成段階で廃棄土坑を兼ねて埋め戻されたものと思われる。なお、SX02については溝の可能性も考えられる。

第3面は、標高0.5~0.6mに位置する。17世紀前葉の堀尾氏による城下町造成直後にあたる。城山北公

#### 第4章 本調査の結果

園線沿いで確認されたSDO2は、その位置と規模から、造成の初期段階に掘削される素掘りの大溝と考えられる。

表69 3-3区検出遺構一覧

遺構面	検出標高(m)	時期	検 出 遺 構
第1面	1.3	17世紀半ば~後半代	SK01 SK02 SK03 石組水路1 石列1 礫敷1 礫敷2
第2面	0.8	17 世紀前半代	SK04 SK05 建物 1 (建物土台 1・2、土留め遺構 1~3、 壁状遺構 1~4) 石垣 1 石組 SD01 SX01 SX02
第3面	0.5~0.6	17 世紀前葉	SD02

#### 4.3-4区

# 1)調査の概要と土層堆積状況(第35・105図)

調査地は、第3ブロックの東側に位置する。調査区のうち、東3分の1が松江城下町遺跡(母衣町45 - 3)にあたる。南側は城山北公園線(大手前通)に接している。江戸時代には上級武士の屋敷地であった。 江戸時代の絵図から、屋敷の出入り口は南向きであったと考えられる。調査区はこの屋敷地の南東側を調査する形になる。東西約15m×南北約10mの範囲である。

調査区は近代以降、宅地として利用されてきたため、近現代の撹乱が深さ1.1mまで及ぶところもあった。標高約2.0mの現地表面から約1.6m掘り下げると、標高 $0.3\sim0.4$ mで I 層に至る。 I 層は約20cm堆積するが、部分的に小砂礫を多く含む黒褐色砂質土となっており、撹拌された様相がみられることから、耕作を受けた可能性がある。この I 層を基盤として、初期造成土のA層が $0.2\sim0.3$ m堆積する。さらに、その上に造成土が積み重ねられていく様相がみられ、 $1\sim3$ 層に大別できた。

1層は褐灰色~黄褐色土を主体とし、黒褐色土や黄褐色砂などをブロック状に混合する。層厚0.2~0.4 mで、2~3層に細分できる。近現代の盛土層である。

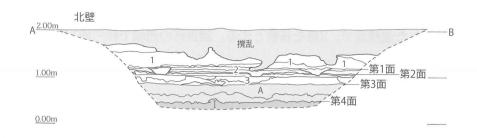
2・3層は、有機物を多く含む黒褐色土と山土と思われる青灰色~灰黄色粘質土が互層状に堆積し、数層に細分できる。それぞれの上層には黄橙色砂層が堆積する。この砂層は整地を兼ねて意図的に敷かれているようであり、上面を遺構面と捉えた。調査時には上面に凹凸が見られる黒褐色土層を検出し、この面を遺構面と考えていたが、主だった遺構は検出されず、造成盛土の一段階と判断した。

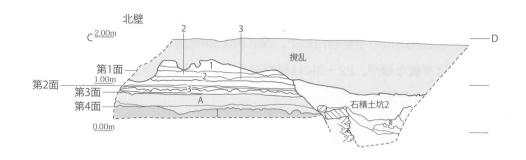
2層は青灰色粘質土を主体とし、層厚0.2m前後である。この上面を第1面とし、検出標高は1.1~1.2mである。形成年代は、出土遺物と検出遺構から18世紀後半~19世紀前半と推定される。

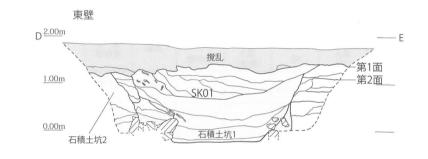
3層は黒褐色土を主体とし、層厚0.2~0.3mである。この上面を第2面とし、検出標高は0.9~1.0mである。形成年代は、出土遺物と検出遺構から17世紀後半~18世紀代と推定される。

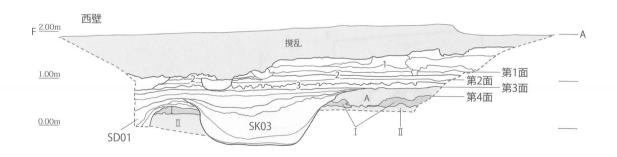
A層上面を第3面とし、検出標高は0.8m前後である。形成年代は、17世紀前葉~前半代と推定される。

I層上面を第4面とし、検出標高は $0.4\sim0.5$ mである。 I層は遺構の掘方によってほとんどが消失しており、面としては調査区の北西側でのみ確認できた(第105図)。









- 1 褐灰色土〜黄褐色土 2 青灰色粘質土 3 黒褐色土(上層に褐色砂層を含む)

は遺構埋土



第105図 3-4区 土層断面図 (1:80)

## 2) 第1面 (第106 図)

標高1.1~1.2mで検出した遺構面で、2層を基盤とする。調査区の西端で柱穴列1基を、東側で土坑2基 と石積土坑2基を検出した。

# SA01 (第106·107図、図版36-2)、遺物 (第107図、図版63)

調査区の西側に位置する柱穴列である。3穴を検出した。柱間1.5mで2間(約3.0m)の規模である。 主軸方位はN-5°-Eである。この遺構の東と西では対応する柱穴は確認されなかったが、調査区の北と 西側に対応する柱穴が存在する可能性がある。

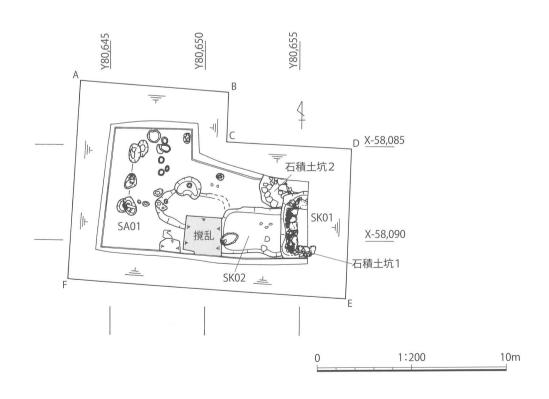
柱穴は、長径0.8~1.0m×短径0.6mの不整楕円形で、深さ約0.3mを測る。北に位置するP1のみ0.1m と浅い。P1の底面やや上には平板な礫が、P2・3には礎盤石の上に角柱が残存していた。角柱は一辺18 cmで、欠損部までの長さは約50cmを測る。

時期を判定する遺物は出土していないが、検出面から19世紀後半代の遺構と考えられる。

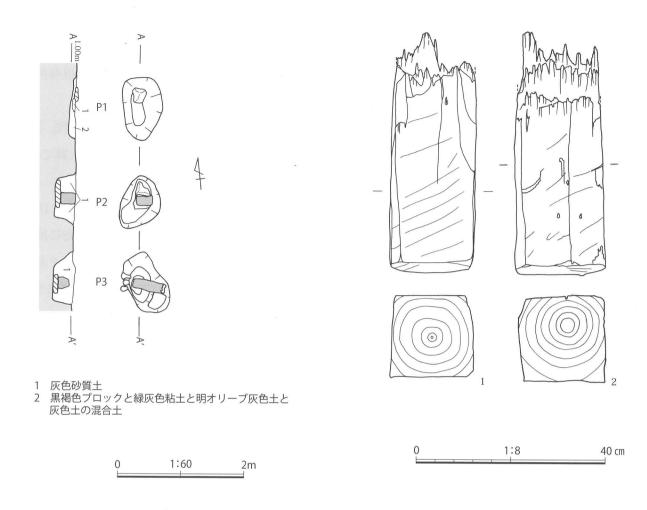
第107図1はP2、2はP3の柱材である。底部は鋸で断たれ、側面には削り痕が見られる。

±70	CAOI	出十木製品観察表
表 /()	SAUL	出土不彩而観祭衣

桂网	ш±				法 量	(cm)			重 量	4
挿図 番号	出土 位置	種類	名称·部位	長さ (口径)	幅	高さ (器高)	その他	木取	残存率	備考
107-1	SA01-P2	柱		>55.5	17.2			心持材	11000g -	角柱 面に加工痕あり
107-2	SA01-P3	柱		>51.3	18.5			心持材	11000g -	角柱 面に加工痕あり



第106図 3-4区 第1面全体図 (1:200)



第107図 3-4区 SA01·柱材実測図(遺構1:60、柱1:8)

## SK01 (第106·108図、図版36-3)、遺物 (第109~115図、図版63~66)

調査区の東端に位置する土坑である。東側が調査区外へ続く。平面形は隅丸方形をなす。規模は確認できた範囲で1辺3.4m、深さ0.9mを測る。下層部には灰色またはオリーブ灰色系の混合土が堆積し、上層に黒褐色土がのる。壁面の土層観察から、後述する石組土坑1の上部を壊して、標高-0.1mまで掘り込まれていることがわかった。遺構内からは、生活雑器とともに鳥類をはじめとする動物遺存体が多数出土している(第6章参照)。石組土坑1の廃絶後、その形を踏襲しながら廃棄土坑として利用されたものと考えられる。

埋土から陶磁器や木製品などが多数出土した。出土遺物は、総数611点、総重量34,278gである。材質別では、陶磁器類245点(陶器118、磁器79、土師器39、土器2、土製品7)、瓦13点(丸1、平12)、木質遺物268点、金属製品3点、動物遺存体81点(鳥3、貝78)、自然遺物1点である。

第109図1は肥前系磁器の碗である。陶胎染付で、18世紀末~19世紀初頭に相当する。2・3は布志名焼の碗である。19世紀前半代。2の高台内に「よ」の墨書がある。文字か記号かは不明。4は京都信楽系の杉型碗である。19世紀第1四半期。5は肥前系磁器のミニチュア椀である。外面に氷烈文の染付が施される。18世期以降に相当する。6は肥前系磁器の皿である。「くらわんか手」である。内面にコンニャク

印判文が押され、高台内に馬字状「渦福」が描かれる。18世紀代。7は肥前系磁器の折縁皿である。19世紀代。8は京都系の隅入方形皿である。哥窯写し<sup>5</sup>とみられ、内・外面に杉葉文が描かれるが、剥落している。19世紀代か。9・10は肥前系磁器の香炉である。9は18世紀代前半代。10は蛇の目凹形高台で、18世紀末~19世紀前半代。

第110図1・2は在地系の擂鉢である。2の見込みと畳付にはアルミナ砂が付着する。19世紀代。3は布志名焼と思われる植木鉢である。外面に陽刻の草花文が描かれる。19世紀代。4は布志名焼の火鉢である。口縁端部は煙管の搞打によって欠損している。19世紀代。

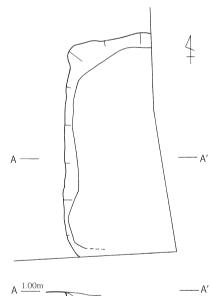
第111図1は石見焼の土鍋である。19世紀代。2は布志名焼の土瓶である。銅線の把手が付く。19世紀代前半代。3は在地系と思われる甕の口縁である。4は在地系の土師器皿である。口縁部内外面に油煙がみられることから、灯明皿として使用されたものと思われる。5は焼塩壺の蓋である。6は火箸である。「U」の字状に折れ曲がっている。7は平瓦の破片である。左桟で菊花文に横線のスタンプが押される。

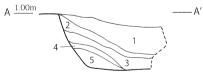
第112図1~4は漆椀である。1は内外面黒の漆塗りが施され、高台内に赤絵で五弁花文が描かれる。2は外面黒、内面は赤の漆塗りが施され、外面に赤絵で丸に剣片喰文3ヶ所が描かれる。3は外面黒、内面は赤の漆塗りが施され、外面に赤絵で丸に花文と思われる文様が3ヶ所描かれる。4は内外面赤の漆塗りが施される。18世紀以降と思われる。5・6は箆である。5は刃部面に横方向に4ヶ所目当ての線と思われ

る細いキズがある。転用品と思われる。6は先端部が欠損しているが、使用痕が見られ、欠けた後も使われたと思われる。曲物の底板を転用したものと思われる。7は丸型の連歯下駄である。前後の歯の一部に黒漆が残る。8は角型の刳り下駄である。前方鼻緒部分に指の痕跡が残る。9は盆である。外面縁から底面にかけて黒、内面は赤の漆塗りである。

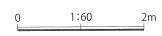
第113図1~5は墨書がある樽の蓋板である。 1は片面に「□分清□」、もう一面は判読不明である。2は片面のみに「□糖」と確認できる。 3は片面のみに「三勺分」と確認できる。4・5 は片面のみに確認できるが判読不明である。細い刃物キズがあり、まな板として転用したものと思われる。5は樹皮による縫込みがある。6 は桶の底板である。7は曲物の蓋板で、縁に段状加工が巡る。

第114図1は樽の蓋板である。直径2.0cmの栓の痕あり、片面にキズが2ヶ所ある。2は桶の蓋板か底板である。片面に刃物キズがあり、中

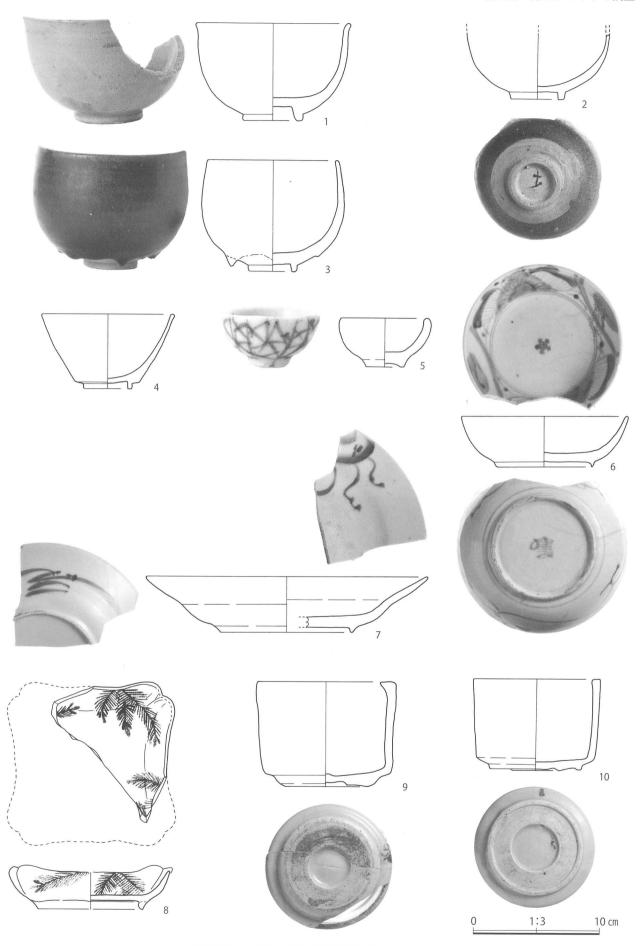




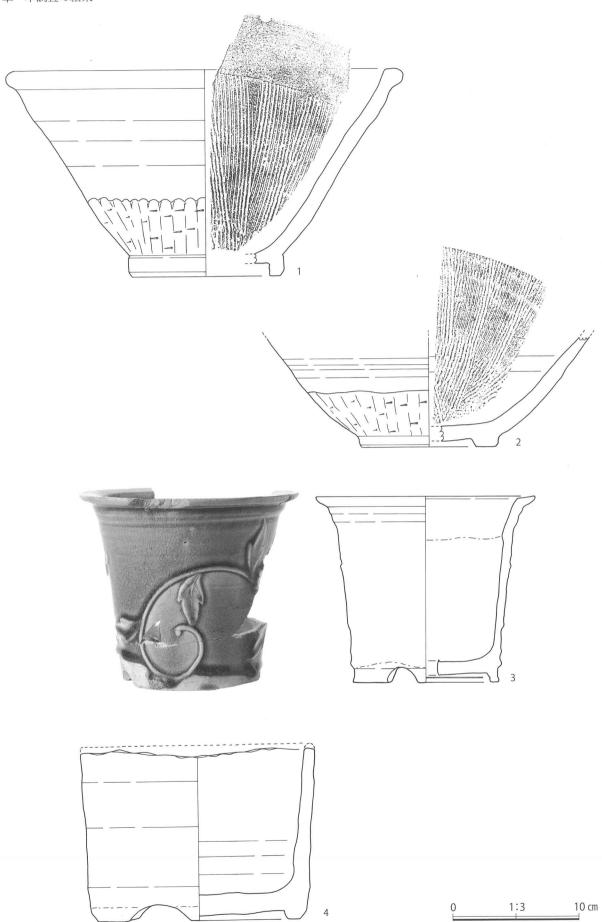
- 1 黒褐色土
- 2 灰色土 緑灰色ブロックをやや含む
- 3 明オリーブ灰色土 明緑灰ブロックを含む
- 4 灰色砂層
- 5 オリーブ灰色土 明緑灰ブロックを含む



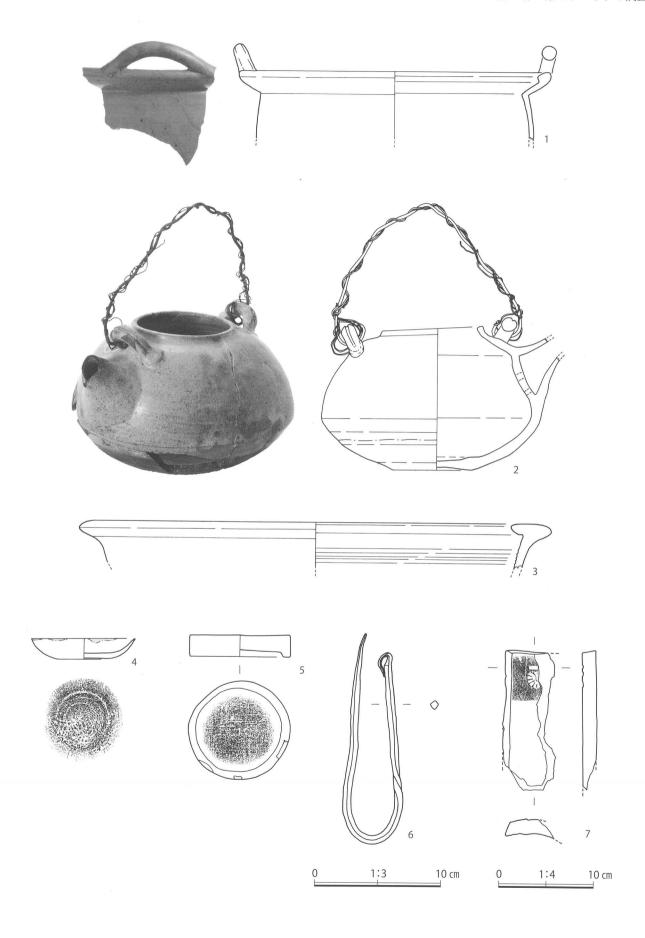
第108図 3-4区 SK01実測図 (1:60)



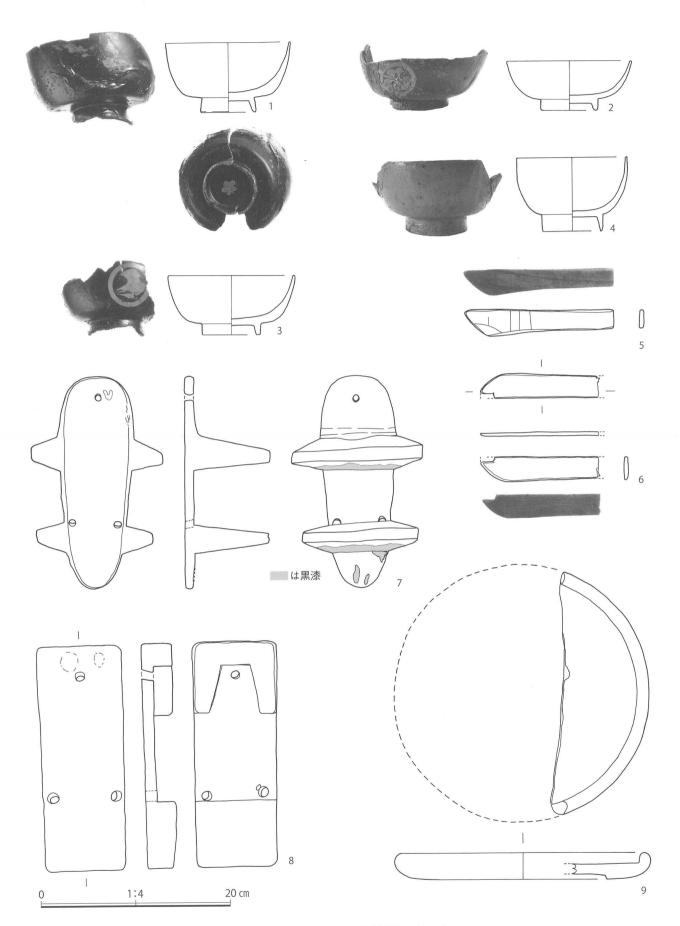
第109図 3-4区 SK01出土遺物1(1:3、1:4)



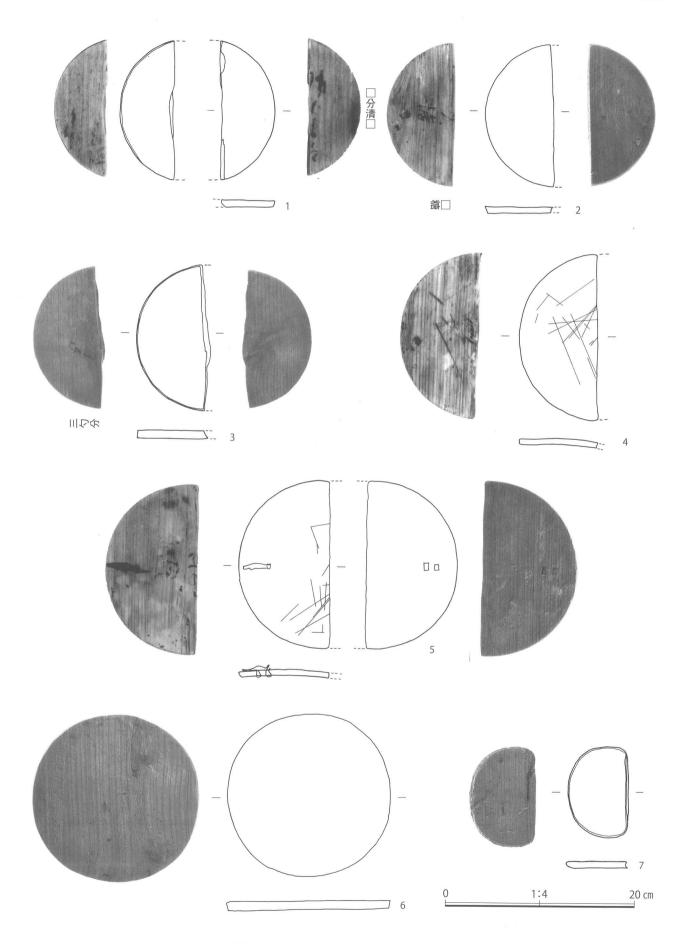
第110図 3-4区 SK01出土遺物2(1:3、1:4)



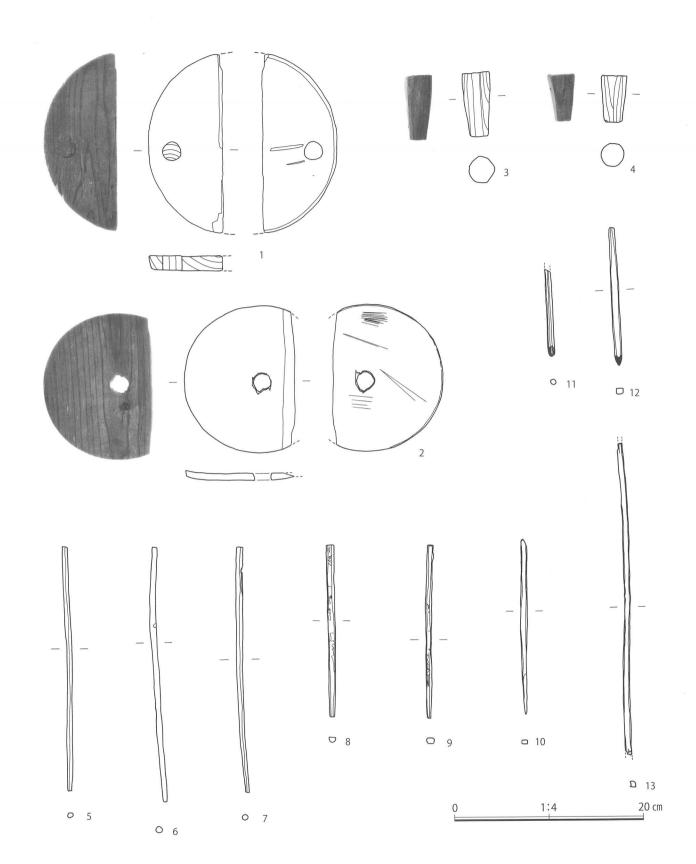
第111図 3-4区 SK01出土遺物3 (1:3、1:4)



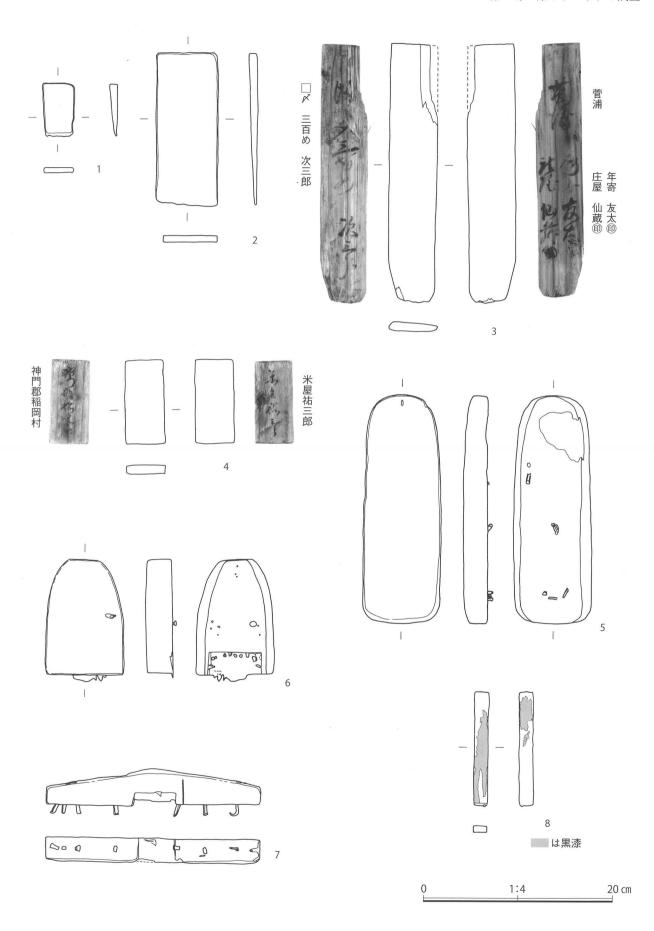
第112図 3-4区 SK01出土遺物4(1:4)



第113図 3-4区 SK01出土遺物5 (1:4)



第114図 3-4区 SK01出土遺物6(1:4)



第115図 3-4区 SK01出土遺物7(1:4)

#### 第4章 本調査の結果

央に栓のためと思われる直径2.2cmの穴がある。3・4は円錐形の栓である。5~9は白木の箸である。8・9は漆もしくは柿渋が付着している。10は串または楊枝である。11・12は先端が被火によって炭化した、いわゆる火付け棒である。箸を転用している。13は棒状の不明品である。

第115図1・2は楔である。3は木札である。両面に墨書があり、片面は「 $\square$ 〆三百め 次三郎」、一面は「菅浦年寄 友太卿/庄屋 仙蔵卿」と確認できる。4は墨書のある板である。片面に「米家祐三郎」、一面は「神門郡稲岡村」と確認できる。5~8は不明品である。5は片面に釘が6ヶ所打たれており、釘頭が0.8~0.2㎝突出している。6は片面に釘が20ヶ所打たれており、うち1本は釘頭が0.7㎝突出している。7は片面に釘穴が3ヶ所、釘が7ヶ所残っており、釘頭・先端が0.9~1.2㎝突出している。3点とも何かの部材と思われる。8は側面に目釘が3ヶ所残り、外面に黒漆塗りが施される。

出土遺物から、19世紀前半代の遺構と考えられる。

表71 SK01出土土器観察表

挿図	出土	++ 55	器種	器形		法 量	t (cm)		重 量	生産地	九陶	備考
番号	位置	材質	石矿 生	名計 ガシ	口径	底径	器高	その他	残存率	工生地	編年	י. מזע
109-1	SK01	磁器	碗	丸形	11.3	4.6	7.7		171g 30%	肥前系		波佐見焼 陶胎染付 畳付:無釉 釉薬:透明釉・白化粧土・呉須 装飾:呉須絵 18世紀末~19世紀初頭
109-2	SK01	陶器	碗	半球形	-	4.2	>5.2		154g 50%	布志名		ボテボテ茶碗 底部:土見せ 高台内:墨書あり「十ノ」19世紀前半
109-3	SK01	陶器	碗	半球形	10.0	3.6	8.8		185g 50%	布志名		ボテボテ茶碗か 底部:土見せ、釉薬がたれ吐出している 釉薬:鉄釉 19世紀前半
109-4	SK01	陶器	碗	杉形	10.2	3.7	5.9		77g 50%	京・信系		底部~高台内:無釉 釉薬:透明釉 19世紀第1四半
109-5	SK01	磁器	ミニチュア碗	丸形	2.3	1.0	1.3		4g 100%	肥前系		外面: 氷裂紋の染付 畳付: 無釉 釉薬: 透明釉・呉須 18世紀以降
109-6	SK01	磁器	ш		13.1	7.5	4.0		248g 80%	肥前系	IV	くらわんか手 コンニャク印判文 高台内:馬字状「渦福」 畳付:無釉、砂付着 18世紀代
109-7	SK01	磁器	ш	折縁形	22.1	10.4	4.4		142g 30%	肥前系		内外面:宝文様か染付 畳付:無釉 釉薬:透明釉薬・呉須 19世紀代
109-8	SK01	陶器	ш	隅入方形	12.3	8.2	2.9		176g 60%	京都		哥窯写し 内・外面に杉葉文 19世紀代?
109-9	SK01	磁器	香炉	筒形	16.0	6.9	8.3		364g 90%	肥前系	V-1	波佐見 蛇の目高台 畳付、内面:胴部~底部無釉 18世紀前半代
109-10	SK01	磁器	香炉	筒形	10.0	7.2	7.1		282g 80%	肥前系	v	蛇の目凹形高台 内面:胴部~底部無釉 18世紀末~19世紀前半代
110-1	SK01	陶器	擂鉢		30.0	10.8	16.4		530g 20%	在地系		口縁:玉縁形 外面底部:横削りだがその前に縦のナデ付けか 擂目単位10本 釉薬:来待釉 19世紀代
110-2	SK01	陶器	擂鉢		-	8.1	>8.1		640g 40%	在地系		見込み、量付:アルミナ砂付着 擂目単位13本 釉薬:来待釉 外面底部:横削りだがその前に縦のナデ付け 19世紀代 破断面:意図的にこの高さ(深さ)まで打ち割ったか
110-3	SK01	陶器	植木鉢	鍔縁 桶形	17.2	11.2	14.7		800g 60%	布志名か		高台:半円形のえぐりを持つ 外面装飾:陽刻文様 外面文様:草花 文様 成形:押型、貼り合わせ 19世紀代
110-4	SK01	陶器	火鉢	半筒形	-	15.8	>13.3		840g 40%	布志名		高台:半円形のえぐりを持つ 口縁部:煙管による搞打痕あり 外面装飾:刷毛目文様 釉薬:白化粧土・透明釉 成形:押型、貼り合わせ 19世紀代
111-1	SK01	陶器	土鍋	丸形	24.2	-	>5.4		57g 10%			釉薬:来待釉 19世紀代
111-2	SK01	陶器	土瓶	胴折形	7.9	6.3	9~11.3		780g 90%			底部:無釉、煤?付着 銅線の把手が付属する 釉薬:わら灰釉 19世紀前半代
111-3	SK01	陶器	甕		37.2	-	>3.6		170g 10%			口縁: 鍔縁形 内面:ナデによる凹線あり
111-4	SK01	土師器			8.1	4.0	1.6		41g 100%			内外面:焼成の影響により黒色 内外面口縁端部:油煙痕あり 底部:回転糸切痕
111-5	SK01	土器	焼塩壺蓋		7.9	7.9	1.7		108g			内面:布目痕 内外面:雲母付着

表72 SK01出土木製品観察表 1

挿図	出土				法	量 (cm	)		重量	
番号	位置	種類	名称•部位	長さ (口径)	幅	ち高 (高器)	その他	木取	乗 里 残存率	備考
112-1	SK01	漆椀		(13.2)	5.9	(7.4)			158g 70%	内外面:黒漆 高台内:黒地に赤絵で五弁花文
112-2	SK01	漆椀		(12.8)	5.8	(5.3)				外面:黒漆 内面:赤漆 外面黒地に赤絵で丸に剣片喰文3ヶ所
112-3	SK01	漆椀		(13.2)	6.0	(6.3)				外面:黒漆 内面:赤漆  外面黒地に赤絵で丸に花文か3ヶ所
112-4	SK01	漆椀		(11.6)	6.2	(7.8)	-		162g 60%	内外面:赤漆 18世紀以降か
112-5	SK01	箆		15.7	-	-	厚0.5		17g	刃部幅:2.8cm 柄部幅2.0cm 刃部面:横方向に4ヶ所細    いキズあり(目当ての線か) 転用品か
112-6	SK01	箆		>12.4	2.4	-	厚0.4		14g -	先端部:欠損、欠けた後使用 曲物の底板転用か
112-7	SK01	下駄	丸型連歯下駄	22.5	13.7	9.0			591g 100	
112-8	SK01	下駄	角型刳り下駄	23.7	8.6	3.2		板目	498g 100%	
112-9	SK01	盆		φ 27.0	17.6	2.8	内径24.6		312g 40%	
113-1	SK01	樽	蓋板	14.8	-	-	厚0.7	柾目	50g 40%	
113-2	SK01	樽	蓋板	15.0	_	-	厚0.65	板目	59g 50%	
113-3	SK01	樽	蓋板	15.4	-	-	厚0.9	板目	80g 50%	片面のみ墨書「三勺分」
113-4	SK01	樽	蓋板	17.5	-	-	厚0.6	柾目	76g	片面のみ墨書 判読不明 墨書面に細い刃物キズあり(まな板として転用か)
113-5	SK01	樽	蓋板	17.7	-	-	厚0.7	柾目	89g 50%	片面のみ墨書 判読不明 墨書面に細かい刃物キズあり(まな板として転用か) 樹皮による縫込みあり(何かを付けていたか)
113-6	SK01	桶	底板	φ 17.2			厚0.9	柾目	216g 100%	
113-7	SK01	曲物	蓋板	9.6	6.3		厚0.7		39g 80%	縁に段状加工巡る
114-1	SK01	樽	蓋板	18.9	-	-	厚1.5	板目	181g 40%	カ2 Ωcmの於痕払け 両片側にもブ2~配払け
114-2	SK01	桶	蓋板か底板か	16.0			厚7.0	板目		片面に刃物キズあり 中央に φ 2.2cmの穴あり、後ろから 穿った穴(栓のためか)
114-3	SK01	栓		6.7	-	-	φ 2.9 <b>~</b> 1.9	板目	37g 100%	円錐形 差込部長:2.6cm
114-4	SK01	栓		4.9		-	厚2.6~1.9	柾目	22g 100%	円錐形 差込部長:2.7cm
114-5	SK01	箸		25.8	-	-	厚0.5		6g 100%	
114-6	SK01	箸		26.7	-	-	厚0.6		8g 100%	白木
114-7	SK01	箸		24.8			厚0.6		7g 100%	白木
114-8	SK01	箸		18.1	0.7		厚0.5	柾目	6~	面に漆もしくは柿渋付着
114-9	SK01	箸		18.3	0.8		厚0.6	柾目	5g 100%	面に漆もしくは柿渋付着
114-10	SK01	串(楊枝)		18.5	0.6	-	厚0.4		3g 100%	断面:方形
114-11	SK01	不明品		9.2	0.6	-	厚0.6		3g -	先端部:焦げ跡あり 付け火種として箸の転用品か
114-12	SK01	不明品		14.6	0.7	-	厚0.6		5g 100%	先端部:焦げ跡あり 付け火種として箸の転用品か
114-13	SK01	不明品		33.0	0.7		厚0.6		7g -	
115-1	SK01	楔		5.5	3.2	-	厚0.2~0.8	柾目	10g 100%	
115-2	SK01	楔か		16.0	6.5	-	厚0.2~0.9		70g 100%	
115-3	SK01	木札		27.5	5.0	-	厚0.5~0.9	板目	100g	両面:墨書「ロ×三百め 次三郎」もう一面は「菅浦年 寄 友太卿/庄屋 仙蔵卿」
115-4	SK01	板		9.0	4.1	-	厚0.9	板目	36g 100%	両面:墨書「米宅祐三郎」もう一面は「神門郡福岡村」

### 第4章 本調査の結果

### 表73 SK01出土木製品観察表2

+ <b>±</b> ∞	出土				法量	量 (cm)			重量				
挿図 番号	位置	種類	名称·部位	長さ (口径)	幅	高さ (高器)	その他	木取	残存率	備考			
115-5	SK01	不明品		24.1	8.2		厚2.5		391g 100%	片面に釘6ヶ所 釘頭00.8~0.2cm突出している 部材か			
115-6	SK01	不明品		12.9	8.0	-	厚2.8		246g 100%	片面に釘20ヶ所 うち1本は0.7cm突出している 部材か			
115-7	SK01	不明品		22.6	2.6	-	厚5.0			片面に釘穴3ヶ所 釘7ヶ所 釘頭・先端が1.2~0.9cm突出している 部材か			
115-8	SK01	不明品		12.0	1.5	-	厚0.7	柾目	13g 100%	側面:目釘3ヶ所が残る 両面・側面:黒漆			

# 表74 SK01出土金属製品観察表

挿図 番号	出土 位置	種類	材質	法 量 大きさ (cm)	重 量残存率	備考
111-6	SK01	火箸	鉄	長16.5/幅0.2~0.6/厚0.2~0.7	50g 100%	全体:Uの字状に折り曲げ 先端部:折り曲げ 断面:方形

### 表75 SK01出土瓦観察表

挿図 番号	出土 位置	種類	色調	法 量 大きさ (cm)	重 量 残存率	備考
111-7	SK01	桟瓦(左)	内外)灰白色	長14.8/幅5.2/厚1.5	0.1g 10%	菊花文の下に横線のスタンプあり

# SK02 (第106·116図、図版37-1)、遺物 (第116図、図版66)

調査区の東側に位置する土坑である。東側がSK01に、西側が撹乱によって壊される。平面形は隅丸長方形をなす。規模は東西3.4m以上、南北2.5m、深さ0.4mを測る。断面は皿状をなす。埋土のうち2~5層は荒砂や砂質土が堆積し、上層に石や瓦・木片などを含んだ1層がのる。1層下面で掘り直しがあったと思われる。遺構の性格は不明である。

出土遺物は、総数5点、総重量642gである。材質別では、陶磁器類2点(陶器1、土師器1)、瓦1点(平1)、木質遺物2点である。

第116図1は肥前系陶器の皿である。九陶Ⅲ期以降。2は丸型の差歯下駄である。前方鼻緒部分には指の跡が残る。18世紀後半以降と思われる。

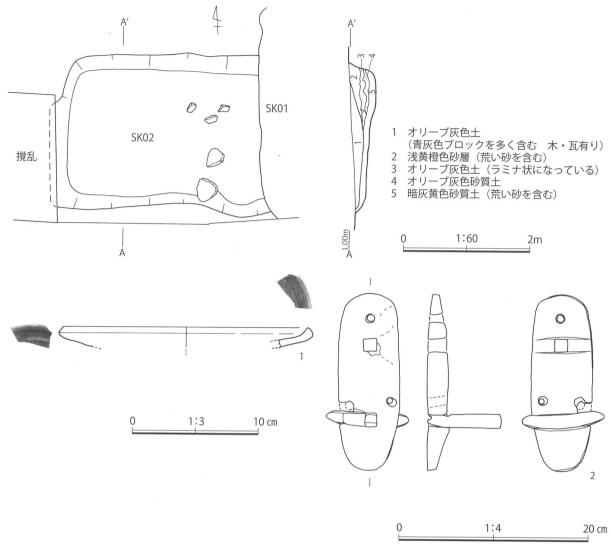
出土 遺物は17世紀後半以降を示すが、検出面から19世紀前半代の遺構と考えられる。

#### 表76 SK02出土土器観察表

挿図	出土	++ 55	器種	器形		法 量	(cm)		重 量	生産地	九陶	備考
挿図 番号	位置	材質	<b></b>	<b>番形</b>	口径	底径	器高	その他	残存率	工庄地	編年	UHI "73
116-1	SK02	陶器	ш		20.0	-	>1.6		16g 10%	肥前系	Ⅲ以降	

# 表77 SK02出土木製品観察表

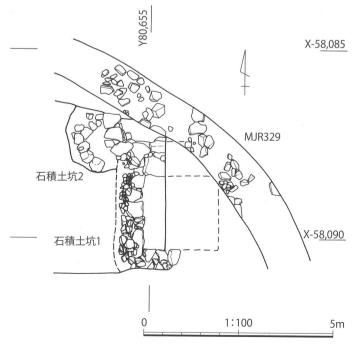
挿図	出土				法 量	(cm)			重量	
番号	位置	種類	名称·部位	長さ (口径)	幅	高さ (器高)	その他	木取	残存率	備 考
116-2	SK02	下駄	丸型差歯下駄	18.7	8.6	7.9		板目		ホゾ穴前後1ずつ 指の痕跡あり 18世紀後半以降か



第116図 3-4区 SK02・出土遺物実測図(遺構1:60、遺物1:3、1:4)

**石積土坑1** (第106・117・118図、図版 37-2・3)、遺物 (第118図、図版66)

調査区の東端に位置する。東の調査区外へ続く。前述の廃棄土坑SK01に上部を壊されており、石積の下段部のみ確認できた。規模は内幅2.0m(南北)×1.0m以上(東西)を測る。石の下端の標高は-0.3mである。30~60cm大の石を使い、内側に面をもって置かれ、10~20cm大の石を裏込めとしている。石材はほとんど大海崎石である。上記の理由で掘り込み面ははっきりしないが、石積の形状から一辺約4.0m



第117図 3-4区 石積土坑1・2とMJR329との合成図 (1:100)

以上の方形の掘方をなすものと推定される(破線)。

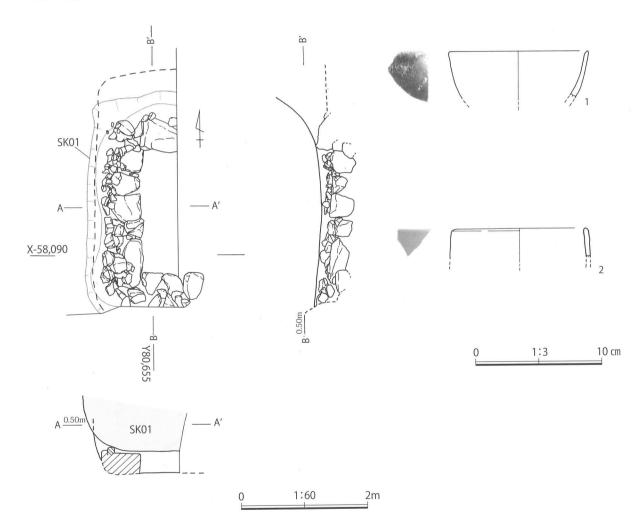
立会調査MJR329において、本遺構の東にあたる位置で、南北方向に並ぶ石積遺構が確認された。検出標高や石材が類似し、南北に平行する配置から、本遺構の東部分と考えられる。復元すると、内幅2.0mの方形の石積となる(第117図)。

遺構の性格は、地下室または石積井戸などが考えられるが、全容が不明なため判然としない。

出土遺物は、総数2点、総重量12gである。陶磁器類2点(陶器2)である。

第118図1は在地系陶器の碗である。19世紀代である。2は京都・信楽系の陶器の碗と思われる。18世紀代である。

出土 遺物は19世紀代を示すことから、当該期の遺構と考えられる。



第118図 3-4区 石積土坑1・出土遺物実測図(遺構1:60、遺物1:3)

表78 石積土坑1出土土器観察表

挿図	出土	材質	器種	器形		法 量	(cm)		重量	生産地		備考
挿図 番号	位置	州貝	461里	有許リン	口径	底径	器高	その他	残存率	1,11	編年	
118-1	石積土坑1	陶器	碗		13.3	-	>3.8		9g 10%	在地系		江戸後期 19世紀
118-2	石積土坑1	陶器	碗		10.2	e	>2.4		3g 10%	京・信系か		18世紀代

## 石積土坑2 (第106・119図、図版38)、遺物 (第120図、図版66)

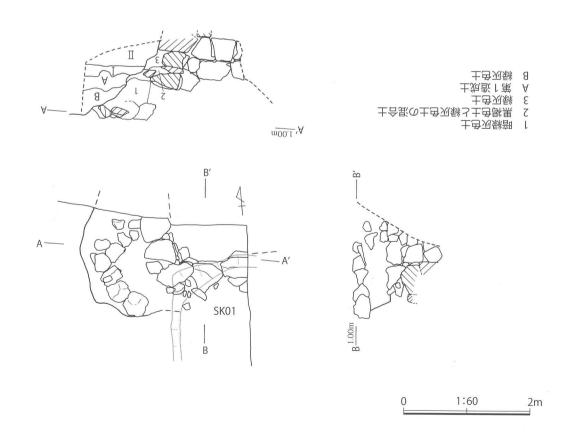
調査区の北東端に位置する。北と東の調査区外へ続く。平面形は円形をなすものと推測されるが、南東部が前述のSK01と石積土坑1に壊されるため、正確な形状は不明である。規模は東西2.5m、南北1.5mを測る。石積は外側の上段部と内側の下段部に分かれる。外側の石積は、20~40cm大の石を使い、標高0.8~1.1mで、半円形に配置される。内側の石積は50~60cm大の石を使い、内側に面をもって方形に組まれている。標高0.5m~-0.3mまで3段を確認したが、湧水と壁崩落の危険が生じたため、掘り下げを停止した。さらに下に続くようである。隣接する立会調査MJR329において、本遺構の北と東にあたる位置で、検出標高や石材が類似する石が多数確認された。東側の石は西に面をもって南北方向に並ぶ。点在する北側の石は、石積の崩れたものと思われる。復元すると、東西の内幅1.8mの方形あるいは長方形の石積になることが推測される(第117図)。

遺構の性格は、地下室または石積井戸などが考えられるが、判然としない。

下段部の石積内側の埋土から、陶磁器や木製品が出土している。

出土遺物は、総数4点、総重量301gである。材質別では、陶磁器類2点(陶器1、土師器1)、木質遺物 2点がある。

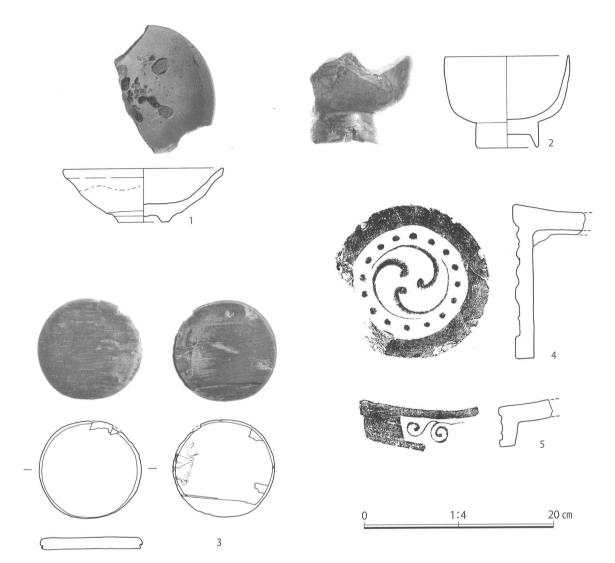
第120図1は肥前系陶器の碗である。九陶 I -2期。2は漆椀である。外面は黒、内面は赤の漆塗りが施される。17世紀後半である。3は曲物の蓋板である。縁に段状加工が巡り、側面に目釘1ヶ所が残る。片面に付着物・シミがみられる。4は軒丸瓦の瓦当部分である。連珠三巴文左巻きで、珠文16個を配する。5



第119図 3-4区 石積土坑2実測図 (1:60)

は軒平瓦で細い唐草文が刻まれる。

出土 遺物は17世紀代の遺物を含むが、検出面から19世紀代の遺構と考えられる。



第120図 3-4区 石積土坑2出土遺物 (1:3、1:4)

## 表79 石積土坑2出土土器観察表

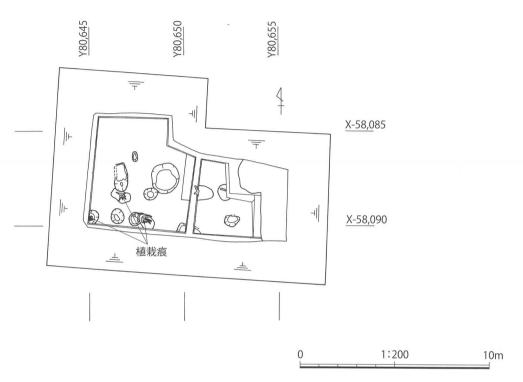
挿図 番号	出土	材質	器種	器形		法 量	(cm)		重量	生産地	九陶	備者
番号	位置	何貝	拍計作里	有許リン	口径	底径	器高	その他	残存率	エだつ	編年	ל. אוע
120-1	石積土坑2	陶器	碗		12.5	4.0	4.2		104g 40%		I -2	見込部:胎土目3ヶ所と付着物あり 底部:土見せ

## 表80 石積土坑2出土木製品観察表

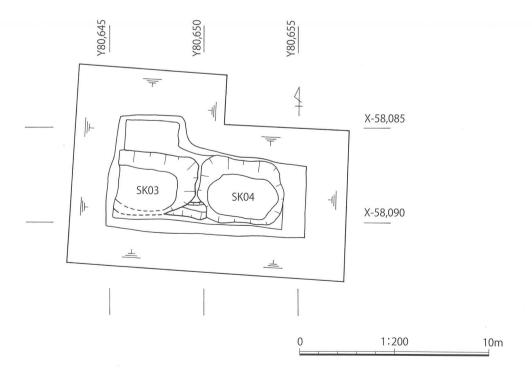
挿図	ш+	出土 瑶鄉 ねた 如月			法 量	(cm)			重 量	/++ -+7.	
番号	位置	種類	名称•部位	長さ (口径)	幅	高さ (器高)	その他	木取	残存率	備考	
120-2	石積土坑2	漆椀		(13.0)	A	(9.7)	底径6.7			外面:黒漆 内面:赤漆 高台:高く、えぐりが 半分くらいまで入る 17世紀後半	
120-3	石積土坑2	曲物	蓋板	φ 10.3	-	-	厚1.2	柾目		縁に段状加工巡る 側面:目釘1ヶ所が残る 面に付着物・シミあり	

表81 石積土坑2出土瓦観察表

挿図 番号	出土位置	種類	色調	法 量 大きさ (cm)	重 量 残存率	備考
120-4	石積土坑2	軒丸瓦	内外)暗灰色	外径16.4/内径11.8/丸瓦厚1.9		連珠三巴文 右巻き 珠門16
120-5	石積土坑2	軒平瓦	内外)暗灰色	上弦幅12.7/下弦幅7.3/瓦頭高4.2/平瓦厚1.9	0.3g 10%	唐草文



第121図 3-4区 第2面全体図 (1:200)



第122図 3-4区 第3面全体図 (1:200)

## 3) 第2面 (第121図、図版39)

標高0.9~1.0mで検出した遺構面で、3層を基盤とする。やや南に向かって下るが、フラットに整地されているようである。植栽痕とピット状遺構を検出した。他に主な遺構はなく、遺構密度は低い。

遺構面は有機物を多く含む黒褐色土で、小土坑内に残存した木の根を検出した(図版39-3)。おもに調査区の南側に多くみられ、5カ所を確認したが、調査区外へ続くようである。周辺には同様の小土坑が点在する。土坑に植栽し、覆土した後、黄褐色の荒砂を盛って整地している。他に主な遺構は確認されなかった。これらの植栽痕は庭木として植えられたものと思われる。

## 4) 第3面 (第122図)

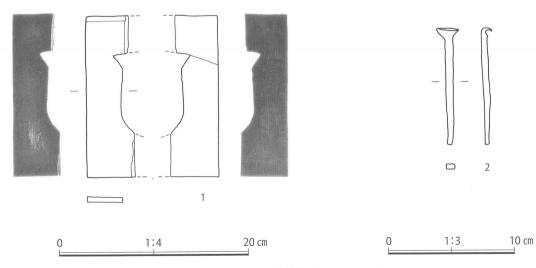
標高0.8m前後で検出した遺構面で、A層を基盤とする。調査区の広範囲にわたる、大形土坑2基を検出 した。

## SK03 (第122·124図、図版40·41-1)、遺物 (第123図、図版66)

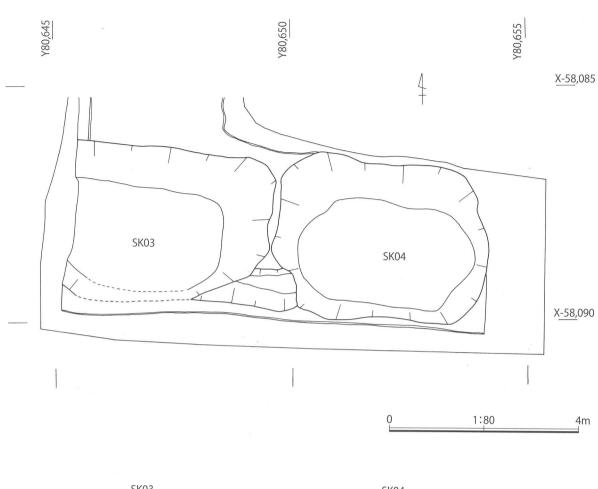
調査区の西半分を占める大形の土坑である。平面形は隅丸長方形をなす。南側の肩は掘り下げ時の側溝内で検出し(破線部)、西の調査区外へ続く。規模は東西4.2m以上、南北3.4m、深さ1.0mを測る。A層上面から堀込まれ、断面は皿状をなす。底面の標高は-0.4mである。埋土は下層(8~11層)に粘質土が堆積し、木片を多く含む。上層(3・4・7層)には混合土と砂層が堆積し、その一部(5・6層)が後述するSK04に流れ込む。遺物は少なく、8層以上は短期間に埋められた様相を示す。

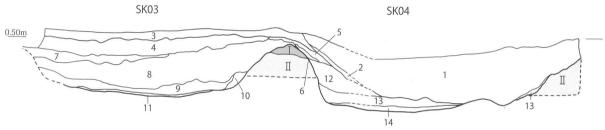
形態が類似する遺構として、道路を挟んで東に位置する松江城下町遺跡(母衣町68) SK41~45などが挙げられる。これらは、採土を目的として掘削された土坑と考えられることから、本遺構も採土土坑の可能性が高いものと考えられる。

出土遺物は、総数13点、総重量1,654gである。材質別では、瓦3点(丸1、平2)、木質遺物9点、金属製品1点である。



第123図 3-4区 SK03出土遺物 (1:3、1:4)





- 1 灰色土と黒褐色土の混合土
- 2 明褐灰色土
- 黄灰色ブロック土と褐灰色ブロック土の混合土
- 4 にぶい黄橙色砂層
- 5 灰黄色砂層 6 4と8の混合土 (ラミナ状にSK04側に下る)
- 灰色砂層
- 8 オリーブ灰色粘質土 9 褐灰色土と黒褐色砂質土の混合土(木片多い) 10 灰オリーブ色土

- 11 黄灰色粘質土 12 灰黄色砂層と灰白色土が層状に重なる土層(黒褐色ブロック土を含む)
- 13 褐灰色粘質土
- 14 黄灰色粘質土



第124図 3-4区 SKO3·04実測図 (平面1:80、土層1:60)

第123図1は用途不明の木製品である。両面に目当ての線があり、飾り板と思われる。2は鉄釘である。 頭部は叩き伸ばし折り曲げている。

時期を判定する遺物に乏しいが、検出面から、17世紀前半代の遺構と考えられる。

#### 表82 SK03出土木製品観察表

挿図	出土				法 量	(cm)			重量	/# -#/
番号	位置	種類	名称·部位	長さ (口径)	幅	高さ (器高)	その他	木取	残存率	備 考
123-1	SK03	不明品	飾り板か	17.5	5.0	-	厚0.5~ 0.6	柾目	40g -	両面:目当ての線あり

#### 表83 SK03出土金属製品観察表

挿図 番号	出土 位置	種類	材質	法 量 大きさ (cm)	重 量 残存率	備考	
123-2	SK03	釘	鉄	長9.2/幅0.6/厚0.4	15g 100%	頭部:叩き伸ばし折り曲げ 断面:長方形	

#### SK04 (第122・124図、図版40・41-2)

前述のSKO3の東に隣接し、調査区の東半分を占める大形の土坑である。平面形は丸みのある隅丸長方形をなす。規模は東西4.5m、南北3.5m、深さ1.2mを測る。断面は皿状をなし、底面の標高は一0.6mである。埋土は下層(13・14層)に粘質土が堆積し、その上に砂層と混合土がのる。5・6層が前述のSKO3からの流れ込みであることから、SKO4の埋没時にSKO3は埋められたと考えられ、両者の埋没時期に差はほとんどないものと思われる。埋土のうち、12~14層は水平堆積を示すが、1層はそれらの層を大きく堀込んで堆積する。1層および2層の下面は掘り直しの境界面と考えられる。

前述のSKO3同様の採土を目的として掘られた可能性が考えられる。

時期を判定する遺物は出土していないが、検出面およびSKO3との関係から、17世紀前半代の遺構と考えられる。

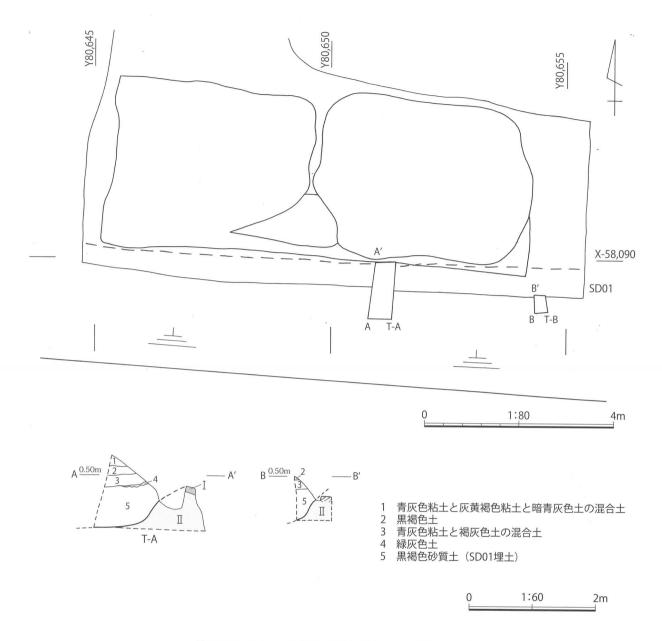
#### 5) 第4面 (第125図)

標高0.4~0.5mで検出した遺構面で、 I 層を基盤とする。前述のSKO3・04に掘り込まれ、残った遺 構面はわずかである(図版41-3)。南側で溝1条を検出した。

#### SD01 (第125図)

調査区の南側に位置する溝である。西壁土層断面で、標高0.4mの I 層面から掘込まれ、南に向かって下る落ち込みがみられた。落込みの範囲を確認するため、南壁に接する調査区の中央と東側の2ヶ所に南北方向のトレンチ(T-A、T-B)を入れた。いずれのトレンチでも、南方向に下る落ち込みを確認した。T-Aでは、北側の肩がSKO3で壊されるものの、標高-0.3mまで落ち込む。T-Bでは、北側の肩が石積土坑1で壊されるものの、標高-0.2mまでの落ち込みを確認し、南に向かってさらに落ち込む。埋土は黒褐色砂質土(5層)で、 $1\sim4$ 層は埋没後の造成土にあたる。

図示した破線は溝の肩を結ぶ想定ラインである。東西方向を示し、方位はN-87°-Wである。規模は



第125図 3-4区 SD01実測図(平面1:80、土層1:60)

長さ約11mを測り、調査区外へ延びる。南の城山北公園線から掘方想定ラインまで約4mを測り、道路に平行することから、17世紀前葉の城下町造成初期段階に掘削される素掘りの大溝と考えられる。東に隣接する3-5区で、本遺構の延長部と考えられる溝(SDO2)が確認された。

遺物は出土していない。

## 6) 小結

本調査区で確認された遺構は、表84のとおりである。

第1面は、標高1.1~1.2mに位置する。19世紀前半代の生活面とみられる。調査区の西端で確認された 柱穴列SA01は建物の一部の可能性がある。石積土坑1の廃絶後に廃棄土坑としてSK01が掘られる。石積

土坑1・2は、全容が不明なため判然としないが、性格としては地下室または石積井戸等の施設が考えられる。

第2面は、標高0.9~1.0mに位置する。出土遺物が少なく時期を決定する資料に乏しかった。そのため、検出標高及び造成土の層序と様相から、概ね17世紀後半~18世紀代という時期幅をとらざるを得なかった。庭木と思われる植栽痕がみられ、小ピットの他に主な遺構は確認されなかった。

第3面は、標高0.8mに位置する。17世紀前半代の生活面とみられる。SK03・04が近接して確認された。 調査区の広範囲を占める大形の土坑である。採土土坑の可能性が考えられる。

第4面は、標高0.4~0.5mに位置する。17世紀前葉の城下町造成最初期にあたる。堀尾氏による造成の初期段階で掘削される素掘りの大溝(東西溝)に相当するSD01が、調査区の南側で確認された。

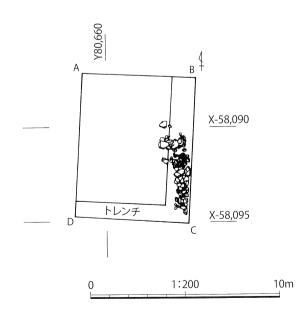
1007 3	101大山及114 元		
遺構面	検出標高(m)	時期	検出遺構
第1面	1.1~1.2	19 世紀前半代	SA01 SK01 石積土坑 1 石積土坑 2
第2面	0.9~1.0	17 世紀後半~18 世紀代	植栽痕
第3面	0.8	17 世紀前半代	SK03 SK04
第 4 面	0.4~0.5	17 世紀前葉	SD01

表84 3-4区検出遺構一覧

#### 5.3-5区

### 1)調査の概要と土層堆積状況(第35・127図)

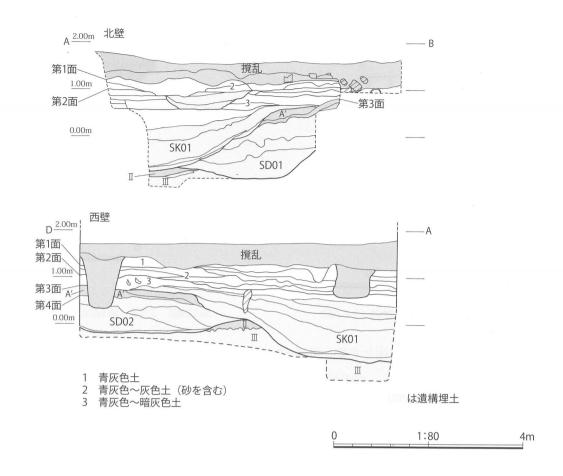
調査地は、第3ブロックの南東隅に位置する。南側は城山北公園線に接し、東側は南北道路に接している。調査前はビルが建っていた区画で、江戸時代には上級武士の屋敷地であった。屋敷の出入り口は江戸



第126図 3-5区 トレンチ内 側溝石垣実測図 (1:200)

時代を通じて南向きであったと考えられる。調査区はこの屋敷地の南東隅部を調査する形になる。調査範囲は東西約6.0m×南北約7.5mの方形の調査区である。

本調査に先立ち、調査区の北側で実施した、立会調査MJR240によって、素掘りの大溝が確認された(第5章第2節第158図)。遺構の延長部の検出が予想されたため、矢板を設置して調査を行うこととなった。矢板打設にあたり、設置場所の遺構確認のため、調査区の南辺と東辺にトレンチを設定した。その結果、南北道路に接して構築された側溝石垣の一部が検出された。石垣は、南北に約4.0mを測り、北側は撹



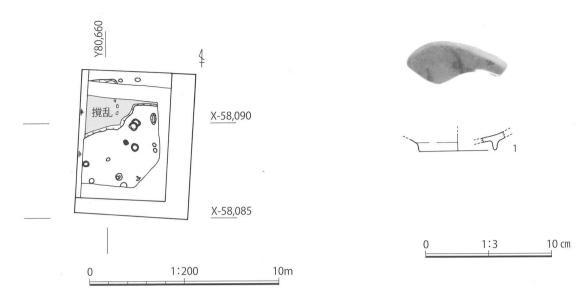
第127図 3-5区 土層断面図 (1:80)

乱を受けたためか崩れている。石は東側に面をもち、現代の道路側溝に接する。これらの石は現側溝より 0.3~0.5m下から検出されたが、側溝のコンクリート面に石の痕跡がみられることから、本来は現側溝と 同じ高さ(標高2.0m)まで石が積まれていたものと推測される。西側には裏込め石が組まれ、標高0.6m まで確認した(第126図、図版42-2)。

矢板を打設した後、掘り下げたが、撹乱が深さ1.4mまで及ぶところもあった。土層の堆積は、西に隣接する3-4区に準じた様相を示す。表土から約1.6m掘り下げると、標高0.1mでII層に至る。 I 層は遺構の掘方によって消失したものと思われ、確認されなかった。隣接する3-4区や周辺の立会調査では標高0.3~0.4mで検出していることから、本来は同様の標高に I 層面があったものと思われる。本調査区では遺構(SD01・02)埋土の上にA層に類似した土層が堆積していた。遺構(SK01)の掘込みが見られるため、この時期までの造成土と考え、A'層とした。さらにその上に造成土が積み重ねられていく様相が見られ、1~3層に大別できた。

1層は青灰色土を主体とし、層厚0.2m前後である。近現代の盛土層である。

2層は砂礫を含む青灰色〜灰色土を主体とする。層厚0.2〜0.4mで、2〜4層に細分できる。この上面を第1面とし、検出標高は1.2mである。形成年代は、出土遺物と検出遺構から18世紀後半〜19世紀前半と推定される。



第128図 3-5区 第1面全体図 (1:200)

第129図 3-5区 第1面出土遺物 (1:3)

3層は青灰色〜暗灰色土を主体とする。層厚0.2〜0.5mで、2〜4層に細分できる。この上面を第2面とし、検出標高は1.0m前後である。形成年代は、出土遺物と検出遺構から17世紀後半〜18世紀代と推定される。

A' 層上面を第3面とし、検出標高は0.8mである。形成年代は17世紀前半代と推定される。

本調査区では I 層が検出されなかったため、A' 層の下面を第4面とした。検出標高は0.4~0.5mである。本調査区北側に隣接する立会調査MJR240において、標高0.4mのA層下で I 層が確認されていることから、17世紀前葉の城下町造成初期と推定される。(第127図)。

## 2) 第1面 (第128図、図版42-3)

標高1.2mで検出した遺構面で、2層を基盤とする。北西側は撹乱により遺構面が壊されていた。深さ10cm以下の浅いピット状遺構を検出したが、建物等の復元には至らなかった。その他、黒褐色や茶褐色土の円形または不整形なプランがみられたが、樹の根を検出したのみで、遺構といえるものではなかった。この遺構面を造成する際に伐採された古い時期の木の残存部か、あるいは、近代になって伐採された木の痕と思われる。

## 第1面遺構外出土遺物(第129図、図版67)

ることから、19世紀前半代の遺構面と考えられる。

第129図1は中国磁器の皿である。全体に摩耗が激しく、河川の影響を受けたことが推察される。 時期を判定する遺物は出土していないが、遺構面の標高は、西に隣接する4区の第1面とほぼ同じであ

表85 第1面出土土器観察表

挿図 番号	出土	材質	器種	器形		法 量	(cm)		重量	生産地 九陶		備考
番号	位置	付貝	<b></b>	およカシ	口径	底径	器高	その他	残存率	工注地	編年	כי מוע
129-1	第1面	磁器	ш.		-	6.0	>1.3		9g 10%			内面:染付 全体:摩耗が激しく丸くなっている 水の流れによる摩耗が考えられ川岸の土を基盤層 (砂層)としたものと想定される

## 3) 第2面 (第130図、図版43)

標高1.0m前後で検出した遺構面で、3層 を基盤とする。植栽痕と小土坑およびピット を検出した。

#### 植栽痕(第130図、図版43)

点在する植栽痕を10ヶ所近く検出した。 遺構面の上面では植栽の掘方は検出できず、 基盤層下面まで掘り下げて確認した。埋土に 基盤層を含む土であることや、遺構面の上面 で掘方が確認されなかったことなどから、植 栽と同時に盛土を施して造成したものと考え られる。植栽された木は、樹皮の観察から、 4本が松、1本が桜、1本が広葉樹系と思われ る。道路に面した角地に、松や桜などを植え て庭としていたものと思われる。

その他、埋土に礫を含むピットを数穴検出 したが、建物等を復元するには至らなかった。 時期を判定する遺物は出土していない。

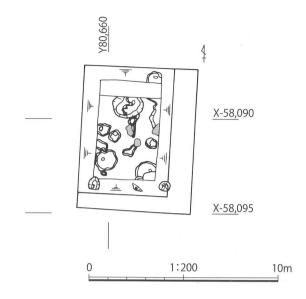
#### 4) 第3面 (第131図)

標高1.0m前後で検出した遺構面で、A'層を基盤とする。土坑1基を検出した。

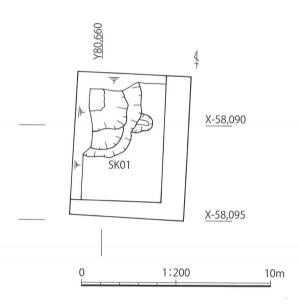
#### SK01 (第131·132図、図版44)

調査区の北西部に位置する、大形の土坑である。平面プランはやや不整な円みをもつ。 調査区の北と西側へ続き、現状で東西3.5 m、南北4.5m、深さ1.4mを測る。 調査区の北に位置する立会調査MJR240の南西端で確認された西に向かって落ち込む遺構は、本遺構の一部と考えられる。

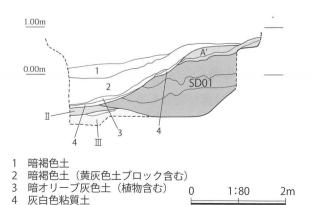
掘方は後述する素掘りの大溝(SD01)の 西肩部を壊し、底面は標高-0.8mのⅡ層に 達する。



第130図 3-5区 第2面全体図 (1:200)



第131図 3-5区 第3面全体図 (1:200)



第132図 3-5区 SK01土層断面図 (1:80)

埋土のうち、1・2層は人為的に埋められた土で、2層は黄灰色土がブロック状に含まれる。また、2層中にはラミナが観察された。これは、土坑を埋める際に水分を多く含んだ土が流れ落ちたものとみられる<sup>6</sup>。2層と3層の間には植物が圧縮されたような層がみられた。沈み込み防止のために敷かれた可能性がある。土層堆積状況から一時期土坑として機能し、その後短期間に埋められたものと考えられる。

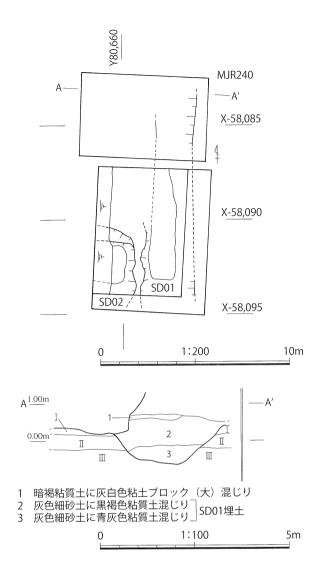
時期を判定する遺物は出土していないが、検 出面から概ね17世紀前半代の遺構と考えられる。

#### 5) 第4面 (第133図)

標高0.4~0.5mで検出した遺構面で、A'層下面にあたる。溝2条を検出した。

**SD01** (第133·134図、巻頭図版2、図版45·46)、遺物 (第135図、図版67)

調査区の東辺に沿って南北に走る溝である。 東肩はトレンチ掘削時に検出したもので、西肩 の北側は前述のSK01に壊される。規模は幅2.9 m、長さ約7.0m、深さ0.6mを測る。本調査前



第133図 3-5区 第4面全体図(1:200) 土層断面(1:100)

に実施された立会調査MJR240で確認された東肩と合わせ、長さは約11mになる。主軸方位はN-3°-Eである。MJR240の北壁土層断面で標高0.4mの I 層面からの掘込みが確認できた。断面は逆台形状をなし、III 層まで掘り込まれ、深さはMJR240の北壁で最大で1.15mを測る。底面標高は南側で-0.5m、北側で-0.9mと北に向かって傾斜する。南壁で標高0.0mまで立ち上がることから、調査区外の現道路交差点角近くで南肩の検出が予想される。

規模・形状と南北道路に沿う位置関係から、17世紀前葉の城下町造成初期段階に掘削される素掘りの 大溝(南北)と考えられる。

底面上の5層は溝が機能していた段階の粘質土で、0.1mほど堆積する。壁面の崩れはなく、流水の形跡はほとんど見られない。遺構の東壁面で植物の痕跡を確認し、北側の底面で刈り取られた葦のまとまりを検出した。埋土のうち1~3層は  $I \sim III$ 層の混合土で、一気に埋め戻された様相を示す。埋め戻し後にはA'層が堆積する(第127図)。以上から、本遺構が機能していた期間は短かったものと思われる。

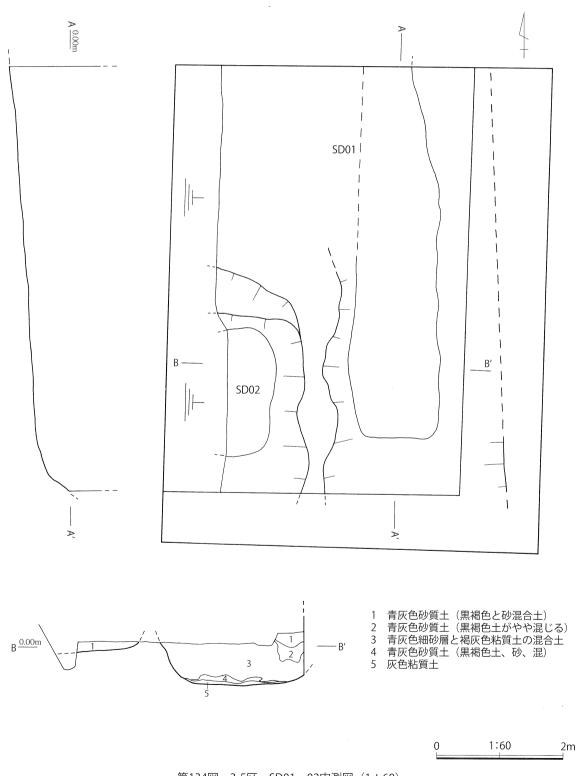
底面上から板材が2点出土している。

出土遺物は、総数2点、総重量19gである。木質遺物2点である。

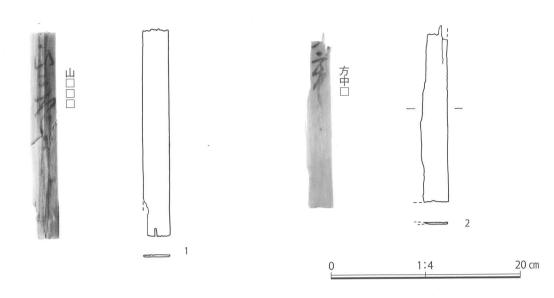
第135図1・2は墨書のある板で、片面にのみ墨書が確認できる。1は「山」の文字のみ判読でき、以下は不明である。2は「方中□」と読めるが、以下の文字は消えている。

## SD02 (第133·134図、巻頭図版2、図版45·46)、遺物 (第136図、図版67)

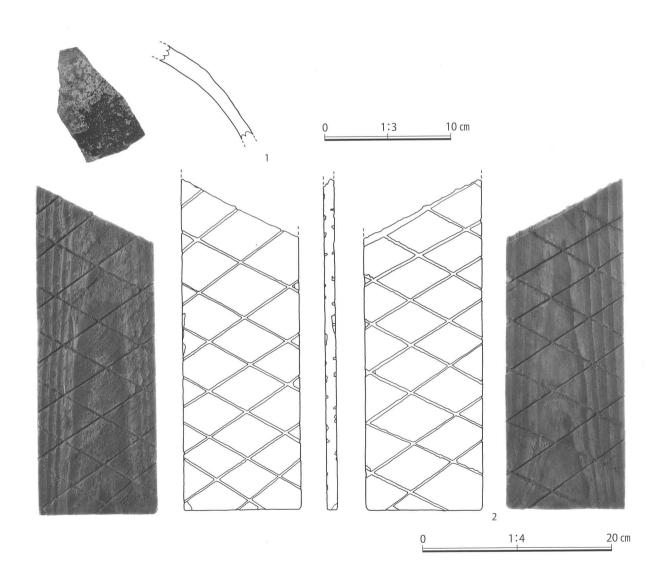
調査区の南西隅に位置する溝である。平面形は丸みのある方形状をなし、南と西の調査区外へ続く。



第134図 3-5区 SD01·02実測図 (1:60)



第135図 3 - 5区 SD01出土遺物(1:4)



第136図 3 - 5区 SD02出土遺物(1:3、1:4)

規模は東西1.3m、南北3.5m、深さ0.2mを測る。断面は浅い皿状をなし、Ⅲ層まで掘り込まれる。

底面は東から西に向かって傾斜する。また、南に向かって立ち上がりが見られることから、南の調査区外近くで南肩の検出が予想される。検出標高は0.1mであるが、北側の肩が前述のSK01に壊されることから、本来はそれ以上から掘込まれたものと推測される。北側の肩は、西に向かい、隣接する3-4区SD02の想定ラインにつながるものと考えられる。以上から、本遺構は、堀尾氏による城下町造成初期段階に掘削される素掘りの大溝に相当するものと考えられる。

埋土は、底面上に自然堆積と考えられる灰褐色粘質土がわずかに見られるが、その上に堆積する1層は I ~Ⅲ層の混合土で、一気に埋め戻された様相を示す。底面または壁面においても遺構の崩れはほとんどなく、流水の形跡が見られない。溝は標高0.5mまで埋まり、その上にA′層が堆積する(第127図)。以上から、本遺構が機能していた期間は短かったものと思われる。

底面上から遺物が2点出土している。

出土遺物は、総数2点、総重量400gである。材質別では、陶磁器類1点(土器1)、木質遺物1点である。 第136図1は瓷器系の甕の肩部破片である。小破片であり、混入と思われる。2は板である。表裏には 刃物による斜格子状の切れ込みがある。用途は不明である。

#### 表86 SD01出土木製品観察表

挿図	出土				法量	(cm)			重量	
番号	位置	種類	名称·部位	長さ (口径)	幅	高さ (器高)	その他	木取	残存率	備考
135-1	SD01	板		>18.6	2.8	-	厚0.2		9g -	墨書あり「山」のみ判読。以下判読不可
135-2	SD01	板		21.9	2.8	-	厚0.2		10g 100%	墨書あり「方中」のみ判読。以下消滅

#### 表87 SD02出土土器観察表

挿図	出土	材質	器種	器形		法 量	t (cm)		重量	生産地	九陶	備考
番号	位置	10.5	加口生	THE 712	口径	底径	器高	その他	残存率	工座地	編年	備考
136-	SD02	瓷器	甕か		-	-	>7.3		110g 10%			奈良.平安の自然釉陶器 須恵器系 中世 肩部:自然釉

#### 表88 SD02出土木製品観察表

挿図	出土	are storm			法 量	(cm)			重量	
番号	位置	種類	名称•部位	長さ (口径)	幅	高さ (器高)	その他	木取	残存率	備考
136-2	SD02	板		>34.8	12.4		厚1.1		390g	表裏に斜格子状の切れ込みあり ひし形の模様になる 切れ込みは刃物によるものか

#### 6) 小結

本調査区で確認された遺構は、表89のとおりである。

第1面は、標高1.2mに位置する。19世紀前半代の生活面とみられる。小ピットのほか目立った遺構は確認されなかった。

第2面は、標高1.0mに位置する。出土遺物が少なく時期を決定する資料に乏しかったが、検出標高及び造成土の層序と様相から概ね17世紀後半~18世紀代にあたるものと考えられる。庭木と思われる植栽痕と小ピットの他、主な遺構は確認されなかった。

第3面は、標高0.8mに位置する。A'層を基盤とする17世紀前半代の生活面とみられる。SK01が確認された。調査区の約3分の1を占め、調査区外に続く大形の土坑である。西に隣接する3-4区SK03・04と同様の採土土坑の可能性が考えられる。

第4面は、標高0.4~0.5mに位置する。A′層下面であるが、調査区の北で行われたMJR240のA層下でI層が確認され、遺構の掘込みが見られたことから、この面を遺構面と捉えた。17世紀前葉の城下町造成最初期に相当する。造成の初期段階で掘削される素掘りの大溝と考えられるSD01・02が確認された。SD01は南北方向、SD02は東西方向の溝である。南北溝と東西溝は直交するように掘られているが、底面はつながっていない。調査範囲内では全容が把握できなかったため、角地における大溝の形態の解明には至らなかった。上端は「L」字状につながっている可能性がある。しかし、南北溝と東西溝は角地で「L」字状をなす同一の溝で、底面は別々であるのか、南北溝と東西溝は別々の溝で、南北溝は角地の南端まであり、東西溝が南北溝の西側で終結しているのかという問題が残った。いずれにしろ、SD01・02ともに流水の痕跡がほとんど見られず、自然堆積層も薄く、一気に埋め戻されたという状況から、溝が機能していた期間は短かったものと推測される。また、溝の埋土上にはA′層が堆積する。このA′層は、17世紀前半代の遺構(SK01)が掘込まれることから堀尾期の造成土の可能性が高いものと考えられる。

掘り下げに先立って実施したトレンチ調査で検出した石積遺構は、南北道路に接する位置関係から、屋敷の外縁に築かれる道路側溝の石垣と考えられる。構築時期は、遺構面として捉えることができなかったため判定しがたいが、検出標高が第3面に相当することから、17世紀前半以降と推測される。

表89 3-5区検出遺構一覧

遺構面	検出標高(m)	時期	検出遺構
第1面	1. 2	19 世紀前半代	小ピット
第2面	1.0	17 世紀後半~18 世紀代	植栽痕 小ピット
第3面	0.8	17 世紀前半代	SK01 側溝石垣
第 4 面	0.4~0.5	17 世紀前葉	SD01 SD02

## 6. 第3ブロック本発掘調査のまとめ

第3ブロックは、城山北公園線(大手前通)沿いの北側にあたり、東西幅約100mの区画である。西から3-1区、3-2a区、3-2b区、3-3a区、3-3b区、3-4区、3-5区の7ヶ所を調査した。それぞれの調査区において出土遺物と遺構掘込み面から遺構面を検出しているため、遺構面数は3~5面とばらばらであった。

遺構面を形成する基盤層は、3-4区と3-5区でほぼ同列の層位を示すものの、第3章第2節(基本層序)で述べたように、I層およびA層以外では、ブロック全体で共通する鍵層を見出すことができなかった。そこで、検出された遺構と遺構面の時期から、各調査区の遺構面の対応関係をまとめ(表90)、各時期の様相を述べる。(第137・138図)。

17世紀前葉(城下町造成直後): 3-2区の第5面、3-3区の第3面、3-4区と3-5区の第4面が相当する。自然堆積の I 層を基盤とするが、3-5区ではA′層下面にあたる。城下町造成の初期段階で掘削される素掘りの大溝が確認された。ブロックの西側で3-2a区のSD02(南北溝)、中央南側で3-3b区のSD02(東西溝)、東側で3-4区のSD01(東西溝)、東端で3-5区のSD01(南北溝)とSD02(東西溝)が確認された。このうち3-4区のSD01と3-5区のSD02は同一の東西溝とみられ、さらに西側へ向かい3-3区のSD02へつながるものと考えられる。部分的な確認からではあるが、大溝は屋敷を区画する道路に沿って位置していることが分かる。また、3-5区のSD01(南北溝)とSD02(東西溝)は、角地における大溝の状況を表し、改めて大溝についての様々な問題を提起するものとなった。

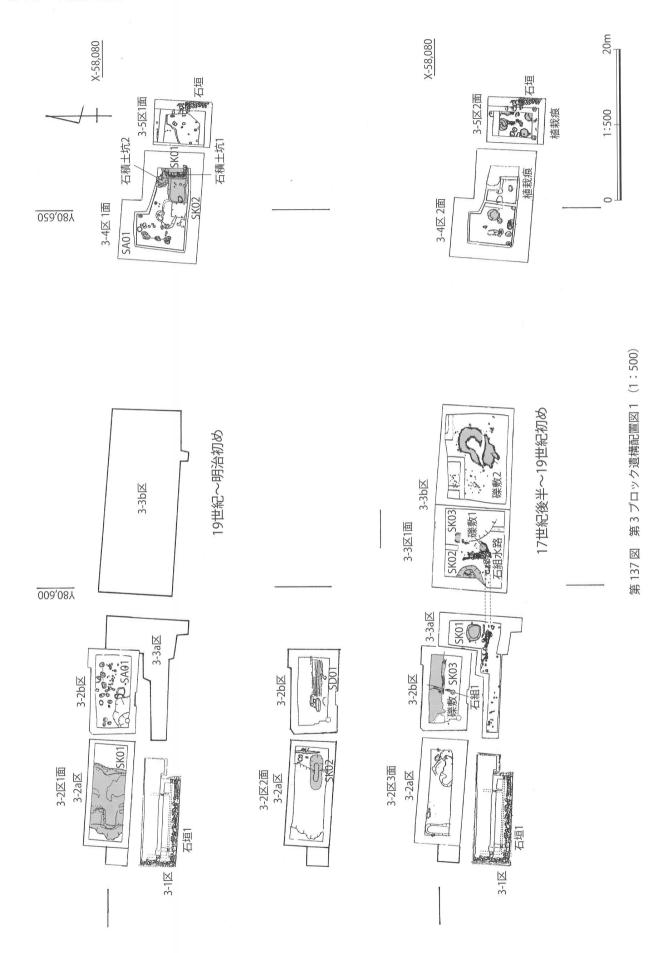
この面で確認される遺構は、素掘りの大溝の他には、3-2b区のSK04と小土坑しか見られない。このことは、城下町造成の最初期における主な事業の一つが、道路に沿って屋敷地を区画する大溝の掘削であったことを示すものと言える。

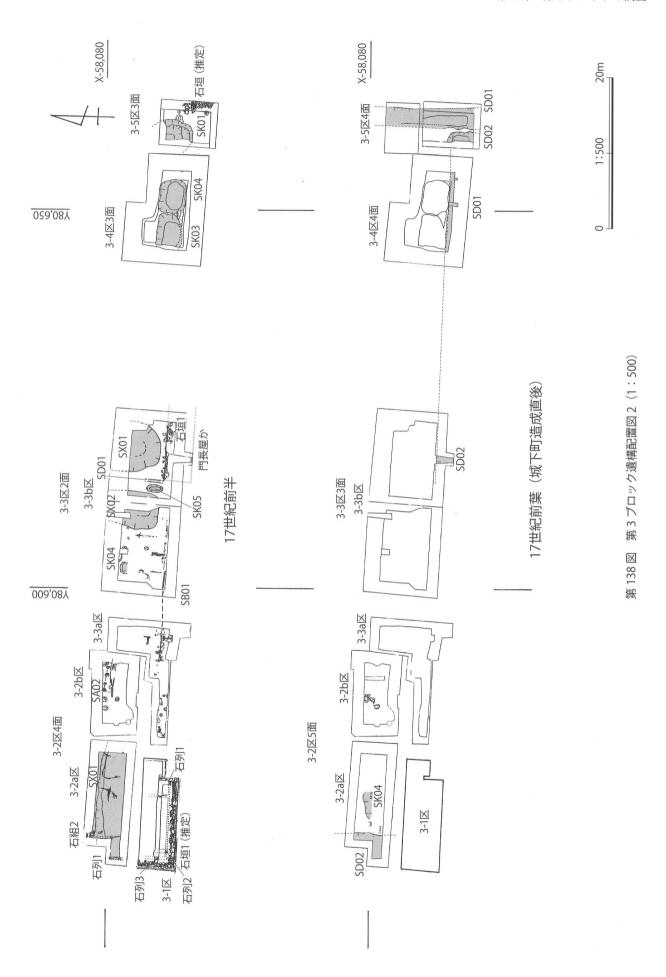
**17世紀前半代**: 3-2区の第4面、3-3区の第2面、3-4区と3-5区の第3面が相当する。A層またはA'層を基盤とする。

3-1区の石列3は、3-2a区第4面の石列1に形態・使用石材・検出標高とも類似し、南の延長上(N-4°-E)に位置することから、同一の石列と思われる。また、3-1区の石列1-石列2の延長ラインは、調査

表90 第3ブロックの遺構面と時期区分

	3-1 区	3-2 区	3-3 区	3-4 区	3-5 区
現地表面標高	L=2.0m	L=1.9~2.1m	L=2.0~2.1m	L=2. Om	L=2.0m
19世紀~明治初め	L=1.5m	第1面L=1.4~1.5m		第1面L=1.1~1.2m	第1面L=1.2m
17 世紀後半~		第2面L=1.1~1.3m	第1面L=1.3m	第2面L=0.9~1.0m	第2面L=1.0m
19 世紀初め		第3面L=1.0~1.1m			
17 世紀前半	L=0.9m	第4面L=0.8~0.9m	第2面L=0.8m	第3面L=0.8m	第3面L=0.8m
		A 層上	A 層上	A 層上	A'層上
17 世紀前葉		第5面L=0.4~0.5m	第3面L=0.5~0.6m	第4面L=0.4~0.5m	第4面L=0.4~0.5m
(城下町造成直後)		I層上	I 層・ウラジロ堆積上	I 層上	A'層下





-147-

区の南西隅で石列3の南北ラインと直交することから、石列1~3も一連の石列になることが想定される。 3-1区の石垣1と石列1~3、3-2a区の石列1、3-5区の石垣は時期が不確定ではあるが、 I 層上に石の下端がくることから、当該期を構築年代と推定した。 3-2a区で区画的な竹組のあるSX01や石組2を確認した。 3-3区で建物土台や壁状遺構からなる建物(SB01)や、石垣1などが確認された。 3-3b区の石垣1は、門長屋の土台として築かれた可能性が考えられる。 3-3b区で幅5.0mの溝の可能性が考えられるSX02が確認された。 3-3b区のSX01、3-4区のSK03・04、3-5区のSK01は、採土土坑の可能性が考えられる土坑である。

なお、A層は各調査区でほぼ同レベル(標高0.8~0.9m)の堆積を示すことから、ブロックにおいて一 律の工程によって初期の造成が行われた可能性が考えられる。

17世紀後半~19世紀初め: 3-2区の第2面と第3面、3-3区の第1面、3-4区と3-5区の第2面が相当する。 17世紀半ば~後半代に相当する遺構として、3-3区でSKO1・02、石組水路1、礫敷き2が確認された。 17世紀後半~18世紀代に相当する遺構として、3-2b区の第3面でSKO3、礫敷き、石組1が確認された。 SKO3は、竹製格子状土留めをもつ貯水施設の可能性が考えられる土坑である。18~19世紀初めに相当する遺構として、3-2区第2面でSKO2、SDO1が確認された。また、3-4区と3-5区では、植栽痕と小土坑が確認された。出土遺物が少なく、時期決定できる資料に乏しかったため、造成土の層序から推定した。

19世紀~明治初め: 3-2区、3-4区、3-5区の第1面が相当する。3-2a区で確認されたSK01には、「天保八年(西暦1837年)」の墨書がある片口(第39図8)を含む生活雑器とともに多量の瓦破片が廃棄されている。3-4区のSK01は19世紀前半代の廃棄土坑である。これと重複して石積土坑1・2が廃絶している。3-2区の遺構面が標高1.4~1.5mとやや高いが、明治初めまで下る遺構が確認されることから、これより上が近代以降と考えられる。3-3区では掲載しなかったが、標高1.5m前後で明治以降の遺構が検出されていることからも、標高1.4~1.5mが明治初めの生活面と考えられる。

註

<sup>1</sup> 平成 22 年度の松江城下町遺跡(母衣町 180-28・29)の調査において、I 層面で水田畦畔が確認されている。

 $<sup>^2</sup>$  その後の調査により、松江城下町遺跡の大手前通沿いでは  $4\sim 6$ 面の遺構面数が確認された。また、 I 層は耕作土の可能性が指摘され、自然堆積層のみでなく、城下町造成以前あるいは直後の旧地形と認識されるようになった。

<sup>3</sup> 平成24年度松江地方裁判所建設工事に伴う発掘調査から、造成時の採土土坑の可能性が考えられる。

<sup>4</sup> 松江城下町遺跡では、複数の調査地で、I 層上あるいは遺構内でウラジロ(シダ類)の敷き詰めが検出されている。また、 平成24年度に調査された松江城下町遺跡(南田町137-13外)では、17世紀前半代に造られた土手の下部構造に排水と地固めを兼ねて敷かれたシダ類等が検出されている。

<sup>5</sup> 中国南宋時代の竜泉窯における、貫入を特徴とする伝説的な青磁を模したもので、本品は京焼である。

<sup>6</sup> 中村唯史氏のご教示による。

## 表 91 出土遺物組成表 1

## 1-1区(1)

	_ (1)	1	T	Jan yler	T	La Mer		L. 011		1.362						
遺構名	陶磁器	産地	種類	点数重量	木製品	点数 重量	瓦	点数 重量	金属	点数 重量	石製品	点数 重量	動植物 遺存体	点数 重量	その他	点数 重量
SK01	陶器	備前	擂鉢	1点 32g		10点 20g	平瓦	80点 8,024g	釰	1点 2g	来待石	1点 2,113g	鳥類 キジ	1点 lg	ガラス	20点 80g 1点 3g
SK01	陶器	不明	不明	8点 131g			丸瓦	4点 476g			不明品	1点 184g	鳥類 不明	1点 1g		1点
SK01	磁器	肥前系	碗	1点 59g									魚類 マダイ	2点 2g		- 08
SK01	磁器	肥前系	不明	7点 86g									炭	1点 10g		
SK01	磁器	不明	不明	4点 30g										108		_
SK01	土師器	在地系	Ш	1点 8g												
SK01	土師器	京都系	Ш	2点 32g			-									+
SK01	土師器	不明	Ш	4点 19g												-
SK02	陶器	肥前系	碗	1点 224g	***	1点 5g	平瓦	237点 17,793g								1
SK02	陶器	須佐	擂鉢	1点 24g	total	5点 285g	丸瓦	1点								
SK02	陶器	京信系	不明	2点	X.0B	1点	平瓦	254g 56点								1
SK02	陶器	不明	不明	31g 2点		2g	(刻印)	23, 953g		1						-
SK02	磁器	肥前系	碗	4g 1点												+
SK02	磁器	肥前系	碗蓋	15g 1点												-
SK02	磁器	不明	不明	1g 2点										-		
SK02	土師器	不明	不明	12g 4点					MARINE							
SK03	陶器			45g 1点		2点	272	262点	A-m	1点						っ占
		肥前系	鉢	82g 1点	板材	2点 130g	平瓦	262点 25,500g 1点	- 釘 - 不明品	5g 1点					ガラス	2点 13g
SK03	陶器	須佐	擂鉢	45g			軒丸瓦	125g 1点	(鉄)	lg						
SK03	陶器	京信系	椀	1点 36g 3点			不明品	4g								
SK03	陶器	京信系	不明	9g												
SK03	陶器	不明	不明	5点 29g												
SK03	磁器	肥前系	碗	1点 72g												
SK03	磁器	肥前系	小杯	1点 19g												
SA01 (P1)							軒丸瓦	1点 700g								
SA02 (P2)					杭	2点 3kg										
SE01	陶器	肥前系	不明	1点 12g	下駄の歯のみ	1点 125g	平瓦	1876点 171,356g	煙管 (雁首)	1点 13g						
SE01	陶器	瀬戸·美濃	不明	1点 83g			丸瓦	18点 3, 222g								
SE01	陶器	不明	土瓶蓋	1点 90g			軒丸瓦	1点 66g								
SE01	陶器	不明	擂鉢	1点 13g			平瓦 (刻印)	1点 26g								
SE01	陶器	不明	不明	9点 135g												
SE01	磁器	肥前系	碗	1点 37g												
SE01	磁器	肥前系	不明	3点 30g												
SE01	磁器	不明	碗	1点 3g												
SE01	土師器	不明	III.	1点 3g												
SE01	土製品	-	不明	11点 361g												
SK04	陶器	瀬戸·美濃	植木鉢	1点 352g	板材	3点 215g	平瓦	704点 71,021g							100000000000000000000000000000000000000	
SK04	磁器	肥前系	瓶	1点 61g		2108	丸瓦	5点 686g								
SK04	磁器	不明	Ш	1点 18g			軒平瓦	4点								
SK05	陶器	肥前系	碗	1点	板材	73点	平瓦	1, 983g 1点								
SK05	陶器	肥前系	擂鉢	19g 1点	小木片	760g 3点 5g		66g								
SK05	陶器	不明	壺or甕	16g 1点	樹皮	1点										
SK05	陶器	不明	不明	33g 2点	不明品	15g 8点										
SK05	磁器	肥前	不明	28g 2点 15g	1179100	130g				-				+-+		
SK05	土師器	不明		12点												
			T. 00	135g 1点												
SK05	土師器	不明	不明	13g 2点												
SK05	須恵器	nm at an	不明	104g 1点		1 , 12		101点								
SK06	陶器	肥前系	大皿	223g 1点	箸	1点 5g	平瓦	12,741g								
SK06	陶器	肥前系	片口	46g	板材	9点 90g	丸瓦	3点 320g								
SK06	陶器	不明	不明	1点 2g	角材	1点 65	軒丸瓦	2点 113g								
SK06	磁器	肥前系	碗	1点 15g			不明	1点 6g								
SK06	土師器	不明	Ш	20点 111g												
SK06	土製品	-	不明	4点 19g												

# 表 92 出土遺物組成表 2 1 - 1 区 (2)

1-1区	. (Z)													1 30		L- W/
遺構名	陶磁器	産地	種類	点数 重量	木製品	点数 重量	瓦	点数 重量	金属	点数 重量	石製品	点数 重量	動植物 遺存体	点数 重量	その他	点数 重量
SK07	陶器	肥前系	碗	1点 107g	碗高台	1点 100g	平瓦	1点 395g	釘	6点 10g			<u>鳥類</u> キジ	1点 lg		
SK07	陶器	肥前系	ш	3点 62g	不明塗物	2点 70g							鳥類 不明	1点 lg		
SK07	陶器	肥前系	鉢	2点 60g	下駄	2点 578g							魚類 マダイ	2点 lg		
SK07	陶器	備前	擂鉢	1点 481g	箸	112点 580g										
SK07	陶器	不明	不明	4点 120g	串	1点 4g										
SK07	磁器	不明	不明	1点	不明品	51点										
SK07	土師器	在地系	Ш	1g 6点 58g	東柱	995g 1点	-									
SK07	土師器	京都系	Ш	9点	板材	970g 452点										
SK07	22,675,00	N/ BIS/		140g	角材	5, 125g 72点										
SK07					丸材	3,000g 45点										
SK07					竹材	1,550g 3点										
					小木片	10g 1,260点										
SK07						8,260g 378点										
SK07	25-110	1.000		1点	樹皮	3,000g 1点		2点	ΔT	1点			貝類	2点		
遺構外	陶器	志野	向付	1点 17g 1点	木栓	35g	平瓦	1, 160g 1点	<b>針</b>	3g			サルボウガイ	6g		
遺構外	陶器	瀬戸・美濃	植木鉢	204g			軒丸瓦	218g								
遺構外	陶器	瀬戸·美濃	不明	2点 12g 1占						-						
遺構外	陶器	備前	靈or甕	1点 7g												
遺構外	陶器	備前	不明	1点 44g												
遺構外	陶器	在地	不明	1点 72g												
遺構外	陶器	肥前	不明	3点 56g												
遺構外	陶器	不明	不明	2点 41g												
遺構外	磁器	中国	不明	1点 7g								-				
遺構外	磁器	不明	不明	3点 29g												
遺構外	土師器	在地系	IIIL	1点 33g												
遺構外	土師器	不明	Ш	6点 45g												
遺構外	土製品	-	窯道具	1点 30g												
遺構外	土製品	-	土垂	5点 25g												
遺構外	土器	須恵器	不明	1点 18g												ļ
近現代層	陶器	須佐	擂鉢	3点 39g	椀	2点 340g	平瓦	109点 10,867g	釘	4点 86g			カタツムリ	1点 6g	ガラス	12点 32g
近現代層	陶器	不明	擂鉢	6点 1,680g	箸	3点 11g	丸瓦	15点 3, 204g	鉄棒	1点 330g			貝類 サルボウガイ	2点 4g	ガラス瓶	3点 129g
近現代層	陶器	在地系	不明	1点 6g	桶部材横板	7点 375g	軒平瓦	1点 140g	不明品 (鉄)	24点 1,471g			植物 松ぼっくり	1点 2g	ガイシ	4点 48g
近現代層	陶器	唐津	不明	1点 137g	下駄	1点 170g	軒丸瓦	3点 607g					炭	2点 8g	コーラの蓋	2点 5g
近現代層	陶器	肥前系	不明	2点 28g	柱	1点 995g	丸瓦 (刻印)	1点 115g							コンクリート	6点 724g
近現代層	陶器	京信系	不明	1点 8g		2点 360g	鬼瓦	1点 3,685g							タイル	7点 35g
近現代層	陶器	不明	植木鉢	1点 202g	板材	482点 7,135g		1,1110							土管	9点 1,159g
近現代層	陶器	不明	不明	52点	角材	1点									プラスチック	1点 1g
近現代層	磁器	不明	戸車	684g 1点	to tot	85g 23点 1 015g									ボルト	3点 860g
近現代層	磁器	不明	小坏	23g 1点	4-4-H-	1,015g 26点						1			塩ビ管	1点 37g
近現代層	磁器	不明	不明	27g 70点	掛店	371g 10点						1			アルミ 不明品	2点 2点
近現代層	上師器	在地	<u>II</u>	591g 12点 73g	1	270g 27点									4179700	1 28
近現代層	土師器	不明		18点	季振	1,418g 1点								-		+
近現代層	土製品	- 1593	七厘サナ	121g 2点	-450	247g 1点										+
				390g 1点		25g						-		-		+
近現代層	土製品	-	窯道具	11g								-		1		+
近現代層	土製品	- Contractor DD	不明	1点 52g 1点								-		-		+
近現代層 (旧)	土器	須恵器	不明	1点 27g		1点	4	1点								+
P1					杭	555g	丸瓦	131g 4点		-	-					-
(旧) P2		-		, Ja			平瓦	339g								-
(旧) P3	陶器	不明	不明	1点 6g						-	-					-
(旧) P4						-	平瓦	1点 65g		-						
(旧)							平瓦	2点 581g						-		-
P5							丸瓦	4点 1,030g								
(旧) P6orP11	陶器	不明	111	1点 15g	5											
(旧)	T			1	杭	1点	1	1		1	1	1	1	1	1	1

表 93 出土遺物組成表 3

## 1 — 1 区(3)

遺構名	陶磁器	産地	種類	点数 重量	木製品	点数 重量	瓦	点数 重量	金属	点数 重量	石製品	点数 重量	動植物遺存体	点数 重量	その他	点数 重量
(旧) P9					丸材	3点 920										
(旧) P10					柱	1点 3, 100g										
(旧)	陶器	不明	不明	1点 3g												
P12	上師器	不明	ш	1点 4g												
(旧) P13					丸材	5点 120g	平瓦	4点 277g								
(旧) P14					丸材	5点 80g										
(旧) P16							平瓦	4点 365g								
(旧) P17					不明品	1点 20g							植物 松ぼっくり	1点 25g		1
(旧) P18					柱	1点 1,740g							, and a ( )	208		
(旧) SK14							平瓦	5点 390g								
(旧) SD01							平瓦	2点 50g								
(旧) SD02							平瓦	1点 8g								
(旧) 瓦溜り01							平瓦	12点 4,380g								
(旧) 瓦溜り01							丸瓦	18点 5,930g								
(旧) 瓦溜り01							軒平瓦	10点 3,560g								
(旧) 瓦溜り01							軒丸瓦	2点 486g								
(旧) 瓦溜り01							平瓦 (刻印)	10点 2,374g								

3 - 2 ⊠	₹(1)															
遺構名	陶磁器	産地	種類	点数 重量	木製品	点数 重量	瓦	点数 重量	金属	点数 重量	石製品	点数 重量	動植物遺存体	点数 重量	その他	点数 重量
SA01(p1)	磁器	肥前系	香炉	1点 30g												
SA01(p2)	陶器	肥前系	Ш	1点 70g	箸	3点 10g										
SA01 (p2)	土師器	在地系	ш	1点 3g	不明品	3点 180										
SA01 (p2)					板材	15点 140g										
SA01(p3)					箸	1点 lg										
SA01(p3)					箆	1点 10g										
SA01(p3)					不明塗物	1点 20g										
SA01(p3)					不明品	4点 160g										
SA01(p3)					丸材	2点 80g										
SA01(p3)					竹材	2点 40g										
SK01	陶器	布志名	砂缸	1点 307g	碗蓋	1点 60g	平瓦	52点 36399g	煙管 (雁首)	1点 3g	不明品	1点 56g	魚類 タイ科	1点 0.7g	ガラス	1点 6g
SK01	陶器	布志名	ш	1点 33g	塗物 部材	5点 215g	丸瓦	47点 9967g	取手	1点 26g			魚類 マダイ	1点 0.5g		1点 2g
SK01	陶器	布志名	片口	1点 1440g	曲物部材 底板	1点 10g	軒平瓦	20点 11106g	鉄鍋か	1点 32g			植物 松ぼっくり	3点 80g		5点 89g
SK01	陶器	布志名	土瓶	1点 128g	桶部材 横板	3点 160g	軒丸瓦	3点 416g	簪	1点 6g			植物種	10点 16g		1点 56g
SK01	陶器	布志名	不明	33点 459g	桶部材 底板	1点 120g	平瓦 刻印	63点 27175g	不明品 (鉄)	3点 48g			T data	108		1 008
SK01	陶器	在地系	碗	1点 118g	桶部材 タガ	1点 15g										
SK01	陶器	在地系	小皿	1点 52g	下駄	1点 80g										
SK01	陶器	在地系	灯明皿	1点 132g	下駄 歯のみ	3点 260g										
SK01	陶器	在地系	擂鉢	1点 586g	椀	1点 30g										
SK01	陶器	在地系	鉢	1点 900g	箸	3点 20g										
SK01	陶器	在地系	植木鉢	1点 36g	コマ	1点 54g										
SK01	陶器	在地系	壺	2点 130g	不明品	15点 655g										
SK01	陶器	在地系	小壺	1点 36g	板材	16点 1055g										
SK01	陶器	在地系	土鍋	1点 83g	丸材	1点 85g										
SK01	陶器	肥前系	香炉	1点 3g	小木片	1点 4g										
SK01	陶器	肥前系	不明	5点 73g												
SK01	陶器	瀬戸·美濃	植木鉢	1点 209g												
SK01	陶器	瀬戸·美濃	植木鉢o r 火鉢	1点 395g												
SK01	陶器	志野	向付口縁	1点 3g												
SK01	陶器	萩	不明	3点 27g												
SK01	陶器	京信系	不明	1点 9g												
SK01	陶器	不明	擂鉢	59点 1797g												
SK01	陶器	不明	不明	228点 8001g												

## 表 94 出土遺物組成表 4

## 3-2区(2)

3-2区				占粉		占拗		占粉	A 179	点数		点数	重加植物	点数	その他	点数重量
遺構名	陶磁器	産地	種類	点数重量	木製品	点数 重量	瓦	点数 重量	金属	点数重量	石製品	点数 重量	動植物遺存体	点数 重量	ての他	重量
SK01	磁器	肥前系	碗	1点 70g												-
SK01	磁器	肥前系	碗蓋	1点 13g												-
SK01	磁器	肥前系	小坏	2点 46g												_
SK01	磁器	肥前系	不明	7点 59g												
SK01	磁器	波佐見	ш	1点 6g												
SK01	磁器	中国	不明	1点 9g												
SK01	磁器	不明	不明	243点 2060g												
SK01	土師器	在地系	ш	27点 217g												
SK01	土師器	不明	III.	32点 119g												
SK01	土製品	不明	不明	31点 660g												
1面 遺構外	陶器	在地系	瓶ダライ	1点 112g									貝類 サザエ	1点 8g		
1面 遺構外	陶器	肥前系	大皿	1点 379g												
1面 遺構外	陶器	肥前系	壺	1点 31g												
1面 遺構外	陶器	不明	擂鉢	1点 14g												
1面 遺構外	陶器	不明	不明	4点 79g												
1面 遺構外	磁器	肥前系	不明	3点 4g												
1面 遺構外	磁器	不明	碗	1点												
1面 遺構外	磁器	不明	不明	3g 12点												
1面 遺構外	上師器	在地系		110g 6点												1
1面 遺構外	上師器	不明	III.	132g 2点												
	陶器	在地系	75E	5g 1点			平瓦	3点								+
SK02				92g 1点			1 26	1, 149g						+ -		
SK02	陶器	須佐	不明	13g 4点												+
SK02	陶器	不明	擂鉢	100g 23点												+
SK02	陶器	不明	不明	169g 29点												+
SK02	磁器	不明	不明	138g 3点												+
SK02	土師器	在地系	Ш	45g 5点										-		+-
SK02	土師器	不明	IIL	8g 2点	桶部材	1点				1点			貝類	1点		-
SK03	陶器	肥前系	क्रिं	71g	底板	130g 1点			小柄	20g 1点		-	<b>不</b> 崩	3g		+
SK03	陶器	肥前系	.001.	3点 299g	桶部材蓋	460g			針	16g						
SK03	陶器	肥前系	小杯	1点 18g	曲物部材 脇板	2点 15g										_
SK03	陶器	肥前系	瓶カュ	1点 58g	曲物部材 底板	2点 170g										
SK03	陶器	肥前系	擂鉢	1点 850g	桶部材 横板	8点 460g										
SK03	陶器	不明	不明	1点 16g	塗物部材	1点 10g										
SK03	磁器	中国	碗	4点 118g	箸	71点 450g										
SK03	磁器	中国	Ш.	1点 17g	椀	7点 706g										
SK03	磁器	中国	不明	4点 9g	椀蓋	1点 79g										
SK03	土師器	在地系	III	5点 172g	櫛	1点 10g										
SK03	土師器	京都系	.IIII.	34点 761g	箆	14点 500g										
SK03	土器	須恵器	不明	1点 27g	羽子板	1点 157g										
SK03	+			21g	不明品	53点 4255g										
SK03					杭	4255g 4点 3705g										
SK03					柱	2点										
SK03					樹皮	2870g 1点		-								
SK03					板材	90g 101点										+
SK03				-	角材	1540g 7点				-						+
SK03			-	1	丸材	345g 56点										+
					竹材	10055g 3点				+						+
SK03					小木片	35g 60点										+
SK03						105g 16点								-		+
SD01					丸材	2470g 1点										+
SD01				7点	竹材	15g					-					+
2面 遺構外	陶器	不明	不明	93g						+						+
2面 遺構外	磁器	肥前	紅皿	6g						-						+
2面 遺構外	磁器	不明	不明	8点 66g								-		-		+
2面 遺構外	上師器	不明	III.	2点 39g												

## 表 95 出土遺物組成表 5

## $3 - 2 \boxtimes (3)$

0 2 2		,	,							,				,		
遺構名	陶磁器	産地	種類	点数 重量	木製品	点数 重量	瓦	点数 重量	金属	点数 重量	石製品	点数 重量	動植物 遺存体	点数 重量	その他	点数 重量
3面 遺構外	陶器	不明	不明	1点 9g												
3面 遺構外	磁器	中国	不明	1点 3g												
3面 遺構外	土器	須恵器	不明	2点 118g												
SA02 (P1)				0			不明	1点 131g								
SA02 (P2)					塗物 部材	1点 10g										
SA02 (P2)					桶部材 横板	1点 25g										
SA02 (P2)					箸	I点 10g										
SA02 (P4)					板材	1点 5g										
4面 遺構外	磁器	中国	Ш	1点 5g		O.R.			短刃	1点 99g						
SK05				Je	不明品	2点 19g				Jag						
5面 遺構外	陶器	瀬戸	ш	1点		198										
5面 遺構外	陶器	不明	擂鉢	15g 1点												
5面 遺構外	陶器	不明	不明	44g 1点												
5面 遺構外	磁器	中国	ш	8g 1点												
5面 遺構外	磁器	不明	不明	18g 1点												
その他 遺構外	陶器	肥前	碗	1g 1点			1000		簪	1点			鳥類 ガン・カモ科	1点 4g		
その他 遺構外	陶器	肥前	措鉢	118g 3点						10g			ガン・カモ科 貝類 サザエ	1点		
その他 遺構外	陶器	肥前	不明	316g 2点									サザエ	8 g		-
その他 遺構外	陶器	不明	播鉢	5g 3点												-
その他遺構外	陶器	不明	不明	752g 25点												-
その他 遺構外	磁器			477g 3点												
		肥前	碗	207g 1点												
その他遺構外	磁器	肥前	碗蓋	78g 1点												
その他遺構外	磁器	肥前	III.	7g 18点												
その他遺構外	磁器	不明	不明	382g 9点												-
その他遺構外	土師器	在地系	Ш	208g 3点												
その他 遺構外	土師器	京都	Ш	23g												
その他 遺構外	土器	須恵器	不明	1点 37g 4点	桶部材	1点		5点		4点			日稻	1.5		20.4
近現代層	陶器	布志名	碗	304g 1点	底板 桶部材	25g 2点	平瓦	172g 1点	- 新 - 不明品	38g			貝類 サルボウガイ 貝類	1点 10g	ガラス	22点 295 <sub>8</sub> 3点
近現代層	陶器	布志名	土瓶	570g 4点	横板	10g 2点	丸瓦	59g	(鉄)	4点 257g			シジミ植物	2点 2g	ガイシ	111.
近現代層	陶器	在地系	甕	3270g	答	5g	不明	· 1点 2g	古銭	1点 5g			種	2点 4g	ゴム	1 /s 39;
近現代層	陶器	在地系	擂鉢	5点 2365g	不明品	9点 932g			不明品 (銅)	1点 34g			炭	2点 51g	コンクリート	5点 814g
近現代層	陶器	在地系	土鍋	1点 36g	杭	1点 1955g									タイル	21点 1405g
近現代層	陶器	在地系	鉢	4点 5810g	板材	16点 155g									土管	4点 199 <sub>8</sub>
近現代層	陶器	在地系	III	1点 50g	丸材	13点 300g									配線コード	1点 24g
近現代層	陶器	在地系	灯明皿受皿	2点 91g	角材	6点 150g									プラスチック	5点 13g
近現代層	陶器	在地系	植木鉢	1点 2570g	竹材	113点 565g										
近現代層	陶器	肥前系	瓶	1点 224g	小木片	12点 115g										
近現代層	陶器	須佐	擂鉢	3点 79g												
近現代層	陶器	京焼風	क्षिं	1点 108g												
近現代層	陶器	布志名	不明	10点 298g												
近現代層	陶器	在地系	不明	3点 252g												
近現代層	陶器	肥前系	不明	5点 108g												
近現代層	陶器	不明	碗	2点 97g												
近現代層	陶器	不明		1点												
近現代層	陶器	不明	擂鉢	30g 41点												
近現代層	陶器	不明	甕	2150g 2点			B0800 0000 0000 0000 0000 0000 0000 000									
近現代層	陶器	不明	植木鉢	330g 2点	·····											
近現代層	陶器	不明		96g 1点												
	-		土瓶	41g 1点												
近現代層	陶器	不明	蓋	52 g 327点												
近現代層	陶器	不明	不明	8647g												
近現代層	磁器	肥前系		4点 188g												
近現代層	磁器	肥前系	碗	11点 575g												
近現代層	磁器	肥前系	小碗	2点 40g												

## 表 96 出土遺物組成表 6

3 —	2	区	(4)
-----	---	---	-----

3 - 2区	陶磁器	産地	種類	点数 重量	木製品	点数 重量	瓦	点数 重量	金属	点数 重量	石製品	点数 重量	動植物遺存体	点数 重量	その他	点数 重量
近現代層	磁器	肥前系	小坏	里蓮 3点 72g	71-3-210	里室		里里		里里		里亚	现1714	里瓜		
近現代層	磁器	肥前系	蓋	5点												-
近現代層	磁器	肥前系	不明	209g 14点												
	磁器	在地系	不明	194g 1点												+
近現代層	磁器	不明	碗	590g 2点 92g												_
近現代層				2点												1
近現代層	磁器	不明	小碗	88g 2点												+
近現代層	磁器	不明	小坏	68g 294点												+
近現代層	磁器	不明	不明	2241g 12点												-
近現代層	土師器	在地系	.00.	79g 3点												
近現代層	土師器	京都系	Ш	136g 5点												-
近現代層	土師器	不明	Ш	19g 2点												+
近現代層	土製品	-	窯道具	49g												-
近現代層	土製品	-	七厘のサナ	3点 85g												-
近現代層	土製品	-	不明	50点 1360g												_
近現代層	土器	土師器	焼塩壺蓋	1点 65g												
近現代層	土器	須恵器	不明	2点 43g									alor obs. *			
水路													鳥類 ニワトリ	1点 6g		
水路										L			魚類 マダイ亜科	4点 0.6g		
水路													貝類 シジミ	1点 0.3g		
(旧) 瓦溜り01	陶器	須佐	擂鉢	1点 10g			平瓦	12点 4380g								5 A 1029
(IE)	陶器	布志名	盖	1点 26g			丸瓦	18点 5930g								15
瓦溜り01 (旧)	陶器	布志名	碗	2点			軒平瓦	10点								
瓦溜り01 (旧)	陶器	布志名	不明	130g 2点			軒丸瓦	3560g 2点								
瓦溜り01 (旧)	陶器	在地系	III.	242g 1点			平瓦刻印	486g 10点								
瓦溜り01 (旧)				58g 1点			刻印	2374g								
<u>瓦溜り01</u> (旧)	陶器	在地系	土鍋	54g 3点					w							+
瓦溜り01 (旧)	陶器	在地系	擂鉢	331g 1点												+
瓦溜り01	陶器	在地系	盎	18g							1					+
(旧) 瓦溜り01	陶器	不明	植木鉢	1点 20g												
(旧) 瓦溜り01	陶器	不明	不明	60点 683g												
(旧) 瓦溜り01	陶器	不明	鉢	2点 511g												
(旧) 瓦溜り01	陶器	不明	甕	1点 650g												
(旧) 瓦溜り01	陶器	不明	擂鉢	12点 339g												
(旧) 瓦溜り01	陶器	不明	小碗	1点 26g												
(旧)	磁器	肥前系	碗	5点 114g												
瓦溜り01	磁器	肥前系		3点						1						
瓦溜り01	磁器	肥前系	蓋	90g 3点												
瓦溜り01 (旧)	磁器	肥前系	仏飯器	33g 1点												
瓦溜り01 (旧)			猪口	15g 2点 21g						-						+
瓦溜り01 (旧)	磁器	肥前系		46点		-										+
瓦溜り01 (旧)	磁器	肥前系	不明	290g 2点												-
瓦溜り01	磁器	不明	碗	56g 2点		-					-					+
瓦溜り01	磁器	不明	小碗	13g												+
(旧) 瓦溜り01	磁器	不明	不明	27点 256g												
(旧) 瓦溜り01	土師器	在地系	m.	4点 36g												
(旧) 瓦溜り01	土製品	-	不明	11点 508g								L				
(旧) 瓦溜り01	土製品	-	焙烙	4点 423g												
(旧)	土器	土師器	焼塩壺蓋	1点		+										T
瓦溜り01 (旧)				125g	板	1点										+
P4 (旧)	-				柱	5g 1点										+
P6 (旧)						2,000g 1点					+			-		+
P7 (旧)					杭	4, 700g 6点										-
P10			-		小木片	90g 1点					-					
(旧) P10					杭	1 点 440g						-		-		_
(旧) P11	陶器	不明	擂鉢	1点 6g								-				
(旧) P16	陶器	不明	擂鉢	2点 9g												
(旧) P16	陶器	不明	不明	1点 8g												

表 97 出土遺物組成表 7

## 3-2区(5)

遺構名	陶磁器	産地	種類	点数 重量	木製品	点数 重量	瓦	点数 重量	金属	点数 重量	石製品	点数 重量	動植物 遺存体	点数 重量	その他	点重
(旧) P19					丸材	2点 165g										
(旧)	土師器	不明	Ш	1点 2g												
P26	土器	須恵器	不明	. 1点 51g												
(旧) P28					不明品	1点 300g										
(旧) P29	磁器	不明	不明	2点 8g	丸材	1点 50g										
(旧) P38					小木片	3点 40g										
(旧) SKO1	陶器	不明	擂鉢	1点 100g		178										
(旧) SK02	陶器	不明	不明	1点 5g	椀	1点 5g										
(旧)	磁器	不明	不明	1点	櫛	1点										
SK02	土師器	不明	Ш	4g 1点		10g										-
SK04 (旧)	陶器	不明	擂鉢	1g 2点			平瓦	1点								
SK05 (旧)	磁器	肥前系	碗	18g 2点			1 3-0	92g								
SK05 (旧)	土師器			177g 4点												
SK05 (旧)		在地系		83g 1点												
SK11	陶器	不明	不明	7g 1点												-
SK11	土師器	不明		lg 4点												-
SK14	陶器	不明	不明	22g 5点												-
SK14	磁器	肥前系	不明	16g												
(旧) SK19	陶器	布志名	不明	1点 17g												
(IE) SK19	陶器	不明	不明	2点 37g												
(旧) SK19	磁器	肥前	不明	2点 7g												
(旧) SE01 (1面)	土製品	-	不明	1点 10g												
(旧) SK01					板材	11点 225g										
(旧) SK01					竹材	2点 25g										
(旧) SK01					丸材	6点 60g										
(旧) SK03					箸	6点 30g										
(旧) SK03					椀	1点 145g										
(旧) SK03					不明品	2点 45g										
(旧) SK03					板材	2点 15g										
(旧)					—————— 角材	1点										
SK03					不明品	780g 12点										
4GR (IH)					板材	965g 9点										
4GR (旧)	磁器	不明	不明	1点	10477	70g										
P2 (IE)	陶器	不明	不明	lg 1点							-					
SD01 (旧)	陶器	不明	不明	111g 1点												
SD02				5g 2点												
SD02 (旧)	磁器	不明	不明	4g 1点												
SK02	陶器	不明	不明	25g 1点												
SK02	磁器	肥前系	盃	lg l点												
SK05 (旧)	磁器	不明	不明	8g		0.8										
(旧) 礫敷遺構 (旧)					丸材	2点 65g										
礫敷遺構					板材	1点 5g										
(旧) 礫敷遺構					不明品	9点 265g										
(旧) 5面					漆製品 塗物部材	1点 10g										
(旧) SK03					下駄	1点 65g										
(旧) SK03					不明品	2点 30g										
(旧) SK03					箸	4点 20g										
(旧) SK03					角材	1点 40g										
				-		108										-

表 98 出土遺物組成表 8

## 3-1区(6)

شعرا ت	(-/					, , ,		,								
遺構名	陶磁器	産地	種類	点数 重量	木製品	点数 重量	瓦	点数 重量	金属	点数 重量	石製品	点数 重量	動植物 遺存体	点数 重量	その他	点数 重量
南北トレンチ	陶器	不明	不明	1点 19g							不明	1点 15g				
南北トレンチ	磁器	不明	不明	2点 24g												
南北トレンチ	土師器	在地系	.DIL	1点 3g												
東西トレンチ	陶器	不明	不明	1点 23g			平瓦	2点 139g	煙管 (雁首)	1点 5g			炭	1点 2g		
東西トレンチ	磁器	不明	不明	2点 7g			丸瓦	4点 470 g	簪か	1点 39g						
東西トレンチ	土師器	不明	m	1点 3g					五銭	1点 2g						
東西トレンチ	土製品	不明	不明	1点 12g					半銭	1点 3g						
近現代層	陶器	在地系	コネ鉢	1点 2,510g	小木片	1点 6g	平瓦	460点 37,830g	寛永通宝	2点 6g	碁石	3点 9g	哺乳類 不明	1点 1g	ガラス	8点 181g
近現代層	陶器	在地系	不明	3点 86g	木皮	1点 7g	丸瓦	66点 6,356g	半銭	4点 12g			魚類 不明	2点 1g	ガラス瓶	7点 454g
近現代層	陶器	不明	擂鉢	15点 357g			軒平瓦	1点 40g	1銭	5点 30g			貝類 アワビ	1点 89g	ガイシ	29点 1122g
近現代層	陶器	不明	甕	1点 143g			軒丸瓦	6点 873g	2銭	2点 28g			貝類 サザエの蓋	1点 3g	ピー玉	9点 77g
近現代層	陶器	不明	傘	1点 134g			不明	4点 291g	5銭	1点 4g			貝類 サルボウガイ	1点 5g	おはじき	1点 3g
近現代層	陶器	不明	蓋	1点 98g					10銭	1点 1g			貝類 ハマグリ	1点 24g	ネジ	1点 2g
近現代層	陶器	不明	小坏	2点 34g					50銭	1点 3g			貝類 不明	1点 3g	プラスチック	1点 lg
近現代層	陶器	不明	戸車	1点 43g					5円	1点 3g					鍵	1点 12g
近現代層	陶器	不明	不明	55点 1,124g					10円	2点 8g					タイル	6点 25g
近現代層	磁器	不明	碗	2点 89g					100円	1点 5g					櫛 (プラスチック)	3点 22g
近現代層	磁器	不明		5点 1,005g					釘	2点 11g					洗濯バサミ	1点 3g
近現代層	磁器	不明	徳利	1点 34g					不明品 鉄	24点 274g					ボタン	1点 lg
近現代層	磁器	不明	仏飯器	1点 53g											セメント	1点 378g
近現代層	磁器	不明	戸車	1点 35g											土管	1点 68g
近現代層	磁器	不明	不明	80点 552g											炭	2点 42g
近現代層	土師器	在地系	.m.	11点 680g												
近現代層	土師器	京都系	Ш	1点 7g												
近現代層	土師器	不明		18点 298g												
近現代層	上製品	т ,	七厘のサナ	5点 149g												
近現代層	土製品	-	人形	1点 20g												
近現代層	土製品	-	五徳か	2点 131g												
近現代層	土製品	-	火消壺	1点 355g												
近現代層	土製品	-	不明	29点 833g												
近現代層	土器	土師器	焼塩壺身	1点 24g												
近現代層	土器	須恵器	壺	1点 51g												

## 3-3区(1)

3 — 3 区	. (1)															,
遺構名	陶磁器	産地	種類	点数 重量	木製品	点数 重量	瓦	点数 重量	金属	点数 重量	石製品	点数 重量	動植物 遺存体	点数 重量	その他	点数 重量
S K01	陶器	肥前系	小坏	1点 30 g	曲物部材 底板	1点 45 g	丸瓦	1点 286 g	煙管 (雁首)	1点 6g			哺乳類 イヌ	1点 3 g		
S K01	陶器	肥前系	Ш	2点 175 g	桶部材 底板	1点 510g							鳥類 ニワトリ	1点 7g		
S K01	陶器	萩	ш	1点 930 g	桶部材 横板	6点 325 g							貝 イタヤガイ	1点 2g		
S K01	陶器	不明	不明	26点 339 g	塗物部材	1点 5 g							貝 岩カキ	1点 100 g		
S K01	磁器	肥前系	Вi	4点 102 g	墨書板	1点 40g							貝 カキ類	1点 9g		
S K01	磁器	肥前系	.III.	1点 26g	木簡 (墨書あり)	1点 14g							貝 テングニシ蓋	1点 1g		
S K01	磁器	不明	不明	2点 4g	椀	4点 447 g							炭	3点 20 g		
S K01	土師器	在地系	m.	19点 341 g	箸	27点 137g										
S K01	土師器	不明	ш	16点 41 g	下駄	8点 2780 g									,	
S K01					箆	1点 12g										
S K01					柄杓	1点 49 g										
S K01					不明品	22点 1142 g										
S K01					柱	1点 590 g										
S K01					板材	30点 770g										
S K02	陶器	肥前系	碗	1点 14g	椀	3点 35 g	平瓦	1点 68 g								
S K02	陶器	肥前系	Ш	l点 llg												
S K 02	陶器	肥前系	擂鉢	1点 46 g												
S K02	陶器	不明	不明	6点 97 g				-								

表 99 出土遺物組成表 9 3 - 3 区 (2)

遺構名	陶磁器	産地	種類	点数 重量	木製品	点数 重量	瓦	点数 重量	金属	点数 重量	石製品	点数 重量	動植物遺存体	点数 重量	その他	点重
S K 02	磁器	不明	不明	2点	71.000111	重量	24	重量	北州	重量	11 35000	重量	遺存体	重量	てい他	重
S K02	上師器	京都系	III.	6 g 1点												
S K03	陶器	-	-	10 g 3点	ANY delse from 4-4-	2点	W.T.	1点	M. (TERR)	1点			貝類	2点		-
S K03		肥前系	III.	379 g 2点	箱物部材	390 g 1点	平瓦	55 g 1点	歌(小門)	4 g			サザエ	27 g 1点		
	陶器	不明	不明	30 g 1点	下駄	560 g 5点	丸瓦	100 g 2点					テングニシ	8 g		
S K03	磁器	肥前系	鉢	49 g 1点	椀	440 g	軒丸瓦	400 g 1点								
S K 03	磁器	肥前系	擂鉢	73 g		1点	かんぶり瓦	2260 g		, ,						
石組水路1	陶器	肥前系	碗	110 g	箱物部材	75 g			寛永通宝	1点 3g						
石組水路1	陶器	肥前系	Ш	1点 63 g	椀	1点 1g										
石組水路1	陶器	不明	不明	1点 14g	不明品	10点 320g										
石組水路1	土師器	在地系	Ш	1点 92g												
石組水路1	土師器	京都系	Ш	2点 57 g												
石列1	陶器	肥前系	Ш	1点 134 g	椀	2点 70 g										
石列1	陶器	肥前系	碗	1点 10g	箬	1点 1g										
石列1	陶器	不明	不明	4点 129 g												
石列1	磁器	不明	不明	1点 13 g												
石列1	土師器	在地系	.III.	2点 80 g												
石列1	土師器	京都系	Ш	5点 200 g												1
石列1	土製品	-	土垂	1点 3g												-
礫敷き1	陶器	肥前系	碗	1点 115 g	桶部材 横板	1点 197 g	平瓦	21点 3998 g	祥符元寶	1点			哺乳類イヌ	7点		
碟敷きⅠ	陶器	肥前系	Ш	4点 447 g	椀	3点	丸瓦	7点	釘	4 g 1 点			哺乳類	315 g 1点		+-
礫敷き1	陶器	肥前系	擂鉢	1点	篦	469 g 2点	軒丸瓦	1949 g 1点	鉄(不明)	19 g 1 点			<u>イノシシ</u> 哺乳類	42 g 1点		-
礫敷き1	陶器	肥前系	甕	227 g 1点 1450 g		50 g 1点	117450	1060 g	2011 917	3 g			海獣	8 g		-
礫敷き1	陶器	不明	不明	47点	下駄	4 g 6点										-
礫敷き1	磁器	中国	碗	989 g 1点		1612 g 5点										-
機敷き1	磁器			66 g 1点	不明品	1136 g 1点								-		
	-	中国	不明	4 g 1点	杭	215 g										_
礫敷き1	磁器	不明	不明	3 g 13点												
礫敷きl	土師器	在地系	Ш	204 g 32点												
礫敷き1	土師器	京都系		691 g												
礫敷き1	土器	須恵器	不明	1点 76 g	II. det alon de le											
礫敷き2	陶器	肥前系	碗	3点 306 g	曲物部材 底板	2点 82g	平瓦	19点 3550 g	釘	1点 46 g	砥石	1点 108 g	哺乳類 イヌ	4点 14g		
礫敷き2	陶器	肥前系	Ш	5点 481 g	曲物部材 脇板	1点 4g	丸瓦	8点 2570 g					哺乳類 海獣	1点 7g		
礫敷き2	陶器	肥前系	鉢	1点 61 g	桶部材 横板	5点 142 g							鳥類 キジ	1点 2g		
礫敷き2	陶器	肥前系	壺	1点 58 g	燈(火)灯具 部材	1点 79 g							炭	1点 17g		
礫敷き2	陶器	肥前系	瓶	1点 44 g	椀	1点 76 g								11.8		
礫敷き2	陶器	織部	向付	1点 5 g	下駄	10点 2068g										
礫敷き2	陶器	備前	擂鉢	1点 129g	栓	1点 37 g										
礫敷き2	陶器	志野	不明	1点 7g	節	1点									***************************************	1
礫敷き2	陶器	不明	擂鉢	4点	箸	14 g 10点										-
礫敷き2	陶器	不明	不明	371 g 58点	鞘か	50 g 1点										_
礫敷き2	磁器	肥前系	不明	1399 g L点	装飾品	34 g 1点									-	-
礫敷き2	磁器	中国	小碗	6 g 1点	人形	85 g 1点										
繰敷き2	磁器			31 g 3点		215 g 6点										-
		中国	碗	34 g 1点	不明品	371 g 6点										
礫敷き2	磁器	中国	不明	2g	板材	488 g										
礫敷き2	磁器	不明	不明	10 g	丸材	1点 55 g										
礫敷き2	上師器	在地系	Ш	5点 215 g												
礫敷き2	土師器	京都系		69点 904g												
礫敷き2	土師器	不明	Ш	3点 8g											-	
礫敷き2	土製品	-	火鉢	2点 660 g												
礫敷き2	土器	須恵器	不明	2点 79 g												
面 遺構外	陶器	在地系	椀	1点 169 g	桶部材 横板	2点 665 g	平瓦	18点	煙管(雁首)	2点					ガラス	
面 遺構外	陶器	在地系	蓋	1点 88 g	椀	3点	丸瓦	2500 g 3点	(雁首) 茶がき	11 g 1点						11
面 遺構外	陶器	須佐	擂鉢	4点	箸	562 g 5点		159 g	-	207 g						
面 遺構外	陶器	志野	不明	96 g 2点	下駄	30 g 3点										
ALL HTZ/I'	למוד פייין	رجدت	-1,61	54 g 10点	1 504	690 g 3点										

## 表 100 出土遺物組成表 10 3-3区(3)

3-3区	(3)				1.00									T T		1 1.00
遺構名	陶磁器	産地	種類	点数 重量	木製品	点数 重量	瓦	点数 重量	金属	点数 重量	石製品	点数 重量	動植物 遺存体	点数 重量	その他	点数 重量
1面 遺構外	陶器	不明	不明	136点 2338 g	板材	1点 1380 g										
1面 遺構外	磁器	肥前系	Ш	1点 11g	小木片	1点 25 g										
1面 遺構外	磁器	肥前系	小瓶	1点		208										
1面 遺構外	磁器	肥前系	 不明	18 g 55点												
1面 遺構外	磁器	不明	椀	320 g 2点												1
1面 遺構外	磁器	不明		97 g 1点												
				12 g 10点												-
1面 遺構外	磁器	不明	不明	44 g 1点												
1面 遺構外	磁器	中国	小碗	2 g 1点												
1面 遺構外	磁器	中国	鉢	3 g												
1面 遺構外	土師器	在地系		6点 77 g												
1面 遺構外	土師器	京都系	Ш	3点 39g												
1面 遺構外	上師器	不明	IIII.	16点 86g												ļ
1面 遺構外	土製品	不明	不明	5点 184 g												
S K 04	陶器	肥前系	Ш	1点 10g	椀	1点 30g										
S K04					下駄	1点 50 g										
S K04					箆	1点 10g										
S K04					丸材	2点 230 g										
土留め遺構	陶器	肥前系	Ш	2点	椀	1点 175 g										
土留め遺構	陶器	肥前系	瓶	30 g 2点 594 g	箸	1点									100	
土留め遺構	陶器	肥前	不明	594 g 2点		5 g										
土留め遺構	陶器	不明	不明	59 g 2点												
				33 g 5点												
土留め遺構	土師器	在地系	111	205 g 10点												+
土留め遺構	上師器	京都系	Ш	222 g 2点									哺乳類	2点		
S K 05	土師器	京都系	1011.	42 g 10点		6点		8点		-			イヌ 哺乳類	94 g 8点		
S X 01	陶器	肥前	碗	1390g	椀	1149 g	平瓦	3730 g 3点					イヌ	83 g 1点		
S X 01	陶器	肥前	Ш	1414 g		149 g	丸瓦	2680 g 2点		-			ネコ 鳥類	8 g 1点		
S X 01	陶器	肥前	擂鉢	1点 145 g	下駄	9点 2788 g	軒丸瓦	260 g					サギ魚類	6g 1点		
S X 01	陶器	不明	不明	12点 162 g	曲物部材 底板	1点 40g							フナ	0.3g		
S X 01	磁器	中国	碗	1点 9g	曲物部材 蓋板	1点 78 g							貝類 シジミ	145点 210 g		
S X 01	磁器	中国	不明	1点 2g	曲物部材 脇板	3点 130g										
S X 01	土師器	在地系	Ш.	7点 320g	箸	3点 19g							,			
S X 01	上師器	京都系	m	30点 809 g	不明品	13点 528g										
S X 01					板材	73点 1035 g										
S X 01					丸材	3点 450 g										
S X 01						2点										
SX02	陶器	肥前系	ш	3点	桶部材	316 g 1点			釿	2点			鳥類	1点		
	-		瓶	401 g 1点	横板桶部材	20 g 1点				7 g			不明具類	2 g 29点		+
SX02	陶器	肥前系	鉢	86 g 1点	底板 /	645 g 4点							シジミ 炭	59 g 5点		+
SX02	陶器	備前		163 g 1点		366 g 5点							100	121 g		-
SX02	陶器	須佐	擂鉢 甕or	102 g 2点	下駄	1375 g 3点										-
SX02	陶器	不明	壺	1220 g 5点	箸	20 g 1点										-
SX02	陶器	不明	擂鉢	151 g	栓	80 g 13点						-		+		+-
SX02	陶器	不明	不明	42点 2252 g	不明品	1400 g										
SX02	磁器	不明	П	1点 10g	板材	5点 505 g										
SX02	磁器	不明	不明	15点 290 g	丸材	1点 240 g										
SX02	上師器	在地系		11点 116g	竹材	4点 120 g										
SX02	土師器	京都系	Ш.	28点 431 g												
SX02	土師器	不明	Ш	1点 11g												
SX02	土製品	-	焙烙	1点 71 g												
SX02	土製品	-	土垂	1点												
SX02	土製品	-	鍾か	3 g 1点												
	7-3600	_	不明	176 g 1点								+				+
	十細足					1 1		1		1	1	-		-		-
SX02	土製品			19 g 1点												1
	土製品土器	須恵器肥前系	不明碗		椀	1点 35 g										-

表 101 出		組成表	11													
遺構名	陶磁器	産地	種類	点数 重量	木製品	点数 重量	瓦	点数 重量	金属	点数 重量	石製品	点数 重量	動植物遺存体	点数重量	その他	点数 重量
トレンチ	陶器	肥前系	水注	1点 145 g	不明品	8,4 280 g	3						22.17.11	35.44		25.26
トレンチ	陶器	不明	不明	1点 2g												
トレンチ	土師器	京都系	IIIL	5点 58 g												
その他の遺構外	陶器	在地系	擂鉢	1点 257 g	桶部材 底板	2点 980g	7-24	6点 747 g	プJ 9回	1. 73	g		哺乳類 イヌ	2点 38 g		
その他の遺構外	陶器	肥前系	िर्व	1点 85 g	箱物部材	3,4 360 g	, Null	4点 1876 g	31.1	3, 14			哺乳類 海獣	1点 28 g		
その他の遺構外	陶器	肥前系	小碗	2点 87 g	椀	10.5 926 g	ギエンしかし	2点 564 g	玉杓子 (銅)	1, 25	g		哺乳類 不明	1点 ll g		
その他の遺構外	陶器	肥前系	Ш	9点 650 g	下駄	11点 3205 g			不明品	9, 268			鳥類 キジ	1点 2g		
その他 の遺構外 その他	陶器	肥前系	擂鉢	3点 359 g	箸	9点 32 g							魚類 スズキ	1点 3 g		
の遺構外	陶器	須佐	擂鉢	5点 146 g		1 /s 245 g							貝類 アカニシ	1点 22 g		
の遺構外	陶器	京信系	不明	1点 16 g	不明品	18点 760 g							貝類 サザエ	1点 47 g		
の遺構外	陶器	備前	瓶	1点 117g	板材	2点 75 g							貝類 サルボウ	1点 1g		
の遺構外	陶器	備前	擂鉢	1点 56 g									貝類 シジミ	86点 121 g		
の遺構外	陶器	不明	擂鉢	17点 1136 g 1点									貝類 ハマグリ	1点 9g		
の遺構外	陶器	不明	土瓶	121 g 1点									貝類 不明	2点 16g		
の遺構外	陶器	不明	乗燭	100 g									植物 松ぽっくり	1点 11g		
の遺構外	陶器	不明	茶入れ	1点 30 g 221点		-							植物種	2点 4g		
の遺構外	陶器	不明	不明	221点 5803 g 3点									炭	2点 54 g		
の遺構外	磁器	肥前系	IIIL	320 g 2点												
の遺構外	磁器	肥前系	ēji.	82 g 1点		-										
の遺構外	磁器	肥前系	小坏	25 g 1点		-										
の遺構外	磁器	肥前系	瓶	89 g 3点		-										
の遺構外	磁器磁器	肥前系	不明	111 g 1点												_
の遺構外	磁器	瀬戸・美濃中国	Ш	29 g 1点												
の遺構外	磁器	中国	施	24 g 1点												-
の遺構外	磁器	中国	不明	30 g 5点												
の遺構外	磁器	不明	碗	22 g 2点						-						
の遺構外	磁器	不明	小碗	147g												
の遺構外 その他 の遺構外	磁器	不明	ш	15 g												
その他の遺構外	磁器	不明	蓋	34 g												
その他の遺構外	磁器	不明	不明	27 g 67点 454 g												
その他の遺構外	土師器	在地系	ш	33点 620g												
その他の遺構外	土師器	京都系	ш	39点 448 g												
その他 の遺構外	土製品	-	七厘のサナ	1点 18g												
その他 の遺構外	土製品	-	不明	13点 738 g												
その他 の遺構外	土器	須恵器	不明	3点 39 g												
S K 04 (幕末・明治)	陶器	在地系	쾦	1点 2220 g			軒丸瓦	1点 369 g								
S K 04 (幕末・明治)	陶器	不明	不明	1点 4g												
S K 04 (幕末・明治)	磁器	肥前系	碗	2点 73 g												
S K 04 (幕末・明治)	磁器	肥前系	不明	1点 8 g												
S K 04 (幕末・明治)	土師器	京都系	П	3点 27 g												
S K05 (幕末・明治)					板材	3点 65 g										
S K06 (幕末・明治)					柱	1点 1520 g										
S K31 (幕末・明治)	陶器	不明	不明	6点 25 g					不明品	1点 19g						
S K31 (幕末・明治)	磁器	肥前系	Ш	1点 27 g												
S K31 (幕末・明治)	磁器	不明	不明	3点 8g												
S K31 (幕末・明治)	土製品	不明	不明	4点 59 g												
S K35 (幕末・明治)	陶器	瀬戸·美濃	灯明皿受皿	1点 63 g												
S K35 (幕末・明治)	陶器	不明	不明	1点 64g												
S K35 (幕末・明治)	磁器	肥前系	Ш	1点 203 g												
S K35 (幕末・明治)	磁器	不明	不明	13点 127g												
S K35 (幕末・明治)	土師器	在地系	Ш	2点 13 g												

## 表 102 出土遺物組成表 12

3-3区(5)

3-3				占粉		占粉		占粉	A 51	占粉	and that I'll	点数	動植物	点数	7. m/h	点数
遺構名	陶磁器	産地	種類	点数重量	木製品	点数重量	瓦	点数 重量	金属	点数重量	石製品	点数 重量	遺存体	点数重量	その他	点数 重量
S K 36 (幕末・明治)	陶器	不明	不明	14点 388 g					寛永通宝	1点 3 g						
S K36 (幕末・明治)	陶器	不明	擂鉢	1点 7g												-
S K 36 (幕末・明治)	磁器	不明	不明	2点 8g												
S K36 (幕末・明治)	土製品	-	焜炉	1点 124g												
S K36 (幕末・明治)	土製品	-	七厘のサナ	2点 43 g												
S K38 (幕末・明治)	陶器	肥前系	碗	1点 144 g												
S K38 (幕末・明治)	磁器	肥前系	ш	1点 35 g												
S K38 (幕末・明治)	土師器	在地系		1点 34 g							,					
S K 40 (幕末・明治)	陶器	肥前系	碗	1点 25 g									炭	1点 36 g		
S K 40 (幕末・明治)	陶器	萩	छिंच	1点 124 g												
S K 40 (幕末・明治)	陶器	不明	不明	9点 107g												
S K 40 (幕末・明治)	磁器	不明	不明	7点 46 g												
S K 40 (幕末・明治)	土師器	不明	m	4点 6g												
S K 40 (幕末・明治)	土製品	在地系	焙烙	1点 479 g												
S X 01 (幕末・明治)				1108	椀	1点 175 g										
S X 01					箸	1点 5g										
(幕末・明治) S X 02 (幕末・明治)	陶器	在地系	不明	1点 65 g	椀	1点 25g										
S X 02	陶器	不明	擂鉢	2点		208										
(幕末・明治) S X 02	陶器	不明	不明	14 g 7点												
(幕末・明治) S X 02	磁器	不明	不明	52 g 4点												
(幕末・明治) S X 02	土師器	在地系		20 g 5点												
(幕末・明治) S X 02	土製品	不明	不明	52 g 2点									*			
(幕末・明治) S X 04	7.3500	-1.91	11-91	26 g	桶部材	1点							哺乳類 イヌ	1点		
(幕末・明治) S X 04					底板 椀	165 g 1点							1 ×	24 g		
(幕末・明治) S X 04					箸	35 g 2点										
(幕末・明治) S X 04					下駄	6 g 2点										
(幕末・明治) S X 04						315 g 8点										
(幕末・明治) S X 04					不明品	323 g 1点										
(幕末・明治) S X 04					板材	80 g 1点										
(幕末・明治) P1					角材	45 g 1点										-
(幕末・明治)					不明品	130 g		-					鳥類	2点		
桶2 (幕末・明治)				0.5		1点		3点					不明 哺乳類	5 g 22点		
S K 25 (1面)	陶器	不明	不明	3点 57 g	树	2g	平瓦	513 g					イノシシ 	398 g 5点		
S K25 (1面)	磁器	不明	壺	1点 13 g	箸	10 g							イヌ	18 g		
S K25 (1面)	土師器	在地系	Ш	2点 97 g										-		
S K27 (1面)	陶器	肥前系	碗	1点 g												
S K27 (1面)	磁器	中国	碗	1点 16 g												
S K27 (1面)	土師器	京都系	III.	1点 26 g												
S K28 (1面)	陶器	肥前系	砂	1点 66 g												
S K28 (1面)	陶器	肥前系	Ш	1点 121 g												
S K28 (1面)	陶器	備前	擂鉢	1点 1010 g												
S K28 (1面)	陶器	不明	不明	2点 30 g												
S K 28 (1面)	土師器	京都系	Ш	5点 304 g												
桶6 (1面)	陶器	不明	不明	3点 43 g					釿	1点 4g			鳥類 不明	1点 2g		
桶6 (1面)	土師器	在地系	ш	7点 122 g					不明品	1点 2g	į.					
桶6 (1面)	上師器	京都系	Ш	11点 52g												
桶7	陶器	肥前系	<u> </u>	1点 13g	椀	1点 65 g			釘	4点 7g	現	1点 9g	鳥類 ニワトリ	1点 5g		
(1面) 桶7	陶器	不明	不明	2点 15g	下駄	1点 55 g						1 0		- 0		
(1面) 桶7	土師器	京都系	ш	2点		20.8										
(1面) 水路	陶器	在地	土鍋	16g												
(1面) 水路	陶器	在地	鉢	21 g 1点		+										
(1面) 水路	陶器	不明	不明	38 g 9点		+										
(1面) 水路	磁器	肥前系	不明	79 g 1点		+										+
(1面) 水路	40公式店	ル山川ボ	11197	llg								+				
(1面)												-				
(1面)											<u> </u>					

表 103 出土遺物組成表 13

## $3 - 3 \boxtimes (6)$

O 0 E	- (-)															
遺構名	陶磁器	産地	種類	点数 重量	木製品	点数 重量	瓦	点数 重量	金属	点数 重量	石製品	点数 重量	動植物 遺存体	点数 重量	その他	点数 重量
水路	磁器	不明	碗	1点		553.563		35.75		AR MK		压服	週1714	里里		里里
(1面) 水路 (1面)	磁器	不明	不明	6 g 5点												-
S D 02	陶器	在地系	鉢	14 g 1点					茶釜鉄	1点						+
(1面) S D02	-	-	-	104 g 1点					鉄 煙管	263 g 1点						-
(1面) S D 02	陶器	須佐	擂鉢	17 g 1点					煙管 (雁首)	4 g				-		-
(1面) S D 02	陶器	不明	擂鉢	57 g 15点												
(1面)	陶器	不明	不明	196 g												
S D 02 (1面)	磁器	瀬戸·美濃	Ш	1点 28 g	***************************************											
S D02 (1面)	磁器	肥前系	Ш	1点 27g												
S D02 (1面)	磁器	不明	不明	13点 70 g												
S D 02 (1面)	土師器	在地系	Ш	5点 71g												
S D 02 (1面)	土師器	京都系	Ш	4点 85 g												1
S K 09 (2面)	陶器	肥前系	不明	1点												-
S K 09	土師器	不明		9 g 1点												-
(2面) S K 13	24.917 913	1 77		3 g			+ F	1点						-		
(2面) S K30							丸瓦	215 g					日稻	4点		-
(2面)	nt	1		3点								4 .F	貝類サザエ	94 g		0.5
S K20	陶器	在地系	鉢	242 g							硯	1点 74 g	貝類 サルボウ	1点 6 g	ガラス	3点 29 g
S K20	陶器	在地系	土瓶	6点 237 g											不明品	1点 4g
S K20	陶器	在地系	瓶	1点 34g												
S K20	陶器	在地系	甕	1点 780 g												
S K 20	陶器	在地系	蓋	4点 232 g												
S K20	陶器	在地系	人形	1点 32 g												
S K20	陶器	在地系	不明	1点 49 g												
S K20	陶器	布志名	火鉢	1点 38 g			A144									1
S K 20	陶器	布志名	鉢	2点 1960 g												<u> </u>
S K20	陶器	布志名	不明	2点 1562g												+
S K20	陶器	肥前系	ш	1点												-
S K20	陶器	肥前系	瓶	7 g 1点												-
S K20	陶器	肥前系	擂鉢	99 g 1点												-
S K20	陶器	肥前系	不明	670 g 2点 17 g												1
S K20	陶器	須佐	擂鉢	1点												-
S K20				14 g 1点												
	陶器	瀬戸・美濃	M	17 g												
S K20	陶器	不明	播鉢	3点 1340g												
S K20	陶器	不明	徳利	1点 12g 73点												
S K20	陶器	不明	不明	4603 g												
S K20	磁器	肥前系	Ш	4点 433 g												
S K20	磁器	肥前系	碗	3点 9g												
S K20	磁器	肥前系	蓋	2点 76 g												
S K20	磁器	肥前系	鉢	2点 16g												
S K20	磁器	肥前系	猪口	1点 14g												
S K20	磁器	肥前系	急須	1点 14g												
S K20	磁器	瀬戸·美濃	III	2点 87 g												
S K20	磁器	肥前系	不明	1点 10g												
S K20	磁器	不明	不明	17点												
S K20	土師器	在地系	Ш.	152 g												
S K20	土製品	-		11 g 1点												
S K20	土製品		カマド	211 g 1点				-								
				202 g 4点												
S K20	土製品	-	七厘のサナ	138 g 1点												
S K20	土製品	-	五徳	540 g												
S K20	土製品	-	土垂	1点 2g			4									
S K20	土製品	-	不明	16点 812g												
S K32	陶器	不明	不明	4点 159 g									炭	1点 1 g		
S K32	磁器	不明	不明	6点 59 g										- 0		
S K39	陶器	不明	不明	1点 5 g												
S K39	土師器	不明	不明	og 1点 1g												

## 表 104 出土遺物組成表 14

2	 2	☞	77	
o	O	$\sim$	(1)	

3-3区	(1)			E #6		E 49-		Jat #He		J: 36		占粉	重社技力	占%		占粉
遺構名	陶磁器	産地	種類	点数 重量	木製品	点数 重量	瓦	点数 重量	金属	点数 重量	石製品	点数 重量	動植物 遺存体	点数 重量	その他	点数 重量
S X 13	陶器	肥前系	蓋	1点 327g												
S X 13	陶器	不明	擂鉢	1点 57g												
S X 13	陶器	須佐	擂鉢	1点 24g												
S X 13	陶器	不明	不明	4点 126 g												
S X 13	磁器	不明	不明	2点 14g												
S X 13	土師器	在地系	IIII.	1点 15 g												
S X 13	土製品	不明	不明	3点 62 g												
S X 14	磁器	肥前系	小坏	1点 46 g												
貝殻溜り				10 8									貝類 アワビ	3点 8g		
 貝殻溜り													貝類 サザエ	4点 183 g		
貝殻溜り													貝類 サザエ蓋	2点 19g		
貝殻溜り													貝類	12点		
貝殻溜り													サルボウ	90 g 21点		
													<u>シジミ</u> 貝類 ハマグリ	39 g 4点		
貝殻溜り 人骨埋納	nt- 77			2点	1 1.14	1点		2点	Anr.	2点			ハマグリ	23 g		-
大量生物 土坑 人骨埋納	陶器	不明	不明	44 g 2点	小木片	1 g	平瓦	83 g	f 煙管	5 g 1点				$\vdash$		-
土坑 土坑	磁器	不明	不明	36 g					(雁首)	8 g						-
人骨埋納 土坑	土師器	在地系	.III.	1点 35 g												-
人骨埋納 土坑	上師器	京都系	Ш	1点 49 g												
人骨埋納 土坑	土師器	不明	Ш	1点 4g												
憲兵隊 建物基礎 礫上面	陶器	不明	不明	1点 49g			丸瓦	1点 71 g	不明品	1点 1g	白	1点 8000 g			看板	2000
憲兵隊 建物基礎 礫上面	磁器	不明	不明	3点 25 g							五輪塔 (火輪)	1点 17000 g				
憲兵隊 建物基礎 礫上面	土師器	京都系	Ш	1点 25 g												
近現代層	陶器	布志名	19'ú	4点			平瓦	11点 392 g	寛永通宝	1点 3g	碁石	2点 8g	貝類 サルボウガイ	3点 6g	ガラス	13) 32
近現代層	陶器	布志名	香炉or 火鉢	358g 1点			丸瓦	4点	5銭	1点	水晶	1点	貝類	8点	ガラス瓶	4) 97
近現代層	陶器	布志名	不明	107g 31点			軒平瓦	993 g 1点	古銭	5 g 1点 2 g	不明品	64 g 1点	シジミ 貝類	17 g 1点	ガイシ	8,
		在地系	碗	2038g 1点			軒丸瓦	509 g 2点	釘	5点		268 g	巻貝 貝類	9 g 3点	コンクリート	150 3, 19
近現代層	陶器			126g 5点			+1 /626	963 g	鉄	115 g 9点			炭	11 g 6点	タイル	18,
近現代層	陶器	在地系	擂鉢	740g 4点					不明品	263 g 2点				86 g	土管	133 1, 13
近現代層	陶器	在地系		203g 1点					不明品	24 g					ヘアーピン	13
近現代層	陶器	在地系	小壺	225g 1点								-			7,000	3
近現代層	陶器	在地系	小甕か	52g 5点												-
近現代層	陶器	在地系	盖	357g		-										-
近現代層	陶器	在地系	仏飯器	1点 20g												-
近現代層	陶器	在地系	ハマ	1点 48g												
近現代層	陶器	在地系	不明	40点 3313g												
近現代層	陶器	肥前系	碗	3点 307g												
近現代層	陶器	肥前系		4点 309g												
近現代層	陶器	肥前系	香炉	1点 60g												
近現代層	陶器	肥前系	擂鉢	2点 143g												
近現代層	陶器	須佐	擂鉢	25点 2682g												
近現代層	陶器	京信系	蓋	1点 27g												
近現代層	陶器	備前	不明	1点 68g												
近現代層	陶器	信楽	不明	1点 48g												
近現代層	陶器	瀬戸·美濃	不明	1点 26g												
近現代層	陶器	萩	不明	2点												
近現代層	陶器	朝鮮風	不明	157g 1点												
近現代層	陶器	不明	碗	101g 1点		1										<u> </u>
				64g 105点												
近現代層	陶器	不明	描鉢	7604g 1点												-
近現代層	陶器	不明		340g 4点										-		-
近現代層	陶器	不明	蓋	250g 1点												-
近現代層	陶器	不明	片口	154g												-
近現代層	陶器	不明	向付	1点 29g												
近現代層	陶器	不明	急須	1点 28g						-						

表 105 出土遺物組成表 15 3 - 3 区 (8)

	_ (0)															
遺構名	陶磁器	産地	種類	点数 重量	木製品	点数 重量	瓦	点数 重量	金属	点数 重量	石製品	点数 重量	動植物遺存体	点数 重量	その他	点数 重量
近現代層	陶器	不明	火鉢	1点 52g												
近現代層	陶器	不明	植木鉢	2点 261g												
近現代層	陶器	不明	花瓶	1点 205g												
近現代層	陶器	不明	不明	583点 23291g												
近現代層	磁器	在地系	猪口	1点 17g												
近現代層	磁器	在地系	土瓶の蓋	1点 44g												
近現代層	磁器	肥前系	196i	5点 348g												
近現代層	磁器	肥前系	香炉	1点 56g												
近現代層	磁器	肥前系	蓋	2点 51g												
近現代層	磁器	肥前系	ш	5点 548g												
近現代層	磁器	肥前系	小瓶	1点 134g												
近現代層	磁器	肥前系	不明	68点 1240g												
近現代層	磁器	肥前系	徳利	1点 69g												
近現代層	磁器	京信系	碗	1点 51g												
近現代層	磁器	京信系	小碗 or小坏	1点 25g												
近現代層	磁器	京信系	猪口	1点 11g												
近現代層	磁器	白磁	小坏	1点 41g												
近現代層	磁器	不明	碗	8点 434g												
近現代層	磁器	不明	小碗	3点 76g												
近現代層	磁器	不明	湯呑	1点 120g												
近現代層	磁器	不明	m	4点 158g												
近現代層	磁器	不明	瓶	4点 118g												
近現代層	磁器	不明	盖	2点 79g												
近現代層	磁器	不明	戸車	1点 18g												
近現代層	磁器	中国	小碗 or小坏	1点 30g												
近現代層	磁器	中国	किंच	1点 4g												
近現代層	磁器	中国	ш	1点 6g												
近現代層	磁器	中国	不明	1点 2g												
近現代層	磁器	不明	不明	384点 7070g												
近現代層	土師器	在地系	ш	81点 888g												
近現代層	土師器	京都系	Ш	32点 383g												
近現代層	土師器	不明	Ш	7点 19g												
近現代層	土製品	-	焙烙	10点 979g												
近現代層	土製品	-	焜炉	12点 4539g												
近現代層	土製品	-	七厘のサナ	7点 229g												
近現代層	土製品	-	不明	111点 6772g												
近現代層	土器	土師器	焼塩壺蓋	1点 19g												
近現代層	土器	須恵器	不明	2点 89g												
近現代層	瓦質土器	-	不明	2点 474g												
	L			-1.19		L								- 1	1	

#### 3-4区(1)

遺構名	陶磁器	産地	種類	点数 重量	木製品	点数 重量	瓦	点数 重量	金属	点数 重量	石製品	点数 重量	動植物 遺存体	点数 重量	その他	点数 重量
S A01(P1)					柱	1点 11000 g										
S A01(P2)					柱	1点 11000 g					All Control of the Co					
S K01	陶器	肥前系	Ю́ё	5点 443 g	桝	6点 739 g	平瓦	12点 4969 g	火箸	1点 50g			鳥類キジ	1点 2g	炭	1点 3 g
S K01	陶器	肥前系	ш	1点 19g	箆	4点 68 g	丸瓦	1点 990g	釘	1点 8 g			鳥類 ヒシクイ	2点 9g		
S K01	陶器	肥前系	火鉢	1点 830g	下駄	3点 1629 g			不明品	1点 19 g			貝類 アワビ	1点 213 g		
S K01	陶器	肥前系	急須	1点 102g	盆	1点 312g							貝類 イタヤガイ	5点 83 g		
S K01	陶器	肥前系	不明	3点 56 g	樽部材 蓋板	6点 535 g							貝類 カキ	2点 187 g		
S K01	陶器	在地系	土鍋	1点 80 g	桶部材 底板	31点 2762g							貝類 カラスガイ	6点 36 g		
S K01	陶器	在地系	甕	1点 171 g	桶部材 底・蓋板	1点 99 g							貝類 カワニナ	1点 2g		
S K01	陶器	在地系	不明	3点 221 g	曲物部材 蓋板	1点 39g							貝類 コシダカ ガンガラ	3点 11 g		
S K01	陶器	京信系	Юï	1点 77 g	塗物部材	5点 241 g							貝類 サザエ	15点 1396 g		
S K01	陶器	瀬戸·美濃	Юü	1点 29g	栓	4点 135 g							貝類 サルボウガイ	17点 165 g		

表 106 出土遺物組成表 16 3-4区(2)

3 — 4 区	(2)															
遺構名	陶磁器	産地	種類	点数 重量	木製品	点数 重量	瓦	点数 重量	金属	点数 重量	石製品	点数 重量	動植物 遺存体	点数 重量	その他	点数 重量
S K01	陶器	瀬戸·美濃	植木鉢	1点 800 g	箸	154点 768 g							貝類 シジミ	15点 22 g		
S K01	陶器	須佐	擂鉢	11点	串 (楊枝)	1点							貝類 テングニシ	1点 51 g		
S K01	陶器	不明	碗	2600 g 3点	楔	3 g 3点							リンシーン 貝類 ハマグリ	10点		+
S K01	陶器	不明	<u> </u>	552 g 1点 63 g	木札	127 g 1点							リリックリー 貝類 フジツボ	98 g 2点		
S K01	陶器	不明	擂鉢	16点	板	100 g 1点							フシツホ	39 g		+
				1209 g 1点	不明品	36 g 17点										+
S K01	陶器	不明	土瓶	790 g		2472 g 3点										+
S K01	陶器	不明	瓶	1点 30g 1点	角材	256 g 24点										+
S K01	陶器	不明	董 灯明皿	204 g 1点	板材	1462 g 2点										+
S K01	陶器	不明	受皿	16 g 64点	竹材	123 g										-
S K01	陶器	不明	不明	1958 g												_
S K01	磁器	肥前系	碗	2点 175 g												_
S K01	磁器	肥前系		3点 441 g												
S K01	磁器	肥前系	香炉	3点 703 g												
S K01	磁器	肥前系	不明	3点 77 g												
S K01	磁器	在地系	m.	1点 142g												
S K01	磁器	不明	Ш	1点 30 g												
S K01	磁器	不明	不明	66点 727 g												
S K01	土師器	在地系	ш	38点 687 g												
S K 01	土師器	京都系	III	1点 176g												
S K01	土製品	-	焜炉	2点 372 g												
S K01	土製品	-	不明	5点 88 g												
S K01	土器	土師器	焼塩壺蓋	2点 151 g												
S K 02	陶器	肥前系	Ш	1点	椀	1点	平瓦	1点 370g								
S K 02	土師器	在地系	Ш	16 g 1点	下駄	42 g 1点		310 g								
石積土坑1	陶器	在地系	砂	19 g 1点	7 1911	195 g										
	<b>-</b>	京信系	碗	9 g 1点												
石積土坑1	陶器			3 g 1点	44/2	1点										+
石積土坑2	陶器	肥前系	碗	104 g 1点	- 椀 曲物部材	93 g 1点										-
石積土坑2	上師器	京都系	Ш	5 g	蓋板	99 g 1点		2点		1点						
S K03					飾板	40 g 6点	平瓦	352 g 1点	釘	15 g						-
S K03					板材	213 g 1点	丸瓦	202 g		-		-			100000000000000000000000000000000000000	
S K 03					角材	222 g										
S K 03					杭(丸)	1点 610g				-						-
2064	陶器	肥前系	壺or甕	1点 24 g												
2071							平瓦	1点 155 g								
2083					柱(丸)	1点 3000 g										
2093	陶器	肥前系		1点 20g												
2093	土師器	在地系	Ш	1点 24g												
2093	土師器	京都系	ш	1点 7g												
2097				1 5			平瓦	3点 371g								
2110					箸	1点		oitg								
2117	土師器	不明		1点		1 g										
遺構外		肥前系	碗	2 g 3点	杭(丸)	1点	平瓦	3点		-						-
(1面) 遺構外	-	-		54 g 1点		534 g 1点	775	504 g 1点		-						
週梅/r (1面) 遺構外	陶器	肥前系		11g 1点	竹材	112 g	丸瓦	183 g		-						_
(1面)	陶器	肥前系	擂鉢	45 g						-						
遺構外 (1面)	陶器	肥前系	不明	1点 5g												
遺構外 (1面)	陶器	志野	向付	1点 14g												
遺構外 (1面)	陶器	不明	擂鉢	1点 71 g												
遺構外 (1~2面)	陶器	肥前系	Ш	1点 2g												
遺構外 (1~2面)	陶器	肥前系	小坏	2点 78 g												
遺構外	磁器	肥前系	不明	1点												
(1~2面) 遺構外	陶器	肥前系	ш.	19 g 1点						<u> </u>						+
(2面) 遺構外				13 g 1点						-						+
(2面) 遺構外	土師器	在地系	Ш	4 g			712 900	1点		-				-		+
(3面)				على ن			平瓦	244 g		-						-
遺構外 (その他)	陶器	不明	碗	2点 94 g												

## 表 107 出土遺物組成表 17 3 - 4 区 (3)

遺構名	陶磁器	産地	種類	点数 重量	木製品	点数 重量	瓦	点数 重量	金属	点数 重量	石製品	点数重量	動植物遺存体	点数重量	その他	点数 重量
遺構外 (その他)	陶器	不明	ш	1点 22 g												
遺構外 (その他)	陶器	不明	擂鉢	1点 87g												
遺構外 (その他)	陶器	不明	不明	8点 65 g												
遺構外 (その他)	磁器	不明	不明	5点 133 g												
遺構外 (その他)	土師器	在地系	IIIL	1点 18 g												
近現代層	陶器	肥前系		1点 80 g			平瓦	5点 1105 g	金網	l点 lg			哺乳類 不明	1点 8g	ガラス	3点 102 g
近現代層	陶器	不明	碗	1点 108g											コード	1点 17g
近現代層	陶器	不明	擂鉢	1点 8g											タイル	1点 2g
近現代層	陶器	不明	植木鉢	1点 22 g											土管	2点 288 g
近現代層	陶器	不明	不明	18点 464 g												200 8
近現代層	磁器	不明	碗	8点 352 g												
近現代層	磁器	不明	ш	3点 63 g												
近現代層	磁器	不明	不明	8点 81 g												
近現代層	土師器	在地系	ш	2点 37 g												
近現代層	土製品	-	焙烙	1点 18g												
近現代層	土製品	-	五徳	1点 123 g												
近現代層	土製品	-	不明	3点 94 g												

#### 3-5区

遺構名	陶磁器	産地	種類	点数 重量	木製品	点数 重量	瓦	点数 重量	金属	点数 重量	石製品	点数 重量	動植物遺存体	点数 重量	その他	点数 重量
第1面	磁器	中国	ш	1点 9g												
S D01					板	2点 19g										
S D02	瓷器	不明	驰	1点 10g	板	1点 390g										
近現代層	陶器	不明	擂鉢	1点 87 g			平瓦	4点 403 g	釘	1点 7g			貝 サザエ蓋	1点 11 g	コンクリート	7点 623 g
近現代層	陶器	不明	不明	11点 952 g									貝 サルボウガイ	2点 14g	b Za.	3点 78 g
近現代層	磁器	不明	不明	6点 41 g											土管	1点 1,810g
近現代層	土師器	在地系	Ш	1点 6g											フォーク	1点 10g
近現代層	土製品	不明	不明	1点 41 g												

#### 表 108 出土遺物一覧表 1

1-1区

出土場所		計	陶器	磁器	土師器	土製品	土器	木質 遺物	瓦	金属製品	石 製品	動物 遺存体	自然 遺物	その他
SK01	点数	151	9	12	7			10	84	1	2	4	1	2
SKOI	重量	11, 313	163	175	59			20	8, 500	2	2, 297	4	10	8
SK02	点数	315	6	4	4			7	294					
ONOD	重量	42, 648	283	28	45			292	42,000					
SK03	点数	283	11	2				2	264	2				
OROO	重量	26, 070	201	91				130	25, 629	6				1;
SA01 (P1)	点数	1							1					
DIOI (II)	重量	700							700					
SA02 (P2)	点数	2						2						
3AU2 (F2)	重量	3,000						3,000						
SE01	点数	1, 928	13	5	1	11		1	1, 896	1				
SEUI	重量	175, 575	333	70	3	361		125	174, 670	13				
OVO.4	点数	719	1	2				3	713					
SK04	重量	74, 336	352	79				215	73, 690					
	点数	108	5	2	13		2	85	1					
SK05	重量	1, 339	96	15	148		104	910	66					
	点数	146	3	1	20	4		11	107					
SK06	重量	13, 756	271	15	111	19		160	13, 180					
	点数	2, 418	11	1	15			2, 380	1	6		4		
SK07	重量	25, 679	830	1	198			24, 242	395	10		3		
	点数	37	12	4	7	6	1	1	3	1		2		
遺構外	重量	2, 062	453	36	78	55	18	35	1, 378	3		6		
		976	453	72	30	4	1	587	1,378	29		3	3	5
近現代層	点数						27			1, 887		10	10	3, 03
	重量	40, 473	2, 784	641	194	453	21	12, 817	18, 618	1,001		10	10	- 0,00
(旧)	点数	2						1	1					
P1	重量	686						555	131					-
(旧)	点数	4							4					
P2	重量	339							339					-
(目)	点数	1	1											
P3	重量	6	6											
(旧)	点数	1							1					
P4	重量	65							65					
(旧)	点数	6							6					
P5	重量	1,611							1, 611					
(旧)	点数	1	1											
P6	重量	15	15											
(旧)	点数	1						1						
P7	重量	3, 200				10.404.666		3, 200						
(旧)	点数	3						3						
P9	重量	920						920						
(10)	点数	1						1						
(旧) P10	重量	3, 100						3, 100						
	点数	2	1		1			-,,,,,,,						
(旧) P12	重量	7	<del> </del>		4									
	点数	9			1			5	4					
(旧) P13		397						120	277					1
	重量							5	211					
(旧) P14	点数	5						80						-
	重量	80		-				00					-	
(旧)	点数	4			-				4					+
P16	重量	365							365					
(旧)	点数	2	-					1					1	
P17	重量	45						20					25	-
(旧)	点数	1						1					-	
P18	重量	1,740						1,740						
(旧)	点数	5							5					
SK14	重量	390							390					
(旧)	点数	2							2					
SD01	重量	50							50					
(旧)	点数	1							1					
(旧) SD02	重量	8							8					
	点数	52							52					1
(旧) 瓦溜り01									16, 730					1
J-101田 ソVI	重量	16, 730					<del>                                     </del>	0.105		40		10	5	+
合計	点数	7, 187 446, 705		1, 151	98	25 888	149	3, 107 51, 681	3, 574 378, 792	1, 921	2, 297	13		

表 109 出土遺物一覧表 2

#### 3-2区(1)

August		• /			1					, ,					
	出土場所		計	陶器	磁器	土師器	上製品	土器	木質	瓦	金属	石制具	動物	自然	その他
Max		点数	1		1				JE 199		3000	355.00	退行净	退初	
Mail	SA01 (p1)														
Section 2			-	1	30	1			0.1						
All	SA01 (p2)														
おおけ				70		3									
	SA01(p3)								11						
機能   14.50   14.50   14.50   2.20   2.00			311						311						
1	SK01	点数	963	347	256	59	31		54	185	7	1	2	13	8
Mar	SKOI	重量	106, 524	14, 957	2, 263	336	660		2, 823	85, 063	115	56			153
19		点数	33	8	16										100
おおけ	1面 遺構外														
													8		
近畿	SK02									3					
		-	1, 714	374	138	53				1, 149					
対数	SKU3	点数	458	9	9	39		1	397		2		1		
	JR05	重量	28, 602	1, 312	144	933		27	26, 147		36		3		
強性		点数	17												
一般の	SD01														
通常性   一般では				7	0				2, 400						
金田林   金田林   1   1   1   1   1   1   1   1   1	遺構外														
新聞					72	39									
	清構外		4	The state of the s	1			2							
Section   No.   Section   Section	AS 177/1"	重量	130	9	3			118							
Section   No.   Section   Section	04007	点数	1							1					
Main	SA02(p1)														
大き										191					
Seguing	SA02(p2)														
新聞									45						
接換	SA02 (p.4)	点数	1						1						
日本	S102 ( p 4)	重量	5						5						
日本		点数	2		1						1				
「おおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおお	4面 遺構外													-	
重要					0						99				
振数   5   3   2   1   1   1   1   1   1   1   1   1	SK05								2						
金電   86   67   19   19   10   10   11   10   12   10   11   10   12   10   10		-							19						
# 数	5面 港楼が	点数	5	3	2										
近現代	の田 、題1件7下	重量	86	67	19										
近現代		点数	73	34	23	12		1			1		9		
近現代層 点数 1,102 423 340 20 55 3 175 7 10 3 3 4 1	その他 遺構外														
近張代帝   底蔵   41,517   27,678   4,357   234   1,494   108   4,212   233   334   12   55   2,															
本務	近現代層							3	175	7	10		3	4	62
重量 7		_		27, 578	4, 357	234	1, 494	108	4, 212	233	334		12	55	2, 900
無職	水蚁	点数	6										6		
(旧)	DAZI	重量	7										7		
五部90         重量         22,846         3,098         888         36         931         125         16,730         10         1           (旧) 日	(IB)	点数	258	89	91	4	15	1		52					6
(IB)															
P4         重量         5  <	(10)					- 00	331	120		10, 730					1, 038
(III)															
P6       重量       2,000       1       2,000       1 <t< td=""><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></t<>															
(II)		点数	1						1						
(旧) P7         点数         1         0         0         1         0<	P6	重量	2,000						2,000						
P7       重量       4,700       4,700       6 <t< td=""><td>(旧)</td><td>点数</td><td>1</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></t<>	(旧)	点数	1												
(III)     点数     7     1     1     1       (III)     点数     1     1     1     1     1     1       (III)     点数     1 </td <td></td> <td></td> <td>4, 700</td> <td></td>			4, 700												
P10     重量     530           (旧) P11     点数     1     1              (日) P11     重量     6     6     6               (旧) P16     点数     3     3     3                (日) P16     点数     2     2     6                  (日) 日     点数     2 <td>(ID)</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>-</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td>	(ID)									-					
H															
P11       重量       6       7       6       7       6       7       7       8       7       8       7       8       8 <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>530</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td>									530						
Harmonia   Harmonia														T	7
P16     重量     17     17     17     17     17     17     17     17     17     18	P11	重量	6	6											
P16     重量     17     17     17     17     17     17     17     17     17     18	(旧)	点数	3	3											
(日)     点数     2     165     3     4     5     6     6     6     6     6     6     6     6     6     6     6     7 <t< td=""><td></td><td></td><td>17</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></t<>			17												
P19     重量     165 <td>/(E)</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>-</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>-</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td>	/(E)					-				-					
A															
P26     重量     53     2     51     9       (旧)     点数     1     9     1       P28     重量     300     300     9       (旧)     点数     3     2     1     9       (日)     点数     3     50     9       (旧)     点数     3     3     9       (日)     点数     3     40     9       (日)     点数     1     1     40     9									165						
(日)     点数     1     1     1       P28     重量     300     300     300       (日)     点数     3     2     1     300       (日)     点数     3     2     1     300       (日)     点数     3     3     300       (日)     点数     1     1     400		点数	2			1		1							
(旧) P28     点数     1     1     1       重量     300     300     300       (旧) P29     点数     3     2     1     3       (旧) 点数     3     8     50     3       (旧) 点数     3     3     40       (旧) 点数     1     40     40	P26	重量	53			2		51							
P28     重量     300     300     300       (IB)     点数     3     2     1     300       P29     重量     58     8     50       (IB)     点数     3     3     3       P38     重量     40     40     40       (IB)     点数     1     1     1	(旧)	点数	1						1	-					
(日)     点数     3     2     1        P29     重量     58     8     50        (旧)     点数     3     3        P38     重量     40     40        (旧)     点数     1     1															
P29     重量     58     8     50     6       (旧)     点数     3     3     3       P38     重量     40     40     40       (旧)     点数     1     1     1															
(旧)     点数     3     3       P38     重量     40     40       (旧)     点数     1     1															
P38     重量     40       (旧)     点数     1       1     1	F49				8				50					T	
(旧) 点数 1 1		点数	3						3						
(旧) 点数 1 1	P38	重量	40						40						
	(IH)			1											
- 20 20 100 100 100 100 100 100 100 100 1															
		里里	100	100											

表 110 出土遺物一覧表 3

#### 3-2区(2)

出土場所		計	陶器	磁器	土師器	土製品	土器	木質 遺物	瓦	金属 製品	石 製品	動物 遺存体	自然 遺物	その他
(旧)	点数	4	1	1				2						
SK02	重量	24	5	4				15						
(旧)	点数	1			1									
SK04	重量	1			1									
(旧)	点数	9	2	2	4				1					
SK05	重量	370	18	177	83				92					
(旧)	点数	2	1		1									
SK11	重量	8	7		1									
(旧)	点数	9	4	5										
SK14	重量	38	22	16										
(旧)	点数	5	3	2										
SK19	重量	61	54	7										
(旧)	点数	1				1								
SE01	重量	10				10								
(旧)	点数	19						19						
SK01	重量	310						310						
(旧)	点数	12						12						
SK03	重量	1, 015						1,015						
(旧)	点数	21						21						
4GR	重量	1,035						1, 035						
(旧)	点数	1		1										
P2	重量	1		1										
(旧)	点数	1	1											
SD01	重量	111	111											
(旧)	点数	3	1	2										
SD02	重量	9	5	4										
(旧)	点数	2	1	1										
SK02	重量	26	25	1										
arra -	点数	1		1										
SK05	重量	8		8										
(旧)	点数	12						12						
礫敷	重量	335						335						
(旧)	点数	1						1						
5面	重量	10						10						
(旧)	点数	8						8						
SK03	重量	155						155						
(旧)	点数	1						1						
ウラジロ・溝	重量	55						55						
	点数	3, 188	970	795	159	102	9	774	249	21	1	15	17	76
合計	重量	220, 228	50, 211	8, 936	2,089	3, 095	466	47, 097	103, 398	594	56	44	151	4, 09

#### 3-1区

· .														
出土場所		計	陶器	磁器	土師器	土製品	土器	木質 遺物	瓦	金属 製品	石 製品	動物 遺存体	自然 遺物	その他
南北トレンチ	点数	4	1	2	1									
	重量	46	19	24	3									
東西トレンチ	点数	6	1	2	1	1							1	
果四トレンテ	重量	47	23	7	3	12							2	
'CH /INE	点数	908	80	90	30	38	2	2	537	46	3	. 8	2	70
近現代層	重量	57159	4529	1768	985	1488	75	13	45, 390	385	9	126	42	2349
A =1	点数	918	82	94	32	39	2	2	537	46	3	8	3	70
合計	重量	57252	4571	1799	991	1500	75	13	45390	385	9	126	44	2349

#### 3-3区(1)

出土場所		計	陶器	磁器	土師器	土製品	土器	木質 遺物	瓦	金属製品	石 製品	動物 遺存体	自然 遺物	その他
0.7701	点数	188	30	7	35			105	1	1		6	3	
S K01	重量	9, 288	1, 474	132	382			6, 866	286	6		122	20	
0.1500	点数	16	9	2	1			3	1					
S K 02	重量	287	168	6	10			35	68					
C IZ OO	点数	24	5	2				8	5	1		3		
S K03	重量	4, 775	409	122				1, 390	2, 815	4		35		
石組水路	点数	19	3		3			12		1				
1 和 和 不 的	重量	735	187		149			396		3				
石列1	点数	18	6	1	7	1		3						
11991	重量	640	273	13	280	3		71						

表 111 出土遺物一覧表 4

## 3-3 🗵 (2)

標敷2     点数     250     76     9     77     2     2     48     27     1     1       重量     14,924     2,861     83     1,127     660     79     3,800     6,120     46     108       1面 遠構外     点数     299     154     72     25     5     18     21     3       重量     10,504     3,236     507     202     184     3,488     2,659     218       S K04     直量     10,504     3,236     507     202     184     3,488     2,659     218       S K04     直量     330     10     320     320     320     320       上留め遺構     25     8     15     2     2       重量     1,323     716     427     180     320       S K05     重量     1,323     716     427     180     32       S X01     点数     351     28     2     37     115     13     13       S X01     点数     351     28     2     37     115     13     1       素数     191     55     16     40     4     1     38     2       国量     10,489     4,375     300	s 遺物 9 9 9 9 9 6 6 6 6 6 2 3 3 9 4 9 9 9 9 9 9 9 9 9 9 9 9 9 9 9 9	5
無数	2 2 2 4 4 5 6 6 7 7 5 1 1 2 1 1 1 2 1 1 1 2 1 1 1 2 1 1 1 2 1	10
<ul> <li>機数 250 76 9 77 2 2 2 488 27 1 1 1</li> <li>通繁 14,924 2,861 83 1,127 660 79 3,800 6,120 46 108</li> <li>正</li></ul>	2 2 2 4 4 5 6 6 7 7 5 1 1 2 1 1 2 1 1 2 1 1 2 1 1 2 1 1 2 1 1 1 2 1 1 1 2 1	10
接触	22 2 2 94 4 56 6 77 7 300 5 51 121	10
指数	2 2 94 56 57 7 30 5 51 121 121 121 121 121 121 121 121 12	10
田 瀬保外   重量	94   566   577   580   581   121   588   5	16
SK04   点数   6   1   1   1   1   1   1   1   1   1	94   566   577   580   581   121   588   5	5
五版   330   10   15   2   320	94   566   577   580   581   121   588   5	5
上留め遺構	94   566   577   580   581   121   588   5	5
重最	94   566   577   580   581   121   588   5	5
SK05     点数     4     2     2     3       SX01     点数     351     28     2     37     115     13     1       SX02     点数     351     28     2     37     115     13     1       SX02     点数     191     55     16     40     4     1     38     2       East 10,489     4,375     300     558     269     27     4,771     7       LVJチ 直盤     1,102     579     58     465     10       その他の 遺構外 重量     22,752     8,963     1,409     1,068     756     39     6,583     3,187     380     2       SK04     重量     629     265     90     72     14     3     56     12     14       重量     22,752     8,963     1,409     1,068     756     39     6,583     3,187     380     2       SK05     重数     3     1     2     4     3     56     12     14       基金数     9     2     3     3     3     1     369     2       SK05     五数     3     3     4     4     4     4     4     1     1       基金数 </td <td>94   566   577   580   581   121   588   5</td> <td>5</td>	94   566   577   580   581   121   588   5	5
KOB     重量     136     42       SX01     点数     351     28     2     37     115     13     13       点数     191     55     16     40     4     1     38     2       点数     191     55     16     40     4     1     38     2       重量     10,489     4,375     300     558     269     27     4,771     7       トレンチ     重量     1,102     579     58     465     10       その他の直接外     点数     629     265     90     72     14     3     56     12     14       直量     2,752     8,963     1,409     1,068     756     39     6,583     3,187     380     2       SK04     直量     22,752     8,963     1,409     1,068     756     39     6,583     3,187     380     2       SK05     直量     2,701     2224     81     27     369     11     369     3       SK05     直量     6.5     4     4     4     1     1     4       重量     1,520     4     4     4     1     1     4       SK31     直量     138 <td< td=""><td>94   566   577   580   581   121   588   5</td><td>5</td></td<>	94   566   577   580   581   121   588   5	5
SX01     点数     351     28     2     37     115     13     1       SX02     重量     17,910     3,111     11     1,129     6,682     6,670     33       SX02     点数     191     55     16     40     4     1     38     2       mag     10,489     4,375     300     558     269     27     4,771     7       FUJF     点数     20     5     5     10     10       Eagle     1,102     579     58     465     10       その他の 遺構外     629     265     90     72     14     3     56     12     14       直動     22,752     8,963     1,409     1,068     756     39     6,583     3,187     380     22       S K04     直動     22,701     2224     81     27     369     6,583     3,187     380     22       S K05     血数     9     2     3     3     1     1     1       Eagle     1,520     8     2     4     4     4     1     1     1       S K31     18     2     14     2     3     59     19     19       S K32 </td <td>56 57 30 5 51 121 58 5</td> <td>5</td>	56 57 30 5 51 121 58 5	5
SX01     重量     17,910     3,111     11     1,129     6,682     6,670     3       SX02     点数     191     55     16     40     4     1     38     2       LX     194     4,375     300     558     269     27     4,771     7       LX     20     5     5     10     10       Eag     1,102     579     58     466     466       その他の 遺構外     点数     629     265     90     72     14     3     56     12     14       Eag     22,752     8,963     1,409     1,068     756     39     6,583     3,187     380     2       S K04     無数     9     2     3     3     1     1     1       Eag     2,701     2224     81     27     369     1     369     1       S K05     ag     1     2     1     1     1     1     1     1       Eag     1,520     1     2     1520     1     1     1     1     1       S K31     ag     18     2     14     2     3     1     19     1       S K36     ag <td< td=""><td>07 30 5 51 121 08 5</td><td>5</td></td<>	07 30 5 51 121 08 5	5
SX02     点数     191     55     16     40     4     1     38     2       重量     10,489     4,376     300     558     269     27     4,771     7       トレナチ     点数     20     5     5     10       重量     1,102     579     58     465       その他の 遺構外     点数     629     265     90     72     14     3     56     12     14       重量     22,752     8,963     1,409     1,068     756     39     6,583     3,187     380     2       SK04     無数     9     2     3     3     1     1     1     1       重量     2,701     2224     81     27     369     1     1     1       SK05     点数     3     3     3     1     1     1     1       重量     65     4     4     4     1     1     1     1       重量     1,520     4     4     4     1     1     1       基金     138     25     35     59     19     19       SK36     直量     470     127     330     13     1     1     1	30 5 31 121 98 5	5
重量     10,489     4,375     300     558     269     27     4,771     7       上レンチ     点数     20     5     5     10       重量     1,102     579     58     465       その他の 遺標外     点数     629     265     90     72     14     3     56     12     14       基数     629     266     90     72     14     3     56     12     14       基数     629     266     90     72     14     3     56     12     14       基数     629     266     90     72     14     3     56     12     14       基数     9     2     3     1,009     1,068     756     39     6,583     3,187     380     2       S K04     点数     9     2     3     3     1     1     1       基量     2,701     2224     81     27     369     1       S K06     重量     65     65     65     65       S K06     重量     1,520     1     1     1       S K31     重量     1,520     1     1     1       基金数     18     2     14     2	61 121 98 5	5
上下   上下   上下   上下   上下   上下   上下   上下	98 5	5
重量		
その他の 遺構外     点数     629     265     90     72     14     3     56     12     14       重量     22,752     8,963     1,409     1,068     756     39     6,583     3,187     380     2       SK04     無数     9     2     3     3     1     1     1       重量     2,701     2224     81     27     369     3       SK05     無数     3     3     3     3     3       基量     65     65     65     65     65       SK06     重量     1,520     1     1     1       SK31     点数     15     6     4     4     15     1       重量     138     25     35     59     19     19       SK35     無量     14     2     1     1     1       基量     470     127     330     13     3     1     1     1       SK36     重量     570     395     8     167     167     1     1     1       SK38     五量     213     144     35     34     1     1     1     1       SK40     二數     24     11     7		
遺構外     重量     22,752     8,963     1,409     1,068     756     39     6,583     3,187     380     2       S K04     点数     9     2     3     3     1     1     1       重量     2,701     2224     81     27     369     369     369       S K05     無数     3     3     3     3     3     3       重量     65     4     4     1     4     4       S K31     点数     15     6     4     4     4     1     4       重量     138     25     35     59     19     3       S K35     点数     18     2     14     2     3     3     3     3     3       S K36     点数     18     2     14     2     3 <td></td> <td></td>		
S K04     点数     9     2     3     3     1     1       重量     2,701     2224     81     27     369     369       S K05     無数     3     3     3     3       重量     65     65     3     3       S K06     無数     1     1     369       S K07     無数     1     3     3       S K08     無数     1     3     3     3       S K31     無数     1     4     4     4     4       S K31     無数     15     6     4     4     4     4     4       S K35     無数     15     6     4     4     4     4     4     4       S K35     無数     13     2     3     19     4	8 69	
5 K04     重量     2,701     2224     81     27     369       S K05     点数     3     3     3       重量     65     4     65     66       S K06     点数     1     1     1       重量     1,520     1520     1520       S K31     点数     15     6     4     4     1     1       基量     138     25     35     59     19     19       S K35     点数     18     2     14     2     2     19       S K36     重量     470     127     330     13     3     1     1       S K36     重量     570     395     8     167     167     167     167       S K38     直量     213     144     35     34     17     17     17     17     17     17     17     17     17     17     17     17     17     18		
S K05     点数     3     3       重量     65     65       S K06     点数     1     1       重量     1,520     1520       S K31     点数     15     6     4     4     1       重量     138     25     35     59     19       S K35     点数     18     2     14     2       重量     470     127     330     13     3     3       S K36     重量     570     395     8     167       S K38     20     15     2     3     167       S K38     23     1     1     1     1       S K40     点数     3     1     1     1     1       重量     213     144     35     34     34     34       S K40     点数     24     11     7     4     1     1       重量     823     256     46     6     479     2     3       重量     180     180     180     180     180       S X02     点数     22     10     4     5     2     1		
SK06     重量     65       点数     1       重量     1,520       SK31     点数     15     6     4     4     1       重量     138     25     35     59     19       SK35     点数     18     2     14     2       重量     470     127     330     13       SK36     点数     20     15     2     3       重量     570     395     8     167       SK38     点数     3     1     1     1       SK40     点数     24     11     7     4     1       T     五量     823     256     46     6     479       T     五量     180     180       SK02     点数     2     10     4     5     2     1		
SK06     点数     1     1     1       重量     1,520     1520       SK31     点数     15     6     4     4     1       重量     138     25     35     59     19       SK35     点数     18     2     14     2       重量     470     127     330     13       SK36     点数     20     15     2     3       重量     570     395     8     167       SK38     点数     3     1     1     1       SK38     重量     213     144     35     34       SK40     点数     24     11     7     4     1       重量     823     256     46     6     479       SX01     点数     2     2     2       重量     180     180     180       SX02     点数     22     10     4     5     2     1		
KR06     重量     1,520     1520       SK31     点数     15     6     4     4     1       重量     138     25     35     59     19       SK35     点数     18     2     14     2       重量     470     127     330     13       SK36     点数     20     15     2     3       重量     570     395     8     167       SK38     点数     3     1     1     1       SK40     点数     24     11     7     4     1       T     五量     823     256     46     6     479       SK01     点数     2     180     180       SK02     点数     22     10     4     5     2     1		
S K31     点数     15     6     4     4     4     1       重量     138     25     35     59     19       S K35     点数     18     2     14     2       重量     470     127     330     13       S K36     点数     20     15     2     3       重量     570     395     8     167       S K38     点数     3     1     1     1       重量     213     144     35     34     34       S K40     点数     24     11     7     4     1       重量     823     256     46     6     479       S X01     点数     2     2     2       重量     180     180       S X02     点数     22     10     4     5     2     1		
重量     138     25     35     59     19       S K35     点数     18     2     14     2       重量     470     127     330     13       S K36     点数     20     15     2     3       重量     570     395     8     167       S K38     点数     3     1     1     1       重量     213     144     35     34     34       S K40     点数     24     11     7     4     1       重量     823     256     46     6     479       S X01     点数     2     2     2       重量     180     180       S X02     点数     22     1		
S K35     点数     18     2     14     2       重量     470     127     330     13       S K36     点数     20     15     2     3       重量     570     395     8     167       S K38     点数     3     1     1     1       重量     213     144     35     34       S K40     点数     24     11     7     4     1       重量     823     256     46     6     479       S X01     点数     2     2     2       重量     180     180       S X02		
K36     重量     470     127     330     13       S K36     点数     20     15     2     3       重量     570     395     8     167       S K38     点数     3     1     1     1       重量     213     144     35     34       S K40     点数     24     11     7     4     1       重量     823     256     46     6     479       S X01     点数     2     2     2       重量     180     180       S X02     点数     22     10     4     5     2     1		
S K36     点数     20     15     2     3       重量     570     395     8     167       S K38     点数     3     1     1     1       重量     213     144     35     34       S K40     点数     24     11     7     4     1       重量     823     256     46     6     479       S X01     点数     2     2     2       重量     180     180     180       S X02     点数     22     10     4     5     2     1		
K36     重量     570     395     8     167       S K38     点数     3     1     1     1       重量     213     144     35     34       S K40     点数     24     11     7     4     1       重量     823     256     46     6     479       S X01     点数     2     2     2       重量     180     180     180       S X02     点数     22     10     4     5     2     1		
S K38     点数     3     1     1     1       重量     213     144     35     34       S K40     点数     24     11     7     4     1       重量     823     256     46     6     479       S X01     点数     2     2       重量     180     180       S X02     点数     22     10     4     5     2     1		
重量     213     144     35     34       S K40     点数     24     11     7     4     1       重量     823     256     46     6     479       S X01     点数     2     2     2       重量     180     180       S X02     点数     22     10     4     5     2     1		
S K40     点数     24     11     7     4     1     1       重量     823     256     46     6     479       S X01     点数     2     2     2       重量     180     180       S X02     点数     22     10     4     5     2     1		-
f量     823     256     46     6     479       S X01     点数     2     2       重量     180     180       S X02     点数     22     10     4     5     2     1	1	-
S X01     点数     2     2       重量     180     180       S X02     2     10     4     5     2     1	36	
重量     180       SX02     点数     22     10     4     5     2     1	30	-
S X 02 点数 22 10 4 5 2 1		
S X 02		
点数 18	1	
S X 04	4	
点数 1	1	
P1 重量 130 130		
点数 2	2	
桶2 重量 5	5	
S K 25 点数 38 3 1 2 2 3	7	
S K 25 重量 1,108 57 13 97 12 513 4		
S K 27 点数 3 1 1 1 1		
重量 74 32 16 26		
S K 28 点数 10 5 5		
重量 1,531 1227 304		
	1	
<u>重</u> 室 225 43 174 6	2	
	l	
重量 185 28 16 120 7 9	5	
水路 点数 18 11 7		
重堂 169 138 31		
S D 0 2		
重量 922 374 125 156 267		
S K 09		
SK13		
与数 4	1	
S K 30	.	
占数 170 106 33 1 24	!	
S K 20		4
点数 11 4 6		99
S K32 重量 219 159 59		33

表 112 出土遺物一覧表 5

#### $3 - 3 \boxtimes (3)$

出土場所		計	陶器	磁器	土師器	土製品	土器	木質 遺物	瓦	金属製品	石 製品	動物 遺存体	自然 遺物	その他
	点数	2	1		1									
S K39	重量	6	5		1									
0.7710	点数	13	7	2	1	3								
S X 13	重量	625	534	14	15	62								
0.3714	点数	1		1										
S X 14	重量	46		46										
貝殻溜り	点数	46										46		
貝版値り	重量	362										362		
人骨埋納	点数	13	2	2	3			1	2	3				
土坑	重量	265	44	36	88			1	83	13				
憲兵隊	点数	10	1	3	1				1	1	2			1
建物基礎礫上面	重量	27, 171	49	25	25				71	1	25000			2000
YE TO ALE	点数	1, 711	838	500	120	140	3		18	19	4	15	6	48
近現代層	重量	72, 645	43793	10750	1290	12519	108		2857	412	340	43	86	447
A =1	点数	4, 475	1, 750	810	544	203	10	472	135	58	9	408	21	55
合計	重量	239, 269	91, 329	15, 137	8, 665	17, 089	329	41, 752	32, 920	1, 415	25, 531	2, 262	333	2, 507

#### 3 - 4区

出土場所		計	陶器	磁器	土師器	土製品	土器	木質 遺物	瓦	金属 製品	石 製品	動物 遺存体	自然 遺物	その他
S A01 (P1)	点数	1						1						
	重量	11,000						11,000						
S A01	点数	1						1						
(P2)	重量	11,000						11,000						
S K01	点数	611	118	79	39	7	2	268	13	3		81	1	
	重量	34, 278	10, 250	2, 295	863	460	151	11, 906	5, 959	77		2, 314	3	
S K02	点数	5	1		1			2	1					
	重量	642	16		19			237	370					
石積土坑	点数	2	2											
1	重量	12	12											
石積土坑	点数	4	1		1			2						
2	重量	301	104		5			192						
	点数	13						9	3	1				
S K 03	重量	1, 654						1,085	554	15				
	点数	1	1											
2064	重量	24	24											
	点数	1							1					
2071	重量	155							155					
	点数	1						1						
2083	重量	3, 000						3,000						
	点数	3	1		2									
2093	重量	51	20		31									
	点数	3							3					
2097	重量	371							371					
	点数	1						1						
2110	重量	1						1						
	点数	1			1									
2117	重量	2			2									
遺構外	点数	14	8					2	4		L. Latines			
(1面)	重量	1, 533	200					646	687					
遺構外	点数	4	3	1										
(1~2面)	重量	99	80	19										
遺構外	点数	2	1		1									
(2面)	重量	17	13		4									
遺構外 (3面)	点数	1	,,-						1					
	重量	244							244					
遺構外	点数	18	12	5	1									
週悔か (その他)	重量	419	268	133	18									
	点数	62	22	19	2	5			5	1		1		
近現代層	重量	2, 973	682	496	37	235			1, 105	1		8		40
合計 -	点数	749	170	104	48	12	2	287	31	5	0	82	1	
	重量	67, 776	11,669	2, 943	979	695	151	39, 067	9, 445	93	0	2, 322	3	40

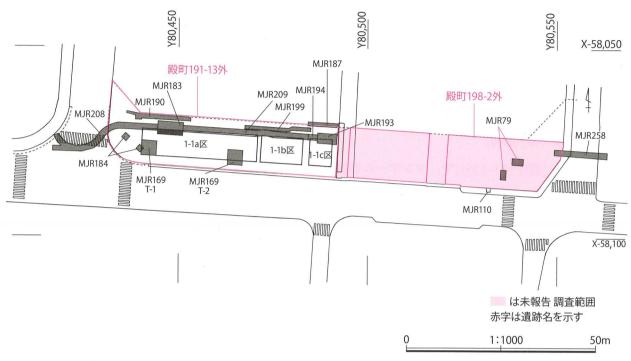
#### 3-5区

出土場所	計		陶器	磁器	土師器	土製品	土器	木質 遺物	瓦	金属 製品	石 製品	動物 遺存体	自然 遺物	その他
第1面	点数	1		1										
	重量	9		9										
C D OI	点数	2						2						
S D01	重量	19						19						
S D02	点数	2					1	1						
5 002	重量	400					10	390						
近現代層	点数	40	12	6	1	1			4	1		3		12
	重量	4, 083	1,039	41	6	41			403	7		25		2, 521
合計	点数	45	12	7	1	1	1	3	4	1	0	3	0	12
	重量	4, 511	1,039	50	6	41	10	409	403	7	0	25	0	2, 521

### 第5章 立会調査の結果

#### 第1節 第1ブロックの立会調査

第1ブロックは、市道北田大手前線と主要地方道松江・鹿島・美保関線にはさまれた城山北公園線沿いの北側部である。東西約120mの区画にあたる。調査地は、工事予定地の北側に設置される共同溝工事範囲が多く、南北道を横断する道路下の調査も行われた(第139図)。



第139図 第1ブロック立会調査範囲図 (1:1,000)

#### 1. MJR79

調査地は、(殿町198-2外) で、試掘調査である。範囲は、東西1.5m×南北2.5mと東西3.0m×南北1.8mの2ヶ所である。深度は-2.42mである。

少なくとも3面の遺構面を検出したことにより、遺跡の存在を確認した。

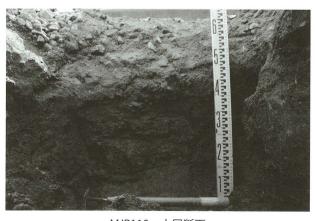
遺物は、土師質土器(かわらけ)、窯道具等が出土した。

#### 2. MJR110

調査地は、(殿町198-2外)で、汚水桝撤去工事に伴う調査である。範囲は、東西1.0m×南北1.0m×深度0.7mである。

土層としては、上層は撹乱層 (バラス)、中層は こぶし大の石を多く含む明灰色粘質土、下層は明灰 色粘質土で、下層以下が旧土層と考えられる。

遺物は出土していない。



MJR110 土層断面

調査地は、(殿町191-13外)で、1-1区の遺跡確認調査である。東西2.0m×南北2.0m×深度2.2mの2ヶ所のトレンチ(T-1・T-2)を設定し、重機掘削により調査した。遺物はなかったものの両調査区ともに溝状の遺構を確認し、江戸時代の遺構面を形成すると考えられる土層が地下に残存していることが判明した。

T-1では、現地表下0.7m近くまで舗装路盤やかく乱により江戸時代の土層は失われていたが、下層で城下町形成以前の旧地表層(4層)と、その層を掘り込む溝状の遺構が確認された。また、この溝と旧地表層を埋め尽くすように造成された土層は、松江城の建つ亀田山の地山に見られる軟質砂岩(いわゆる「松江層」)を大量に含んでおり、堀の掘削に伴う廃土で造成を行った可能性も推測されることから、城下町形成にかかわる普請のありようを確認したものと考える。遺物は検出していない。

#### 4. MJR183 (第140図)

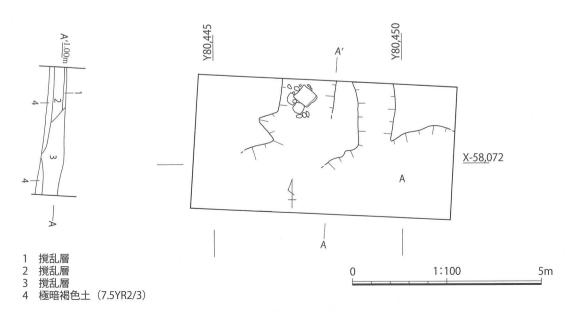
調査地は、(殿町191-13外)で、マンホール設置工事に伴う調査である。範囲は、東西6.9m×南北3.5m×深度1.5mである。

掘削したほとんどが後世の工事等にともなう撹乱層であった。標高0.8~0.6mのあたりで自然堆積層を確認した。自然堆積層上に、溝状の落ち込みを確認した。

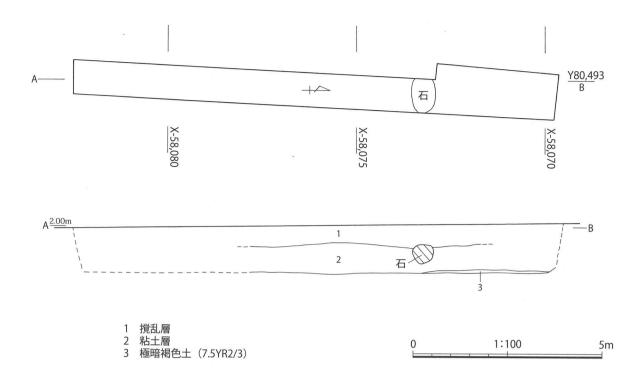
また、石の集積を検出したが、置かれた年代や性 格については不明である。



MJR183 石検出状況



第140図 MJR183実測図(1:100)



第141図 MJR186実測図(1:100)

調査地は、(殿町191-13外)で、看板施設撤去工事に伴う調査である。「島根ふるさと館」南側駐車場の 西端部にあたり、範囲は、東西1.5m×南北1.5m×深度1.0mの2区画である。

開削部は真砂土の中にコンクリート土台があり、その埋設深度は、路面より1.2mを測る。なお土台の下部基盤面は未確認である。

#### 6. MJR186 (第141図)

調査地は、(殿町191-13外)で、電線共同溝掘削工事に伴う調査である。本調査1-1C区の東側に位置し、 範囲は、東西0.9m×南北12.7m×深度1.2mである。

標高1.55~1.6m前後までは工事等による撹乱層で、その下に粘土層がみられ、標高0.9mで自然堆積土 (極暗褐色土)が検出された。標高1.5mのあたりで、建物礎石とも思われる上面が比較的平坦な石(石材不

明)が検出された。既に重機で掘削された後であったが、一応の位置を記録した。

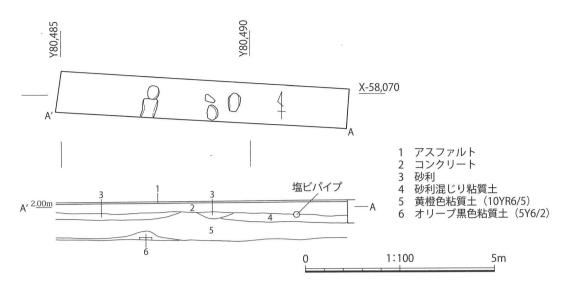
遺物は出土していない。

#### 7. MJR187 (第142図)

調査地は、(殿町191-13外)で、電線共同溝掘削 工事に伴う調査である。本調査1-1C区北側に位置 し、範囲は、東西7.7m×南北1.1m×深度1.0mで



MJR187 石検出状況



第142図 MJR187実測図 (1:100)

ある。

標高1.6~1.8mまでは工事等による撹乱層で、その下に江戸時代の造成土と考えられる粘土層が堆積していた。掘削坑の最下部(標高1.2m)で、大海崎石が検出された。遺物は出土していない。

#### 8. MJR190 (第143図)

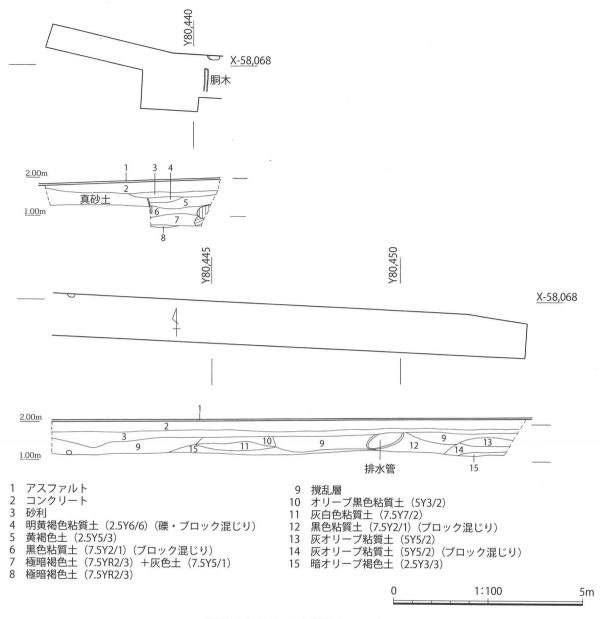
調査地は、(殿町191-13外)で、電線共同溝掘削工事に伴う調査である。本調査1-1a区の北側に位置し、 範囲は、18.0m×南北1.1m×深度1.3mである。

大半が工事による撹乱を受けていた。西側のやや深掘りされた部分の断面に、石組状(上面は標高1.3m 前後)のもの(以下、石組状遺構)がみられた。南北方向に高さ0.6m 前後の低い石垣状遺構があったとも考えられるが、定かではない。石組状遺構の東側部分は工事による撹乱を受けていた。石組状遺構は、西側を正面にしたもののように思われる。石組状遺構の組まれた時期については不明である。石組状遺構直下(標高0.7m)には8層が堆積していた。石組状遺構の西側部分には、ほぼ水平に4~7層土が堆積していた。石組状遺構の埋め土であるがその時期については不明である。

石組状遺構の南側の標高約1.3mで、南北方向の 胴木と思われるものを検出した。石は未検出なが ら、本来はこの上に石が組まれていたものと推測さ れる。胴木と石組状遺構の上面はほぼ同じ高さにな るので、同一の石垣に伴うものとは考えにくい東側 部分は、部分的に粘質土を中心とした堆積土(10層) がみられたが、配管工事他の工事によってかなり撹 乱を受けていた。肥前系陶器皿や在地系陶器などが 出土している。



MJR190 土層断面



第143図 MJR190実測図 (1:100)

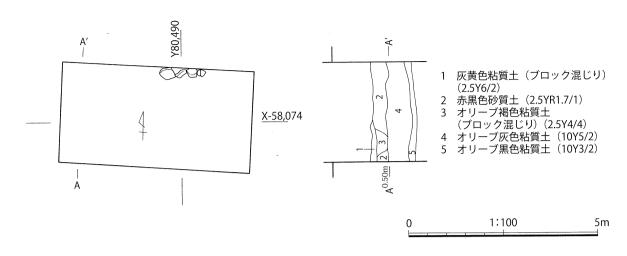
#### 9. MJR193 (第144図)

調査地は、(殿町191-13外)で、本調査1-1c区の北側にあたり、範囲は、東西5.1m×南北2.7m×深度2.1 mである。

現地表面下0.9m前後まで、工事による撹乱層であった。掘削の最下面北側壁に沿った位置の標高0.6m前後で、人頭大の大海崎石4個が並んで検出された。これも性格不明である。比較的近い位置にあるMJR186・187・190でも石を検出しているので、本調査地の石につながる遺構が存在すると考えられたが、本調査地の方が0.6~0.9m程度低い位置に存在し、直接の関連は認められなかった。浅い落



MJR193 石検出状況



第144図 MJR193実測図(1:100)

ち込み検出面(2層上面)と石検出面(4層上面)に生活面が存在したと思われるが、詳細は不明である。 遺物は出土していない。

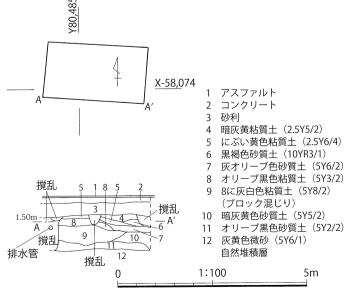
#### 10. MJR194 (第145図)

調査地は、(殿町191-13外)で、電線共同溝掘削工事に伴う調査である。本調査1-1c区の北側にあたり、 範囲は、東西2.6m×南北1.4m×深度1.4mである。MJR193の西側に隣接した掘削坑である。道路面下 0.5m前後まで工事による撹乱層である。最下面(標高0.7~0.8m)に約0.2mの厚さで堆積した砂層の上は 粘質上が堆積している。

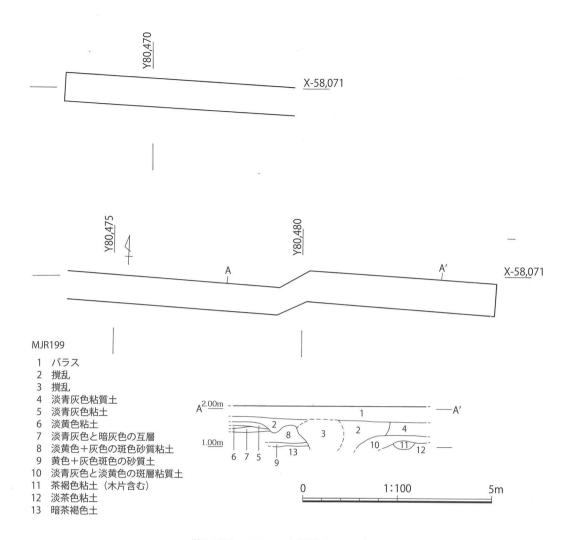
遺構や遺物は検出しなかった。

#### 11. MJR199 (第146図)

西側は、バラスと真砂土の堆積のみで、 江戸時代の土層は見られなかった。東側では、バラスの下に黄色と灰色の混合した粘質土層があり、城下町造成土の可能性が考えられる。標高約1.0mに黒褐色粘質土があり、I層の可能性がある。



第145図 MJR194実測図(1:100)

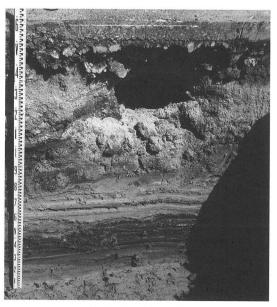


第146図 MJR199実測図 (1:100)

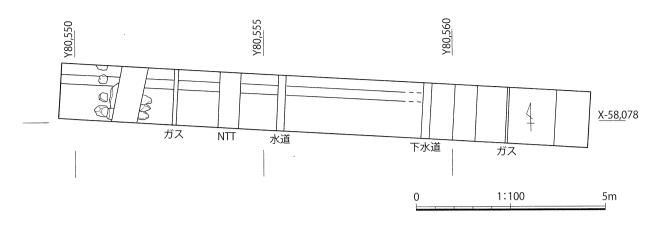
調査地は、(殿町191-13外)で、電線共同埋設溝掘削工事に伴う調査である。「島根ふるさと館」と大手前駐車場間の交差点北側を東西に横断する形で、範囲は、東西27.5m×南北1.6m×深度1.8mである。

現道路の中央に近付くにつれ、旧地形とみられる堆積土が認められた。交差点中央付近の堆積状況では、旧地形が後世の掘削によって削り取られた様子が見られる。また、深さ1.5mほどで木片が混在する層が認められる。堆積土層は概ね4層に分けられるが、砂混じりのシルト質の層であった。

遺物は検出されなかった。



MJR208 土層断面



第147図 MJR258実測図 (1:100)

調査地は、(殿町191-13外)で、現「島根ふるさと館」北側の駐車場内の排水施設用の溝を掘削する工事に伴う調査である。範囲は、東西19.0m×南北1.6m×深度1.4mである。

北側の一ヶ所で、表土下0.9mほどのところから黒灰色のシルト質の掘り込みが検出され、陶器の破片を採集している。これは、本調査でも検出された廃棄土坑SK07の一部と考えられる。

#### 14. MJR258 (第147図)

調査地は、(殿町344外)で、電線共同溝掘削工事に伴う調査である。範囲は、東西14.0m×南北1.5m×深度2.5mである。

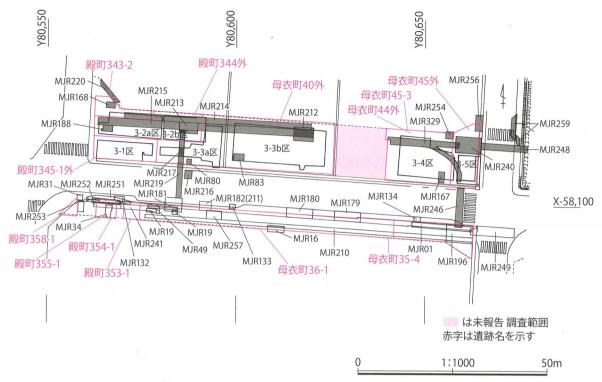
ガス管、上下水道管、NTT管が埋設されており、深さ1.5m前後まで撹乱を受けていた。部分的に黒褐色粘質土(I層)が確認できた。西側の歩道下で、石組の根石と思われる10~20cm前後の石を検出した。 この上に大きな石はなく、何らかの工事で抜きとられた可能性がある。

表113 第1ブロック 立会調査一覧

細節	調査区 MJR	遺跡名	調査日	調査 面積 (㎡)	長軸×短軸 (m)	深さ (m)	備考	検出遺構	調査体制	調査 担当者
1	MJR79 +トレンチ	殿町 198-2外	08.03.18	9.2	東西1.5×南北2.5 東西3.0×南北1.8	-	試掘調査		松江市教育委員会 文化財課	_
2	MJR110	"	08.07.10	1.0	東西1.0×南北1.0	-	汚水桝撤去		(財)松江市教育文化振興事業団 埋蔵文化財課	柚原
3	MJR169	殿町 191-13外	09.06.01 ~09.0602	32.0	東西2.0×南北2.0 ×2カ所	2.2	市教委分 (遺跡確認調査)	溝状遺構	松江市教育委員会 文化財課	_
4	MJR183	"	09.11.27 ~09.12.01	24.5	東西6.9×南北3.5	1.5	マンホール設置 (MN1)	溝状遺構 石の集積	(財)松江市教育文化振興事業団 埋蔵文化財課	石井
5	MJR184	"	09.11.25 ~09.11.26	4.5	東西1.5×南北1.5 ×2カ所	1.0	ふるさと館 立て看板支柱撤去		II .	柚原
6	MJR186	"	10.01.07	12.7	東西0.9×南北12.7	1.2	電線共同溝	建物礎石	"	石井
7	MJR187	"	10.01.08, 12	8.5	東西7.7×南北1.1	1.0	電線共同溝	S1~S5の大海崎石	"	"
8	MJR190	"	10.02.04 ~10.02.05	18.2	東西18.0×南北1.1	1.1	電線共同溝	石組状遺構 胴木	n .	"
9	MJR193	"	10.02.16	13.8	東西5.1×南北2.7	2.1	電線共同溝	大海崎石 4個	<i>II</i>	"
10	MJR194	"	10.02.22	3.6	東西2.6×南北1.4	1.4	電線共同溝		"	"
11	MJR199	"	10.1.28	11.0	東西13.8×南北0.8 (西から)	0.9 ~1.6			松江市教育委員会 文化財課	_
12	MJR208	"	10.05.20 ~10.06.07	44.0	長さ27.5×幅1.6	1.8 ~1.4			(財)松江市教育文化振興事業団 埋蔵文化財課	中尾
13	MJR209	"	10.05.18 ~10.05.20	30.4	東西19.0×南北1.6 (西から)	1.4	排水施設	本調査191-13外 SK07廃棄土坑	"	"
14	MJR258	殿町 344外	11.11.29 ~11.12.10	21.0	東西14.0×南北1.5	2.0 ~2.5			"	"

#### 第2節 第3ブロックの調査

第3ブロックは、主要地方道松江・鹿島・美保関線と市道母衣南北線にはさまれた城山北公園線沿いの 北側部である。東西約120mの区画にあたる。調査地は、工事予定地の北側に設置される共同溝工事範囲 が多く、城山北公園線を横断する道路下の調査も行われた(第148図)。



第148図 第3ブロック立会調査範囲図 (1:1,000)

#### 1. MJR80

調査地は、本調査を行った(母衣町40外)で、汚水桝撤去工事に伴う調査である。範囲は、東西1.3m×南北1.5m×深度1.0mである。

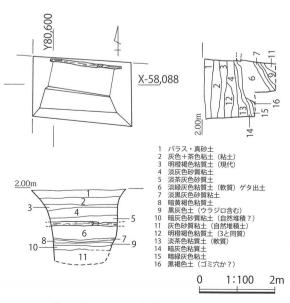
地表面下0.7mまでは後世の撹乱を受けていたが、0.7m以下には城下町の堆積層と思われる土層が確認

された。また、現代の道路側溝の裏側にあたる位置で、江戸時代の石組水路が確認された。また地表面下約1.0mからは建物の柱と思われる角材が立った状態で検出された。

#### 2. MJR83 (第149図)

調査地は本調査を行った(母衣町40外)で、3-3区 の試掘調査である。範囲は、東西2.8m×南北1.8m× 深度1.5mである。

標高1.2mで東西方向の角材を検出した。角材は、 10cm角のもので調査範囲からさらに東西に延びて いる。「腰掛鎌継ぎ」と思われる継手でつないである



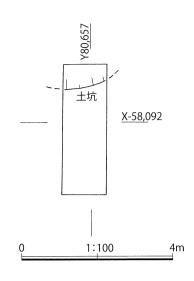
第149図 MJR83実測図 (1:100)

ことや、ホゾ穴もあることから、建物の土台と考えられ、本調査 3-3b区の建物土台2にあたる。また、標高0.6mでウラジロ(シダ 類)を検出した。標高0.5m以下は自然堆積層である。図化できな かったが、この自然堆積層を南方向に傾斜して掘込んだ形跡が見ら れた。

#### 3. MJR167 (第150図)

調査地は(母衣町45-3)で、遺跡確認調査である。本調査3-4 区の南東隅にあたり、範囲は、東西1.2m×南北3.5m×深度2.7m である。

北側の標高1.1mで、北に広がる土坑を検出した。位置的に本調 查3-4区で確認したSK01(廃棄土坑)の一部と考えられる。また、



第150図 MJR167実測図(1:100)

標高0.9mの黄灰色粘土の上面で遺構面を検出した。さらに、標高0.35mでⅡ層、0.15mでⅢ層を確認し たが、 I 層は検出しなかった。これは、位置的に素掘りの大溝内を掘削したためと思われる。

#### 4.MJR168 (第151図)

調査地は(殿町343-2)で、遺跡確認調査で ある。範囲は、東西3.0m×南北1.0m×深度1.6 mである。

南西隅の標高1.3mで、土坑を検出した。ま た、標高0.6mのI層面で、溝状遺構の落込みを 検出した。落込みは西に向かって落ち込むようで あり、現道路に平行する南北方向のラインをも つ。城下町造成初期に掘削される素掘りの大溝と 考えられ、南側で実施された本調査3-4区のSD02 に相当する。

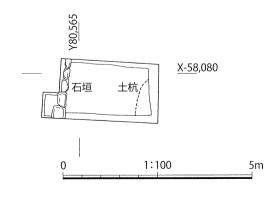
# 土坑 X-58,075 1:100 5m

第151図 MJR168実測図(1:100)

#### 5. MJR188 (第152図)

調査地は(殿町344外)で、試掘調査である。 範囲は、東西3.0m×南北1.5m×深度2.2mであ る。

2つの遺構面を確認した。第1面(5層上面) で、土坑を、第2面(9層上面)で、現道路に平 行する南北方向の石列を検出した。また、湧水と 壁面崩落のため図化できなかったが、標高0.6m



第152図 MJR188実測図(1:100)

で南北方向に延びる素掘りの大溝を検出した。前述のMJR168で確認された素掘りの大溝の延長部分と考えられる。石列は、この溝を人為的に埋めた後に構築されている。下層部分も人為的に埋められたブロック状の堆積が見られた。このことから、素掘りの大溝は掘削後すぐに埋め戻された可能性が考えられる。

#### 6. MJR212

調査地は、本調査を行った(母衣町40外)で、マンホール埋設工事に伴う調査である。範囲は、東西5.0m×南北3.2m×深度2.8mである。

本調査3-3b区の安全勾配上に位置する場所で、赤レンガや玉砂利等の混濁した土層があり、地表面下 1.5m前後で、SX02の延長部分に到達したことが判明した。

#### 7.MJR213

調査地は、(殿町345外)で、マンホール埋設工事に伴う調査である。範囲は、東西5.0m×南北3.2m×深度2.8mである。

標高 $0.5\sim0.6$ mで、自然堆積層の I 層となる。深度2.8mまで掘り下げるが、均一にこの層が堆積している。遺物等は検出しなかった。

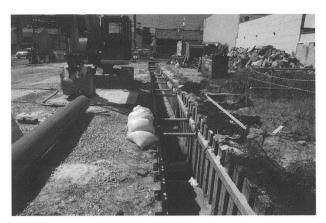


第153図 MJR214実測図(平面1:200 土層断面1:100)

#### 8. MJR214 (第153図)

調査地は、(母衣町40外)で、下水管埋設に伴う 管路掘削工事における、矢板打設工事に伴う調査で ある。本調査の北側にあたり、範囲は、東西49.6 m×南北1.2m×深度2.0mである。

東側の地表面下0.3mで、憲兵隊時代の丸太やレンガが出土した。東から37.0mの標高1.3m付近で来待石製の井戸を検出したが、井戸の中から北側へ続く金属製のパイプを確認した。東から43.0mの



MJR214

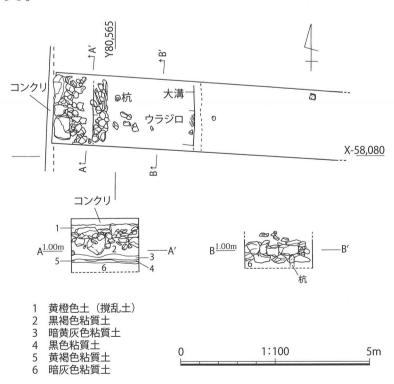
標高1.4m付近で、瓦溜りを検出した。この瓦溜りの周縁部に直径5cm程の杭が数本打ち込まれていた。本調査3-2a区SK01(廃棄土坑)の続きと考えられる。東から6.8m~9.3mの標高0.025mで、南北にのびる落込み状遺構を検出した。もう少し高い面からの掘り込みと考えるが、調査区が狭く確認が困難であった。先述の本調査3-3b区SX02の延長部分と考えられる。

#### 9. MJR215 (第154図)

調査地は、(殿町344外〜母衣町40外)で、電線共同溝に伴う管路掘削工事に伴う調査である。平成20年度の本調査の北側にあたる。MJR214の1m程南側にあり、一部調査済みであった。範囲は、東西55.5m×南北1.8〜2.5m×深度1.5〜2.2mである。

撹乱層が0.5m~1.0m前後と厚く堆積していた。東から27.0mの標高1.2m付近で直径0.6mの瓦溜まりを検出した。また周辺で杭2本を検出した。21.5m付近では表土下で南北に延びる現代の石組水路を検出した。

また、東から6.3m~10.4m、標高 0.27mのII層面で南北へ続く溝状遺 構を検出した。MJR214と同様、屋敷 境の溝と考えられる。さらに、ウラジ ロが堆積する直径0.7m前後の土坑、 一辺2.0m以上の土坑などを検出し た。また、現代の石組水路付近の最下 層の自然堆積層から南東へ向かう掘り 込みを検出したが、東側については湧 水のため確認出来なかった。



第154図 MJR215実測図 (1:100)